

備考	入		出	
	市町村立小學校教員住宅費補助殘餘金繰入	資金ヨリ生スル収入	合	翌年度繰越金
	計	計	預金	公債證書

丙號表五樣式說明

- 一本表ハ年度ニ屬スル收入並支出金額ヲ掲クヘシ
- 一公債證書ノ欄ニハ其ノ購入金額ヲ掲ケ未書ヲ以テ券面金額ヲ附記スヘシ
- 一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

丙號表六 市町村立小學校教員加俸表

種別	年功加俸		特別加俸		備考
	人員	金額	人員	金額	
本科正教員	男		男		國庫補助法第一條ノ加俸
	女		女		
專科正教員	男		男		國庫補助法第六條ノ加俸
	女		女		
准教員	男		男		
合計	男		男		
	女		女		

備考	合計		
	男	女	合計

丙號表六樣式說明

- 一本表ハ年度末ニ於ケル現職者ニ就キ掲クヘシ但シ金額ハ其ノ現職者ノ加俸額ニ依リ一箇年度ノ額ヲ掲クヘシ
- 一年功加俸ヲ受ケ尙特別加俸ヲ受クル者ハ各其ノ兩欄ニ掲クヘシ但シ特別加俸ノ欄ニハ未書ヲ以テ掲クヘシ
- 一國庫補助法第六條ニ依リ支給ヲ受ケ尙特別加俸ヲ受クル者ハ各其ノ兩欄ニ掲クヘシ但シ特別加俸ノ欄ニハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一年功加俸ヲ受ケ尙加俸令第十一條ニ依リ支給ヲ受クル者ハ各其ノ兩欄ニ掲クヘシ但シ加俸令第十一條ニ依リ受クル差額ハ功加俸ノ欄ニハ計入スヘカラス
- 一金員ノ計算ハ各項ニ於テ四捨五入シ圓ニ止ムヘシ
- 一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

丙號表七 市町村立小學校公立實業補習學校教員及公立幼稚園保母恩給基金並恩給收支表

恩	種別		金額	人員
	公債證書	預金		
前年度末現在高				
恩退隱料	市町村立小學校教員		圓	
	公立實業補習學校教員		圓	
	公立幼稚園保母		圓	

備考	金		出	
	合	計	合	計
	其他ノ公立學校		其他ノ公立學校	
	公立圖書館		公立圖書館	
	計		計	

丙號表八様式説明

- 一本表ハ年度ニ屬スル納入支出員ニ就キ掲クヘシ
- 一圖庫納金ノ部職員納金ノ欄ニハ府縣立師範學校長納金ハ記入ヲ要セス
- 一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

●學事ニ關スル廳府縣令訓令申報方

文部省令第二十號(明治十九年十一月十一日)
 (沿革)明治三十三年一〇月文部省令第一七號改正
 學事ニ關スル廳府縣令訓令ハ其公布ノ都度文部省ニ申報スヘシ
 但シ豫メ稟申シタル件ハ此限ニアラス

第十七章 雜

●市制第六十九條及町村制第四百九十九條ニ依ル命令ノ件

勅令第十八號(大正元年八月三十日)

市制第六十九條及町村制第四百九十九條ニ依ル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲クルモノハ府縣知事之ヲ許可スヘシ

- 一 公告式、學務委員、基本財産、特別基本財産、積立金穀、造林、傳染病豫防救治ニ關スル一時給與金、有給吏員ノ年功加俸、退職料、退職給與金、死亡給與金、弔祭料、療治料、遺族扶助料、町村助役ノ定數増加、町村長町村助役ノ有給及町村副收入役ノ設置ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事
- 二 手數料及墓地、火葬場、屠場、家畜市場、公園、病院、温泉、土地、用水其ノ他之ニ類スルモノノ使用料ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事
- 三 町村ノ區會及區總會ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事
- 四 條例ヲ廢止スル事
- 五 教育費ニ充ツル爲府縣郡ノ基金又ハ教育資金ヨリ借入ルル市町村債ニ關スル事
- 六 小學校ノ建築増築改築ニ關スル費用、傳染病豫防費又ハ急施ヲ要スル災害復舊工費ニ充ツル爲借入ルル償還期限三年以内ノ市町村債ニ關スル事

第十七章 雜

償還スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

八 村ヲ町ト爲シ又ハ町ヲ村ト爲ス事

第二條 市町村行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲クルモノハ其ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

- 一 市町村債ノ借入額ヲ減少シ利息ノ定率ヲ低減シ又ハ之カ爲償還年限ヲ短縮スル事
- 二 許可ヲ受ケタル市町村債ニ關スル條例又ハ議決ノ定ムル所ニ基キ既定ノ償還年限ヲ延長セスシテ貸借借替ヲ爲シ又ハ繰上ケ償還ヲ爲ス事但シ外資ニ依リタル市町村債ノ借替又ハ外資ヲ以テスル借替ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 三 特別稅、使用料、手數料、加入金、町村ノ常設委員、町村ノ區會又ハ區總會ニ關スル條例ヲ廢止スル事
- 四 基本財産、特別基本財産若ハ積立金ノ現金ヲ郵便貯金ト爲シ又ハ現金若ハ郵便貯金ヲ國債證券若ハ地方債證券ニ代フル事
- 五 特定ノ目的ノ爲ニスル積立金穀ヲ其ノ目的ノ爲ニ處分スル事
- 六 二年度ヲ超エサル繼續費ヲ定メ又ハ其ノ年期限内ニ於テ之ヲ變更スル事
- 七 明治三十二年勅令第三百十六號第二條ノ規定ニ依リ府縣費ノ分賦ヲ受ケタル市ニ於テ明治三十三年第十七號布告第一條及第二條ニ據クル種類ト同種類ノ特別稅ヲ賦課スル事但シ漁業稅採藻稅ニシテ從來ノ慣例ヲ改正シ又ハ新ニ課稅スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 八 耕地整理ノ爲町村ノ境界ヲ變更スル事及之ニ伴フ財產處分ニ關スル事但シ郡市ノ境界ニ關スルトキ、關係アル町村會ノ意見ヲ異ニスルトキ又ハ財產ニ變更ヲ及ホスヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

附則 本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ設立及監督ニ關スル規程

文部省令第三十九號(明治三十二年八月十六日)

(沿革)明治三十七年二月文部省令第二三號改正

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 民法第三十四條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ社團又ハ財團ヲ法人ト爲サムトスルトキハ其ノ設立者ニ於テ社團ニ在リテハ定款、資産ノ總額及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲及資産ノ總額ヲ具シ申請書ヲ文部大臣ニ差出スヘシ

第二條 法人ノ設立者及法人ヨリ文部大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ
地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ詳查ノ上意見ヲ附シテ進達スヘシ

第三條 法人ハ其ノ設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タルトキハ左ニ掲ケタル事項ヲ遲滞ナク地方長官ニ報告スヘシ其ノ第一號及第二號ノ事項中ニ變更ヲ生シタル場合亦同シ

- 一 定款又ハ寄附行爲
- 二 理事及監事ノ氏名、住所
- 三 財産目録及社團法人ニ在リテハ社員ノ員數

第四條 教育會ヲ除ク外法人ハ毎年三月末ノ調査ニ依リ翌月中ノ財産目録ヲ添付シ左ニ掲ケタル事項ヲ文部大臣ニ報告スヘシ但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ年度末ノ調査ニ依リ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以内ニ之ヲ報告スヘシ

- 一 法人ノ目的タル事業ノ狀況
- 二 前年中ノ處務ノ要件
- 三 前年ノ經費、收入支出金額及其ノ費目

社團法人ハ前項ニ掲ケタル事項ノ外社員ノ員數ヲ報告スヘシ
法人タル學校ニ於テハ第一項第一號及第二項ノ事項ハ之ヲ報告スルヲ要セス

第五條 (削除)

第六條 (削除)

第七條 地方長官ハ法人ニ於テ民法第七十一條又ハ民法施行法第二十三條ニ該當スル行爲アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シテ文部大臣ニ報告スヘシ

附則

第八條 本令施行前設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タル法人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ事項ヲ地方長官ニ報告スヘシ

通俗圖書認定規程

文部省令第二十二號(大正二年七月二十六日)

通俗圖書認定規程左ノ通定ム

通俗圖書認定規程

第一條 圖書ノ著作者又ハ發行者ハ其ノ著作又ハ發行ニ係ル圖書ニシテ通俗教育ノ趣旨ニ適スト思惟シタルトキハ該圖書三部ヲ文部省ニ提出シ其

第十七章

幻燈映畫及活動寫眞「フィルム」認定規程

文部省令第二十三號(大正二年七月二十六日)

幻燈映畫及活動寫眞「フィルム」認定規程左ノ通定ム

幻燈映畫及活動寫眞「フィルム」認定規程

第一條 幻燈映畫又ハ活動寫眞「フィルム」ノ製作者又ハ販賣者若ハ活動寫眞ノ興行者ハ其ノ製作、販賣又ハ興行ニ係ル映畫又ハ「フィルム」ニシテ通俗教育ノ趣旨ニ適スト思惟シタルトキハ該映畫又ハ「フィルム」ノ見本及其ノ目錄並説明書ヲ文部省ニ提出シ其ノ認定ヲ申請スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ提出シタル映畫及「フィルム」ハ申請者ノ要求ニ依リ之ヲ還付ス但シ保管中物件ノ滅失、毀損其ノ他ノ損害ニ關シテハ文部省ハ

ノ認定ヲ申請スルコトヲ得

第二條 認定済ノ圖書ハ發行者ニ於テ文部省認定ノ文字ヲ記入スルコトヲ得但シ認定ヲ經タル後内容ヲ變更シタル圖書ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三條 認定済ノ圖書ノ名稱、冊數、定價、發行ノ年月日並著作者及發行所ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ明治四十四年文部省告示第二百三十七號通俗教育調査委員會通俗圖書審査規程ニ依リ認定ヲ申請セル圖書ハ本令ニ依リ之ヲ申請シタルモノト看做ス

本令施行前通俗教育調査委員會ニ於テ認定シタル圖書ハ本令ニ依リ之ヲ認定シタルモノト看做ス

一切其ノ責ニ任セス
 第三條 映畫及「フィルム」等ノ遺付ニ要スル費用ハ申請者ノ負擔トス
 第四條 認定済ノ映畫及「フィルム」ニハ文部省認定ノ文字ヲ記入スルコトヲ得但シ認定ヲ經タル後變更ヲ加ヘタル映畫及「フィルム」ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
 第五條 認定済ノ映畫及「フィルム」ノ題號或申請者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ明治四十四年文部省告示第二百三十八號通俗教育調査委員會幻燈映畫及活動寫眞「フィルム」審査規程ニ依リ認定ヲ申請セル映畫及「フィルム」ハ本令ニ依リ之ヲ申請シタルモノト看做ス
 本令施行前通俗教育調査委員會ニ於テ認定シタル映畫及「フィルム」ハ本令ニ依リ之ヲ認定シタルモノト看做ス

休日ニ關スル件

勅令第十九號(大正元年九月四日)
 (沿革)大正二年七月勅令第二五九號改正
 朕休日ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 左ノ祭日及祝日ヲ休日トス
 元始祭 一月三日
 新年宴會 一月五日
 紀元節 二月十一日
 神武天皇祭 四月三日
 明治天皇祭 七月三十日
 天長節 八月三十一日

天長節祝日 十月三十一日
 神嘗祭 十月十七日
 新嘗祭 十一月二十三日
 春季鳥獵祭 春分日
 秋季鳥獵祭 秋分日

年齢計算ニ關スル件

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 明治六年太政官布告第三百四十四號ハ之ヲ廢止ス
 法律第五十號(明治三十五年十二月二日)
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル年齢計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 民法第四百三十三條ノ規定ハ年齢ノ計算ニ之ヲ準用ス
 明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

閏年ニ關スル件

勅令第九十號(明治三十一年五月十一日)
 朕閏年ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 神武天皇即位紀元年數ノ四ヲ以テ整除シ得ヘキ年ヲ閏年トス但シ紀元年數ヨリ六百六十ヲ減シテ百ヲ以テ整除シ得ヘキモノノ中更ニ四ヲ以テ其ノ商ヲ整除シ得サル年ハ平年トス

本初子午線經度計算方及標準時ヲ定ム

勅令第五十一號(明治十九年七月十三日)

朕本初子午線經度計算方及標準時ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 一英國グリニツチ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度ノ本初子午線トス
 一經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ西經ヲ負トス
 一明治二十一年一月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ本邦一般ノ標準時ト定ム

標準時ニ關スル件

勅令第六十七號(明治二十八年十二月二十八日)
 朕標準時ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 帝國從來ノ標準時ハ自今之ヲ中央標準時ト稱ス
 第二條 東經百二十度ノ子午線ノ時ヲ以テ臺灣及澎湖列島並ニ八重山及宮古列島ノ標準時ト定メ之ヲ西部標準時ト稱ス
 第三條 本令ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス

服忌令

太政官布告第八號(明治七年十月十七日)
 服忌ノ儀追テ被 仰出ノ品モ可有之候得共差向京家ノ制武家ノ制兩様ニ相成居候テハ法律上不都合有之ニ付自今京家ノ制被廢條此旨布告候事
 (參考)
 明治七年十一月十八日(京都府伺)
 服忌令ノ儀ハ追テ被仰出ノ品モ可有之云々本年第八號ヲ以テ御布告相成右武家制服忌令ノ儀ハ元祿年中改正元文中増補ノ別冊相用ヒ可然哉爲念
 何

服忌令

第十七章 雜

一父母 忌五十日 服三十日(閏月ヲカサヘス)
 一養父母 忌三十日 服百五十日
 遺跡相續(或ハ分地配當)ノ養子ハ實父母ノ如シ同姓ニテモ異姓ニテモ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之此外ノ親類ハ服忌無之遺跡相續セ(ス或ハ分地配當セ)サル養子ハ同姓ニテモ異姓ニテモ養父母ハ定式ノ通忌服可受之養方ノ兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之實方ノ親類ハ定式ノ通相互ニ服忌可受之
 一嫡母 忌十日 服三十日
 對面無之候ハ、不可受服忌道路致シ候ハ、對面無之共服忌可受之父死去ノ後他ハ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ(妾ノ子)不可受服忌 但シ嫡母ノ親類ハ服忌無之
 一繼父母 忌十日 服三十日
 初メヨリ同居セサレハ無服忌
 父死去ノ後繼母他ハ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ不可受服忌 但シ繼父母ノ親類ニハ服忌無之
 一離別之母 忌五十日 服三十日(閏月ヲカサヘス)
 一夫 忌三十日 服三十日(閏月ヲカサヘス)
 一妻 忌二十日 服二十日
 一嫡子 忌二十日 服二十日
 家督ト定メサル時ハ末子ノ服忌可受之女子ハ最初ニ生レテモ末子ニ准ス
 一末子 忌十日 服三十日
 養子ニ遺シ候テモ服忌差別ナシ家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之
 一養子 忌十日 服三十日
 家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之

- 一 夫之父母 忌三十日 服百五十日
- 一 祖父母 忌三十日 服百五十日
- 一 母方 忌二十日 服九十日
- 一 離別セラレ候祖母モ服忌無別儀
- 一 曾祖父母 忌二十日 服九十日
- 一 母方ニハ服忌無之 但シ遠慮一日
- 一 高祖父母 忌十日 服三十日
- 一 母方ニハ服忌無之 但シ遠慮一日
- 一 伯叔父姑 忌二十日 服九十日
- 一 母方 忌十日 服三十日
- 一 父母種替リノ兄弟姉妹ハ半減ノ服忌可受之
- 一 兄弟姉妹 忌二十日 服九十日
- 一 別腹タリトイフトモ服忌ニ無差別
- 一 異父兄弟姉妹 忌十日 服三十日
- 一 嫡孫 忌十日 服三十日
- 一 嫡孫承祖タル時ハ嫡子ノ服忌可受之祖父母死去ノ時モ嫡孫ノ方ヘモ五十五日ノ服忌可受之此外ノ親類服忌差別ナシ曾孫玄孫タリトイフモ同例也
- 一 末孫 忌三日 服七日
- 一 女子ハ最初ニ生レテモ末孫ニ准ス娘方ノ孫服忌同前
- 一 曾孫玄孫 忌三日 服七日
- 一 娘方ニハ曾孫玄孫共ニ服忌無之
- 一 從父兄弟姉妹 忌三日 服七日
- 一 父ノ姉妹ノ子並母方モ服忌同前
- 一 甥姪 忌三日 服七日
- 一 姉妹ノ子モ服忌同前

- 一 異父兄弟姉妹ノ子ハ半減ノ服忌可受之
- 一 七歳未満ノ小兒ハ無服忌
- 一 父母ハ三日遠慮其外ノ親類ハ同姓ニテモ異姓ニテモ一日遠慮日數過承候ハ、追テ不及遠慮 但シ八歳ヨリ定式ノ服忌可受之
- 一 附七歳未満ノ小兒ノ方ヘモ服忌無之父母死去ノ時ハ五十五日遠慮其外ノ親類ハ一日遠慮父母ハ年月ヲ經テ承候共聞付ル日ヨリ五十五日遠慮スヘシ
- 一 聞忌之事
- 一 遠國ニオキテ死去年月ヲ經テ告來ルトイフトモ父母ハ聞付ル日ヨリ忌五十五日服十三日 外ノ親類ハ聞付ル日ヨリ服忌殘ル日數可受之忌ノ日數過テ告來ラハ一日遠慮服明候トモ同前
- 一 重ル服忌之事
- 一 父ノ服忌イマタ不明内母ノ服忌有之ハ母ノ死去ノ日ヨリ五十五日ノ服忌可受之オモキ服忌ノ内カロキ服忌アリテ日數終ラハ追テ不及受服忌日數アマラハ殘ル服忌ノ日數可受之
- 一 穢之事
- 一 〔產穢〕 〔夫七日〕 〔婦三十五日〕
- 一 〔遠國ヨリ告來七日過キ候ハ、穢無之七日ノ内承リ候ハ、殘ル日數ノ穢タル可シ血荒流産同斷尤モ妾ノ産穢ノ時モ同例〕
- 一 〔血荒〕 〔夫七日〕 〔婦十日〕
- 一 〔流産〕 〔夫五日〕 〔婦十日〕
- 一 〔形體有之ハ可爲流産形體無之ハ可爲血荒〕
- 一 〔死穢〕 〔一日〕
- 一 〔家ノ内ニテ人死候時一問ニ居合候ハ、死穢可受之數居ヲ隔候ハハ穢無之一問ニ居合候トモ不存候ハ穢無之二階ニテモ掲リ口數居ノ外ニ有之候ハ穢無之候家ナキ所ニ死人有之時ハ其骸有之地計リ穢候家主死去候

テモ死穢ノ儀差別無之死後其所ヘ參リ候者ハ骸有之候共踏合ノ穢也

- 一 〔踏合〕 〔行水次第〕
- 一 〔改葬〕 〔遠慮一日〕
- 一 〔子ハ不殘遠慮 但シ不承候ハ、追テ不及遠慮候忌掛リ候親類改葬ノ場ヘ出候者ハ遠慮ス可シ忌不掛親類ハ其場ヘ出候共不及遠慮候改葬ノ主ニナリ候ハ、他人ニテモ一日遠慮ス可シ
- 一 〔附堀起シ候日ヨリ葬候迄日數有之候ハ、子ハ不殘堀オコシ候日ト葬候日ト二日ノ遠慮ナリ他人ニテモ改葬ノ主ニナリ候者ハ同斷 但シ堀起シ候翌日ヨリ葬リ候前日マテハ幾日ニテハ不及遠慮候
- 一 〔改葬ノ儀遠所ニテ申付日限存候ハ、其日遠慮スヘシ日限不存相濟候後承候ハ、追テ不及遠慮候
- 一 元祿六年十二月二十一日
- 一 追加
- 一 養父死去以後養母同居セストイフモ他ヘ不嫁候ヘハ服忌可受之他ヘ嫁スルニ於テハ服忌無之
- 一 養父ノ妻養ハレサル以前ニ死去候ハ、嫡母ニ准シ其親類服忌無之
- 一 父ノ後妻ト通路イタシ候ハ、對面無之トモ繼母ノ服忌可受之
- 一 義絶ノ嫡子ノ服忌ハ末子ニ可准之此外ノ親類義絶トイフトモ服忌別儀ナシ
- 一 女子婚儀以前ヨリ養ハレ或ハ入習ヲ取家督相續ノ時ハ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之
- 一 婚儀イマタ相調ハサル内ニテモ祝儀取カハシ候ヘハ夫婦相互ニ定式ノ忌ノ日數可遠慮 但シ服忌無之
- 一 〔父ノ妾服忌無之〕
- 一 〔妾ハ服忌無之 但シ子出生ニオイテハ三日遠慮血荒流産有之計リニテハ妾死去ノ時遠慮無之〕

- 一 遺跡相續セハス或ハ分地配當セサル養子養方ノ兄弟姉妹他家ヘ養ハル、者ニハ相互ニ服忌無之
- 一 同姓ニテモ異姓ニテモ一人ヘ兩様ノ續有之ハ重キ方ノ服忌可受之
- 一 名字ヲ授候計ニテハ相互ニ服忌無之本姓ノ方ノ親類定式ノ遠慮忌可受之
- 一 離別ノ女ハタトヒ實子有之他ヘ不嫁候トモ夫婦ノ縁キレ候故相互ニ服忌無之
- 一 子無之死去候者名跡相續ノタメ新規ニ家督相續ノ時ハ養父ノ如ク服忌可受之死去候者ノ妻ハ養母ニ可准之死去候者七歳未満ニ候ハ、服忌無之五十五日可遠慮死去候者ノ親類ハ相互ニ定式ノ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖父伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之
- 一 養子願書差出之〔老中〕謂取之其以後死去候ハ、家督不定内ニテモ養父母計リ五十五日ノ服忌可受之
- 一 半減ノ日數三十日ハ十五日ナリ餘ハ准之
- 一 但シ七日ハ四日也三日ハ二日也
- 一 一日ト有之ハ當夜ノ〔九ツ時〕ヨリ明ル夜ノ〔九ツ時〕マテ也
- 一 〔九ツ〕前ニ候ヘハタトヒ〔四ツ半〕過ニテモ一日ノ積也
- 一 右十六箇條元祿六年追加ノ内也
- 一 今般聊省略而書載之
- 一 〔養方ノ子〕其父嫡母繼母ヲ以テ養母ニ定ムル時ハ忌五十五日服十三日可受之母方ノ親類ノ服忌養方ノ差別家督相續ノ養子ノ如クタル可シ嫡母ノ子繼母ノ服忌ニ於テモ父ノ極メ次第右ニ同シ
- 一 但シ繼母方ノ親類ニハ服忌無之
- 一 家督相續ノ養子タル者實名ノ養母嫡母繼母服忌無之〔分地配當セサル〕養子ハ右ノ服忌可受之
- 一 養方ノ伯叔父姑兄弟姉妹人ニ養ハル、者ハ半減ノ服忌可受之實方ノ伯叔

父姑兄弟姊妹他家ヨリ養ハル、者モ服忌無差別
 一其身養子ニ養リ實方ノ伯叔父姑兄弟姊妹ノ内人ニ養ハル、トイフトモ其儘半減ノ服忌タル可シ
 一父養子ニテ其子人ノ養子ニ養リ候時ハ父ノ父母兄弟姊妹養實トモニ半減ノ服忌可受之或ハ父モ養子其身モ養子ノ時ハ養父ノ實方服忌無之若シ實方ニ付テ半減ノ服忌可受續有之ハ服忌可受之
 一半減ノ服忌ニ祖父母伯叔父姑兄弟姊妹ト有之ハ母方ノ祖父母伯叔父姑異父兄弟姊妹モ同例
 一嫡子ヲ人ノ養子ニ遣ハス時ハ服忌末子ノ如クタル可シ
 右七箇條更増補之
 元文元年九月十五日
 (太政官指令)明治八年一月七日
 何之通

但産穢及ヒ混穢不及憚儀ハ明治五年第五十六號同六年第六十一號布告之通可相心得事

●徵兵令 (抄録)

法律第一號(明治二十二年一月二十二日)
 (沿革)明治二十二年一月法律第二九號、二六年三月同第四號、二八年三月同第一五號、三七年九月勅令第二一二號、三九年四月法律第四三號改正

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第十三條 滿十七歳以上二十八歳以下ニシテ官立學校小學科及選科別府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾分ヲ官給スルコトアル可シ
 一年志願兵ノ豫備役後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス
 前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム
 第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備役後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス
 第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス
 第二十三條 第十三條第一項ニ掲ケル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歳迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歳迄ニ止ミ又ハ二十八歳ヲ過ク

●徵兵事務條例 (抄録)

勅令百十二號(明治二十九年三月三十一日)
 朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 徵兵事務條例
 第七章 雜則

第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ大使公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ毎年四月十五日迄ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ
 第五十八條ノ二 徵募區徵兵署閉鎖後徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者、同條第二項ノ閉鎖シタル者、前條第一項ノ事故止ミタル者、六週間現役兵ニシテ入營前致職ヲ罷メタル者、徵兵令第十三條第五項ニ該當スル者、身體検査前身體検査ヲ終リタル徵募區ニ轉籍シタル者其ノ他其ノ年徵兵検査ヲ受ケヘキアルトキハ聯隊區又ハ警備隊區内各徵募區徵兵署閉鎖前ニ在リテハ區内便宜ノ徵兵署ニ於テ身體検査ヲ行フハシ但シ該區内各徵募區ノ徵兵署閉鎖後ニ在リテハ師團管内ニ於テ師團長ノ指定シタル聯隊區又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ身體検査ヲ行フコトヲ得

●陸軍六週間現役兵條例

勅令第九號(明治四十一年二月十四日)

(沿革)明治四十五年三月勅令第一六號改正

朕陸軍六週間現役兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍六週間現役兵條例

- 第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間現役ニ服セシムヘキ者ハ教職ニ在リテハ在職ニ編入シ服役セシム
- 第二條 六週間現役兵ハ毎年六月一日乃至十月一日ノ間ニ於テ入營セシム但シ疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ入營期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キ者ハ翌年ニ於テ服役セシム
- 第三條 戰時事變ニ際シテハ前二條ノ規定ニ拘ラス服役セシムルコトヲ得
- 第四條 六週間現役兵ノ服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス
- 第五條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長ハ聯隊長以下同シ其ノ責ニ任ス
- 第六條 六週間現役兵中勤務勳品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アル者ニハ聯隊長其ノ成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス
- 第七條 六週間現役ニ服スヘキ者ノ身體検査ハ入營セシムヘキ年ニ於テ徵兵検査規則ニ依リ之ヲ行フ
- 第八條 六週間現役兵ニシテ傷疾疾病ノ爲其ノ役ニ堪ヘサル者ハ聯隊長之ニ退營ヲ命スルコトヲ得
- 第九條 六週間現役兵ニハ現役兵トシテノ給料ヲ給セス
- 第十條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ清國ニ在職シ六週間陸軍現役ニ服スヘキ者

ニ付テハ朝鮮總督府道長官、臺灣總督府民政長官、樺太廳長官、關東都督府民政長官又ハ領事官ヲシテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍六週間現役兵條例施行細則

陸軍省令第三號(明治四十一年二月十四日)

(沿革)明治四十五年三月陸軍省令第五號、大正二年一〇月同第一〇號改正

陸軍六週間現役兵條例施行細則左ノ通改正ス

陸軍六週間現役兵條例施行細則

第一條 六週間現役ニ服スヘキ資格ヲ有スル者ハ其ノ教職ニ就キタル日ヨ

- リ二週間以内ニ官立府縣立師範學校長ノ卒業證明書及在職小學校長ノ在職證明書ヲ添ヘ本籍地ノ市町村長、東京市京都市大阪市名古屋市及北海道施行セサル地方ニ在リテハ戶長、沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長、町村制ヲ施シタル地方ニ在リテハ戶長、其ノ以下同シ
- 市町村長ハ前項ノ屆書ヲ査察シ之ヲ所管聯隊區司令官ニ送付スヘシ但シ島嶼又ハ郡ニ在リテハ島司郡市長ヲ經由スヘキモノトス
- 第二條 六週間現役ニ服スヘキ者ノ身體検査ハ教職ニ就キタル年、學校所在地ノ聯隊區内又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但シ教職ニ就キタル期日ノ關係上其ノ年、身體検査ヲ行ヒ難キ者ハ翌年同トス
- 朝鮮臺灣樺太及支那ニ在職スル者ハ前項ニ依ラス明治三十九年勅令第三百十八號ニ依リ徵兵身體検査施行ノ際其ノ身體検査ヲ行フモノトス
- 交通不便ノ地ニ在職スル者ニ在リテハ第一項ノ規定ニ拘ラス便宜ノ徵兵署ニ於テ身體検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ地方長官ノ協議ニ依リ師團長之ヲ定ムルモノトス
- 第一項ノ身體検査期日ハ師團長地方長官ニ協議ノ上之ヲ定メ聯隊區司令官ニ送付スヘシ
- 第三條 官立公立小學校長ハ其ノ學校ニ在職スル者ニシテ六週間現役ニ服スヘキ者ヲ調査シ本人ヨリ徵シタル其ノ戶籍抄本ヲ添ヘ毎年四月十五日迄朝鮮臺灣樺太及支那ニ在リテハ二月十五日迄
- 其ノ學校所在地所管ノ地方長官ニ届出ヘシ
- 前項ノ期日後教職ニ就キタル者アルトキハ其ノ都度前項届出ノ手續ヲ爲スヘキモノトス
- 第四條 地方長官前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ徵兵事務條例施行細則第一條式ニ準シ六週間現役兵ノ名簿ヲ作り前條第一項ニ當ル者ニ付テハ毎年四月十五日迄朝鮮臺灣樺太及支那ニ在リテハ三月十五日迄
- 第二項ニ當ルモノニ付テハ其ノ都度之ヲ其ノ學校所在地所管ノ師團長ニ送付シ且本人本籍地ノ島司郡市長

- 東京市京都市大阪市名古屋市及北海道ニ通知スヘシ
- 沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長以下同シ
- 師團長前項ノ名簿ヲ受ケタルトキハ之ヲ査察シ其ノ身體検査ヲ行フヘキ
- 聯隊區司令官 朝鮮臺灣樺太及支那ニ在リテハ送付スヘキモノトス
- 第五條 領事官ニ於テ身體検査ヲ施行スヘキ者ニ付テハ前條ニ拘ラス學校所在地所管ノ領事官第三條ノ届出ヲ受ケタルトキ其ノ身體検査ヲ施行スル領事館ニ送付シ且本人本籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ
- 前項該當者ノ六週間現役兵名簿ハ検査官ニ於テ調製スルモノトス
- 第六條 地方長官ハ所定ノ期日ニ於テ身體検査ヲ受クヘキ者ヲ検査場ニ出頭セシムヘシ
- 第六條ノ二 傷疾疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲身體検査ヲ受ケ難キ場合ニ在リテハ本人ヨリ検査當日迄ニ證據書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ學校所在地所管ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ屆書ニハ學校長ノ印章印ヲ受ケ傷疾疾病ノ者ニ在リテハ尙醫師ノ診斷證書ヲ添付スヘシ
- 前項ノ届出ヲ爲シタル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ學校所在地所管ノ地方長官ニ届出ヘシ
- 第七條 身體検査ヲ終リタルトキハ聯隊區司令官 朝鮮臺灣樺太及支那ハ六週間現役兵ノ名簿ニ所要ノ記入ヲ爲シ之ヲ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ送付スヘシ
- 本籍地ノ聯隊區司令官前項ノ名簿ヲ受領シタルトキハ徵集、徵集延期、徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集名簿ヲ服役スヘキ部隊ヲ統轄スル師團長ニ、徵集免除者及兵役免除者ノ人名書及徵集延期名簿ヲ學校所在地所管ノ地方長官ニ、合格者及徵集延期者ノ人名書徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ本籍地所管ノ島司郡市長ニ送付スヘシ
- 島司郡市長前項ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ結果ヲ本人本籍地所管ノ町村長ニ通知スヘシ

第八條 本籍地ノ聯隊區司令官ハ徵集スヘキ者ニ付附錄第一様式ノ合格證書ヲ作り之ヲ學校所在地所管ノ地方長官ニ送付シ地方長官ハ同證書ヲ本人ニ付與スルモノトス

第九條 服役スヘキ諸隊ヲ統轄スル師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ之ヲ各隊ニ配付スルト共ニ學校所在地ノ地方長官ニ通知シ且其ノ名簿ヲ當該隊長ニ送付スヘシ

第十條 六週間現役兵ノ入營期日ハ師團長地方長官ニ協議シ條例第二條ニ規定スル時日ノ範圍内ニ於テ之ヲ定メ毎年四月一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十一條 六週間現役兵退營スルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在リテハ其ノ名簿ヲ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ送付シ聯隊區司令官ハ之ヲ島司郡市長ニ送付シ島司郡市長ハ國民軍幹部適任證書所持者ト否トニ分チ其ノ人名簿ニ該當ス

第十二條 條例第六條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長其ノ旨ヲ六週間現役兵名簿ニ記載スヘシ其ノ國民軍幹部適任證書ハ附錄第二様式ニ依リ調製スルモノトス

第十三條 小學校ノ教職ニ在リテ六週間現役ニ服スヘキ者服役中ノ者若ハ其ノ服役ヲ終リタル者滿二十八歳以下ニシテ其ノ教職ヲ離メタルトキハ當該學校長ヨリ、他ノ小學校ニ轉職シタルトキハ轉職前後ノ各學校長ヨリ三日以内ニ其ノ旨ヲ其ノ學校所在地所管ノ地方長官ニ届出テ同地方長官ハ之ヲ本人本籍地ノ市町村長ニ通知スルト共ニ六週間現役ニ服スヘキ者又ハ其ノ服役中ノ者ニ付テハ服役スヘキ諸隊又ハ服役中ノ諸隊ヲ統轄スル師團長ニ通知スヘシ但シ同一地方長官ノ管轄區域内ニ於テ轉職シタル場合ニ在リテハ轉職後ノ學校長ヨリ届出ルモノトス

第十四條 國民軍幹部適任證書ヲ有スル者懲戒處分家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ賭博犯ニ依リ處分セラレタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ本籍地ノ島司郡市長ニ届出ヘシ但シ町村ニ在リテハ町村長ヲ經由スヘキモノトス

第十五條 朝鮮臺灣樺太又ハ支那ニ在リテハ本令中師團長トアルハ朝鮮駐劄軍司令官、臺灣總督又ハ關東都督ニ、地方長官トアルハ朝鮮總督府道長官、臺灣總督府民政長官、樺太廳長官、關東都督府民政長官又ハ領事官ニ該當ス

第十六條 朝鮮、臺灣ニ在職スル者ハ當該地ニ在ル步兵隊、樺太ニ在職スル者ハ第七師團步兵隊、關東州天津又ハ其ノ附近ノ地ニ在職スル者ハ關東州ニ在ル步兵隊、上洪漢口又ハ其ノ附近ノ地ニ在職スル者ハ第十二師團步兵隊

第十七條 本令中聯隊區司令官トアルハ對馬警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官、沖繩警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官ニ該當ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十一年ニ限リ第三條中臺灣樺太韓國及清國ニ在ル者ノ届出期日ヲ三月十五日トス

陸軍六週間現役兵合格證書

府(縣)郡(市)町(村)

某(長(次)男)兄(弟)本人戸主ナレハ
戸主ト記スヘシ 氏 名

右検査合格ニ付此ノ證書ヲ付與ス

年 月 日

何聯隊區司令官(警備隊司令官) 氏 名 印

約曲尺六寸

第十四條 國民軍幹部適任證書ヲ有スル者懲戒處分家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ賭博犯ニ依リ處分セラレタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ本籍地ノ島司郡市長ニ届出ヘシ但シ町村ニ在リテハ町村長ヲ經由スヘキモノトス

第十五條 朝鮮臺灣樺太又ハ支那ニ在リテハ本令中師團長トアルハ朝鮮駐劄軍司令官、臺灣總督又ハ關東都督ニ、地方長官トアルハ朝鮮總督府道長官、臺灣總督府民政長官、樺太廳長官、關東都督府民政長官又ハ領事官ニ該當ス

第十六條 朝鮮、臺灣ニ在職スル者ハ當該地ニ在ル步兵隊、樺太ニ在職スル者ハ第七師團步兵隊、關東州天津又ハ其ノ附近ノ地ニ在職スル者ハ關東州ニ在ル步兵隊、上洪漢口又ハ其ノ附近ノ地ニ在職スル者ハ第十二師團步兵隊

第十七條 本令中聯隊區司令官トアルハ對馬警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官、沖繩警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官ニ該當ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十一年ニ限リ第三條中臺灣樺太韓國及清國ニ在ル者ノ届出期日ヲ三月十五日トス

第一様式

陸軍六週間現役兵合格證書

府(縣)郡(市)町(村)

某(長(次)男)兄(弟)本人戸主ナレハ
戸主ト記スヘシ 氏 名

右検査合格ニ付此ノ證書ヲ付與ス

年 月 日

何聯隊區司令官(警備隊司令官) 氏 名 印

約曲尺六寸

心得

一 此ノ證書ヲ所持スル者ノ入營期日ハ(何)月(何)日トス

二 戰時若ハ事變ニ際シテハ其ノ入營期日ヲ變更スルコトアルヘシ

約曲尺八寸

第二様式

國民軍幹部適任證書

府縣族籍

陸軍六週間現役兵 氏 名

國民軍幹部適任者ト確認ス

明治何年何月何日

職官位勳功 氏 名 印

約曲尺六寸

●陸軍一年志願兵條例

勅令第八十四號(明治三十七年三月二十九日)

(沿革)明治三十七年九月勅令第二一四號、四一年一〇月同第二六四號、四

二年三月同第五〇號、四四年一〇月同第二七一號改正

朕陸軍一年志願兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十三條ニ依リ一年志願兵ト爲ル者ハ志願ノ際本籍ノ在ル

師管内ノ軍隊ニ於テ服役セシム但シ軍事上ノ必要アルトキハ他ノ師管内

ノ軍隊ニ於テ服役セシムルコトアルヘシ

第二條 一年志願兵ノ兵科ハ本人ノ冀望ト軍事上ノ必要トニ依リ之ヲ定

ム

第三條 一年志願兵出願者ニシテ左ノ各號中第一號ニ該當スル者ハ主計

生、第二號ニ該當スル者ハ軍醫、第三號ニ該當スル者ハ藥劑生、第四

號ニ該當スル者ハ獸醫、第五號ニ該當スルコトヲ得

一 專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ法律又ハ經濟ノ課程ヲ卒業

シタル者

二 醫師免許證ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者

三 藥劑師免許證ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者

四 獸醫免許證ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者

第四條 一年志願兵ハ營内ニ居住セシム但シ入營後概ネ四箇月ヲ經過シタ

ル者ニシテ家事其ノ他ニ關シ已ムヲ得サル事故アルトキハ聯隊長ニ外

泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第五條 一年志願兵ニハ給料、入營旅費及歸郷旅費ヲ給セス

第六條 一年志願兵ニハ所屬隊ニ於テ糧食、彈藥ヲ給シ兵器、被服等ヲ貸

與ス

第七條 一年志願兵ノ服役ニ關スル費用ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ

納付セシム

第八條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六年四箇月豫備役ニ、豫備役滿期後十

箇年後備役ニ服セシム但シ第二十七條及第二十八條ニ依リ豫備役ニ編入

セラレタル者ノ豫備役年期ハ現役期間ヲ通算シテ七年四箇月トス

第九條 一年志願兵タラムトスル者ハ本籍所在師管ノ師團長ニ願出テ身體

検査又ハ身體検査及學術試験ヲ受クヘシ但シ其ノ検査及試験ハ寄留地所

在師管ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得

第十條 本籍所在師管ノ師團長ハ合格ノ者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與

シ不合格ノ者ニハ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十一條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營前左ノ各號ノ一ニ該當スル

トキハ其ノ認定證書ヲ返還セシム

一 傷疾又ハ疾病ニ依リ服役ニ堪ヘ難キトキ

二 陸海軍ノ兵籍ニ編入スヘキ諸生徒候補生等ヲ命セラレタルトキ

三 本人ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キトキ

第十二條 一年志願兵ノ入營日ハ毎年十二月一日トス但シ戰時又ハ事變ノ

際其ノ他必要ノ場合ニ於テハ之ヲ變更スルコトアルヘシ

第十三條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者傷疾疾病其ノ他止ムヲ得サル事

故ニ依リ所定ノ期日ニ入營シ難キトキハ其ノ入營ヲ延期スルコトヲ得

第十四條 入營ヲ延期セラレタル者十二月三十一日迄ニ入營シ難キトキハ

翌年入營セシム

前項ニ依リ翌年入營セシムヘキ者仍其ノ年ニ於テ入營シ難キトキハ一年

志願兵認定證書ヲ返還セシム

第十五條 (削除)

第十六條 一年志願兵ノ教育ハ聯隊長其ノ責ニ任ス

第十七條 一年志願兵ハ入營後四箇月一般ノ兵卒ト同一ノ教育ヲ爲シ之ニ

一等卒ヲ命シ二箇月以上通常教育ノ外特別ノ教育ヲ爲シ之ニ上等兵ヲ命

シ下士及士官ノ勤務ヲ練習セシム其ノ成績優秀ナルトキハ伍長ノ階級ニ

進ムルコトヲ得

一 等卒上等兵ヲ命シ又ハ伍長ノ階級ニ進ムルハ聯隊長ニ於テス

第十八條 第三條第一號、第二號又ハ第三號ニ該當スル者ハ步兵隊ニ於テ、

同條第四號ニ該當スル者ハ騎兵隊、砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ六箇月間

前條ニ依リ教育ヲ爲シタル後上等兵ヲ命シ之ヲ主計生、軍醫、藥劑生

又ハ獸醫ト爲シ各專門ニ關スル下士及士官ノ勤務ヲ練習セシム

主計生ハ師團經理部長、軍醫及藥劑生ハ師團軍醫部長、獸醫生ハ師團

獸醫部長ノ認可ヲ受ケ之ヲ命ス

第一項ノ期間ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ四箇月ニ短縮スルコトヲ得

第十九條 專門勤務ニ關スル教育ハ主計生ニ在リテハ隊附高級主計、軍醫

生ニ在リテハ隊附高級獸醫、藥劑生ニ在リテハ衛戍病院長、獸醫生ニ在

リテハ隊附高級獸醫官各其ノ責ニ任シ師團經理部長、師團軍醫部長、師

團獸醫部長各其ノ教育ヲ監督ス

第二十條 專門勤務ヲ練習スル者ニシテ其ノ成績優秀ナルトキハ其ノ教育

ヲ監督スル諸官ニ於テ主計生ハ三等計手ノ階級ニ、軍醫生藥劑生ハ三等

看護長ノ階級ニ、獸醫生ハ三等階級工長ノ階級ニ進ムルコトヲ得

第二十一條 一年志願兵ハ戰時又ハ事變ニ際シ通常ノ現役勤務ニ服セシム

ルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ階級相當ノ給料ヲ給シ服役ニ關スル費

用ハ之ヲ官費トス

第二十二條 一年志願兵ハ現役滿期前終末試験ヲ施行ス其ノ方法ハ陸軍大

臣之ヲ定ム

第二十三條 終末試験ヲ終リタルトキハ試験ノ成績ト平素ノ勤務トヲ參酌

シ及第者ハ豫備役編入ノ際各兵科ノ者ニ在リテハ軍曹ニ、主計生ニ在リ

テハ二等計手ニ、軍醫生及藥劑生ニ在リテハ二等看護長ニ、獸醫生ニ在

リテハ二等階級工長ニ任ス

終末試験ニ及第セサル者ニシテ下士ノ技能アル者ハ豫備役編入ノ際各兵

科ノ者ニ在リテハ伍長ニ、主計生ニ在リテハ三等計手ニ、軍醫生及藥劑

生ニ在リテハ三等看護長ニ、獸醫生ニ在リテハ三等階級工長ニ任シ主計

生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ニシテ下士ノ技能ナキ者ハ之ヲ免ス

前二項ニ依リ下士ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免スル

ハ師團長ノ命ニ依リ主計生ニ在リテハ師團經理部長、軍醫生及藥劑生ニ

在リテハ師團軍醫部長、獸醫生ニ在リテハ師團獸醫部長、其ノ他ニ在リ

テハ聯隊長之ヲ爲スモノトス

第二十四條 一年志願兵ニシテ傷疾疾病等ニ因リ終末試験ヲ受ケサル者ハ

現役滿期後一箇年以内ニ於テ終末試験ヲ受クルコトヲ得

前項ニ依リ終末試験ヲ受ケタル者ハ前條ノ例ニ依ル

第二十五條 前條ニ依リ終末試験ヲ受ケサル者ハ第二十三條第二項及第三

項ニ準シ伍長同相當官ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免

ス

第二十六條 一年志願兵ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第十七條及第

十八條ノ例ニ依ラス二等卒ト爲シ一般ノ兵卒ト同一ノ教育ヲ爲シ且必要

ニ應シ現役滿期ノ後毎年六十日間勤務演習ノ爲召集ス之ニ要スル費用ハ

自辨トス

一 怠慢ニシテ勤務習得ノ見込ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ、屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ見込ナキ者

前項ニ依リ勤務演習ニ召集スル者ニハ第五條、第六條及第七條ノ規定ヲ

準用ス

第二十七條 一年志願兵中第十一條第三號ニ該當スル者アルトキハ師團長

ハ聯隊長ヲシテ其ノ現役ヲ免シ豫備役ニ編入セシム

第二十八條 一年志願兵中傷病又ハ疾病ニ因リ服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ師團長ハ聯隊長ヲシテ現役ニ堪ヘサル者ハ豫備役ニ編入シ常備後備ノ役ニ堪ヘサル者ハ其ノ役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘサル者ハ兵役ヲ免セシム

第二十九條 前二條ニ依リ豫備役ニ編入スル者ハ第二十三條第二項及第三項ニ準シ伍長同相當官ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免ス

第三十條 本條例ニ規定スルモノノ外一年志願兵ト爲リタル者ノ士官又ハ下士ノ任官ニ關シテハ陸軍補充條例、豫備後備ノ服役ニ關シテハ陸軍服役條例ノ規定ニ依ル

第三十一條 本條例中聯隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ其ノ隊長ニ該當ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際服役中ノ者翌年同トナリタル者及明治三十七年出願ニ係ル一年志願兵ノ服役スヘキ兵科及衛戍地ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル
明治三十七年一年志願兵ヲ出願シタル者ノ身體検査及學術試驗並認定證書ノ付與ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際既ニ官費服役ヲ許可シタル者ハ其ノ服役ノ費用ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル
本令施行ノ際既ニ現役ヲ終リ又ハ免セラレタル者ノ服役ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル
臺灣總督府國語學校土語科ノ卒業證書ヲ有スル者ハ當分臺灣ニ於テ身體検査ヲ受ケ臺灣守備步兵隊ニ於テ服役スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本條例中師團長トアルハ臺灣守備隊司令官ニ該當ス但シ第九條ノ願書ハ本籍所在師管ノ師團長ニ差出スヘキモノトス

シ又他師管ニ全月寄留ノ者ニ在リテハ其ノ師管名及寄留ノ年月日ヲ付記シ願書ニ添付シ學術試驗ヲ要スル者ニ在リテハ七月十日迄、其ノ他ノ者ニ在リテハ八月五日迄ニ師團長ニ到著スル如ク島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第五條 前條ノ志願者ニシテ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其ノ年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證明書ニ代フルコトヲ得但シ卒業ノ上ハ直ニ學校長ノ卒業證明書ヲ添ヘ師團長ニ届出ツヘシ

第六條 師團長ハ志願者中學術試驗ヲ要スル者ノ人員ヲ検査ヲ爲スヘキ師管ニ區分シ之ヲ八月一日迄ニ陸軍將校生徒試驗常置委員長ニ通知シ他ノ師管ニ於テ検査ヲ受ケムトスル者ノ人名及必要ノ事項ヲ當該師管ノ師團長ニ八月二十日迄ニ通知スヘシ

第七條 陸軍將校生徒試驗常置委員長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ試驗問題ヲ師團長ニ送付スヘシ

第八條 志願者中學術試驗ヲ受クヘキ者及徵兵検査ニ依ラス身體検査ヲ受クヘキ者ハ検査期日前検査地ニ到着シ書面ヲ以テ其ノ止宿所ヲ検査地所管師團司令官ニ届出ヘシ但シ検査地ニ現住ノ者ト雖本文ニ準シ届出ヘシ

第九條 師團長ハ軍醫ヲシテ志願者ノ身體検査ヲ行ハシメ尙身體検査合格者中學術試驗ヲ要スル者ハ部下ノ將校同相當官ニ試驗委員ヲ命シ其ノ試驗ヲ行ハシム但シ其ノ年徵兵検査ニ於テ甲種又ハ乙種ニ合格シタル者ニ在リテハ其ノ結果ニ從ヒ別ニ身體検査ヲ行ハサルモノトス

學術試驗ヲ受クヘキ者ハ新ニ單身脫帽ニテ撮影シタル寫眞紙形、手札ノ裏面ニ族籍氏名ヲ自書シ學術試驗ノ際試驗委員ニ差出スヘシ
聯隊區司令官ハ徵兵検査ニ於テ甲種又ハ乙種ニ合格シタル志願者ノ壯丁名簿寫ヲ師團長ニ差出シ他ノ師管ニ於テ學術試驗ヲ受クヘキ者ニ在リテハ尙其ノ結果ヲ速ニ當該受驗地所管ノ師團長ニ通知スヘシ

陸軍一年志願兵條例施行細則

陸軍省令第十三號(明治三十七年三月二十九日)
(沿革)明治三十八年二月陸軍省令第四號、三十九年一月同第一號、四二年三月同第五號、四三年一月同第一號、四四年一月同第一號

○說改正
陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通改正ス

第一條 一年志願兵ハ年額百八圓ニ於テ服役スル者ヲ入營スル月ノ前月盡日迄ニ所屬隊ニ納ムヘシ

第二條 前條第一項ノ納金ハ服役ニ關スル費用ノ實費ト看做シ違費若ハ還付セシメタルトキハ納金ノ全額、服役中陸軍一年志願兵條例第二十一條ニ依リ通常ノ現役勤務ニ服スルトキハ其ノ當月ヨリ官給期間ニ係ル既納金額以下同シ、除隊若ハ死亡シタルトキハ其ノ當月以後ニ係ル既納金額ヲ本人又ハ遺族ニ拂戻スモノトス

第三條 陸軍一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勤務演習ニ召集スル場合ニハ前二條ヲ準用ス但シ其ノ納ムヘキ金額ハ月割計算法ニ依リ二月分トス

第四條 一年志願兵ヲ出願スル者ハ其ノ願書附錄第二ノ戶籍謄本、履歷書附錄第二ノ添(學術試驗ヲ要スル者ニ在リテハ六月十日迄、其ノ他ノ者ニ在リテハ七月十日迄ニ本籍地ノ市町村長ニ差出スヘシ)

前項ノ願書ニハ徵兵令第十三條ノ學校卒業者ニ在リテハ學校長ノ卒業證明書、戶主ニ非ラサル者ハ戶主、未成年者ニ在リテハ親權者ノ服役承認書附錄第三ノ添付スヘシ

市町村長ハ志願者ノ身元調査及犯罪ノ有無等ヲ調査シ證明書附錄第三ノ添付スヘシ

第十條 一年志願兵出願者ノ検査場ハ師團司令部所在ノ衛戍地トシ其ノ身體検査期日ハ九月四日學術試驗期日ハ九月五日トス

第十一條 學術試驗ヲ要セサル者ハ検査場ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ八月十日迄ニ本籍所在師管ノ師團長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第十二條 師團長前條ノ願出ヲ許可シタル場合ニ於テ第六條ノ他師管内受檢者ノ通知ニ變更ヲ要スルトキハ八月二十日迄ニ關係師團長ニ通知スヘシ

第十三條 師團長ハ検査ヲ終リタルトキハ十月一日迄ニ合格人員表附錄第一ノ調製シ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ他ノ師管在籍者ノ成績ハ學術受檢者ニ在リテハ之ニ寫眞紙ヲ添ヘ同日迄ニ受檢者本籍所在師管ノ師團長ニモ通知スヘシ

第十四條 陸軍大臣ハ前條ノ合格人員表ニ依リ一年志願兵配當表ヲ作り師團長ニ送達ス

第十五條 師團長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ一年志願兵認定證書附錄第三ノ本人ニ付與スヘシ但シ第五條ニ依リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證明書ニ代用スル者ニ在リテハ卒業ノ届出ヲ爲シタル後之ヲ付與スヘキモノトス

第十六條 他ノ師管ニ於テ服役スヘキ者ノ認定證書ハ本籍所在師管ノ師團長ニ付與シ其ノ人名書ニ體格検査表又ハ壯丁名簿寫、願書其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ速ニ當該師團長ニ送付スヘシ

第十七條 師團長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ更ニ入營命令附錄第三ノ作リ本人ニ送付スヘシ

第十八條 一年志願兵各師管、各軍隊ニ配賦スルニハ左ノ各號ヲ參酌スルモノトス但シ主計生タラムコトヲ希望スル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ配賦スルモノトス
一 軍事上ノ必要
二 志願者ノ希望
三 兵科毎ニ或ルヘク各隊ノ人員ヲ平等ニスルコト

四 特別ノ技術ヲ修メ若ハ其ノ實驗ヲ有スル者ハ其ノ技術ヲ必要トスル部隊ニ配賦スルコト例ヘハ鐵道隊工兵隊等ニハ成ルヘク土木、電氣、機械、冶金探礦、物理ニ關スル技能アル者ヲ配賦スル等

第十八條 師團長ハ其ノ師管内ノ軍隊ニ於テ服役スヘキ者ノ人名書ニ其ノ體格検査表、又ハ壯丁名簿寫、願書其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ入營前聯隊長ニ下附スヘシ但シ近衛師團ニ於テ服役スヘキ者ニ關スル書類ハ第一師團長ヨリ近衛師團長ニ送付シ同師團長ニ於テ下付ノ手續ヲ爲スモノトス

第十九條 一年志願兵出願後入營迄ノ間ニ轉籍、轉住、氏名變更、犯罪、死亡其ノ他願書及添附書類ニ記載セル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ本人又ハ親族ヨリ認定證書付與前ニ在リテハ本籍所在師管ノ師團長ニ、認定證書付與後ニ在リテハ服役スヘキ師團ノ師團長ニ届出ツヘシ

第二十條 條例第十一條第一號ニ該當スルトキハ在職軍醫ノ診斷證書、軍醫有ラサル地ニ在リテハ該當スルトキハ學校又ハ官廳等ノ證明書、第三號ニ該當スルトキハ近鄰戶主二名ノ保證書ヲ添附シ本籍地ノ市町村長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ師團ノ師團長ニ届出ツヘシ

第二十一條 條例第十三條ニ依リ入營ノ延期ヲ願出テムトスルトキハ願書ニ證據書類ヲ添ヘ本籍地市町村長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ差出スヘシ

第二十二條 師團長一年志願兵入營前認定證書ヲ返還セシメムトスルトキハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ其ノ旨ヲ通知シ聯隊區司令官ハ本人ハ其ノ返還ヲ命スヘシ

第二十三條 聯隊長條例第二十八條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シ又ハ兵役ヲ免シタルトキハ之ヲ本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十四條 聯隊長ハ一年志願兵中前日ニ入營セサル者アルトキハ之ヲ師團長ニ報告シ尚本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十五條 師團長ハ一年志願兵人員表附錄第一及一年志願兵終末試驗成績表附錄第二ヲ毎年一月三十一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二十六條 (前條) 一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營シタルトキ又ハ翌年同ト爲リタルトキハ十四日以内ニ本籍地ノ市町村長ニ届出ツヘシ

第二十七條 一年志願兵ニシテ條例第十一條第三號ニ該當スルトキハ聯隊長ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ在リテハ第二十二條ヲ準用ス

第二十八條 本則中聯隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ該隊長、聯隊區司令官トアルハ警備隊ニ在リテハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、島司又ハ郡長トアルハ北海道ニ在リテハ支隊長又ハ區長、沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在リテハ島司又ハ郡長ニ準ス

前項ノ願ヲ許可セラレタル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ於テ服役セシム

條例附則ニ依リ臺灣ニ於テ服役スル者ニ關シテハ第五條第九條第一項第十條第十二條第十八條乃至第二十條第二十二條第二十四條及第二十五條中師團長トアルハ臺灣守備隊司令官ニ該當シ、第四條ノ願書其ノ他ノ書類及壯丁名簿寫ハ本籍所在師管ノ師團長ヨリ臺灣守備隊司令官ニ送付シ、第八條ノ願書ハ其ノ地ノ守備隊司令官ニ差出シ検査ハ臺灣守備隊司令官適宜當該司令部所在地ニ召集シテ之ヲ行ヒ、認定證書ハ検査終了後臺灣守備隊司令官ニ於テ適宜之ヲ付與シ、第二十一條ノ書類ハ直接臺灣守備隊司令官ニ差出スモノトス

前項ノ願ヲ許可セラレタル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ於テ服役セシム

ハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ其ノ旨ヲ通知シ聯隊區司令官ハ本人ハ其ノ返還ヲ命スヘシ

第二十二條ノ二 一年志願兵入營ノ際施行スル身體検査ニ於テ傷痍若ハ疾病ノ爲二箇月以後ニ非サレハ教育ヲ施スト得スト認ムル者アルトキハ當該隊長之ヲ歸郷セシメ其ノ旨ヲ直ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

前項ニ依リ歸郷セシメタル者ハ條例第十四條第一項ニ該ル者トシテ取扱フヘシ

第二十二條ノ三 條例第四條但書ニ依リ外泊ヲ願出テムトスル者ハ願書ニ證據書類ヲ添ヘ本籍地市町村長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ聯隊長ニ差出スヘシ

市町村長ハ前項ノ願書ニ證明書ヲ添ヘシキモノトス

第二十三條 聯隊長條例第二十八條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シ又ハ兵役ヲ免シタルトキハ之ヲ本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十四條 聯隊長ハ一年志願兵中前日ニ入營セサル者アルトキハ之ヲ師團長ニ報告シ尚本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十五條 師團長ハ一年志願兵人員表附錄第一及一年志願兵終末試驗成績表附錄第二ヲ毎年一月三十一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二十六條 (前條) 一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營シタルトキ又ハ翌年同ト爲リタルトキハ十四日以内ニ本籍地ノ市町村長ニ届出ツヘシ

第二十七條 一年志願兵ニシテ條例第十一條第三號ニ該當スルトキハ聯隊長ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ在リテハ第二十二條ヲ準用ス

第二十八條 本則中聯隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ該隊長、聯隊區司令官トアルハ警備隊ニ在リテハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、島司又ハ郡長トアルハ北海道ニ在リテハ支隊長又ハ區長、沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在リテハ島司又ハ郡長ニ準ス

前項ノ願ヲ許可セラレタル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ於テ服役セシム

條例附則ニ依リ臺灣ニ於テ服役スル者ニ關シテハ第五條第九條第一項第十條第十二條第十八條乃至第二十條第二十二條第二十四條及第二十五條中師團長トアルハ臺灣守備隊司令官ニ該當シ、第四條ノ願書其ノ他ノ書類及壯丁名簿寫ハ本籍所在師管ノ師團長ヨリ臺灣守備隊司令官ニ送付シ、第八條ノ願書ハ其ノ地ノ守備隊司令官ニ差出シ検査ハ臺灣守備隊司令官適宜當該司令部所在地ニ召集シテ之ヲ行ヒ、認定證書ハ検査終了後臺灣守備隊司令官ニ於テ適宜之ヲ付與シ、第二十一條ノ書類ハ直接臺灣守備隊司令官ニ差出スモノトス

前項ノ願ヲ許可セラレタル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ於テ服役セシム

條例附則ニ依リ臺灣ニ於テ服役スル者ニ關シテハ第五條第九條第一項第十條第十二條第十八條乃至第二十條第二十二條第二十四條及第二十五條中師團長トアルハ臺灣守備隊司令官ニ該當シ、第四條ノ願書其ノ他ノ書類及壯丁名簿寫ハ本籍所在師管ノ師團長ヨリ臺灣守備隊司令官ニ送付シ、第八條ノ願書ハ其ノ地ノ守備隊司令官ニ差出シ検査ハ臺灣守備隊司令官適宜當該司令部所在地ニ召集シテ之ヲ行ヒ、認定證書ハ検査終了後臺灣守備隊司令官ニ於テ適宜之ヲ付與シ、第二十一條ノ書類ハ直接臺灣守備隊司令官ニ差出スモノトス

ヘキ者、市長トアルハ東京市、京都市、大阪市、名古屋市ニ在リテハ區長、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者ニ該當ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際入營延期又ハ翌年同ト爲リタル者及明治三十七年志願ニ係ル一年志願兵ニシテ舊一年志願兵條例施行細則ノ規定ヲ適用スヘキモノハ從前ノ規定ニ依ル

明治三十七年志願ニ係ル一年志願兵中條例第三條第一號ニ該當スル者主計生タラムトスルトキハ證明書類ヲ添ヘ入營一箇月前迄ニ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ届出ツヘシ

第一様式(用紙ハ美濃白紙)

一年志願兵服役願

徵兵令第十三條ニ依リ服役中ニ關スル費用全額ヲ自辨シ一年志願兵トシテ服役致度候御認可相成度別紙所要書類相添此段奉願候也

追テ一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勤務演習ノ爲召集セラルル場合ニ於テハ之ニ要スル費用モ自辨可致候也

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地(士)族(平民)

Form with fields for name, address, and date. Includes a signature line and a date field.

年 月 日 氏 名 印

追テ左ノ通希望致候也

一 受 驗 場 何 地

二 冀 望 兵 科 第一何兵 (主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫)

第二何兵 (生業望者ハ其ノ旨ヲ記スヘシ)

受驗場ハ本籍地師管内又ハ寄留地師管内ニ限ル但シ臺灣ニ於テ服役セムトスル者ハ臺灣守備隊司令部所在地トス

第二様式(用紙ハ美濃白紙)

第十七章 雜

五四五

第十七章 雜

履 歷 書

- 一 何年月日何學校へ入學何年月日同校卒業
- 一 何年月日何所ニ於テ何研究
- 一 何年月日何ニ從事ス
- 一 一年志願兵出願ニ關スル件左ノ如シ
- 一 未タ出願セシコトナシ
- 一 何年何師管ニ於テ何ノ爲不採用
- 一 何年一年志願兵認定證書ヲ受領セシモ何ノ爲服役セス
- 一 何年月日何ニ依リ賞(勳)等

(右ノ外履歷ニ關スル事項ハ殊ニ本則第十七條第四號ニ掲クル特別ノ技術ニ關シテハ其ノ修學又ハ實驗ノ事項ヲ詳記スヘシ)

右之通相違無之候也

年 月 日

第三樣式(用紙ハ美濃紙)

一年志願兵服役承認書

右者一年志願兵トシテ服役ノ備承認致候就テハ服役並一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勤務演習ニ要スル費用ハ無相違上納可爲致候也

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地
 寄留地 府(縣)郡(市)町(村)番地
 戸主

年 月 日

第四樣式

身元證明書

一 賞罰ニ關スル事項ハ履歷書ノ通

二十歳未満ノ志願者ニ在リテハ戸主及親權ヲ行フ者ノ連署ヲ要ス此ノ場合ニハ氏名ノ上ニ「親權者」ト記載スヘシ

年 月 日

氏 名 印

第五樣式

一年志願兵認定證書

- 一 戸主或ハ本人何種公債證書或ハ株券金額何千何百圓ヲ所有スル等
- 一 戸主或ハ本人官制或ハ會社等ヨリ受クル給料何千何百圓等
- 一 何々ノ所得年額何千何百圓等

年 月 日

府縣市町村長

氏 名 印

府(縣)族籍

氏 年 月 日 名 印

陸軍一年志願兵タル資格ヲ具有スル者ト認定ス

但シ何兵第何聯「大」隊ニ於テ服役スヘシ

年 月 日

職 氏 名 印

他師管ノ軍隊ニ於テ服役スル者ニ在リテハ但書ヲ「但シ何師團ニ於テ服役スヘシ」ト記ス

第六樣式

一年志願兵入營命令

府(縣)族籍

氏 年 月 日 名 印

何兵第何聯(大)隊ニ入隊スヘシ

年 月 日

職 氏 名 印

第七樣式

明治何年一年志願兵合格者人員表

某師團司令部

種別	步兵	騎兵	砲兵		工兵		兵	輜重兵	主計生	軍醫生	藥劑生	獸醫生	備計
			野山砲	重砲	工兵隊	鐵道隊							
翌年同シ本籍師													
リナリ居													
管ノ者													
師管第													
師管第													
師管													
他													
管													
者													
計													

學術試驗ヲ受ケタル者ハ朱書ヲ以テ相當區畫ニ別記スルモノトス
 本籍師管ノ者ニシテ他師管ニ、他師管ノ者ニシテ受檢地師管ニ全戸寄留ノ者アルトキハ其ノ師管名寄留ノ年月日及冀望兵科等
 フ備考ニ記載スヘシ
 本表ハ各師管ニ於テ其ノ師管ニ於テ受檢シタル者ニ就キ調製スルモノトス但シ翌年同ト爲リ居リシ者ノ欄内ニハ前年ニ於テ其
 ノ師管ニ配當サレタル者ニ就キ掲クルモノトス之カ爲近衛師團ハ其ノ人員ヲ第一師團ヘ通報スヘキモノトス

種別	步兵	騎兵	砲兵		工兵		兵	輜重兵	主計生	軍醫生	藥劑生	獸醫生	備計
			野山砲	重砲	工兵隊	鐵道隊							
本籍者													
他籍者													
計													
認定書付與證 前疾他病書ヲ返シテ事由ナ 其ノ他還セタルセサル 前依リメタルセサル 消願取者													
配當後入營前ニ於ケル減員													
死													
計													
本籍者													
他籍者													
計													
所定ノ期日ニ接レタ													
正當ノ事由 アリタル者 由ナキ者													
本籍者 管他者 師管他者 本籍者 管他者													
計													
翌年													
回													
計													

明治何年一年志願兵人員表

某師團司令部

考
 一 本表中兵科ハ本人ノ第一希望ニ基キ記入スヘシ
 一年志願兵志願者中不合格者ノ人員ハ本表ニ準スル様式ニ依リ別ニ之ヲ調製シ本表ト共ニ消達スヘシ

考 備	計	軍 醫 生	藥 劑 生	獸 醫 生	入 隊 者		一 箇 年 中 減 員		一 箇 年 服 役 ヲ 終 リ タ ル 者	
					他 師 管 ノ 者	本 籍 師 管 ノ 者	現 役 其 ノ 他 免 除	死 亡	其 ノ 他 事 故	終 末 試 驗 伍 長 同 官 兵 卒
一										
二										
三										
四										
五										

第九樣式

前年ニ於テ翌年同ト爲リ居リシ人員ハ相當區畫ニ朱書ヲ以テ別記スヘシ
 一 學術受驗者ハ(學)ノ符號ヲ附シテ表中ニ別記スヘシ第九樣式亦同シ
 二 正當ノ事由ナク入隊セタル者又ハ入隊スルモ正當ノ事由ナク入隊ノ期ニ後レタル者アルトキハ本人ノ本籍師管ヲ備考ニ記スヘシ
 三 近衛師團ノ人員表中本籍者ノ區畫ニハ第一師管在籍者ヲ記シ他師管者ノ區畫ニハ第一師管以外ノ在籍者ヲ記スヘシ第九樣式亦同シ
 四 臺灣守備隊ノ人員表ニハ本籍者ト他師管者ノ區別ヲ要セス

明治何年一年志願兵成績表

某師團司令部

種 別	入 隊 者		一 箇 年 中 減 員		一 箇 年 服 役 ヲ 終 リ タ ル 者	
	他 師 管 ノ 者	本 籍 師 管 ノ 者	現 役 其 ノ 他 免 除	死 亡	其 ノ 他 事 故	計
步 兵						
騎 兵						
砲 兵						
野 山 砲						
重 砲						
工 兵 隊						

考 備	計	軍 醫 生	藥 劑 生	獸 醫 生	主 計 生	輔 重 兵	兵	
							電 信 隊	鐵 道 隊
一								
二								
三								
四								
五								

傷疾疾病ノ爲終末試驗ヲ受ケサル者ハ兵卒ノ區畫中朱書ヲ以テ別記シ其ノ旨ヲ備考中ニ記載スヘシ
 一 但シ條例第二十四條ニ依リ終末試驗ヲ受ケタルトキハ其ノ兵科、及第、落第等ヲ區別シ次年ニ於ケル本表備考中ニ記載スヘシ
 二 入隊者中前年ニ於テ翌年同トナリ居リシ者ハ相當區畫ニ朱書ヲ以テ別記シ其ノ旨ヲ備考中ニ記載スヘシ
 三 條例第二十六條ニ該當スル者ハ兵卒ノ區畫中朱書ヲ以テ別記シ適宜ノ符號ニテ標示スヘシ
 四 臺灣守備隊ノ報告表ハ師管ヲ區別スルヲ要セス

縣令規之部

縣令規之部

第一章 御影、勅語

明治三十四年二月十四日 訓令 第八號	御影竝勅語謄本奉置ニ關スル規程	一
明治二十五年十二月十三日 訓令 乙第五十九號	兩陛下御寫眞下賜ノ小學校ニシテ廢校ノトキ返納手續	一
明治二十四年一月十七日 訓令 示	勅語奉讀式	一
明治四十一年十一月一日 訓令 第六十號	戊申詔書ニ關スル件	二

第二章 教育通規

明治二十七年九月十三日 縣令 第五十三號	學校圖書館教育會等設置廢止規則	二
明治三十三年三月二十三日 訓令 第九號	教育上徳性ノ涵養ニ重キヲ置カシムルノ件	二
明治三十二年七月五日 訓令 第二百七十二號	改正條約實施ニ付教育上失體ナキ様注意ノ件	三
明治三十二年八月十八日 訓令 第三百五十九號	一般ノ教育ヲシテ宗教ノ外ニ獨立セシムルノ件	三
明治二十一年八月十三日 訓令 第三十六號	新年及天長節紀元節ノ祝日ニ職員生徒ヲ集メ祝賀式ヲ舉行セシムルノ件	三

明治四十二年一月十三日 訓令第五號	學校運動會等餘興ニ演劇ニ類スル處作ニ關スル件	三
明治三十七年二月三日 訓令第二號	徵集猶豫ニ關スル注意	三
明治二十八年十月十五日 訓令乙第三十六號	學事ニ關スル法令例規等ヲ編輯完備取計ハシムルノ件	四
明治二十八年十月十五日 訓令乙第三十七號	樹栽日ヲ定メ生徒ヲシテ苗樹ヲ栽殖セシメ森林保護ノ實ヲ舉ク ルコトヲ得セシムルノ件	四
明治三十年八月七日 訓令乙第三十二號	樹栽日ハ毎年春秋二回ト定ムルノ件	五
明治三十七年二月二十八日 訓令第七十一號	官公署學校病院其他公共ノ建物ノ保存ニ就キ火器取扱方注意ノ 件	五
明治三十二年五月七日 訓令第三百八十六號	有租地ヲ公立學校地ト爲シタルトキ又ハ其校地ニ變更ヲ生シタ ルトキ所轄稅務署へ通知ノ件	五
第三章 普通教育		
第一節 小學校		
明治四十一年三月四日 縣令第二十六號	小學校令及小學校令施行規則實施細則	五
明治四十四年九月二十一日 訓令第二十八號	小學校令及小學校令施行規則中改正ノ要旨ニ關スル件	三五
明治二十五年十一月十五日 訓令乙第四十六號	小學校名稱ニ關スル件	三五

〔岡山學令〕

〔岡山學令〕

明治二十五年十一月十五日 縣令第五十二號	小學校祝日大祭日儀式ニ關スル件	三五
明治二十五年十一月十五日 訓令乙第四十五號	尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置スル小學校ニ於 テ小學校ニ屬スル設備手續	三六
明治三十年八月七日 訓令乙第三十三號	小學校ニ於テ一校内ノ兒童數過多ナルトキハ校舍新築改築等ノ 祭分割ノ手續ヲナサシムルノ件	三六
明治二十六年七月二十八日 訓令乙第四十八號	女子ノ教育上小學校ノ教科目ニ裁縫ヲ加フルヲ要スルノ件	三六
明治四十四年一月十三日 訓令第二號	農業商業教科目加設ニ關スル件	三七
明治二十七年九月十九日 訓令乙第四十八號	小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關スル心得	三七
明治四十五年二月二十日 縣令第十一號等	小學校教科用圖書採定ノ件	三八
明治二十八年一月十四日 訓令乙第二號	小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜採用ニ關スル件	四二
明治二十九年四月二日 告示第九十四號	小學校ニ於テ唱歌ニ供スル歌詞及樂譜ノ件	四二
明治三十三年十二月十八日 訓令第三十七號	就學督責ヲ勵行シ國民教育ノ實効ヲ舉ケシムルノ件	四五
明治三十七年二月二十八日 訓令第七十號	公立學校ノ校舍校具及戶外體操場ヲ公ノ集會又ハ公衆體育ノタ メニ使用セシムルトキノ要件	四五
明治二十九年六月二十五日 訓令甲第二十號	郡市内高等小學校ハ單利品紀念ノ爲メ分配取締方注意セシムル ノ件	四六

第二節 中學校

明治三十四年五月九日 縣令第六十五號	岡山縣立岡山中學校學則	四六
明治三十四年五月九日 縣令第六十六號	岡山縣立津山中學校學則	五一
明治三十四年五月九日 縣令第六十七號	岡山縣立高梁中學校學則	五一
明治三十四年十一月七日 縣令第三百二十四號	岡山縣立矢掛中學校學則	五一

第三節 高等女學校

明治三十八年三月二十四日 縣令第七十七號	岡山縣立岡山高等女學校學則	五二
明治三十六年三月十五日 縣令第二十二號	岡山縣立津山高等女學校學則	五七
明治三十三年四月八日 訓令第二十五號	高等女學校ニ在學スル女子ノ年紀ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル件	六一

第四章 師範教育

大正二年一月二十一日 縣令第六十一號	岡山縣師範學校規則	六一
-----------------------	-----------	----

〔岡山縣令〕

〔岡山縣令〕

第五章 專門教育

大正二年一月十三日 縣令第一號	岡山縣女子師範學校規則	七一
明治三十八年二月二十五日 縣令第十號	師範學校卒業生服務規則ノ細則	八三
明治三十七年四月十二日 告示第三百六十七號	專門學校入學者檢定手續	八三

第六章 實業教育

第一節 工業學校

明治四十四年一月二十八日 縣令第五號	岡山縣立工業學校學則	八四
-----------------------	------------	----

第二節 農業學校

大正二年四月十六日 縣令第三十三號	岡山縣立農學校學則	九〇
明治四十年七月二十七日 縣令第四十六號	岡山縣立農學校病畜診斷治療及裝鐵削蹄剔毛ニ關スル規定	九六

第三節 商業學校

明治三十二年六月二十九日
縣令第五十五號 岡山縣商業學校規則

九八

第四節 商船學校

大正二年二月十九日
縣令第九號 兒島郡立商船學校ヲ岡山縣立兒島商船學校ト改稱ノ件
大正二年二月十九日
縣令第二十九號 岡山縣立兒島商船學校規則

一〇二
一〇二

第五節 實業補習學校

明治三十五年九月十一日
縣令第九十六號 實業補習學校設置廢止等ニ關スル規程
明治三十五年三月六日
訓令第十一號 實業補習學校ノ性質ノ大要ヲ示シ地方ノ情況ニ適應スル施設ヲ爲サシムルノ件

一一〇
一一一

第七章 私學教育

明治三十四年五月三日
縣令第六十三號 私立學校設置及其他取扱方ニ關スル規則

一一三

第八章 職員

第一節 任免、待遇

明治二十九年二月一日
訓令乙第二號 神職又ハ寺院住職等ヲシテ小學校訓導ヲ兼務セシメントスルト
明治二十七年四月二十九日
縣令第三二號 市町村立學校又ハ私立學校ノ教師ニ外國人ヲ傭入若クハ傭繼カントスルトキハ市町村長又ハ其ノ設立者ニ於テ縣知事ニ具申シ許可ヲ受ケシムルノ件
明治四十四年十一月八日
訓令第三十五號 小學校長及教員待遇ノ件

一一三
一一四
一一四

第二節 檢定

明治四十一年十月十四日
告示第九百四十一號 小學校教員檢定受験者心得
大正二年五月二十三日
告示第一百二十三號 小學校教員試驗檢定用圖書

一一四
一一五

第三節 養成、講習

〔岡山學令〕

〔岡山學令〕

明治四十一年一月二十三日 縣令第七號	小學校教員養成所規程	一二五
明治四十一年三月八日 訓令第二十號	小學校教員養成所ニ於テ第二學年編入試驗届出方	一二九
明治三十九年二月二十七日 訓令乙第四號	小學校教員講習科講習生ノ學資ハ市町村費ヲ以テ之ヲ補助スル コトヲ得ルノ件	一二九
第四節 職務、服務及服制		
明治四十年四月三十日 訓令第二十五號	岡山縣視學視察規程	一三〇
明治三十三年三月二十七日 訓令第十號	郡視學巡視規程	一三〇
明治十四年二月二十六日 丁令第十六號	郡區書記中學務擔任ノモノ進退變更ノ每度届出シムルノ件	一三一
明治三十五年三月二十一日 縣令第二十九號	市町村ノ廢置分合等ニ因リ消滅スヘキ學校幼稚園及兒童教育事 務委託ノ存續期間及管理者ノ職務ニ關スル件	一三一
明治三十一年九月十三日 訓令第二十七號	學校教員タルモノハ他ノ事柄ニ關係セス其任ヲ完フシ又生徒タルモノハ學校長教員ノ 指導訓誨ニ背キタル者アラハ相當處分セシムルノ件	一三二
明治三十二年十二月七日 訓令第五百三十七號	市町村立學校校長教員教授時間外ニ於テ私立學校等ノ依託ヲ受ケ 其代表者又ハ職員タラントスル者ハ知事ノ許可ヲ受ケシムルノ件	一三二
明治二十八年五月八日 訓令乙第九號	小學校教員私宅ニ於テ教授時間外ニ生徒ヲ教授スルトキハ生徒心身ノ發達ヲ害スル ニ付特ニ公立小學校ニ在テハ注意ヲ加ヘ嚴重取締ヲナサシムルノ件	一三二
明治三十年十二月十八日 訓令乙第四十五號	小學校長及教員現任學校所在地一里以外ノ地ニ住居シ通勤ノモノハ郡市長ノ許可ヲ受 クヘシ且教員疾病又ハ傷痍ニ依リ休職ノ者ハ休職滿期三十日前病況届出サシムルノ件	一三三

〔岡山縣令〕

〔岡山縣令〕

明治二十八年三月三十一日 告示第五十六號	師範學校卒業生服務年限中ノモノ高等師範學校其他官立學校生 徒募集ニ應シ出願ノトキハ縣知事ノ許可ヲ受ケシムルノ件	一三三
明治二十九年五月十三日 訓令乙第十號	小學校教員市町村立學校ニ金穀其他寄附ヲ爲スモノニ關スル件	一三三
明治二十一年九月二十四日 訓令第三十九號	小學校長並訓導職務上使用ノ印章雛形	一三三
明治四十二年十二月八日 訓令第四十二號	小學校教員及幼稚園職員服制	一三三
明治四十三年十月九日 訓令第三十四號	師範學校並公立中等諸學校職員服制	一三四
明治四十三年十月九日 訓令第三十五號	公立乙種實業學校職員服制	一三四
第五節 俸給、旅費及諸給		
明治四十四年五月二十四日 縣令第三十二號	市町村立小學校教員加俸給與細則	一三四
明治三十三年六月二十二日 訓令第四十九號	市町村立小學校教員加俸金請求方及取扱手續	一三六
明治三十六年五月八日 縣令第四十三號	公立學校職員俸給支給細則	一三八
明治三十二年四月八日 縣令第三十三號	公立中學校公立實業學校及公立高等女學校職員旅費支給ニ關ス ル規程	一三八
明治四十二年一月九日 縣令第一號	市町村立小學校教員住宅費補助規程	一四〇

第六節 退隱料、扶助料

明治二十八年十二月十三日 訓令乙第四十六號	退隱料又ハ遺族扶助料等ノ請求書ヲ受ケタル市町村長ハ計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ差出サシムルノ件	一四一
明治四十一年三月七日 告示第百七十九號	小學校教員退隱料ノ請求書ニ添付スル履歷書ノ件	一四四
明治三十一年六月二十一日 告示第百四十八號	小學校教員退隱料請求ノトキ醫師診斷書添付セシムルノ件	一四四
明治四十五年二月七日 縣令第五號	市町村立小學校教員退隱料遺族扶助料及給與金扶助金請求規程	一四四
明治三十九年九月二十九日 訓令第三十九號	學校教員、幼稚園保姆恩給基金收入手續	一四六

第九章 生徒

明治二十一年八月十三日 訓令第三十五號	學校生徒禮式要項	一四八
明治四十三年九月一日 訓令第三十三號	行幸啓ノ節生徒兒童敬禮方	一四九
明治四十一年二月二十五日 訓令第十號	學校生徒取締ニ關スル規程	一四九
明治三十三年三月三十日 訓令第十號	學校生徒喫煙禁止ニ關シ注意ノ件	一五〇

〔岡山學令〕

〔岡山學令〕

第十章 學校衛生

明治三十年一月二十一日 告示第九號	學校清潔方法	一五〇
----------------------	--------	-----

第十一章 圖書館

明治四十一年一月十五日 縣令第三號	岡山縣立戰捷紀念圖書館規則	一五一
明治四十一年一月二十四日 訓令第三號	岡山縣立圖書館職務章程	一五二

第十二章 教育費

明治四十三年七月十三日 縣令第四十五號	教育資金使用ニ關スル規則	一五三
明治四十年七月十五日 縣令第四十一號	教育費縣費補助規程	一五四
明治二十八年十月十五日 訓令乙第三十八號	學校基本財産ヲ設クル必要ノ件	一五五
明治二十九年五月十五日 訓令乙第三十三號	市町村立學校基本財産取扱手續	一五六

第十三章 統計、報告

明治四十四年四月七日 訓令第六十六號	學事年報取調條項及諸表樣式	一五六
明治三十六年九月三十日 訓令第六十六號	學校生徒並職員ニ關スル事項取調樣式	一五七
明治三十九年三月十七日 訓令第七十七號	國民教育施設參考資料調査報告方	一六一

第十四章 雜

大正三年一月二十七日 訓令第二十七號	陸軍六週間現役兵取扱手續	一六五
-----------------------	--------------	-----

〔岡山學令〕

縣令規之部

第一章 御影、勅語

●御影並勅語謄本奉置ニ關スル規程

訓令第八號(明治三十四年二月十四日)

郡市役所 町村役場 市町村立小學校
御影並勅語謄本奉置ニ關スル規程左ノ通り定ム但明治二十四年(十一月)岡山縣訓令乙第三十四號ハ廢止ス

- 第一條 御影ハ校舎内ニ適當ノ室ヲ設ケ又ハ一室内ニ於テ嚴然區劃ヲ設ケ其内ニ牀上三尺以上ノ高座ヲ作り最モ鄭重ニ奉裝シ最モ尊重ニ且堅固ニ奉置スヘシ
- 第二條 勅語謄本ハ最モ鄭重ニ奉裝セル箱中ニ收メ 御影ヲ拜戴セル學校ニ於テハ 御影奉置所ニ拜戴セラル學校ニ於テハ最モ清淨ナル室内上位ニ高座ヲ設ケ最モ尊重ニ且堅固ニ奉置スヘシ
- 第三條 學校長ハ天災事變ノ場合ニ於テ 御影並勅語謄本奉置ニ關スル詳細ナル手續ヲ定メ監督官廳ニ届出ツヘシ
- 第四條 御影ヲ拜戴セル學校ニ於テハ職員交互ニ宿直ヲ爲スヘシ

●兩陛下御寫眞下賜ノ小學校ニシテ廢校ノトキ返納手續

訓令乙第五十九號(明治二十五年十二月十三日)

郡市役所 町村役場

天皇

第一章 御影、勅語

皇居 兩陛下御寫眞下賜ノ小學校ニシテ廢校シタルトキハ町村役場ハ其翌日郡市役所ニ返納シ郡市役所ハ七日以内ニ縣廳ニ返納スヘシ
勅語謄本及文部大臣訓示ハ廢校廢園ノ節町村役場ハ郡市役所ニ返納シ郡市役所ハ便宜縣廳ニ返納スヘシ但返納ニ係ルモノ、内郡市長ニ於テ新設ノ向ヘ交付ノ見込有之節ハ直チニ交付方取計其都度開申スヘシ
御寫眞下賜ノ小學校及
勅語謄本交付ノ學校幼稚園ニ於テ水火風震等ノ災ニ罹リ若シ御寫眞及
勅語謄本ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ町村立學校幼稚園ニ就キテハ學校長又ハ首席教員若クハ保母ヨリ私立學校ニ就キテハ設立者ヨリ手續書ヲ徴シ市町村長ヨリ縣知事ニ詳具スヘシ但文部大臣訓示ハ其都度開申スヘシ

●勅語奉讀式

訓示(明治二十四年一月十七日)

- 一回交付セル
- 勅語謄本並文部大臣ノ訓示ハ公私立各學校ヘ配付スヘシ各學校ニ於テハ之ヲ扁額ニ製シ常ニ校内ヘ掲ケ置毎月奉讀ノ式ヲ舉ケ校長以下有モ教育ニ從事スルモノハ謹テ
- 聖意ヲ奉體シ訓示ヲ服膺シ生徒黨團ノ務ヲ怠ルヘカラス依テ左ニ勅語奉讀式心得ヲ差示ス各學校ヘ傳達致スヘシ
- 勅語奉讀式心得
 - 一 勅語奉讀式ハ毎月三十日ナ期シ始業前執行スヘシ其日休暇ニ當ルトキハ之ヲ前後ニ替ルモ妨ケナシ
 - 一 勅語ハ學校長若クハ首席教員之ヲ奉讀シ右了リテ
 - 一 聖德ニ關スル御事蹟又ハ我國歴史上道徳ニ係ル講談ヲナシ式中ハ最モ謹慎嚴肅ヲ要ス
 - 一 勅語奉讀式ニハ有志ノ輩參席スルコトヲ得

第二章 教育通規

● 戊申詔書ニ關スル件

訓令第六十號(明治四十一年十一月二日)

郡長 市町村長 學校長

本月十三日ヲ以テ一般臣民ニ對シ優渥ナル詔書ヲ下シ給フ
宗旨ノ教育ニ關スル所重且大ナリ職ニ教育ニ在ル者ハ須ク
聖意ヲ奉體シ躬行實踐以テ子弟訓育ノ實績ヲ擧ケンコトヲ企圖シ克ク詔書
御趣旨ニ副ヒ奉ランコトヲ努ムヘシ

第二章 教育通規

● 學校圖書館教育會等設置廢止規

則

縣令第五十號(明治二十七年九月十三日)
學校圖書館教育會等設置廢止規則左ノ通相定ム但シ明治二十一年(二月)岡
山縣令第二十四號ハ廢止ス

第一條 學校圖書館設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ市町村立ハ市町村ニ
於テ私立ハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ縣知事ニ具申スヘシ但シ別ニ規定
アル學校圖書館ノ廢設等ハ其ノ規定ニ依ル

學校ニ關スル事項
一 設置ノ目的 二 名稱 三 位置 四 教則
教授ノ要旨及方法、學科程度、
學科課程、教科用圖書及配當
表、修業年限、學年、始終、休
業日、毎週教授時數、試驗法等

五 生徒定員 六 敷地建物ノ圖面及坪數 七 維持方法 八 經費豫算
圖書館ニ關スル事項

面ヲ汚濁スルコトナキヲ保セス登臺心セサルヘケンヤ此際教員ニ在ル者ハ
勿論監督管理ノ任ニ在ル者ハ深ク今上陛下教育ニ熱心シタマフ大御心ヲ奉
體シ客年改正條約實施ニ際シ學校生徒教養方ニ關スル訓令ノ趣旨ヲ服膺シ
テ生徒ノ訓練ニ一層心ヲ用ヒ躬自ラ之カ模範ヲ示シ專心一意誘掖薰陶ノ責
ニ膺リ苟ニモ生徒ヲシテ長上ヲ凌クカ如キ非擧ナカラシムルハ勿論放慢自
ラ制セス或ハ粗野奇矯ノ行爲ヲナカシメ眞ニ學校ヲシテ風教ノ源泉タル實
績ヲ擧ケンコトヲ務ムヘシ

● 改正條約實施ニ付教育上失體ナ

キ様注意ノ件

訓令第二百七十二號(明治三十二年七月五日)

郡市役所 町村役場 縣立學校 市町村立小學校

今ヤ改正條約實施ノ期僅ニ數日ヲ出テサラントシ茲ニ新ニ
詔勅ヲ下シタマフ蓋將來外國人ノ内地ニ來住居スル者滋々多キヲ致スヘ
シ此ノ時ニ際シ若シ學校生徒ヲシテ放漫自ラ制セス或ハ禮節ヲ藐視シ或ハ
粗野ノ行爲ヲ敢テシ奇矯是レ喜ブ如キ陋習ヲ長セシムルコトアラハ獨リ教
育上ノ失體タルノミナラス延イテ國家ノ威信ヲ失墜シ其ノ體面ヲ汚濁スル
コトナキヲ保セス苟モ任テ其學校長及教員ニ承クル者ハ宜シク恭ミテ教員
ヲ奉體シ此ノ際尙一層學校ノ風紀ヲ正シ規則ヲ嚴ニシ生徒ヲ戒飭督勵シテ
能ク其本分ヲ盡シ以テ生徒教養ノ方ヲ誤ルコトナキヲ期スヘシ

● 一般ノ教育ヲシテ宗教ノ外ニ獨

立セシムルノ件

訓令第三百五十九號(明治三十二年八月十八日)

郡市役所 縣立學校 町村役場 市町村立學校

一般ノ教育ヲシテ宗教ノ外ニ特立セシムルハ學政上最必要トス依テ公立學
校及學科課程ニ關シ法令ノ規定アル學校ニ於テハ課程外タリトモ宗教上ノ

第二章 教育通規

一名稱 二位置 三敷地建物ノ圖面及坪數 四館則、開館ノ日時、閱覽
ノ手續等

五圖書ノ種類 六維持方法 七經費豫算

第二條 私立教育會ヲ設置廢止セントスルトキハ其ノ設立者ニ於テ縣知事
ニ開申スヘシ但シ設置ノトキハ左ノ事項ヲ添付スヘシ

一 設置ノ目的 二 名稱 三 會則 役員名稱及員數 四 維持方法

第三條 市町村立學校圖書館變更廢止ノ認可ヲ受ケントスルトキハ市町村
ニ於テ其事由ヲ縣知事ニ具申スヘシ

私立學校圖書館變更ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ設立者ニ於テ其ノ
事由ヲ縣知事ニ具申シ其ノ廢止ハ開申スヘシ

第四條 學校圖書館ノ規則ヲ更正セントスルトキハ市町村立ハ市町村ニ於
テ私立ハ其設立者ニ於テ其事由ヲ具シ縣知事ノ認可ヲ受ケ其名稱位置ノ
變更ハ開申スヘシ

第五條 學事講習會等ヲ開設セントスルトキハ其設立者ニ於テ學科目期限
等ヲ縣知事ニ開申スヘシ

● 教育上德性ノ涵養ニ重キヲ置カ

シムルノ件

訓令第九號(明治三十三年三月二十三日)

郡市役所 町村役場 縣立學校 市町村立小學校
凡ソ教育上德性ノ涵養ニ最モ重キヲ置カサルヘカラサルハ特ニ喋々ヲ要セ
スト雖モ熱々社會ノ趨勢ヲ察スル輒近泰西ノ文物東漸スルト同時ニ物質的
分化駁々進テ底止スル所ヲ知ラサルニ反シ德義品行ハ却テ退却ノ傾向ヲ左
シ甚シキハ我邦固有ノ美風良俗漸ク掃蕩セララルルノ虞ナシトセス今ヤ改正
條約既ニ實施セラレ内外交通益々頻繁ヲ加フルニ當リ若夫風教ノ由テ出ツ
ル基礎德性ノ由テ養ハルル源泉タルヘキ學校ニシテ之カ影響ヲ受タルコト
アラシカ膏ニ教育上ノ失體タルノミナラス延イテ國家ノ威信ヲ失墜シ其體

教育ヲ施シ又ハ宗教上ノ儀式ヲ行フコトヲ許ササルヘシ

● 新年及天長節紀元節ノ祝日ニ職

員生徒ヲ集メ祝賀式ヲ舉行セシ

ムルノ件

訓令第三十六號(明治二十一年八月十三日)

(沿革)明治二十一年訓令第三七號改正

郡區長 戶長
新年及天長節紀元節ハ國家ノ大祝日ニシテ臣民一般慶祝スヘキハ勿論ニ付
自今右祝日ニ於テハ小學校其他ノ諸學校トモ職員生徒ヲ集メ祝賀式ヲ舉行
シ自ラ忠君愛國ノ志氣ヲ磨勵候様勸誘スヘシ
但其式ハ唱歌ニ由ルヲ可トス

● 學校運動會等餘興ニ演劇ニ類ス

ル處作ニ關スル件

訓令第五號(明治四十二年一月十三日)

郡長 市町村長 學校長
近來學校ニ於テ催ス所ノ講演會紀念會又ハ運動會等ニ於テ當日ノ興趣ヲ添
ヘンカ爲種々ノ工夫ヲ廻ラシ其結果多數ノ時間ヲ空費スル者アリ尙ホ他地
方ニ於テハ生徒ニシテ脂粉ヲ施シ假裝ヲ爲シ往々演劇ニ類スル處作ヲ演ス
ルノ例ナキニアラス如キハ學校ノ風紀ヲ弛ウシ浮薄ノ弊ヲ助長スル虞
アルニ依リ學校職員ハ自今右等ノ行爲ヲナキ様十分注意ヲ加ヘ且ツ講演會等
ノ場合ニ於テハ職員協同シテ稠密ニ生徒ヲ指導監督シ教育上善良ノ效果ヲ
收メンコトヲ期スヘシ

● 徵集猶豫ニ關スル注意

訓令第二號(明治三十七年二月三日)

第二章 教育通規

師範學校 公立實業學校 公立實業學校 兵役ハ臣民カ國家ニ對シテ負擔スル重大ナル義務タルニ拘ラス一定ノ學校ニ在學スル者ニ對シテ徵集猶豫ノ特典ヲ與ヘラルルハ國家カ教育ヲ重シ獎勵スルノ趣旨ニ出テタルヤ明ナリ然ルニ往々此ノ特典ヲ濫用シ名ヲ在學ニ籍リテ徵集猶豫ヲ受ケントシ學校ニ於テモ亦別ニ注意ヲ加フル所ナクシテ容易ニ之ヲ認容スルモノアリト聞ク此ノ如キハ實ニ徵集猶豫ノ本旨ニ背反スルノミナラス又臣民ノ本分ヲ愆ルモノト謂フヘシ校長ハ深ク此ノ點ニ留意シ客年文部省令第三十九號ノ手續ヲ實行スルハ勿論其ノ生徒ノ入學在學出席退學ニ關シテ常ニ精確ノ調査ヲナシ苟モ徵兵忌避ノ疑アルカ如キ場合ニ於テハ速ニ其情況ヲ知事ニ具申スヘシ

學事ニ關スル法令例規等ヲ編輯完備取計ハシムルノ件

訓令乙第三十六號(明治二十八年十月十五日) 郡市役所 町村役場 市町村立學校 市町村立學校ニ於テハ學事ニ關スル法令ヲ備置當ニ其ノ例規ヲ遵守スヘキハ勿論ナルニ依リ自今學事ニ關スル本縣訓令ハ學校ヘモ配付スヘキ其ノ從前ノ訓令訓示等ハ市町村長ヨリ已ニ學校ニ移譯セル等處若シ脱漏ノモノアレハ此ノ際全文ヲ謄寫スル等相當ノ手續ヲ以テ各校トモニ學事ニ關スル例規ヲ編輯完備スル様取計フヘシ 嗣後訓令スル事項ノ市町村立各學校ニ關スルモノハ本文ノ前、町村役場ノ次ヘ市町村立學校ト署シ其ノ小學校ノミニ關スルモノハ市町村立小學校ト署スル等其ノ他之ニ準シ總テ關係學校ヲ掲記シテ之ヲ發シ其ノ配付スヘキ部冊ハ市役所町村役場ヘ合セテ送致スヘキニ付其ノ役所役場ヨリ速ニ轉致スヘシ但シ町村學校組合ノ設置ニ係ル學校ヘ配付ノ分ハ其ノ校所在地ノ町村役場ヘ向ケ發送ス

樹栽日ヲ定メ生徒ヲシテ苗樹ヲ栽植セシメ森林保護ノ實ヲ擧ルコトヲ得シムルノ件

訓令乙第三十七號(明治二十八年十月十五日) 郡市役所 町村役場 市町村立學校 山林ハ直接ニ建築ノ用材製造ノ原料ヲ供給シ或ハ國土ノ風致ヲ増スノミナラス間接ニ土質ヲ改良シ氣候ヲ調和シ水源ヲ涵養シ洪水若ハ暴風ヲ防歴スル等人生ニ裨益ヲ與フルコト枚擧ニ遑アラズ然ルニ本縣下ハ維新以來往々樹木ヲ濫伐シ鬱蔥タル山林ヲ減少セリ是レ連年水旱交々至リ其ノ慘害ヲ被ルノ悲境ニ沈淪セシ最大原因ナラン是ヲ以テ山林保護ハ目下ノ急務ナリト謂フヘシ依テ此ノ際縣下各學校ニ於テ休日祭日等適當ノ時期ヲ選ビ樹栽日ヲ定メ每期意ヲ各生徒ヲシテ其ノ地方適當ノ苗樹ヲ栽植セシメ自然ニ生徒ノ心裡ニ山林愛護ノ思想ヲ煥發シ從テ後來森林保護ノ實ヲ擧ルコトヲ得ン斯クノ如キハ國家經濟上ノ利益ハ言フ俟タズ兼テ教育上著實ノ思想ヲ伸ヘ浮薄ノ心情ヲ抑ヘ愛郷心ヲ增長シ延キテ忠君愛國ノ心情ヲ養成スル等非常ノ利益ヲ生スヘシ是レ實ニ一舉兩得ノ事業ナレハ概ネ左ノ要項ニ準シ各學校ニ於テ試實ニ之レカ實行ヲ期シ國家永年ノ利益ヲ圖ルヘシ 一 各學校ニ於テ毎年一回又ハ二回其ノ土地適當ノ季節ヲ撰ビ豫メ樹栽日ヲ定ムヘシ 一 樹栽日ニハ先ツ生徒ヲ學校ニ集メ學校長教員等ハ樹木ノ效用其ノ培養法山林ト國土ノ關係及山林保護ハ公益タル所以等ヲ講話シ生徒ヲシテ森林ヲ保護愛育スルノ念慮ヲ生セシムヘシ但シ當日ハ市町村長市町村會議員學務委員及父兄有志者等立會スルヲ要ス 一 前項ノ講話ヲ終リタル後學校長教員ハ生徒ヲ指揮シテ樹木栽植地ニ至リ松杉檜櫻櫻栗等其ノ土質適當ノ苗樹ヲ栽植セシムヘシ

件

- 一 栽植終リタル後學校長教員ハ更ニ生徒ヲ引導シテ前期ニ栽植シタル土地ヲ巡視シ其ノ樹木生長ノ現況ヲ目撃セシムヘシ 一 樹木栽植地ハ學校所屬地市町村有地等ノ荒蕪地ヲ充用スヘシ但シ適當ノ土地ヲ有セサル市町村ニ在テハ豫メ收利分配方法等ヲ協議シテ民有地ヲ借入ルルモ妨ナシ 一 苗樹ハ生徒各自ヲシテ之ヲ準備セシメ或ハ學校構内又ハ其ノ近傍ニ苗床地ヲ設ケテ培養シ或ハ購入ス等便宜タルヘシ但シ購入等ノ費用ハ成ルヘク學校經費ヨリ支辨スヘシ 一 毎回栽植スヘキ苗樹數ハ生徒壹人ニ付二株乃至五株トスヘシ 一 市町村長及學務委員ハ勿論學校長教員ハ常ニ栽植シタル樹木ヲ監護シテ其ノ繁茂ヲ圖リ且生徒ヲシテ便宜培養ノ勞ヲ執ラシムヘシ 一 栽植ノ樹木ハ保護愛育シテ假令成長期ニ達スルモ之ヲ一時ニ伐採セシテ輪次ニ伐採スルノ習慣ヲ養成スヘシ 一 栽植ノ樹木ハ永遠ニ保存スヘキモノノ外成長期ヲ待テ之ヲ賣却シ其ノ代價ハ學校ノ基本財産ニ編入シ又ハ其ノ幾分ヲ學事獎勵費若ハ運動會費等ニ充ツヘシ

樹栽日ハ毎年春秋二回ト定ムルノ件

訓令乙第三十二號(明治三十年八月七日) 郡市役所 町村役場 市町村立學校 明治二十八年(十月)訓令乙第三十七號要項中第一項ノ樹栽日ハ毎年春秋二回トシ神武天皇祭及天長節ノ兩日ヲ以テ之レニ充ツヘシ

官公署學校病院其他公共ノ建物ノ保存ニ就キ火器取扱方注意ノ

第三章 普通教育 第一節 小學校

訓令第十一號(明治三十七年二月二十八日) 郡市役所 警察署 警察分署 縣立學校 縣立病院 訓練所 縣立試驗場 町村役場 郡市町村立學校 官公署學校病院其他公共ノ建物ノ保存ニ就キテハ從來屢訓令又ハ通牒ヲ發シ注意ヲ促シタルヲ以テ取締上遺憾ナキヲ信スレトモ近來他府縣ニ於テハ往々火器取扱等ノ不注意ニヨリ學校其他公共ノ建物ヲシテ一朝空シク鳥有ニ歸セシムルモノ尠カラズ目下財政緊縮ノ場合火器取扱等特ニ注意シ苟モ失火ノ虞ナキ様嚴重取締ルヘシ 一 有租地ヲ公立學校地ト爲シタルトキ又ハ其校地ニ變更ヲ生シタルトキ所轄稅務署ヘ通知ノ件 訓令第百八十六號(明治三十二年五月七日) 郡市役所 有租地ヲ公立學校地ト爲シタルトキハ其都度該郡市町村字地番地目段別及認可年月日等ヲ記シ圖面ヲ添ヘ所轄稅務署ヘ通知スヘシ

第三章 普通教育

第一節 小學校

小學校令及小學校令施行規則實施細則

第三章 普通教育 第三節 高等女學校

縣令第二十六號(明治四十一年三月四日)

(沿革)明治四十二年縣令第二號、同第四七號、同第八二號、四三年同第五

二號、四四年同第五六號、四五年同第一八號、大正二年同第四七

號、三年同第六號、三年同第五二號、四年同第三〇號改正

明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令及同年文部省令第十四號小學校

令施行規則實施ニ關スル細則左ノ通相定ム

小學校令及小學校令施行規則實施細則

第一章 設置

第二章 學期休業日及教授時間ノ終始

第三章 教科及編制

第四章 設備

第五章 就學

第六章 教員檢定及免許狀

第七章 學校長及教員ノ進退

第八章 學校長及教員ノ職務及服務

第九章 市町村立小學校教員俸給旅費及諸給與

第十章 代用教員

第十一章 授業料

第十二章 區長及其ノ代理者並學務委員

第十三章 幼稚園及小學校ニ類スル各種學校

第十四章 附則

小學校令及小學校令施行規則實施細則

第一章 設置

第一條 小學校令第九條第二項ニ依リ郡長ニ於テ町村立尋常小學校ノ校數

並ニ位置ニ關シ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 學校數及其名稱並ニ位置

- 二 町村又ハ町村學校組合ノ意見書寫
- 三 町村又ハ町村學校組合ノ略圖
- 四 町村大字、地勢、部落散在ノ情況、指定セントスル學校ノ位置及現存ノ學校アルトキハ其ノ位置等ヲ記載スヘシ
- 五 指定セントスル校地ノ圖
- 六 字、地番、地種目、反別、所有地若クハ借地ノ別、方位又隣地ノ地目、狀況等ヲ記載スヘシ
- 七 通學路程ノ情況
- 八 町村及指定セントスル學校通學區域ノ男女別學齡兒童數
- 九 戶數人口
- 十 學校開始ノ豫定期日
- 十一 現在位置ノ儘坪數ヲ增減セントスル場合ハ町村又ハ町村學校組合ニ於テ校地ノ圖面ヲ具シ郡長ノ認可ヲ受ケヘシ
- 十二 郡長ニ於テ校數並位置ヲ指定シタルトキハ其ノ年月日ヲ現在位置ノ儘坪數ノ增減ヲ認可シタルトキハ校地ノ圖面ヲ具シテ知事ニ報告スヘシ
- 十三 第一條ノ二 市ニ於テ現在位置ノ儘市立尋常小學校ノ坪數ヲ增減セントスル場合ハ校地ノ圖面ヲ具シ知事ノ認可ヲ受ケヘシ
- 十四 第二條 小學校令第十條第一項ニ依リ郡長ニ於テ町村學校組合ノ設置ニ關シ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ
- 十五 一 組合ノ設置ヲ要スル事由
- 十六 二 關係町村ノ意見書寫
- 十七 三 組合規程
- 十八 四 學校數及其ノ位置ノ豫定
- 十九 五 通學路程ノ情況
- 二十 六 關係町村ノ男女別學齡兒童數
- 二十一 七 關係町村ノ戶數人口

〔同山〕

八 關係町村ノ地圖

町村學校組合ヲ解カシメントスルトキハ其ノ事由並ニ解散後ノ處分方法ヲ具シ且關係町村ノ意見書寫ヲ添フヘシ

第三條 小學校令第十條第二項ニ依リ郡長ニ於テ兒童教育事務ノ委託ニ關シ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 委託ヲ要スル事由

二 關係町村、町村學校組合及區ノ意見書寫

三 委託スヘキ學校名

四 委託料

五 關係町村各通學區域及委託セシメントスル區域ノ男女別學齡兒童數

六 通學路程ノ情況

七 關係町村ノ地圖教育事務ノ委託ヲ止メシメントスルトキハ其ノ事由並ニ委託廢止後ノ處分方法ヲ具シ且關係町村、町村學校組合及區ノ意見書寫ヲ添フヘシ

第四條 小學校令第十一條第二項ニ依リ郡長ニ於テ小學校使用ノ指定ニ關シ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 町村又ハ町村學校組合ヲ分畫スル事由

二 使用スヘキ小學校ヲ指定スル事由

三 關係町村、町村學校組合及區ノ意見書寫

四 町村又ハ町村學校組合略圖

五 町村大字、學校ノ位置及各學校使用若クハ委託區域ノ境界等ヲ記載スヘシ

六 町村又ハ町村學校組合及各學校使用若クハ委託區域ノ男女別學齡兒童數

七 區ヲ廢シ若クハ小學校使用ノ指定ヲ止メントスルトキハ其ノ事由並

第三節 普通教育 第一節 小學校

廢止後ノ處分方法ヲ具シ且關係町村、町村學校組合及區ノ意見書寫ヲ添フヘシ

第五條 小學校令第十四條第四項ニ依リ郡長ニ於テ町村學校組合ノ設置ニ關シ知事ノ指揮ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 町村學校組合ノ設置ヲ要スル事由

二 町村學校組合規程

三 學校數及其ノ位置ノ豫定

四 通學路程ノ情況

五 關係町村ノ地圖

六 町村學校組合ヲ解クノ指揮ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由並解散後ノ處分方法ヲ具シ且關係町村ノ申請書寫ヲ添フヘシ

第六條 小學校令第十五條ニ依リ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ高等小學校設置ニ關シ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 學校數及其ノ名稱並位置

二 市町村又ハ關係町村ノ略圖

三 第一條第三號ニ準シテ記載スヘシ

四 第一條第四號ニ準シテ記載スヘシ

五 通學路程ノ情況

六 市町村又ハ町村學校組合ノ男女別學齡兒童數

七 市町村又ハ關係町村ノ戶數人口

八 市町村又ハ關係町村ノ收入支出豫算表

九 市町村又ハ關係町村ノ收入支出豫算表

十 學校開始ノ豫定期日

第三章 普通教育 第一節 小學校

校地ヲ變更セントスルトキハ前項第二號第三號ノ圖ヲ添ヘテ知事ノ認可ヲ受クヘシ

市町村又ハ町村學校組合ニ於テ市町村立高等小學校廢止ノ認可ヲ受ケン
トスルトキハ其ノ事由並ニ廢止後ノ處分方法ヲ具スヘシ

第七條 市町村立尋常小學校ニ高等小學校ノ教科ヲ併置スルノ認可ヲ受ケン
トスルトキハ高等小學校ノ部分ニ對シ前條ノ規定ヲ準用ス

第八條 小學校令第十六條ニ依リ設立者ニ於テ私立小學校ノ設置ニ關シ知
事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 校名及其ノ位置
二 校地ノ圖

第一條第四號ニ準シテ記載スヘシ
三 高等小學校ニ關シテハ修業年限

四 收容兒童ノ定員及學級數豫定

五 入退學及授業料等ニ關スル規定

六 創業ニ關スル設備費豫算

七 經常費收入支出豫算

八 維持方法

九 設立者ノ履歷

十 學校開始ノ豫定期日

校地並設立者ノ變更及前項第三號乃至第五號ノ變更ハ知事ノ認可ヲ受ケン
第八號ノ變更ハ知事ニ届出ツヘシ

私立小學校ノ廢止ヲ届出ツルトキハ其ノ事由並收容兒童ノ處分方法ヲ具
スヘシ

第九條 特別ノ事情ニ依リ小學校ノ分教場ヲ設置シ若クハ廢止セントスル
トキハ小學校設置廢止ノ例ニ準據スヘシ但シ本校ト分教場トノ距離學年
及學級數ヲ具スルヲ要ス

一學年未休業日 三月二十七日ヨリ同三十一日ニ至ル

第十五條 學校所在地ニ在ル神社ノ祭日ハ二日間ヲ限リ休業スルコトヲ得

第十六條 土地ノ情況ニ依リ冬季嚴寒ノ候ニ於テハ管理者又ハ設立者ニ於
テ期間ヲ定メ特ニ休業スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ夏季休業ノ日數ヲ減縮シテ其ノ休業日數ニ充ツヘシ

第十七條 土地ノ情況ニ依リ農繁ノ時期ニ於テハ七日以内ヲ限リ特ニ休業
スルコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ前項ノ日數ヲ超過シ休業スル必要アルトキハ管理者又
ハ設立者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クルヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第十四
條ノ休業日數ヲ減シテ超過日數ニ充ツヘシ

第十八條 第十四條乃至第十七條ニ依リノ外小學校ニ於テ臨時休業ヲ爲ス
ノ必要アルトキハ管理者又ハ設立者ハ事由ヲ具シテ監督官廳ノ認可ヲ受
クヘシ

第十六條乃至本條第一項ニ依リ休業日ハ學年ニ依リ之ヲ異ニスルコトヲ
得

第十九條 郡長ニ於テ小學校令第二十七條第三項ニ依リ閉鎖ヲ命シタルト
キ又ハ其ノ届出ニ接シタルトキハ直ニ知事ニ報告スヘシ

第十九條ノ二 第十六條及第十七條第一項ニ依リ休業スルトキハ管理者又
ハ設立者ニ於テ監督官廳ニ届出ツヘシ但シ第十六條ノ場合ニ在リテハ綠
帛フヘキ夏季休業中ノ期日ヲ具スルヲ要ス

第二十條 小學校令施行規則第二十條第一項ニ依リ學校長ニ於テ夏季冬季
休業日ノ前後教授時間ヲ減スルトキハ監督官廳ニ届出ツヘシ

第二十一條 小學校令第二十三條第二項及小學校令施行規則第五十二條ニ
依リ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ補習科ノ設置及其ノ修業年
限ニ關シ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ

第三章 普通教育 第一節 小學校

第十條 小學校ヲ開校シタルトキ及其ノ名稱ヲ變更シタルトキハ管理者又
ハ設立者ヨリ直ニ知事ニ届出ツヘシ

第二條 學期休業日及教授時間ノ終始

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十一條ノ二 小學校令施行規則第二十五條第二項ニ依リ九月一日ニ始マ
ル學年ヲ置カムトスル市町村又ハ町村學校組合ハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ
認可ヲ受クヘシ

一 學校名

二 九月一日就學ノ始期ニ達スル男女別兒童數

三 各室ノ使用區別ヲ明ニシタル學校平面圖

四 學級編製表

第十一條ノ三 前條ニ依リ設置シタル學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第二學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第十二條 小學校令施行規則第二十六條ニ依リ學校長ニ於テ教授終始ノ時
刻ヲ定メタルトキハ直ニ監督官廳ニ届出ツヘシ

第十三條 (削除)

第十四條 小學校令施行規則第二十七條第二項ニ依リ小學校ノ夏季、冬季
及學年未休業日數ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 夏季休業日 八月一日ヨリ同三十一日ニ至ル

二 冬季休業日 十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル

一 尋常小學校補習科又ハ高等小學校補習科ノ別

二 修業年限

三 學級編製ノ豫定

四 各學級ノ學年別男女別兒童數ヲ明記スヘシ

五 前年度尋常小學校若ハ高等小學校卒業生調

六 市町村立ニ在リテハ其ノ市町村、町村學校組合又ハ區ノ教育費負擔表

七 校舍及補習科教室ノ平面圖

八 補習科ノ教室ノ正教科ヲ授クル校舍外ニ設クルトキハ特ニ其ノ近隣
ノ情況ヲ詳記スヘシ

第二十二條 小學校令施行規則第五十二條ニ依リ管理者又ハ設立者ニ於テ
補習科ノ教科日數教授時間及毎週教授時數ニ關シ知事ノ認可ヲ受
ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 教科日數ニ其ノ各學年教授ノ程度

二 隨意科目トナスヘキモノアルトキハ其ノ教科日

三 一定ノ季節ヲ選ヒテ教授スルトキハ其ノ季節

四 教授日、教授時間及毎週教授時數並ニ教授終始ノ時刻

五 教授擔任ノ方法

第二十三條 小學校令施行規則第五十二條ニ依リ學校長ニ於テ補習科ノ教
科用圖書ニ關シ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ教科目、圖書名及其ノ
出版年月日、著作者氏名並ニ發行者氏名ヲ具スヘシ

第二十四條 (削除)

第二十五條 小學校令施行規則第三十四條ニ依リ二部教授ノ編製ヲナシタ
ルトキハ管理者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ監督官廳ニ届出ツヘシ

一 編製ノ方法並各部ノ學年別男女別兒童數

二 各部ノ教授時間數及教授終始ノ時刻

三 教員ノ配置

九

第二十六條 小學校令施行規則第四十一條ニ依リ管理者又ハ設立者ニ於テ
學級ノ編制又ハ變更ヲ知事ニ届出ツルトキハ第一號表ヲ添フヘシ
第二十七條 小學校令施行規則第二十四條ニ依リ學校長ニ於テ授與スル卒
業證書修業證書及學習證書ハ第二號表様式ニ依ルヘシ

第四章 設備

第二十八條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ開闢乾燥ニシテ衛生
ニ適シ且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ
校地ハ道徳上檢忌スヘキ場所、喧鬧ニシテ教授ニ妨アル場所及危險ナル
場所ニ接近セサルコトヲ要ス

第二十九條 校地内ニハ善良ナル飲料水ヲ供給スルノ備ヘナシ又下水渠
ヲ設クヘシ

第三十條 體操場ハ同時ニ全校兒童ノ體操遊戲ヲ爲スニ足ルヘキ面積ヲ有
スルヲ要ス

第三十一條 校舍ノ建築ハ教授上管理上衛生上ノ便ヲ圖リ且經濟上ニ注意
シ質料堅牢ナランコトヲ要ス
校舍ハ成ルヘク平屋造トナシ一字形若ハ二字形ニシテ南方ヨリ光線ヲ受
クル方向ヲ選フヘシ

二棟以上ノ建物ヲ並列シテ建築スルトキハ其ノ相對スル雨落ト雨落トノ
間ハ家屋ノ最高尺ヨリ潤キ距離ヲ保タシムヘシ
校舍ヲ新築スルニハ將來増加スヘキ兒童ノ員數ヲ見積リテ設計シ又ハ後
日ノ増築ニ適スル計畫ヲナスヲ要ス

第三十二條 校舍ニハ各學級ニ應スル通常教室及教員室ヲ設クヘシ
前項ノ外唱歌裁縫等ヲ課スル爲便宜特別教室ヲ設ケ又必要アル場合ニ於
テハ兒童控所直室器械標本室湯沸所小使室物置等ヲ設クヘシ
御影ヲ拜戴セル學校ニ於テハ
御影奉置室ヲ設クヘシ

教授科目、教案、操行録、學事例規程、公文書綴、教員履歷書綴、巡視
録、學校醫事簿其ノ他必要ナル諸表簿
第三十八條 本章ノ規定中校舍ノ新築改築等ニ際スルニアラサレハ適用シ
難キモノハ其ノ時ヲ待チテ之ニ依ルコトヲ得

第三十九條 校舍ヲ新築、増築、改築セントスルトキハ市町村町村學校組
合又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
一 建築スヘキ校舍ト校地ノ關係ヲ示シタル縮尺二百分ノ一ノ校舍並校
地平面圖
但シ美濃紙ヲ以テ調製シ方位、高低、地質、隣地ノ情況、各室ノ使用
目的及坪數、柱、窓、出入口、階段、廊下、便所等ノ各部名稱、井ノ
位置及校地坪數、屋外體操場坪數ヲ記載シ、二階ハ掛紙ヲ以テ、屋外
體操場ノ區域ハ點線ヲ以テ之ヲ示シ増築ノトキハ舊校舍ノ分ハ朱線ヲ
以テ示スヘシ

二 縮尺三十三分ノ一若クハ二十五分ノ一縱橫斷面圖但シ小屋組ハ和洋
共ニ其ノ平及隅ノ構造法ヲ明ニシ、牀ノ高、天井ノ高、窓及欄干ノ位
置階段ノ高及其ノ各部等ヲ詳記シ且各材料ノ寸尺ヲ記スヘシ
三 (削除)

四 建築費豫算收支明細書及其ノ町村又ハ町村學校組合當該年度ノ收支
豫算
五 學校ノ種類、修業年限、各學級男女別兒童數
六 將來増加スヘキ男女別兒童數
七 夏季冬季ノ風向
八 工事著手及竣工期限

第四十條 校舍落成シタルトキハ管理者又ハ設立者ニ於テ遲滞ナク知事ニ
届出テ其ノ検査ヲ受クヘシ
第四十一條 變災時變又ハ校舍改築等ノ爲一時他ノ建物ヲ校舍ニ假用セン

第三十三條 教室ノ構造ハ成ルヘク左ノ各項ニ準據スヘシ
多級小學校ノ教室ハ幅三間以上四間以下長四間以上五間以下單級小學校
ノ教室ハ幅及長各四間以上五間以下ナ常例トシ其ノ大サハ兒童一人ニ付
三尺平方ノ割合ヨリ小ナルヘカラス

天井ハ牀面ヲ距ルコト九尺以上トスヘシ牀ハ高二尺以上トシ二重張又ハ
透網張ニシ牀下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ
採光窓ノ總面積ハ牀面積ノ六分ノ一以上トシ其ノ下縁ノ位置ハ牀上凡二
尺五寸ニ定メ其ノ上縁ハ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但シ採光窓ノ上
部ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

窓ハ兒童座席ノ前面及黑板ヲ距ルコト六尺以内ノ側面ニハ設クヘカラス
日光ノ直接射入スル硝子窓ニハ窓掛ヲ設クヘシ
教室内ノ壁ハ灰色、淡黄色其ノ他ノ中性色トナスヘシ

各教室ニハ教壇ヲ設ケ又通常二箇ノ出入口ヲ設クヘシ
第三十四條 廊下ハ片廊下トシテ幅六尺以上タルヘシ
廊下ハ南方ニ設クヘカラス
廊下ニハ特ニ非常昇降口ヲ設クヘシ

二階造ノ校舍ニハ二階以上ノ階段ヲ設クヘシ
階段ハ幅四尺五寸以上蹴上ケ五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺ト曲折構造
ト爲シ中間ニ踊場ヲ設ケ且手欄ヲ附スヘシ

第三十五條 便所ハ別棟トシ夏季常風ノ方向ニ注意シ校舍ヲ距ルコト二間
以上井ヲ距ルコト四間以上ノ所ニ設ケ男女ヲ區別スヘシ

第三十六條 (削除)

第三十七條 土地ノ情況ニ依リ成ルヘク教員ノ住宅ヲ設クヘシ
第三十七條ノ二 小學校ニ於テ備付クヘキ表簿ノ種類概ネ左ノ如シ
一 兒童學籍簿、兒童出籍簿、教員出勤簿、學校日誌、兒童成績調查簿、
證書校與原簿、備品原簿、學校沿革誌、兒童身體檢查表、教授時間表、

トスルトキハ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ監督官廳ノ認可ヲ
受クヘシ
一 校舍ニ假用スヘキ建物ノ平面圖及側面圖
二 特ニ一ノ二ノ教室ヲ假用スヘキ場合ニ於テハ其ノ本校舎トノ距離
三 收容スヘキ學級別男女別兒童數
四 假用スヘキ期間
第四十二條 在來ノ建物ヲ以テ校舍ニ充用セントスルトキハ市町村町村學
校組合又ハ設立者ニ於テ知事ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十
九條第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 非常變災等ノ爲校舍破壊シタルトキハ管理者又ハ設立者ニ於
テ遲滞ナク知事ニ届出ツヘシ
第五章 就學

第四十四條 市町村長ハ小學校令施行規則第八十二條第一項ニ依リ毎年一
月三十一日迄ニ兒童ノ入學期日ヲ保護者ニ通知スヘシ
第四十五條 市町村長ハ小學校令施行規則第八十三條ニ依リ毎年三月十五
日迄ニ兒童ノ氏名及入學期日ヲ關係學校長ニ通知スヘシ
前項ノ通知ニハ兒童ノ住所及生年月日兒童保護者ノ氏名住所職業並ニ兒
童トノ關係ヲ併記ス可シ

通知ヲナシタル後兒童ノ就學並ニ前二項ノ事項ニ關シ異動ヲ生シタルト
キハ直ニ關係學校長ニ通知スヘシ
第四十六條 小學校令施行規則第八十四條ニ該當スル兒童保護者ハ二月十
日迄ニ就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ヲ市町村長ニ申立ツヘシ

第四十七條 市町村長ハ前條ノ申立ニ接シタルトキハ其ノ事由ヲ調査シ二
月二十日限リ就學義務ノ免除又ハ就學猶豫ノ認可ヲ監督官廳ニ申請スヘシ
第四十八條 小學校令第三十六條第一項俱書ノ規定ニ依リ兒童ヲシテ家庭
又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ其ノ保護

第三章 普通教育 第一節 小學校

者ハ二月十日迄ニ市町村長ニ申立テ其認可ヲ受ケヘシ

第四十九條 小學校令施行規則第八十八條ニ該當スル兒童保護者ハ同條ニ依リ二月十日迄ニ届出ツヘシ

第四十九條ノ二 九月一日就學スヘキ兒童ニ關シテハ第四十四條乃至第四十九條中一月三十一日トアルヲ七月十日、三月十五日トアルヲ八月十五日、二月十日トアルヲ七月二十日、二月二十日トアルヲ七月三十一日トス

第五十條 郡長ハ毎年一回戸籍簿ト對照シテ學齡簿及學籍簿ノ定期檢閲ヲ行フヘシ

第五十一條 市町村立高等小學校長ハ尋常小學校ノ例ニ準シ兒童ノ學籍簿ヲ調製シ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク加除訂正スヘシ

第五十二條 市町村立高等小學校長ハ在籍兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ

第五十三條 前二條ノ規定ハ市町村立尋常高等小學校ノ高等科ニ關シテ之ヲ適用ス

第五十四條 市町村長ハ毎年四月三十日現在ヲ以テ第四號表様式ニヨリ市町村學齡兒童調査表ヲ製シ翌月十五日限リ監督官廳ニ報告スヘシ

郡長ハ前項ノ調査表ニヨリ郡學齡兒童調査表ヲ製シ五月三十一日限リ知事ニ報告スヘシ市町村立小學校ニ於テハ毎年四月第十一號表ニ依リ學校一覽表ヲ調製スヘシ

第五十四條ノ二 市町村立小學校長ハ第十二號表様式ニ依リ毎月兒童ノ出席缺席調査表ヲ調製シ翌月五日限リ郡市長ニ報告スヘシ

郡市長ハ前項調査表ニ基キ毎年四月ニ於テ前一年分ヲ調査シ其ノ月二十日限リ知事ニ報告スヘシ

第六章 教員檢定及免許狀
第五十五條 小學校教員試驗檢定ハ毎年九月之ヲ施行ス但シ臨時施行スル

書換又ハ再渡手數料 金參拾錢

第六十條 檢定手數料及免許狀ノ書換又ハ再渡手數料ハ願書ト共ニ郡市役所又ハ縣廳ニ納付スヘシ

既ニ納メタル手數料ハ何等ノ事情アルモ還付セサルモノトス

第六十一條 小學校教員檢定委員會ノ會務整理ニ關スル事項及受験者取締其ノ他檢定施行上必要ナル規定ハ檢定委員會長之ヲ定ム

第六十二條 小學校教員免許狀ノ書式ハ第六號表様式ニ依ル

第七章 學校長及教員ノ進退
第六十三條 小學校令第四十四條ニ依リ郡長又ハ市長ニ於テ市町村立小學校長及教員ノ任用ヲ知事ニ申請スルトキハ俸給等級ヲ具シ且第五號表様式(其二)ニ依ル本人ノ履歷書及同様式(其三)ニ依リ醫師ノ身體檢査書ヲ添付スヘシ

准教員ノ任用ニ就テハ小學校令施行規則第三十五條第二項第三項又ハ同第三十六條准教員ノ別ヲ申請書ニ附記スヘシ

第六十四條 市町村立小學校教員ノ轉任ヲ要スルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ其ノ事由並俸給等級ヲ具シテ知事ニ申請スヘシ其ノ轉任ニシテ他ノ郡市ニ關係スルトキハ關係郡長又ハ市長ニ於テ連署スヘシ

第六十五條 市町村立小學校教員ノ増俸若ハ減俸ノ必要アルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ其ノ事由ヲ詳記シ等級ヲ具シテ知事ニ申請スヘシ其ノ減俸ノ場合ニ於テハ本人ノ承諾書ヲ添フヘシ

第六十六條 小學校令施行規則第二百二十二條ニ依リ市町村立小學校正教員ニ休職ヲ命スルノ必要アルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ其ノ事由ヲ知事ニ具申スヘシ其ノ傷損若ハ疾病ノ事由ニ因ルモノニ就テハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第六十七條 小學校令施行規則第二百二十六條第一號ニ依リ市町村立小學校正教員ニ退職ヲ命スルノ必要アルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ醫師ノ診斷

書ヲ添ヘシ其ノ事由ヲ知事ニ具申スヘシ

第六十八條 小學校令施行規則第二百二十六條第二號ニ依リ市町村立小學校正教員ヨリ退職ヲ願出ツルモノアルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ其ノ事由ヲ調査シ意見ヲ附シテ知事ニ進達スヘシ其ノ傷損若ハ疾病ノ事由ニ因ルモノニ就テハ醫師ノ診斷書ヲ添付セシムヘシ

第六十九條 小學校令施行規則第二百二十六條第三號ニ依リ市町村立小學校正教員ニ退職ヲ命スルノ必要アルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ復職者ノ申請ト共ニ其ノ事由ヲ知事ニ具申スヘシ

第七十條 小學校令施行規則第二百二十三條本文ニ該當スル市町村立小學校正教員ハ入管命令又ハ召集令狀ノ寫ヲ添ヘテ知事ニ届出ツヘシ其事故止ミタルトキ亦同シ

第七十一條 (削除)

第七十二條 小學校令施行規則第二百二十七條ニ依リ市町村立小學校正教員ニ休職又ハ退職ヲ命スルノ必要アルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ其ノ事由ヲ詳記シ知事ニ具申スヘシ但シ休職ノ場合ニ於テハ豫メ期間ヲ定ムルヲ要ス

第七十三條 市町村立小學校准教員ノ退職ヲ要スルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ其ノ事由ヲ知事ニ具申スヘシ其ノ傷損若ハ疾病ノ事由ニ因ルモノニ就テハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第七十四條 市町村立小學校准教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス
一 當該學校ノ廢セラレタルトキ
二 陸海軍ノ現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキ

第三章 普通教育 第一節 小學校

コトアルヘシ

試驗施行ノ期日及試驗場ハ其ノ程度之ヲ告示ス

第五十六條 無試驗檢定ヲ受ケントスルモノハ隨時ニ試驗檢定ヲ受ケントスルモノハ試驗施行ノ前月十日限リ第五號表様式ニ依リ檢定願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ小學校ニ在職ノ者ニ在リテハ所轄郡市役所其ノ他ノ者ニ在リテハ現住地所轄郡市役所ヲ經由シ知事ニ願出ツヘシ但シ他府縣下ニ在住シ本縣ノ教員檢定ヲ受ケントスル者ハ郡市役所ヲ經由スルヲ要セス

一 手數料ノ領收證
二 履歷書
三 (削除)
四 市町村長ノ證明書

本縣管内ノ小學校ニ在職ノ者ニ在リテハ前項第四號ノ證明ヲ要セス

第五十七條 試驗檢定ヲ受ケタルモノニシテ其ノ試驗ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績佳良ナルトキハ其ノ科目ニ限リ證明書ヲ授與スヘシ

第五十八條 左ニ記載スル科目ハ願書ニ試驗希望ノ旨ヲ記載シタルモノノ外試驗ヲ行ハス
小學校本科正教員
手工、農業、商業、英語
小學校本科准教員
音樂、手工、農業、商業

尋常小學校本科正教員及准教員
音樂若ハ唱歌

第五十九條 教員檢定及免許狀ノ書換又ハ再渡手數料者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

正教員檢定手數料 金壹圓
准教員檢定手數料 金五拾錢

書ヲ添ヘシ其ノ事由ヲ知事ニ具申スヘシ
第六十八條 小學校令施行規則第二百二十六條第二號ニ依リ市町村立小學校正教員ヨリ退職ヲ願出ツルモノアルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ其ノ事由ヲ調査シ意見ヲ附シテ知事ニ進達スヘシ其ノ傷損若ハ疾病ノ事由ニ因ルモノニ就テハ醫師ノ診斷書ヲ添付セシムヘシ

第六十九條 小學校令施行規則第二百二十六條第三號ニ依リ市町村立小學校正教員ニ退職ヲ命スルノ必要アルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ復職者ノ申請ト共ニ其ノ事由ヲ知事ニ具申スヘシ

第七十條 小學校令施行規則第二百二十三條本文ニ該當スル市町村立小學校正教員ハ入管命令又ハ召集令狀ノ寫ヲ添ヘテ知事ニ届出ツヘシ其事故止ミタルトキ亦同シ

第七十一條 (削除)

第七十二條 小學校令施行規則第二百二十七條ニ依リ市町村立小學校正教員ニ休職又ハ退職ヲ命スルノ必要アルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ其ノ事由ヲ詳記シ知事ニ具申スヘシ但シ休職ノ場合ニ於テハ豫メ期間ヲ定ムルヲ要ス

第七十三條 市町村立小學校准教員ノ退職ヲ要スルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ其ノ事由ヲ知事ニ具申スヘシ其ノ傷損若ハ疾病ノ事由ニ因ルモノニ就テハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第七十四條 市町村立小學校准教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス
一 當該學校ノ廢セラレタルトキ
二 陸海軍ノ現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキ

一三

第三章 普通教育 第一節 小學校

前項第二號ノ場合ニ於テハ第七十條ノ規定ヲ準用ス
第七十五條 小學校令施行規則第三百二十二條ニ依リ設立者ニ於テ私立小學校長及教員ノ採用解職ヲ知事ニ届出ツルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 採用シタルトキハ其ノ氏名俸給額採用ノ年月日及履歴書
二 解職シタルトキハ其ノ氏名解職ノ年月日及事由

第七十六條 學校長及教員死亡シタルトキハ管理者又ハ設立者ヨリ其ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ知事ニ届出ツヘシ
第七十七條 第六十六條乃至第六十八條第七十二條乃至第七十三條及第七十八條ノ規定ニ依リ添付スヘキ診斷書ハ第八號表様式ニ據ルヘシ

第八章 學校長及教員ノ職務及服務

第七十八條 小學校令施行規則第三百三十四條ニ依リ學校長ニ於テ整理スヘキ職務概テ左ノ如シ

- 一 教授調育ノ統一
 - 二 教室ノ整理及教具ノ保管
 - 三 時間割ノ編製
 - 四 學級及教員ノ配當
 - 五 兒童ノ入退學及獎勵並戒防
 - 六 兒童ノ出席督勵
 - 七 諸表簿及文書ノ整理
 - 八 校務ノ分掌
- 第七十九條 小學校令施行規則第三百三十四條ニ依リ學校長ニ於テ所屬職員ヲ統督スル事項概テ左ノ如シ
- 一 教員ノ勤惰及品行ノ良否
 - 二 教授及調育ノ得失
 - 三 教室及教具ノ整否
 - 四 教案ノ適否

五 兒童成績調査ノ適否

第六 諸表簿ノ整否

第八十條 小學校令施行規則第三百三十五條ニ依リ正教員ニ於テ掌ルヘキ事項概テ左ノ如シ

- 一 擔任學級ノ教授調育並其ノ準備
- 二 教室及教具ノ整理保管
- 三 兒童ノ成績調査
- 四 兒童勤惰ノ調査
- 五 教案ノ調製
- 六 諸表簿ノ整理
- 七 其ノ他學校長ヨリ分掌ヲ命セラレタル事項

第八十一條 學校長ハ教授調育其ノ他重要ナル事項ニ關シ教員會議ヲ開クコトヲ得

第八十二條 學校長ハ其職務ノ範圍内ニ於テ其ノ學校ニ施スヘキ諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第八十三條 學校長缺員ナルトキ若ハ事故アルトキハ上席教員其ノ事務ヲ取扱フヘシ

第八十四條 學校長及教員ハ教授時間外ニ於テ教授ノ準備其ノ他ノ事務ニ服スヘシ

第八十五條 學校長及教員ハ始業時刻三十分前マテニ出勤シ終業時刻後兒童退散ノ後ニ於テ退出スヘシ

第八十六條 市町村立小學校長及教員疾病傷病若ハ官廳ノ召喚等ニ依リ缺勤又ハ遲刻スルトキハ始業時刻前ニ學校長ニ届出ツヘシ但シ單級ノ學校ニ在リテハ市町村長ニ届出テ若ハ便宜學務委員ニ通報スヘシ
缺勤一週間以上ニ渉ルトキハ郡長又ハ市長ニ届出ツヘシ其ノ疾病傷病ノ事由ニ因ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

(岡山學令)

(岡山學令)

第八十七條 市町村立小學校長及教員ノ忌引ハ郡長又ハ市長ニ届出ツヘシ

第八十八條 市町村立小學校長及教員ニシテ忌中若ハ忌日ノ爲父母ノ墓參ヲ爲シ若ハ父母看護ノ爲歸省ヲ爲シ又ハ轉地療養學事視察等ノ爲任地ヲ離レントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ郡長又ハ市長ノ認可ヲ受クヘシ但シ轉地療養ノ認可ヲ受ケントスルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第八十九條 市町村立小學校長及教員ニシテ教員養成ノ目的トスル學校ニ入學シ若ハ他ノ道府縣小學校教員檢定ヲ受ケントスルトキ及小學校教員以外ノ職務ニ従事スルカ爲メ試験又ハ檢定ヲ願出テントスルトキハ豫メ郡長又ハ市長ノ認可ヲ受クヘシ

第九十條 市町村立小學校長及教員左ノ各號ノ事由ニ因リ其ノ任地ヲ離レントスルトキハ其ノ事由並日數等ヲ詳記シ豫メ郡長又ハ市長ニ届出ツヘシ

- 一 六週間現役ニ服スルトキ
- 二 陸海軍ノ勤務演習ニ服シ及簡閱點呼並壯丁検査等ニ應スルトキ
- 三 本縣ノ教員試験檢定ヲ受クルトキ
- 四 認可ヲ受ケテ前條ニ規定セル試験又ハ檢定ヲ受クルトキ

第九十一條 市町村立小學校長及教員學校休業中任地ヲ離レントスルトキハ日數及旅行先ヲ明記シ郡長又ハ市長ニ届出ツヘシ

第九十二條 市町村立小學校教員任地ヲ離レントスルトキモ亦前項ニ準ス
休職ノ市町村立小學校教員任地ヲ離レントスルトキモ亦前項ニ準ス

第九十三條 市町村立小學校長及教員ニシテ轉任ヲ命セラレタルモノハ直ニ事務ノ引継ヲ爲スヘシ

轉任ヲ命セラレタルモノ及新ニ任用セラレタルモノハ辭令書受領ノ日ヨリ五日以内ニ赴任スヘシ

第九十三條 市町村立小學校長及教員ニシテ轉任ヲ命セラレタルモノハ辭

職	名
上	一級
下	二級
	三級
	四級
	五級
	六級
	七級
	八級
	九級
	十級
	十一級
	十二級

第三章 普通教育 第一節 小學校

准 教 員	本科正教員		専科正教員	
	上	下	上	下
上	九拾五圓七拾四圓	八拾四圓六拾五圓	五拾四圓四拾七圓	四拾五圓參拾七圓
下	八拾四圓六拾五圓	七拾四圓五拾四圓	四拾四圓參拾七圓	三拾七圓參拾七圓
上	四拾五圓參拾七圓	參拾五圓參拾七圓	貳拾七圓參拾七圓	貳拾七圓參拾七圓
下	四拾五圓參拾七圓	參拾五圓參拾七圓	貳拾七圓參拾七圓	貳拾七圓參拾七圓
上	貳拾五圓貳拾圓	貳拾圓貳拾圓	拾五圓拾圓	拾圓拾圓
下	貳拾五圓貳拾圓	貳拾圓貳拾圓	拾五圓拾圓	拾圓拾圓

第百條

本科正教員ノ俸給額ニ關シ明治三十年勅令第二號ノ義務額ヲ超エテ支出セシムル必要アルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ市町村村學校組合又ハ區ノ同意ヲ得其ノ議決書寫ヲ添ヘテ知事ニ具申スヘシ

第百一條

小學校令施行規則第三十五條第三項第三十六條第三十七條ノ教員ニ給スヘキ俸給額ニ關シテハ郡長又ハ市長ニ於テ市參事會町村長又ハ町村學校組合長ノ意見書ヲ徵シ之ヲ添付シテ知事ニ具申スヘシ但シ一旦定リタル俸給額以內ニ於テ任用スル場合ハ意見書ヲ要セス

第百二條

専科正教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應ジテ等級相當ノ俸給額ヲ減スルコトアルヘシ

第百三條

専科正教員ニシテ他ノ小學校ノ専科正教員ヲ兼ヌル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトアルヘシ

第百四條

休職ヲ命シタルトキハ小學校令施行規則第二百二十二條第三號乃至第五號ヲ除クノ外其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス但シ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其區ニ於テ特別ノ事情アル場合ハ之ヲ給

〔岡山學令〕

〔岡山學令〕

給若ハ返納セシム

第百十四條

休職、退職及死亡ノトキハ其ノ當月分ノ俸給全額ヲ其ノ際支給ス

第百十五條

依リ減給中ノ者前項ノ事由ヲ生シタルトキハ其ノ減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給ス

第百十六條

轉任又ハ免職ノトキハ發令ノ當日マテ失職ノトキハ職務ヲ執リタル日マテノ俸給ヲ其ノ際支給ス但シ支給定日以後ニ係リ俸給ノ過渡アルトキハ其ノ際返納セシム

第百十七條

俸給ヲ支給スルニ當リ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ツ

第百十八條

日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第百十九條

強雨積雪又ハ道路險惡ノ爲定額ノ車馬賃ニテ支辨シ難キ場合ニハ定額二倍以內ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第百二十條

鐵道賃船賃車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ一位未滿ノ端數ハ切捨トス

ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニアラス

第百十條

職務ノ爲傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ又ハ服忌ヲ受ケタルトキ及第十四條第十六條乃至第十八條及小學校令第二十七條第三項ニ依リ休業ノ場合ハ病氣若ハ私事故障ト連續スルモ之ヲ以テ減俸トナルヘキ日數中ニ算入セス又病氣ト私事故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セ

第百十一條

教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中ト拘ラス在職最終ノ俸給三箇月分ヲ其ノ遺族ニ給ス

第百十二條

前項ノ場合ニ於テハ郡長又ハ市長ニ於テ其ノ事由ヲ知事ニ具申スヘシ

第百十三條

新任、轉任、復職、増俸、減俸ノトキハ其ノ當月分ノ俸給ハ發令ノ翌日ヨリ日割計算ヲ以テ給ス但シ支給定日以後ニ係ルトキハ其ノ際支給

職 名	正 教 員		一 鐵 道 賃	一 船 賃	一 海 里 賃	一 車 馬 賃	一 日 賃	一 日 當 賃	一 宿 泊 料	一 夜 泊 料
	待 遇	判 任								
縣	參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
內	參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
外	參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
縣	參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
內	參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
外	參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
縣	參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
內	參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
外	參	參	參	參	參	參	參	參	參	參

- 第二百一十一條 年度若ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ鐵道旅行若ハ水路旅行ニシテ其ノ區別判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シテ計算ス
- 第二百一十二條 陸路六里未滿鐵道四十八哩未滿水路三十海里未滿ノ旅行ニアリテハ職務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スヘキ日常ハ定額ノ半額トス
- 一旅行ニシテ陸路鐵道又ハ水路ニ互ルトキハ鐵道ハ八哩水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス
- 第二百一十三條 在勤學校所在地ノ市町村ヲ巡回シ遠距離ニ涉ルトキハ一日壹圓以内ノ日當ヲ支給スルコトヲ得
- 第二百一十四條 轉任ノ場合ニハ舊任地ヨリ新任地マテ鐵道貨船賃及車馬賃ニ限リ定額ノ二倍ヲ支給ス
- 第二百一十五條 旅行中私事ノ爲監督官廳ノ認可ヲ受ケテ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給ス
- 第二百一十六條 旅行中休職、退職若ハ死亡ノ時ハ前職若ハ本職相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給ス但シ免職又ハ失職ノ者ハ此ノ限ニアラス
- 第二百一十七條 前二條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ鐵道旅行ハ一日二百哩、陸路旅行ハ一日百海里、陸路旅行ハ一日十二里、若シ若數種ノ旅行相跨ルトキハ前記ノ路程十二分ノ一ヲ以テ各一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス但シ通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ之ヲ計算ス
- 第二百一十八條 事務引續職務整理等ノ爲休職若ハ退職者ニ旅行ヲ命スルトキハ本職若ハ前職相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第二百一十九條 新任用スル爲召喚スルトキハ新任職相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第二百二十條 第二百一十九條第二百二十三條ニ依リ旅費ヲ支給スル場合ニ於テハ管理者ニ於テ其ノ額ヲ決定スヘシ

- 第三百一十一條 教員ニシテ一週三十二時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給ス但シ其ノ支給ハ俸給支給方法ニヨル
- 第三百一十二條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スヘシ
- 第三百一十三條 教員ニシテ宿直スル者ニハ助料ヲ給スヘシ
- 第三百一十四條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ
- 第三百一十五條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給ス
- 第三百一十六條 郡長又ハ市長ニ於テ第三百一十一條及第三百一十二條ニ依リ手當若ハ慰勞金ヲ給スル必要アリト認メタルトキハ其ノ給額ヲ知事ニ具申スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ郡長ハ管理者ノ意見ヲ徵スヘシ
- 第三百一十七條 郡長又ハ市長ニ於テ第三百一十一條及第三百一十二條ニ依リ手當若ハ慰勞金ヲ給スル必要アリト認メタルトキハ其ノ給額ヲ知事ニ具申スヘシ
- 第三百一十八條 (削除)
- 第三百一十九條 (削除)
- 第四百一十條 市町村立小學校代用教員ノ月俸ハ五圓以上貳拾圓以下トス但シ教授時數ニ應シ特ニ五圓未滿トナスコトヲ得
- 第四百一十一條 第七章中第六十三條乃至第六十五條第七十三條第七十四條第七十六條第七十七條第八章中第八十四條乃至第九十六條第九十七條ノ二第九十八條第九章中第一百一條第五條乃至第一百三十六條ハ市町村立小學校代用教員ニ準用ス但シ旅費ハ准教員ノ給額ニ依テ支給ス
- 第十一章 授業料
- 第四百一十二條 小學校令第五十七條第二項ニ依リ市町村村學校組合ニ於テ授業料徵收ニ關シ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ

- 一 授業料ヲ徵收スル必要アル特別ノ事情
- 二 徵收スヘキ授業料月額及徵收規程並徵收期限
- 三 其ノ年度ノ市町村村學校組合又ハ區ノ歳入出豫算表及戸別割一戸平均額
- 四 市町村村學校組合ノ負債調
- 五 負債金額利率、償還ヲ終ル年月日及起債ノ目的等ヲ明記スヘシ
- 六 學校基本財産、市町村村學校組合基本財産又ハ區有財産ノ取調表
- 七 學區内戸數人口及在籍兒童數並學級編制前項ノ場合ニ於テ郡長ハ其ノ事情ヲ精査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ
- 第四百一十三條 小學校令施行規則第七十七條ニ依リ小學校補習科ノ授業料額ヲ定メタルトキハ管理者ヨリ監督官廳ニ届出ツヘシ
- 第四百一十四條 授業料ハ毎月之ヲ徵收スヘシ但シ市町村ノ情況ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受ケ別ニ徵收期ヲ定ムルコトヲ得
- 第十二章 區長及其ノ代理者並學務委員
- 第四百一十五條 市町村又ハ市町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ハ市町村長又ハ市町村學校組合長ノ指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行スヘシ
- 第四百一十六條 學務委員數名アル場合ニ於テハ各其ノ分擔ヲ定メ若ハ交互ニ事務ヲ執ル等豫メ其ノ執務方法ヲ定メ置クヘシ
- 第四百一十七條 學務委員ハ市役所町村又ハ市町村學校組合ノ役場ニ於テ其ノ事務ヲ取扱フヲ常例トシ事務ノ繁閑ニ依リ豫メ其ノ執務ノ日ヲ定メ置クヘシ
- 第四百一十八條 國ノ教育事務補助ニ關スル實費償額報酬額ハ豫メ之ヲ定メ置クヘシ

- 第四百一十九條 郡長又ハ市長ハ區長及其ノ代理者並學務委員ノ國ノ教育事務補助ニ關シ細則ヲ定ムルコトヲ得
- 第十三章 幼稚園及小學校ニ類スル各種學校
- 第五百十條 小學校令第十七條ニ依リ市町村村學校組合又ハ設立者ニ於テ幼稚園官立學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ設置ニ關シ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具スヘシ
- 一 名稱
- 二 位置、市町村大字番地ヲ記載スヘシ
- 三 敷地建物ノ圖
- 四 園則又ハ學則
- 五 幼兒又ハ生徒ノ定員
- 六 市町村立ニ在リテハ戸數人口地價
- 七 創業ニ關スル設備豫算
- 八 經常費收入支出豫算
- 九 私立ニ在リテハ維持方法
- 十 職員數及俸給額ノ豫定
- 十一 設立者ノ履歷
- 十二 學校開始ノ豫定日
- 前項第二號第四號第五號及敷地建物ノ變更ハ知事ノ認可ヲ受ケ第九號並設立者ノ變更ハ知事ニ届出ツヘシ
- 幼稚園官立學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ小學校ニ附設セントスルトキハ本條第一項各號ノ外小學校ノ校地校舍ノ圖面ヲ添フヘシ
- 本細則第十條ノ規定ハ幼稚園官立學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニ關シ之ヲ準用ス
- 第五百一十一條 園則又ハ學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
- 一 學年學期及休業日ニ關スル事項

第三章 普通教育 第一節 小學校

- 二 保育時數又ハ學科課程ニ關スル事項
- 三 入退園又ハ入退學ニ關スル事項
- 四 保育料又ハ授業料入學料等ニ關スル事項
- 五 賞罰ニ關スル事項
- 六 其ノ他必要ナル事項

第百五十二條 (削除)
 第百五十三條 (削除)
 第百五十四條 (削除)
 第百五十五條 保母ノ檢定ヲ分チテ無試験檢定及試験檢定トス
 第百五十六條 無試験檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第百五十七條ノ規定ニ對照シテ之ヲ行フ
 一 女子高等師範學校卒業生
 二 官公立保母練習所卒業生
 三 高等女學校卒業生
 四 小學校ノ本科正教員又ハ准教員免許狀ヲ有スル者
 五 他ノ道府縣ニ於テ授與シタル幼稚園保母免許狀ヲ有スル者
 六 其ノ他知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者
 第百五十七條 保母ノ試験科目及其ノ程度左ノ如シ
 修身 道德ノ要旨
 教育 幼兒保育法
 國語 小學校教科用讀本ノ講讀並作文習字
 算術 整数、分数、小数、諸等數、單比例
 圖畫 簡易ナル自在畫
 音樂 單音唱歌、樂器使用法ノ一斑
 體操 遊戲
 第百五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ保母ノ試験檢定ヲ行フト

第十四章 附則

第百六十八條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス
 第百六十九條 市町村立小學校教員ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサルモノハ現ニ受クル所ノ俸給額相當ノ俸給ヲ受クルモノトス
 第百七十條 明治二十七年岡山縣訓令乙第五十四號、明治二十八年岡山縣訓令乙第十五號、明治三十三年岡山縣令第七十八號、同第八十一號、同第八十二號、同訓令第七十八號、明治三十四年岡山縣令第十六號、同第十九號、同第二十一號、同第二十八號、同訓令第六號、同第九號、同第十號、同第十二號、同第十三號、同第十六號、明治三十九年岡山縣令第三十六號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 ○大正三年十一月縣令第五十二號附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ休職中ノ者ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル
 第一號表

何尋常(高等)(尋常高等)小學校學級編制表

學級	教科	學年	兒		教室坪數
			男	女	

第(甲) 卒業證書
 校印
 氏名
 生年月日

第三章 普通教育 第一節 小學校

キハ檢定委員會ニ於テ前條ノ規定ニ對照シテ某科目ニ關シ同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對シテハ其ノ科目ノ試験ヲ缺クコトヲ得
 一 師範學校高等女學校教員免許狀ヲ有スル者
 二 小學校專科正教員免許狀ヲ有スル者
 三 第百五十六條第四號第五號ニ該當スル者
 第百五十九條 保母檢定ヲ願出ツル者ハ手数料トシテ金五拾錢其ノ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ願出ツル者ハ手数料トシテ金參拾錢ヲ納ムヘシ
 第百六十條 第五十五條乃至第五十七條及第六十條ノ規定ハ保母ノ檢定ニ關シ之ヲ準用ス
 第百六十一條 保母免許狀ノ書式ハ第十號表ニ依ル
 第百六十二條 市町村立幼稚園長及保母ノ月俸ハ六圓以上四拾圓以下トス
 第百六十三條 盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校教員ノ免許ヲ得ントスル者ハ願書ニ履歷書並身體檢査書及市町村長ノ證明書ヲ添ヘ就職セントスル學校ノ管理者又ハ設立者ヲ經テ知事ニ願出ツヘシ但シ願書履歷書並身體檢査書ハ第五十六條ノ規定ニ準スヘシ知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ出願者ニ對シテ小學校教員檢定ノ試験科目及其ノ程度ニ依リ一科目若ハ數科目ノ試験ヲ行フコトアルヘシ
 第百六十四條 前條ノ免許ハ當該學校在職間ニ限り有效ノモノトス
 第百六十五條 市町村立ノ盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ月俸ハ五圓以上五拾圓以下トス
 第百六十六條 市町村立幼稚園長及保母並盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ進退服務俸給旅費及諸給與ニ關シテ第百一十一條第百三十五條ヲ除キ第百四十一條ノ規定ヲ適用ス但シ學校長訓導團長保母ノ旅費ハ正教員其他ハ准教員ノ給額ニ依テ支給ス
 第百六十七條 第七十五條ノ規定ハ私立幼稚園長及保母並盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ採用解職ニ關シ之ヲ準用ス

尋常(高等)小學校(修業年限)ノ教科卒業セシコトヲ證ス

年月日 氏名

(乙) 修業證書
 岡山縣何郡(市)何尋常(高等)小學校長 氏名
 尋常(高等)小學校第何學年(第何々學年)ノ課程ヲ修業セシコトヲ證ス
 年月日 岡山縣何郡(市)何尋常(高等)小學校長 氏名

(丙) 學習證書
 岡山縣何郡(市)何尋常(高等)小學校長 氏名
 尋常(高等)小學校何々學年(單級)編制ノ學級ニ於テ何々年間ノ課程ヲ學習セシコトヲ證ス
 年月日 岡山縣何郡(市)何尋常(高等)小學校長 氏名

第三章 普通教育 第一節 小學校

第三號表(削除)
第四號表

(其一)

何市町村學齡兒童調查表										(大正 年四月三十日調)	
種別	本學年始テ就學義務ノ生シタル者				前學年以前就學義務ノ生シタル者				合計		
	男	女	計	計	男	女	計	男	女	計	
卒業者											
現在就學者											
不就學者											
計											
就學歩合											

(其二)

學齡兒童調查表附屬表										(大正 年四月三十日調)	
種別	本學年始メテ就學義務ノ生シタルモノ、中不				前學年以前就學義務ノ生シタルモノ、中不				合計		
	免除	猶豫	免除	猶豫	免除	猶豫	免除	猶豫	男	女	計
瘋癲											
白痴											
不具											
癡疾											
病弱											
發育不完全											
貧窮											
其他											
計											
全月缺席兒童數											
一學年											
二學年											

就學者	前學年以前就學義務ノ生シタルモノ、中不就學者								合計	
	猶豫		免除		計		合計		合計	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
三學年										
四學年										
五學年										
六學年										
合計										

第五號表

備考 小學校令施行規則第九十一條ニ該當シ四月末日迄ニ就學セサル兒童ハ之ヲ△印アル相當欄ニ區別掲記スヘシ

小學校何々専科正教員
何々科目試験希望ハ第五十八條ノ記載科目ニ限り記入スヘシ
本科正教員並ニ准教員受験者中既得除科目アル時ハ受験種別ノ下ニ朱書スルヲ要ス
私儀御管内小學校教員志願ニ付試験(無試験)檢定ノ上前記ノ免許狀御授與相成度別紙關係書類相添此段奉願候也

現住所
原籍
族稱戸主又ハ誰男女弟妹等

年月日生

右

氏名

小學校(尋常小學校)本科正(准)教員

第三章 普通教育 第一節 小學校

第三章 普通教育 第一節 小學校

前書出願ニ付調査候處族籍氏名生年月日等相違無之小學校合施行規則第五百四條ノ各號ニ該當セス且教員タルニ不都合ノ行爲ナキ者タルコトヲ證明候也

備考

本願書式中何々科目試験希望ハ第五拾八條ノ記載科目ニ限リ記入ス

本科正教員並准教員受験者中既得除科目アルトキハ受験種別ノ下ニ朱書スルヲ要ス

何郡(市)町村長 氏

名

(其 二)

履 歴 書

(用紙美濃紙大、本人自書)

原籍

現住所

族籍戸主又ハ誰男女弟妹等

氏 名

氏 名

年月月生

朱書

何年月日	何年月日	資格	何府縣
何年月日	何年月日	何教員免許狀 免許狀寫別紙ノ通	
何年月日	何年月日	何學科教員免許狀 免許狀寫別紙ノ通	
何年月日	何年月日	學業	何省
自何年何月何日	至何年何月何日	年 月 日 年 月 數	
何年何月	何年何月	何ケケケ	
何年何月	何年何月	何ケケケ	
自何年何月何日	至何年何月何日	何ケケケ	
何年何月	何年何月	何ケケケ	

官(公)(私)立何學校ニ於テ何學校科修業
若ハ講習(府縣立ハ其府縣名郡市立ハ其府縣郡市名其他公立私立ハ府縣郡市町村名ヲ學校名ノ上ニ冠ス
ヘシ)(以下倣之)
官(公)(私)立何學校ニ於テ何學科卒業證書ヲ受ク證書寫別紙ノ通
何府(縣)何郡(市)何町(村)何誰ニ就キ何學科修業

何	何	業務	何
何	何	賞 罰	
何年何月	何年何月	何ケケケ	
何年何月	何年何月	何ケケケ	
自何年何月何日	至何年何月何日	何ケケケ	
何年何月	何年何月	何ケケケ	
自何年何月何日	至何年何月何日	何ケケケ	
何年何月	何年何月	何ケケケ	
何	何	雜	
何	何	(前諸項ニ記載シ難キ事項ハ此部ニ記載スヘシ)	

何府(縣)何郡(市)何町(村)立(私立)何尋常(高等)(尋常高等)小學校訓導(准訓導)(代用教員)(訓導兼校長)在職月俸何圓乃至何圓 但本科正(准)(何々専科正)教員勤務(尋常高等併置)小學校ニ在職ノモノハ但書ノ本科若クハ専科ノ上ニ尋常高等ノ區別ヲ記スヘシ(以下倣之)
何府(縣)何郡(市)何町(村)立(私立)何尋常(高等)(尋常高等)小學校教員勤務月俸何圓乃至何圓 但本科(専科)何教科目(擔當)
何府(縣)何郡(市)何町(村)立(私立)何尋常(高等)(尋常高等)小學校長兼勤
官公私立何學校何職在職月俸何圓乃至何圓 但何學科擔當

何廉ニ付何々ヨリ何賞ヲ受ク
何廉ニ付何々ヨリ何罰ヲ受ク
(懲戒書等アレハ其寫ヲ添フヘシ)

右ノ通相違無之候也

年 月 日

備考 正教員無試験檢定ニ限リニ通ヲ要ス

氏

名

第三章 普通教育 第一節 小學校

第三章 普通教育 第一節 小學校

(其三) 身體檢查書 (用紙美濃紙大)

- 一 體格強、中、弱
 - 一 身長
 - 一 胸圍
 - 一 體重
 - 一 視力
 - 一 辨色力
 - 一 聽力
 - 一 呼吸器
 - 一 神經系
 - 一 皮膚
 - 一 言語
- 一 既往及現在ノ疾病又ハ畸形
 右検査候處前記ノ通相違無之候也
- 年 月 日 検査

族稱

氏

年月日生

第六號表

(其一) 師範學校卒業生ニ與フルモノ
 小學校教員免許狀

道府縣華士族平民

住所

何學校醫又ハ開業醫

氏

名 印

右ハ岡山縣(女子)師範學校ヲ卒業セシニ依リ小學校本科正教員タルコトヲ免許ス

年 月 日

氏 名

年月日生

岡山縣知事位勳爵 氏 名 印

(其二) 師範學校卒業生ニアラサル正教員ニ與フルモノ

小學校教員免許狀

道府縣華士族平民

氏

年月日生

何科何科

何科

右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ(尋常)小學校本科(專科)正教員タルコトヲ免許ス

年 月 日

氏 名

年月日生

岡山縣知事位勳爵 氏 名 印

(其三) 准教員ニ與フルモノ

小學校准教員免許狀

道府縣華士族平民

氏

年月日生

何科何科

何科

第三章 普通教育 第一節 小學校

第三章 普通教育 第一節 小學校

右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ(尋常)小學校准教員タルコトヲ免許ス

印	年	月	日
番	號	岡山縣知事位勳符	氏
			名 附

第七號表 (削除)
第八號表

診斷書

道、府、縣、郡、市、町、村、大字、番地
何尋常(高等)(尋常)小學校訓導(兼校長)
氏 名

年 月 日生

- 一 既往症
- 二 現症
- 三 診斷
- 四 豫後

右診定候也
年 月 日

道、府、縣、郡、市、町、村、大字、番地
何學校醫又ハ開業醫
氏 名

第九號表

大正何年何月職員勤務調査表

何々小學校

出勤	出張	廢休	休暇	忌引	病氣	事故	遅刻	早引	職名	氏名	備考

第九號表 (其二)

何郡(市)内公立小學校教員勤務調査表										大正 年 月 調					
小學校本科正教員	尋常本科正教員	專科正教員	小學校准教員	尋常科准教員	代用教員	計	備考	勤務日數	教員數	勤務總數	日々勤務平均數	日々勤務平均歩合	非勤務總數	日々非勤務平均數	全月非勤務教員數

備考

- 一、教員種別ハ勤務ノ如何ニ拘ハラズ總テ資格別ニ依リテ掲クヘシ
- 二、勤務日數ハ該學年間ノ勤務スヘキ日數ヲ、教員數ハ年度末現員數ヲ、全月非勤務教員數ハ當該學年間ノ總數ヲ掲クヘシ
- 三、日々勤務平均數ハ勤務總數ヲ勤務日數ニテ除シ、日々非勤務平均數ハ非勤務總數ヲ勤務日數ニテ除シタル數ヲ掲クヘシ
- 四、日々勤務平均歩合ハ勤務總數ト非勤務總數トノ和ヲ以テ勤務總數ヲ除シ教員百人ニ對スル比ヲ求メ掲クヘシ

第三章 普通教育 第一節 小學校

第三章 普通教育 第一節 小學校

第十號表

- 五、日々勤務平均數、日々勤務平均歩合、日々非勤務平均數ハ單位以下二位ニ止メ四捨五入スヘシ
- 六、計ノ部ニ於ケル計算ハ前記各號ノ調査法ヲ準用スヘシ
- 七、校務ニヨリ出張シタル日數及授業日以外ト雖當然出勤スヘキ日ノ出勤日數ハ勤務日數ニ計入スヘシ
- 八、勤務調査表上特ニ參考トナルヘキ事實アリタル時ハ備考欄内ニ記入スヘシ

幼稚園保姆免許狀

道府縣華士族平民

氏

年月日生

右ハ檢定ノ上本縣管内ニ於テ幼稚園保姆タルコトヲ免許ス

印

年月日

岡山縣知事位勳爵 氏

名 團

第十一號表

學 種 別	種 別	男 女 計	増 減	學 區		市 町 村 及 學 區	地 價	直 接 縣 稅	市 町 村 及 學 區 有 基 本 財 產	村 稅 現 金 證 券 田 畑 山 林 其 他	一 人 當 學 校 基 本 財 產 數 量 價 額
				學 區 名	戶 數 人 口						
學 計	種 別	男 女 計	増 減	市 町 村 及 學 區	戶 數 人 口	地 價	直 接 縣 稅	市 町 村 及 學 區 有 基 本 財 產	村 稅 現 金 證 券 田 畑 山 林 其 他	一 人 當 學 校 基 本 財 產 數 量 價 額	

何郡何市何町(高等)高等(高等)小學校一覽表
大正四年四月三十日

不 免 除	就 讀 者	學 計	合 計	就 學 步 合	在 籍		出 席 日 數	出 席 率	委 託 被 委 託	便 宜 入 學	卒 業		前 學 年 卒 業	同 上 中 高 等	同 中 學 校	同 高 等 女 學 校	同 其 他 學 校	高 等 學 校
					前 學 年 末	前 年 四 月 末					前 學 年 卒 業	同 上 中 高 等						
					前 學 年 末	前 年 四 月 末	出 席 日 數	出 席 率	委 託 被 委 託	便 宜 入 學	前 學 年 卒 業	同 上 中 高 等	同 中 學 校	同 高 等 女 學 校	同 其 他 學 校	高 等 學 校	高 等 學 校	高 等 學 校

校 費 料	備 價 格	備 數 量	備 備 價 格		備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格
			備 備 價 格	備 備 價 格															
校 費 料	備 價 格	備 數 量	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格	備 備 價 格

第三章 普通教育 第一節 小學校

科	業				附設				備考	
	同入中學		同入高等女學		附設		附設			
	校入學者	同實業學校	修業年限	設置年月	名	稱	員			
高等修業年限	科目	加除尋常	修業年限	卒業	否認	數	附設	附設	附設	附設
科目	高等	尋常	高等	尋常	附設	附設	附設	附設	附設	附設
高等修業年限	科目	加除尋常	修業年限	卒業	否認	數	附設	附設	附設	附設
科目	高等	尋常	高等	尋常	附設	附設	附設	附設	附設	附設
高等修業年限	科目	加除尋常	修業年限	卒業	否認	數	附設	附設	附設	附設
科目	高等	尋常	高等	尋常	附設	附設	附設	附設	附設	附設

備考

- 一、本表ハ毎年四月末ニ於テ調製スルモノトス
- 二、學齡欄ノ記入ハ左ノ例ニ依ルヘシ
 - (一)一市町村ニ尋常小學校一校ノミナルトキハ其ノ市町村ノ學齡兒童全數ヲ掲クヘシ
 - (二)一市町村ニ尋常小學校數校アル場合ニ於テ各通學區ノ判明セルトキハ各學區内ノ學齡兒童數ヲ掲クヘシ但別ニ學區ノ定ナキトキハ前號ノ例ニ依ルヘシ
 - 三、在籍ハ現ニ其ノ學校ニ在學スル兒童數ノミナ掲クヘシ
 - 四、日々出席平均ハ前年四月ヨリ其ノ年三月ニ至ル一ケ年出席總數ヲ教授總日數ヲ以テ除シタル數ヲ掲クヘシ又日々出席歩合ハ在籍平均數ニ對スル日々出席歩合ヲ掲クヘシ但在籍平均數トハ前年毎月在籍數ノ和ヲ月數ヲ以テ除シタルモノヲ云フ
 - 五、被委託ハ他町村ヨリ委託セラレタル兒童數ヲ掲クヘシ其ノ學區内學齡兒童中他町村ヘ委託セル兒童數ヲ朱記スヘシ
 - 六、市町村及學區有基本財産ノ中ニハ學校基本財産ヲ計入スヘカラス
- 七、經費ハ其ノ學校ニ係ルモノノミヲ掲クヘシ學校組合費分擔額ハ別ニ備考欄ニ掲クヘシ
- 八、總テ歩合ハ單位以下二位迄ヲ掲クヘシ
- 九、表中ノ點線ハ各欄必要ニ應ジテ分畫スヘキヲ示ス又學級編制及教員欄ニ餘白ヲ生スルトキハ便宜該欄ニ附設學校ノ學級及教員ニ係ル事項ヲ掲クルモノナリ
- 十、本表ハ二表ヲ調製シ一表ハ校內適宜ノ場所ニ揭示シ他表ハ永久保存スヘシ

第十二號

市(町)(村)立尋常高等小學校兒童出席缺席調查表

(大正 年 月末調)

學年	區別	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年	
		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
學年	授業日數										
	在籍兒童數										
出席總數	出席總數										
	平均出席數										
在籍ニ對スル平均出席	平均出席										
	平均出席										
缺席總數	缺席總數										
	平均缺席數										
全月缺席兒童數	全月缺席兒童數										
	全月缺席兒童數										

第三章 普通教育 第一節 小學校

考 備	第六學年				
	計	計		計	
		女	男	女	男
合					
考					

備考

- 一 本表ハ尋常科高等科ナ區別シテ調査スヘシ
- 二 祝日大祭日紀念日等ニシテ全ク授業セサル日ノ出席日數ハ之ヲ授業日數ニ計入スヘカラス
- 三 在籍兒童總數ハ月末ニ於ケル現在數ニ依リ掲クヘシ
- 四 月ノ中途ニ於テ入學若クハ退學シタル兒童アリタルトキハ男女ナ區別シテ其數ヲ備考欄ニ掲クヘシ
- 五 日々出席平均數ハ兒童ノ出席總數ヲ授業日數ヲ以テ除シタル數ヲ掲クヘシ
- 六 日々缺席平均數ハ兒童ノ缺席總數ヲ授業日數ヲ以テ除シタル數ヲ掲クヘシ出席總數及缺席總數ニハ月ノ中途ニ於テ入退學シタル兒童ニ係ルモノモ計入スヘシ
- 七 出席總數及缺席總數ニ於テハ第二號ニ準シ授業セサル日ノ出席數及缺席數ハ總テ之ヲ除クヘシ
- 八 日々出席平均數ハ出席總數ト缺席總數トノ和ヲ以テ出席總數ヲ除シ兒童百人ニ對スル比ヲ掲クヘシ
- 九 出席缺席平均數及平均歩合ノ計算ニ於テハ單位以下二位ニ止メ四捨五入法ヲ用ウヘシ
- 一〇 在籍兒童數ニ對シ日々出席平均數ト日々缺席平均數トノ和カ符合セサル場合ニ於テハ其理由ヲ備考欄ニ詳記スヘシ
- 一一 郡市役所ニ於テハ前記各項ノ調査法ヲ適用シ四月ニ於テ前一年ニ於ケル調査チナシ一ヶ月分ニ該當スル平均數ヲ求メテ之ヲ掲クヘシ
- 一二 本表調査ニ關シ參照上必要ナル事項ハ總テ備考欄ニ掲記スヘシ

●小學校令及小學校令施行規則中 改正ノ要旨ニ關スル件

訓令第二十八號(明治四十四年九月二十一日)

郡市長 町村長 小學校長

今般勅令第二百十六號ヲ以テ小學校令中ニ改正ヲ加ヘラレ文部省令第二十號ヲ以テ小學校令施行規則中ニ改正ヲ施サレタリ因テ左ニ其改正ノ要旨ト施行上特ニ注意ヲ要スル事項ノ大要トヲ舉示シ實施上遺漏ナカラントト望ム

高等小學校ノ目的ハ義務教育ヲ終リタル兒童ニ對シ更ニ進ミタル普通教育ヲ施シ國民道德ヲ涵養スルト共ニ生活ニ必須ナル知識技能ヲ授ケ卒業後各種ノ事業ニ従事スルニ一層適切ナル性格ヲ得シムルニ在リ是レ從來其ノ教科目中心ニ手工農業商業ヲ加ヘラレタル所以ナリ而シテ近時時勢ノ必要ニ應ジ之ヲ加設スル高等小學校益増加シ今ヤ殆ト其實施ヲ見ルニ至レルヲ以テ今回ノ改正ニ於テハ從來ノ隨意科目ヲ廢シテ必修科目ト爲シ兒童ニハ必ス手工農業商業ノ何レカ一ヲ課スルコトトシ又其ノ教授時數ヲ増加シ以テ當該教科目教授ノ效果ヲ完カラシメ高等小學校本來ノ目的ヲ貫徹セムトス又英語ハ從來獨立ノ一教科目トシテ土地ノ狀況ニ依リ加設スルコトヲ得セシメタルモ今回之ヲ改メ商業中ニ加ヘテ之ヲ授ケルコトヲ得シメ以テ該科自ラシテ實用上一層適切ナラシメムコトヲ期セリ故ニ從來既ニ此等ノ實業ニ關スル教科目ヲ設置セルモノハ改正ノ旨趣ニ依リテ益教員設備等ノ改善ヲ圖リ其ノ未ダ之ヲ設置セサルモノニ在リテハ速ニ適切ノ施設ヲ爲サムコトヲ要ス

代用教員ノ制ハ實際ノ狀況ニ顧ミ正教員ノ不足ヲ補充スルカ爲バ已ムヲ得スシテ設ケラレタルモノナルモ兒童教育上ノ影響ヨリ觀レハ毫モ正教員ト異ナルモノニアラス是レ今回代用教員ノ進退ニ關スル規定ヲ改正セラレ一層

其ノ選任ヲ慎重ニ優良ナル人物ヲ得テ教育ノ改善ヲ期セムトスル所以ナリ郡市長ハ地方經濟ノ狀況ニ應ジ成ルヘク其俸給額ヲ増シ適當ノ人物ヲ得ルニ努ムルト共ニ他方ニ於テハ適應ノ方法ニ依リ正教員補充ノ途ヲ講シ以テ小學校教育改善ノ實ヲ舉ケムコトヲ期セラルヘシ

幼稚園ニ於ケル保育事項等ヲ小學校ニ於ケル教則其ノ他ノ如ク劃一ニ規定スルハ却テ保育ノ進歩發達ヲ促ス所以ニアラサルノミナラス往々ニシテ保育ノ本旨ヲ誤ルノ虞ナキヲ保セス又從來ノ如ク保育時數ヲ制限スルハ實際上不便ナルヲ以テ適宜之ヲ伸縮スルヲ得シムルノ要アリ尙從來ノ實際上幼兒ノ定員ヲ増加シテ實際ノ施設ニ便ナラシムルノ必要ヲ認メタリ是レ幼稚園ニ關スル規定ヲ改正セラレタル所以ナリ

此ノ他小學校ノ教則、休業日、教員檢定等ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘラレタルハ要スルニ從來ノ實際ニ徴シ必要ナル改正ヲ施スト共ニ小學校教育ノ内容ノ充實改善ヲ期セムトスルニ外ナラス

右改正ノ旨趣ヲ體シ施設督勵其ノ宜シキヲ得小學校教育本來ノ目的ヲ貫徹スルニ於テ益々適切ナラシメ之レカ實績ヲ舉ケムコトヲ望ム

●小學校名稱ニ關スル件

訓令乙第四十六號(明治二十五年十一月十五日)

郡市役所 町村役場

小學校名ハ尋常高等ノ區別ニ依リ何々尋常小學校何々高等小學校何々尋常高等小學校ト稱スヘシ但私立小學校ハ市町村長ヨリ達スヘシ

●小學校祝日大祭日儀式ニ關スル件

縣令第五十二號(明治二十五年十一月十五日)
 明治二十四年(六月)文部省令第四號小學校祝日大祭日儀式規程第八條ニ基

第三章 普通教育 第一節 小學校

キ小學校祝日大祭日儀式ニ關スル次第左ノ通相定ム

第一條 祝日大祭日ノ式場ハ清潔ニシテ嚴肅ヲ主トシ其儀式ニ相應スル裝置ヲナスヘシ

第二條 紀元節天長節元始祭神嘗祭及新嘗祭ノ日ニ於テ儀式ヲ行フニハ左ノ順序ニ依ルヘシ

- 一 學校長教員生徒及參列員並參觀人著席
- 二 學校長教員及生徒唱歌(君カ代二回)ヲ合唱ス(此間一同起立)
- 三 前歌唱歌中學校長若クハ首席教員進テ 御影ノ覆ヲ開キ奉ル
- 四 學校長教員生徒參列員等 御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行ヒ

天皇陛下
皇后陛下ノ萬歳ヲ奉祝ス

五 學校長若クハ首席教員ハ教育ニ關スル 勅語ヲ奉讀ス(此間一同起立敬意ヲ表ス)

六 教育ニ關スル 勅語ニ基キ學校長若クハ教員ノ報告又ハ演說

七 學校長教員及生徒其式日ニ相應スル唱歌ヲ合唱ス(此間一同起立)

八 學校長教員及生徒唱歌(君カ代二回)ヲ合唱ス(此間一同起立)

九 前歌唱歌中學校長若クハ首席教員進テ 御影ヲ覆ヒ奉ル

十 順次退場

第三條 孝明天皇祭春季皇靈祭神武天皇祭及秋季皇靈祭ノ日ニ於テ儀式ヲ行フニハ第二條第二第三第四第五第八第九ノ各條ヲ準ジテ行フヘシ

第四條 一月一日ニ於テ儀式ヲ行フニハ第二條第五ノ各條ヲ準ジテ行フヘシ

第五條 勅語奉讀ノ席ハ式場ノ正面 御影ノ左方ニ於テ斜ニ卓ヲ設ケテシテ 御影ヲ拜戴セル學校ニ於テハ式場ノ正面ニ設ケテシ

第六條 演說ノ席ハ 勅語奉讀席ノ次ニ之ヲ設ケテシ

第七條 生徒ニ茶菓繪畫等ヲ與ヘ又ハ遊戯體操ヲナスハ儀式ノ終リニスヘシ

裁縫ヲ加フルヲ要スルノ件

訓令乙第四十號(明治二十六年七月二十八日)

郡市役所 町村役場

普通教育ノ必要ハ男女ニ於テ差別アルコトヲナク且女子ノ教育ハ將來家庭教育ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナリ現在學齡兒童百人中修學者ハ六十五人強ニシテ其中女子ハ僅ニ二十四人強ニ過キス今不就學女子ノ父兄ヲ勸誘シテ就學セシムルコトヲ怠ラサルヘキト同時ニ女子ノ爲ニ其教科ヲ益實用ニ近切ナラシメサルヘカラス裁縫ハ女子ノ生活ニ於テ最も必要ナルモノナリ故ニ土地ノ情況ニ依リ成ルヘク小學校ノ教科目ニ裁縫ヲ加フルヲ要ス

農業商業教科目加設ニ關スル件

訓令第二號(明治四十四年一月十三日)

郡長 市町村長 小學校長

近來各地方ノ高等小學校ニ於テ概ネ農業又ハ商業ノ教科目ヲ加設スルニ至レルハ尋常小學校卒業者ニ對シ更ニ普通教育ヲ施シ品性ヲ陶冶シ常識ヲ進ムルト共ニ其ノ將來ノ生活ニ緊切ナル素養ヲ與フルニ於テ最も適當ノ施設ナリトス然レトモ農業科加設ノ學校ニシテ往々實習地ノ設備ヲ欠クモノアルハ頗ル遺憾トスル所ナリ抑々農業科ニ於テハ兒童ヲシテ其ノ學ヲ所ヲ實地ニ應用セシムルニ非サレハ農業ノ趣味ヲ領得セシメ勤勞ヲ尊重スルノ習性ヲ養ハシムルニ足ラサルヲ以テ自今力メテ實習地ヲ設置シ教員自ラ兒童ヲ率キテ耕耘ニ從事シ以テ本教科目加設ノ趣旨ヲ貫徹セシムルコトヲ期スヘシ但シ實習地ハ必スシモ學校ノ付屬地タルヲ須ヒス適當ナル土地ヲ借入レテ之ニ充ツルモ亦可ナリ若シ已ムナリ得サル場合ニ在リテハ兒童ヲシテ各

第三章 普通教育 第一節 小學校

第八條 儀式ニ參列スル學校職員市町村吏員等ハ禮服ヲ着用スヘシ但シ「フロックコート」羽織袴ヲ着用スルモ妨ナシ

第九條 儀式ノ終始時間其他必要ノ事項アルトキハ小學校長若クハ首席教員ニ於テ便宜之ヲ規定スヘシ

尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置スル小學校ニ於テ小學校ニ屬スル設備手續

訓令乙第四十五號(明治二十五年十一月十五日)

尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置スル小學校ニ於テハ先ツ尋常小學校ニ屬スル施設ヲ完備シタル上高等小學校ニ屬スル設備ヲナスヘシ

訓令乙第四十八號(明治二十七年九月十九日)

郡市役所 町村役場

小學校ニ於テ一校內ノ兒童數過多ナルトキハ校舎新築改築等ノ多ナルトキハ校舎新築改築等ノ實際分割ノ手續ヲナサシムルノ件

訓令乙第三十三號(明治三十年八月七日)

郡市役所 町村役場

小學校ニ於テ一校內ノ兒童數過多ナルトキハ自然管理周到ナラス教育亦懸篤ヲ缺クハ免ルヘカラサルノ弊ナルニ依リ校舎ヲ新築セントスルトキハ成ルヘク一校內ノ兒童數凡十學級ヲ超ニサラシムヘク又現在其過多ナルモノニアリテハ將來校舎改築等ノ際此趣旨ニ基キ分割ノ手續ヲナスヘシ

女子ノ教育上小學校ノ教科目ニ

自父兄ノ農作地ニ於テ實習ヲ爲サシムル等便宜ノ方法ニ據ルコトヲ妨ケス要ハ町村ノ經濟ト地方ノ事情トヲ斟酌シテ相當ノ施設ヲ爲スニ在リ又商業科ニ在リテハ其ノ教授ヲシテ土地ノ實際ニ適切ナラシムルト共ニ商業道德ノ涵養ニ努メ以テ本教科目ノ成績ヲ擧ゲシメムコトヲ期スヘシ

小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關スル心得

訓令乙第四十八號(明治二十七年九月十九日)

郡市役所 町村役場

小學校ハ小學校令第一條ノ示所ニ依リ兒童ノ體育ニ留意シ教育ノ完成ヲ期セサルヘカラス我國舊來弓馬劍鎗ノ武藝盛ニ行ハレ體育ノ道ニ於テ缺タル所ナカリシモ維新後兵制變革ノ爲或種ノ武藝ハ其ノ必要ヲ失ヒタルト同時ニ體育ノ衰頹ヲ致セル事又教員及生徒力學問知識ノ進歩ニ急ニシテ動モスレハ體育ノ一方ニ偏重セル事及社會一般ノ衛生ノ必要ヲ感スルコト未ダ深切ナラサル事是等多數ノ原因ノ爲ニ各般ノ學校ニ於ケル體育及衛生ノ方法ハ仍不完全ナルヲ免レス殊ニ小學教育ノ時ハ方ニ身體發育ノ期ニ當リ一タヒ傷害ヲ受ケルトキハ其ノ患ハ終身ニ及ヒ哀ムヘキノ情況ヲ呈セントス自今小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關シテハ左ノ通心得ヘシ

- 一 體育ハ及フタケ活潑ナル運動ヲ課スルヲ要スヘク普通體操ニ於テモ亦兵式體操ト同ク手足及全身筋力ノ運動ヲ活潑ニシ氣血ノ代謝ヲ促スト同時ニ生徒自個ニ於テ意氣快活ヲ覺ユルノ效果アラシムヘシ體操ノ弊ハ或ハ死法ニ流レ態勢ヲ整ヘ並列ヲ正スカ爲ニ許多ノ時間ヲ費シ却テ生徒ヲシテ厭倦ノ氣ヲ生セシムルニ至ル此ノ如キハ却テ體操ノ精神ヲ失フモノナリ
- 二 高等小學校男生徒ニハ兵式體操ヲ課スルノ際軍歌ヲ用ヒ體操ノ氣勢ヲ壯ニスルコトアルヘシ又隨意科トシテ簡單ナル器械體操ヲ授クヘシ

- 三 小學校生徒ハ活潑ナル運動ニ便スル爲ニ不得已場合ノ外學校内ニ於テ著用ノ衣服ハ都テ袖ヲ用キシムヘシ
- 四 放課時間ニ於テ佇立閉語シテ經過スルニ終ラシムヘカラス男女トナク成ルヘク活潑ニ大氣中ニ運動スルノ遊戲ヲ誘フヘシ或ハ大聲急走ノ遊戲ノ態ヲ以テ生徒ノ不良事ト爲シ沈黙ヲ以テ品行點ニ加フルカ如キハ當テ得タルモノニアラス
- 五 生徒ヲシテ筆記及語讀ヲ務メシムルハ過度ニ腦力ヲ勞セシムルモノナレハ特ニ必要ノ場合ノ外之ヲ用キサランコトヲ要ス
- 六 小學校ノ課業ノ中生徒ノ尤困難ヲ感スル者ハ作文トス初級ノ生徒ニハ作文ヲ授クヘカラス若シ簡單ナル作文ヲ授クルモ此ヲ以テ試驗ノ問題トスヘカラス
- 七 小學校ニ於テ施行スル所ノ試驗法ハ或ハ褒貶ノ意味ニ偏シ點數ニ依リテ毎期席順ヲ上下シ又ハ賞與ヲ予フル等過度ニ生徒ニ神經ヲ刺衝ス

スルノ弊アリ此レ獨リ普通教育ノ主義ヲ誤ルノミナラス亦生徒ノ體育ヲ害スル者ナリ自今各學校ハ試驗ニ依レル席順ノ上下ヲ廢スヘシ但各級ニ優等生若干人ヲ選抜シ以テ獎勵ヲ示スコトヲ妨ケハルヘシ

八 小學校ニ於テ生徒ハ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘシ

九 華奢安逸ハ自然ニ軟弱ヲ招クモノナリ都會ノ生徒ノ學校ニ往來スル者或ハ車ニ乘ルカ如キハ學校紀律ノ外ニ係ルト雖モ校長及教員ハ注意ヲ加ヘテ成ルヘク步行セシムルコトニ誘導スヘシ

●小學校教科用圖書採定ノ件

縣令第十一號(明治四十五年二月二十日)

小學校教科用圖書中修身科、國語科、算術科、日本歴史科、地理科、圖畫科ノ各教科用圖書ヲ左記ノ通採定シ明治四十五年四月一日ヨリ當該各學年ニ使用セシム

教科目及使用目的	圖書名	卷	次	冊數	著者	發行者
修身科教師用	尋常小學修身書	修正卷五、 修正卷六、 修正卷五、 修正卷六、	卷六	二冊	文部省	文部省
同 兒童用	同	修正卷三、 修正卷四、	卷四	二冊	同	同
國語科兒童用	高等小學書キ方手本	修正第二學年用上下甲種		二冊	同	同
地理科兒童用	高等小學地理	修正第二學年		一冊	同	同
算術科教師用	高等小學算術書	修正第二學年		一冊	同	同
同 兒童用	同	同		一冊	同	同
圖畫科兒童用	高等小學毛筆畫帖	同		一冊	同	同

●縣令第十六號(大正元年十二月二十九日)

小學校教科用圖書中修身科、國語科、算術科、地理科、理科、圖畫科ノ各

小學校教科用圖書

教科用圖書ヲ左記ノ通採定シ大正二年四月一日ヨリ當該各學年ニ使用セシム

教科目及使用目的	圖書名	卷	次	冊數	著者	發行者
修身科兒童用	高等小學修身書	卷一		一冊	同	同
國語秘兒童用	高等小學讀本	第三學年用上下		二冊	同	同
同	高等小學書キ方手本	第三學年用上下甲種		二冊	同	同
地理科兒童用	高等小學地理	第三學年用		一冊	同	同
國語科兒童用	高等小學讀本女子用	卷三、四		二冊	同	同
同	高等小學書キ方手本	第二學年女子用上下甲種		二冊	同	同
圖畫科兒童用	高等小學新定畫帖	第三學年男女生共用		一冊	同	同
同 教師用	同	同		一冊	同	同

第三章 普通教育 第一節 小學校

理科 兒童用	高等小學理科書	第二學年兒童用	一冊	同	同	同
理科 教師用	高等小學理科掛圖	第一學年用	一冊	同	同	同
算術科 教師用	日用簿記教師用	說明部帳簿ノ部	同	同	同	同
圖畫科 兒童用	高等小學毛筆畫帖	第一、二學年男女生共用	二冊	同	同	同
同	同	同	二冊	同	同	同
同	同	第一、二學年男女生共用	二冊	同	同	同
同	同	同	二冊	同	同	同
同	同	第一學年男女生共用	一冊	同	同	同
同	同	同	一冊	同	同	同

●縣令第十六號(大正三年二月十三日)

小學校教科用圖書中國語科、地理科、商業科ノ教科用圖書ヲ左ノ通採定ス

小學校教科用圖書

本令ハ大正三年四月一日ヨリ施行ス

教科目及使用目的	圖書名	卷	冊數	著者	發行者
國語科 兒童用	第二種尋常小學讀本	第一學年用上下 第二學年用上下	二冊	文部省	文部省
同	同上	同上	二冊	文部省	文部省
地理科 兒童用	尋常小學地理附圖	同上	一冊	同	同
同	同上	同上	一冊	同	同
同	高等小學地理附圖	同上	一冊	同	同

●縣令第二十號(大正三年三月四日)

小學校教科用圖書中商業科國語科ノ教科用圖書ヲ左ノ通採定ス

小學校教科用圖書

本令ハ大正三年四月一日ヨリ施行ス

教科目及使用目的	圖書名	卷	冊數	著者	發行者
商業科 兒童用	高等小學商業教本	卷一、二 前編、後編	二冊	武田英一	大葉久吉
同	同上	同上	二冊	上田貞次郎	坂本嘉治馬
國語科 兒童用	第二種尋常小學書キ方手本	第一學年用乙種	一冊	佐藤仁壽	文部省
同	同上	第二學年用乙種上、下	二冊	同	同

●縣令第三十號(大正三年五月二十一日)

小學校教科用圖書

小學校教科用圖書中理科ノ教科用圖書ヲ左ノ通採定ス

教科目及使用目的	圖書名	卷	冊數	著者	發行者
理科 教師用	高等小學理科家事教科書	第一學年教師用	一冊	文部省	文部省
同	同上	第一學年兒童用	一冊	同	同

●縣令第四十一號(大正三年八月十九日)

小學校教科用圖書

小學校教科用圖書中國語科並唱歌科ノ教科用圖書ヲ左ノ通採定ス

教科目及使用目的	圖書名	卷	冊數	著者	發行者
國語科 兒童用	第二種尋常小學讀本	第三學年用上下	二冊	文部省	文部省
同	同上	第三學年用上下乙	二冊	同	同
唱歌科 兒童用	尋常小學唱歌	第六學年用	一冊	同上	同上

●縣令第七十一號(大正三年十二月二十九日)

小學校教科用圖書

小學校教科用圖書中國語科ノ教科用圖書ヲ左ノ通採定ス

教科目及使用目的	圖書名	卷	冊數	著者	發行者
國語科 兒童用	第二種尋常小學書キ方手本	第四學年用上下乙種	二冊	文部省	文部省

第三章 普通教育 第一節 小學校

●小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌 詞及樂譜採用ニ關スル件

訓令乙第二號(明治二十八年一月十四日)

小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タル小學校
教科用圖書中ニ在ルモノ又ハ文部省ノ選定ニ係ルモノ及特ニ文部大臣ノ認

郡市役所 町村役場

可テ受ケ告示シタルモノ、外ハ採用セシムヘカラス但他ノ地方長官ニ於テ
一旦文部大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此ノ限ニ在ラス

●小學校ニ於テ唱歌ニ供スル歌詞 及樂譜ノ件

告示第九十四號(明治二十九年四月二日)

小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜左ノ通文部大臣ノ許可ヲ得タリ

歌名	作歌者氏名	作曲者氏名	所載書名
國の緑の江嶺	山縣有朋	古矢弘政	大東軍歌
命を捨てて	乃木希典	同上	同上
惠の露	鳥居光藏	同上	同上
戦歌及海	吉本光藏	同上	同上
皇御國	塚原富次郎	同上	同上
一碧萬里	未詳	同上	同上
黄海の大捷	野村雪香	同上	同上
心地よ	永井樂隊	同上	同上
虎穴に入らば	永井樂隊	同上	同上
天地の響	幸野南	同上	同上
敵の味方	幸野南	同上	同上
敵の味方	幸野南	同上	同上
敵の味方	幸野南	同上	同上

(参考)現在使用中ノ國定教科書
(沿革)明治四十四年縣令第九號、同第十號、同第十六號改正

尋常小學校ノ部

教科目及使用目的	圖書名	卷	次	冊數	著者	發行者
修身科 教師用	尋常小學 修身書	修正 卷一、二、三、四		四冊	文部省	文部省
同 兒童用	同 修身書	修正 卷一、二		二冊	同	同
修身科 同	同 修身書	修正 卷一、二、三、四		四冊	同	同
國語科 兒童用	複式 修身書	乙編 一乃至十二		各一冊	同	同
同 同	同 讀本	乙編 一乃至十二		各一冊	同	同
同 同	同 書キ方手本	乙種 第一學年用		十一冊	同	同
同 同	同 書キ方手本	乙種 第二學年乃至第六學年用各上		各一冊	同	同
算術科 教師用	同 算術書	改版第一學年乃至第六學年		各一冊	同	同
同 兒童用	同 算術書	改版第三學年乃至第六學年		各一冊	同	同
同 同	同 算術書	卷一		一冊	同	同
日本歴史科教師用	同 日本歴史	卷一、二 卷一、上		二冊	同	同
同 兒童用	同 日本歴史	卷一、二 卷一、上		二冊	同	同
日本歴史科兒童用	尋常小學 日本歴史	卷一、二 卷一、上		二冊	同	同
同 同	尋常小學 日本歴史	卷一、二 卷一、上		二冊	同	同
地理科 同	尋常小學 地理	卷一、二		二冊	同	同
同 同	尋常小學 地理	卷一、二		二冊	同	同
同 同	尋常小學 地理	卷一、二		二冊	同	同
圖畫科 教師用	尋常小學 毛筆畫帖	改版第三、四學年用		各一冊	同	同
同 兒童用	同 毛筆畫帖	同第五、六學年男生用		各一冊	同	同
同 教師用	同 鉛筆畫帖	同第五、六學年男生用		各一冊	同	同
同 兒童用	同 鉛筆畫帖	同第五、六學年女生用		各一冊	同	同

第三章 普通教育 第一節 小學校

同	教師用	同	新定畫帖	第一學年乃至第六學年	六	同	同
同	兒童用	同	新定畫帖	第三、四學年用 第五、六學年男生用 第六學年女生用	各 各 各	同	同

高等小學ノ部

教科目及使用目的	圖書名	卷	次	冊數	著者	發行者
修身科 教師用	小學 修身書	卷ノ一、二、三、四	四	四冊	文部省	文部省
修身科 兒童用	同 修身書	同上	四	四冊	同	同
國語科 兒童用	高等小學 修身書	新制三學年用	一	一冊	同	同
同	高等小學 讀本	修正一、六乃至八	四	四冊	同	同
同	高等小學書キ方手本	第一學年用甲種七、八	四	四冊	同	同
算術科 教師用	同 算術書	修正第一學年卷ノ四	二	二冊	同	同
同	兒童用	修正第一學年卷ノ四	二	二冊	同	同
同	教師用	新制高等小學第三學年同算術書	一	一冊	同	同
同	兒童用	同	一	一冊	同	同
地理科 兒童用	高等小學 地理	卷ノ一	一	一冊	同	同
同	小學 地理	卷ノ四	一	一冊	同	同
同	高等小學日本歷史	修正卷ノ一、二	一	一冊	同	同
同	小學 日本歷史	卷ノ四	一	一冊	同	同
同	高等小學毛筆畫帖	修正第一學年男女生用上	一	一冊	同	同
同	同	修正第一學年男女生用上	一	一冊	同	同
同	同	修正第一學年男女生用上	一	一冊	同	同
同	同	修正第一學年男女生用上	一	一冊	同	同

●就學督責ヲ勵行シ國民教育ノ實效ヲ擧ゲシムルノ件

訓令第七十六號(明治三十三年十二月十八日) 郡市役所 町村役場 市町村立小學校

茲ニ改正小學校令及同施行規則ノ發布セララルルヤ文部大臣ハ其ノ要旨ヲ示シ國民教育ノ實效ヲ擧ゲシムルノ件ニ關シテ訓令セリ惟クニ本縣ノ教育ハ逐年進步ノ實ヲ示スト雖モ未タ以テ満足スルコト能ハサルモノアリ客年未ニ於ケル就學ノ歩合ハ學齡兒童百人中男八十六人餘女六十九人餘平均七十八人餘ニ過キス則チ學齡兒童百人中二十一人餘ハ全ク無教育ニ終ラントス此ノ如キノ情態ニアルハ國民教育上豈ニ遺憾ナシトセンヤサレハ此際一層ノ精勵ヲ加ヘ就學督責ヲ勵行シ以テ就學兒童ノ增加ヲ企圖スヘシ

一、町村ノ住民ニシテ其一部ノ人民ト卑下スルノ弊習今尙其ノ跡ヲ存スルカ甚メ甚メ等ノ兒童ト同學セシムルヲ厭ヒ其就學ヲ等閑ニ付セル狀況アルカ如シ斯ノ如キハ國民教育普及ノ趣旨ヲ貫徹セルモノト謂フヘカラス深ク注意シ努メテ其弊習ヲ除去スヘシ

二、學齡簿ハ市町村學齡兒童ノ國民教育ヲ調査スル唯一ノ簿冊ナルニ從來往々之レカ整理ヲ怠ルカ爲メ學齡兒童ノ現況ヲ審ニスルコト能ハサルモノアリ宜シニ監督ヲ嚴ニシ調査ヲ密ニシ以テ其整理ヲ期スヘシ

三、設備ハ漸次改善ニ趨ケリト雖モ尙不備ノ點多ク殊ニ校舍狹隘ニシテ採光通風等ノ不適當ナルモノアリテ教育上不便ヲ感スル勢シトモス將來就學兒童ノ增加スルノ結果愈々支障ヲ生スルニ至ルヘシ宜シク日下ノ情態ト前途ノ趨勢トニ接ヘテ速ニ設備ノ完成ヲ期スヘシ

四、以上列記ノ事項ハ郡市町村長ト監督經營ニ於テ固ヨリ遺算ナカルヘシト雖モ教育施設上一日モ忽ニスヘカテラサルモノナレハ局ニ當レルモノハ之カ規畫經營ニ力ヲ致シ督責獎勵ニ意ヲ用ヒ以テ國民教育ノ實效ヲ擧グントスニ努ムヘシ

第三章 普通教育 第一節 小學校

●公立學校ノ校舍校具及戶外體操場ヲ公ノ集會又ハ公衆體育ノタメニ使用セシムルトキノ要件

訓令第十號(明治三十七年二月二十八日) 縣立學校 郡市役所 町村役場 郡市町村立學校

公立學校ノ校舍校具及戶外體操場ヲ公ノ集會又ハ公衆體育ノタメニ使用セシムルトキハ左ノ要件ニ基キ學校長若クハ管理者ニ於テ相當取締ノ方法ヲ定ムヘシ

一、公ノ集會トハ相當責任者ヲ有スル左ノ種類ノ集會ヲ云フ
 一、教育、學藝、兵事、衛生、勸業及慈善ニ關スル諸集會
 二、市町村民ノ公ニ關スル集會
 三、教育上障害ヲ來スルノ虞レナキ團體ノ集會
 戶外體操場公開ニ關スル要件
 一、運動及遊戯ノ種類ハ學校體育上妨ケナキモノタルコト
 二、運動及遊戯ニ屬スル器械器具ハ學校管理上差支ナキ限リハ適宜使用セシムルコト
 三、戶外體操場公開ノ時間ハ休業日ハ日出ヨリ日没マテ其他ノ日ハ休業後日没マテトス
 四、學校ノ都合ニ依リ使用時間ヲ伸縮シ又ハ臨時使用ヲ停止スルヲ得ルコト

公ノ場合又ハ體操場公開中校舎校具ヲ毀損シタルトキハ相當ノ辨償ヲ爲シシムルコト
使用後ハ復舊整頓セシムルコト
其他學校ニ於テ定メタル禁制ヲ守ラシムルコト

● 郡市内高等小學校へ戦利品紀念ノ爲メ分配取締方注意セシムルノ件

訓令甲第二十號(明治二十九年六月二十五日)

郡市役所

明治二十八年陸軍省令第十六號戦利品整理規定第三條ニ依リ日清戰役ニ於テ鹵獲セラレタル戦利品紀念ノ爲メ分配取締方注意セシムルコト
校舎ニ神社ヘ分配候條左記方法ニ依リ不都合ナキ様取締方注意スヘシ
一 戦利品ノ目錄ヲ調製シ交付年月日來歴ヲ記シ現品ト共ニ永久保存スヘシ
一 戦利品ハ學校ニ在テハ大祭日祝日若クハ卒業證書授與式開校式等ノ節又神社ニ在テハ例祭日等ノ外限リニ縦覽セシムヘカラス
一 戦利品ハ倉庫又ハ其他堅固ナル場所ニ藏置セシムヘシ

第二節 中學校

● 岡山縣立岡山中學校學則

縣令第六十五號(明治三十四年五月九日)
(沿革)明治三十四年縣令第一一六號、三十五年同第三〇號、三十六年同第一九號、三十七年同第一七號、四一年同第一七號、同第四九號、四二年同

第一本 科

學科	第一本 科				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一 生徒心得、教育ニ關スル勸語、作法	一 道德ノ要領作法	一 同上	一 道德ノ要領作法 戊申詔書 我國道德ノ特質作法	一 同上
國語	八 講讀、作文、習字	七 同上	七 講讀、作文、文法、習字	六 講讀、作文、文法	六 講讀、作文
英語	六 發音、綴字、讀方及譯解、話方及作文、書取、習字	七 讀方及譯解、話方及作文書取、習字	七 讀方及譯解、話方及作文書取、文法	七 同上	七 讀方及譯解、話方及作文
歴史	一 日本歴史	二 同上	二 外國歴史	二 同上	二 外國歴史
地理	二 日本地理	一 滿洲地理 一 世界地理	一 世界地理	一 同上	一 自然地理 一人文地理
數學	四 算術	四 代數	五 代數、幾何	四 同上	四 代數、幾何、三角法
博物	二 植物、動物	二 同上	二 同上生理及衛生	二 礦物、博物、通論	
化學				四 物理、化學	四 同上
經濟					二 法制、經濟
圖畫	一 自在畫	一 同上	一 自在畫、幾何畫	一 同上	一 幾何畫

第二九號、四五年同第三八號、大正二年同第一六號、三年同第七號、同第五九號改正

岡山縣立岡山中學校學則左ノ通定ム

但明治二十八年(十月)岡山縣令第三十八號岡山縣立中學校規則及明治三十二年(五月)岡山縣令第三十七號岡山縣立中學校補習科規程ハ廢止ス

岡山縣立岡山中學校學則

第一章 總則

第一條 本校ハ明治三十三年勅令第二十八號中學校令及同三十四年文部省令第三號中學校令施行規則ニ依リ本科並ニ補習科ヲ置ク

第二條 本校生徒ノ定員ヲ八百名トス

第二條ノ二 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス
第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日迄
第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日迄
第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄

第三章 休業日

第三條 本校ノ休業日左ノ如シ
日曜 日
祝日 日
大祭 日

本校紀念日 十一月二十一日

夏期休業 七月二十日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬期休業 十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル

學年末ヨリ次學年ノ始ニ涉リ成績調査卒業式執行並ニ生徒募集等ノ爲メ十日以内授業ヲ休止ス

第三章 學科課程並ニ教授時數

第四條 本科並ニ補習科ノ學科課程及每週教授時數ハ左ノ如シ

學科目	第二補習科	學年	唱歌	一基本練習歌曲	一同上	一同上			
			體操	三體操教練	三同上	三同上	三同上		
			合計	二九	二九	三〇	三一	三一	
授	時	數							

學科目	學年	教	時	數	修身	一	一		
					國語及漢文	四	四		
					英語	六	六		
歷史地理	一	一							
數學	三	三							
物理及化學	二	二							
法制及經濟	一	一							
體操	二	二							
計				二〇					

第四章 成績考查
 第五條 學期試験ハ教員ノ見込ニ依リ學期內ニ於テ隨時ニ之ヲ施行ス
 學年試験ハ學年末一定ノ時期ニ於テ之ヲ施行ス

第六條 病氣又ハ已ムナ得サル事由ニ依リ學年試験ヲ受クルコト能ハサル
 モノハ學校長ニ於テ平素學業成績ヲ考查シ追試験ヲ施行スルコトアルヘシ

第七條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ學年試験ヲ停止ス
 一 平素學業ノ成績不良ニシテ進級ノ見込ナシト認ムル者
 二 正當ノ理由ナクシテ出席常ナラサル者
 三 一學年內ニ於テ缺席日數七十日以上ニ渉ル者
 第八條 教員ハ學期末並學年末ニ於テ受持學科ニ就キ各生徒ノ日課並試験ノ成績ヲ考查シ其ノ成績表ヲ學校長ニ提出スヘシ
 第九條 學校長ニ於テ本科卒業セリト認メタル者ニハ第一號書式ノ卒業證書ヲ授與シ補習科ヲ修了セリト認メタル者ニハ第二號書式ノ修業證書ヲ授與ス

第五章 入學、在學、退學
 第十條 父兄又ハ後見人ニ於テ其子弟ヲ入學セシメント欲スルトキハ第三號書式ニ依リ學校長ニ願出ツヘシ但第二學年以上ニ編入セシメント欲スル者ハ本人ノ戶籍抄本ヲ添付スヘシ
 第十一條 入學ノ際試験ヲ受クル者ハ試験ノ當日手數料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ
 但既納ノ手數料ハ如何ナル事故アルモ之ヲ返付セス
 第十二條 入學ヲ許サレタル者ノ父兄又ハ後見人ハ保證人トシテ第四號書式ノ在學保證書ヲ學校長ニ差出スヘシ保證人ニシテ本校所在地一里以外ニ住居スルモノハ代理人ヲ定メ在學保證書ニ連署セシムヘシ
 代理人ハ本校所在地一里以内ニ住居シ一家計ヲ立ツル成年以上ノ者タルヘシ
 第十三條 生徒ハ常ニ本校所定ノ制服及制帽ヲ着用スヘシ
 第十四條 生徒ヲシテ自宅又ハ寄宿舎若クハ學校長ノ指定シタル宿舎以外ヨリ通學セシメントスルトキハ保證人又ハ代理人ニ於テ學校教員又ハ身元確實ナル親戚ノ內ニ就キテ其居所ヲ定メ學校長ノ認可ヲ受クヘシ
 第十五條 保證人又ハ代理人轉居シ又ハ改姓名若クハ改印等ヲナシタルト

第三章 普通教育 第二節 中學校

キハ其都度學校長ニ届出ツヘシ
 保證人又ハ代理人死亡シ又ハ代理人遠隔ノ地ニ轉居シタルトキハ更ニ後任者ヲ定メ學校長ニ届出ツヘシ
 第十六條 生徒死亡又ハ改姓名ヲナシタルトキハ保證人又ハ代理人ヨリ學校長ニ届出ツヘシ
 第十七條 生徒疾病又ハ已ムナ得サル事故ニ依リ退學又ハ轉學セントスルトキハ其事由ヲ詳記シテ保證人ヨリ學校長ニ願出ツヘシ
 第十八條 生徒在學中兵役ニ服シ又ハ疾病ニ罹リ三箇月以内ニ全癒ノ見込ナシト認ムルトキハ學校長ニ於テ休學ヲ命スルコトヲ得休學期間ハ前段ニ對シテハ其ノ期間中後段ニ對シテハ一箇年以内トス

第六章 褒賞、特待、懲戒
 第十九條 學業優等ナル者又ハ善行アル者ハ之ヲ褒賞ス
 第二十條 學業優等ニシテ衆生ノ模範タル者ハ特待生トス
 特待生ハ授業料ヲ徴收セス
 第二十一條 特待生ハ第三學年以上ノ生徒ニ就キテ選拔シ其期限ハ一學年間トス
 特待生ニシテ其資格ニ不適當ナル廉アリト認ムルトキハ其特待ヲ解ク
 第二十二條 校規ニ悖リ訓誨ニ服セス其他生徒タルノ本分ヲ失スル者アルトキハ左ノ諸號ニヨリテ之ヲ懲戒ス
 一 戒飭
 二 謹慎
 三 停學
 四 放校

第七章 授業料
 第二十三條 授業料ハ一學年金二十四圓トシ左ノ三期ニ分納セシム

第三章 普通教育 第二節 中學校

第一期 四月ヨリ八月マテ 金六圓 納入期四月八日ヨリ同二十五日マテ
第二期 九月ヨリ十二月マテ 金八圓 納入期九月一日ヨリ同二十五日マテ
第三期 一月ヨリ三月マテ 金八圓 納入期一月八日ヨリ同二十五日マテ

第二十四條 定期日內ニ授業料ヲ納付セサル者ハ未納中授業ヲ停止シ其滞納三十日以上ニ及フトキハ學籍ヲ除ク
第二十五條 自宅ヨリ通學スル能ハサル者並ニ管理上必要ト認ムル者ハ寄宿舎若クハ學校長ノ指定シタル宿舍ニ入ラシム

第二十八條 附則 此學則ニ關スル細則ハ學校長之レヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ
(第一號書式) 用紙鳥ノ子豎一尺一寸 卒業證書

年月日 姓名

岡山縣立岡山中學校校長姓名殿 (第四號書式) 用紙美濃紙

印紙

岡山縣立岡山中學校校長姓名殿

岡山縣立津山中學校學則

縣令第六十六號(明治三十四年五月九日)
(沿革)明治三十四年縣令第一一七號、三五年同第三〇號、三六年同第一九號、三七年同第一七號、四〇年同第二九號、四一年同第二九號、四二年同第二九號、四五年同第三九號、大正二年同第一八號、同第三〇號、三年同第八號、同第六〇號改正

第三章 普通教育 第二節 中學校

(第一號書式) 用紙鳥ノ子豎一尺一寸 卒業證書

右本校所定ノ學科ヲ履修シ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス
校印
年 月 日 岡山縣立岡山中學校長 姓名 名 圖

右本校所定ノ補習科ヲ修了セリ仍テ之ヲ證ス
印
年 月 日 岡山縣立岡山中學校長 姓名 名 圖

Table with columns for 卒業又在學セル學校名及年數, 出生地名及年月日, 寄留地名, 本籍及某男弟, 姓名, 富何, 年月日

右御校何年級へ入學爲致度此段相願候也

(生徒ノ定員、紀念日、補習科、學科課程並教授時數表授業料及書式ノ外ハ縣令第六十五號ト同文ニ付省略ス)

岡山縣立高梁中學校學則

縣令第六十七號(明治三十四年五月九日)
(沿革)明治三十四年縣令第一一八號、三五年同第三〇號、三六年同第一九號、三七年同第一七號、四一年同第二〇號、四二年同第二九號、四五年同第四二號、大正二年同第一八號、同第三〇號、三年同第九號、同第六一號改正

岡山縣立矢掛中學校學則

縣令第二百二十四號(明治三十四年十一月七日)
(沿革)明治三十五年縣令第三〇號、三六年同第一九號、三七年同第一七號、

第三章 普通教育 第一節 小學校

四一年同第二一號、四二年同第二九號、四五年同第四〇號、大正二年同第一九號、三年同第一〇號、同第六二號、四年同第一七號
改正

岡山縣立矢掛中學校學則左ノ通定メ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス
(生徒ノ定員紀念日ノ外ハ縣令第六十六號ト全同ニ付省略ス)

生徒定員 六百名
紀念日 五月五日

第三節 高等女學校

●岡山縣立岡山高等女學校學則

縣令第十七號、明治三十八年三月二十四日

(沿革)明治三十九年縣令第一八號、四一年同第二四號、四四年同第七號、四五年同第三六號、大正二年同第二三號、同第三二號、三年同第四號、同第二三號、同第六七號、四年同第一八號、同第三九號改正

明治三十四年十一月二十九日岡山縣令第百二十九號岡山縣立岡山高等女學校學則左ノ通改正ス

岡山縣立岡山高等女學校學則
第一章 總則

一、本科

學科種別	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
	時數	教授課程	時數	教授課程	時數	教授課程	時數	教授課程
修身	二	生徒心得、教育ニ關スル	二	同上	二	戊申詔書、作法、道德ノ要領、我國道德ノ特質	二	同上
國語	六	六講讀、作文、習字	六	六講讀、作文、文法、習字	五	同上	四	四講讀、作文、習字
英語	三	發音、綴方、讀方及譯解、話方及作文、書取、習字	三	讀方及譯解、話方及作文、書取、習字	三	讀方及譯解、話方及作文、書取	三	同上
歴史	一	日本歴史	二	同上	一	東洋歴史	二	西洋歴史、日本歴史
地理	二	日本地理	一	滿洲地理、世界地理	一	世界地理	一	地理概説
算術	二	算術	二	同上	二	同上	二	算術、幾何初步
理科	二	植物、動物、生理及衛生	二	同上	二	化學及礦物、物理	一	同上
圖畫	一	寫生畫、臨畫、考案畫	一	同上	一	同上	一	寫生畫、考案畫
家事	六	縫針、裁方、縫ヒ方、繕ヒ方、服地	六	同上及ヒミシノ用法	三	家内ノ整理、家事衛生、飲食物ノ調理、實習	三	育兒、養老及看護、家事經濟、家計簿記實習
音樂	二	單音唱歌	二	同上	一	同上及複音唱歌	一	同上
體育	三	體操、教練及遊戲	三	同上	三	同上	三	同上
手工藝	二	同上	二	同上	二	刺繍、藥物	二	教育ノ目的、心ノ狀態、教育ノ方法
合計	三〇		三二		三二		三二	

本表ノ英語及手藝ハ隨意科トシ之ヲ修メサルモノニハ其時間ニ於テ裁縫ヲ課ス

二、補習科

學科種別	每週教授時數	課程
修身	一	道德ノ要領、作法

第三章 普通教育 第三節 高等女學校

第一條 本校ハ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令及同三十四年文部省令第四號高等女學校令施行規則ニ依リ本科及補習科ヲ置ク

第二條 本校生徒ノ定員ヲ八百名トス

第二條ノ二 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス
第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日迄
第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日迄
第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄

第二章 休業日

第三條 休業日ハ左ノ如シ
日曜日
祝日、大祭日
本校紀念日 五月十一日
皇太后陛下御誕辰 七月二十日ヨリ八月三十一日ニ至ル
夏季休業日 十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル
冬季休業日 學年末ヨリ次學年ノ始メニ涉リ成績調査卒業式執行生徒募集等ノ爲メ十日以内授業ヲ休止ス

第三章 修業年限學科課程及教授時數

第四條 本校ノ修業年限ハ本科ヲ四ヶ年補習科ヲ一ヶ年トス

第五條 學科課程及每週教授時數ハ左ノ如シ

國語	六	講讀、作文、作歌、習字、漢文
英語	二	讀方、釋解、會話、作文
算術	一	算術、珠算
理科	一	家事、應用理科
縫紉	三	實習
裁縫	一五	縫方、裁方、繕方、ミシン使用法
音樂	一	唱歌及樂器使用法
體操	二	體操教練、遊戲
美術	二	編物、刺繡
合計	三四	

本表中修身ヲ必修科トシ其他ヲ隨意科トス隨意科中修メサル學科ノ時間ハ適宜他學科ニ配當ス又各學科ノ教授時數ハ時宜ニヨリ増減スルコトアルヘシ

第四章 修了及卒業

第六條 各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ操行學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

但修身歴史地理理科家事及教育ニ就キテハ試驗ヲ行フコトアルヘシ

第七條 學校長ニ於テ本科卒業セリト認メタルモノニハ第一號書式ノ卒業證書ヲ授與シ補習科ヲ修了セリト認メタルモノニハ第一其ノ二號書式ノ修業證書ヲ授與ス

第五章 入學在學休學及退學

第八條 入學ハ親權者又ハ後見人ニ於テ第二號書式ニ依リ學校長ニ願出ツヘシ但第二學年以上ニ編入セシメント欲スル者ハ本人ノ戶籍抄本ヲ添付スヘシ

第八條ノ二 第一學年入學志願者中等常小學校卒業シタルモノノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試驗ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ
前項ノ試驗ハ國語算術日本歴史地理理科ノ五科目ニ就キ中等常小學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フ
第九條 入學ノ際試驗ヲ受クヘキモノハ試驗ノ當日手數料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ
但既納ノ手數料ハ如何ナル事故アルモノ之ヲ返付セス
第十條 入學ヲ許サレタルモノノ親權者又ハ後見人ハ保證人トシテ第三號書式ノ在學證書ヲ學校長ニ差出スヘシ
保證人ノ住所學校ノ距離コト一里以外ニアルトキハ別ニ壹里以内ニ居住シ一家計ヲ立ツル成年以上ノモノヲ以テ代理保證人ニ定メ在學證書ニ連

署セシムヘシ

學校長ニ於テ代理保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ改定セシムルコトアルヘシ

第十一條 保證人又ハ代理保證人轉居シ又ハ改氏名改印等ヲシタルトキハ其都度學校長ニ届出ツヘシ

保證人又ハ代理保證人ノ死亡變更又ハ代理保證人一里以外ニ轉居シタルトキハ更ニ之ヲ定メ在學證書ヲ更新スヘシ

第十二條 生徒死亡シ又ハ轉籍、轉居、改氏名等身上ニ移動シ生シタルトキハ保證人又ハ代理保證人ヨリ學校長ニ届出ツヘシ

第十三條 生徒疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ依リ退學又ハ轉學セントスルトキハ其事由ヲ詳記シテ保證人ヨリ學校長ニ願出ツヘシ

第十四條 生徒疾病ニ罹リ三ヶ月以内ニ全癒スル見込ナシト認ムルトキハ學校長ニ於テ該學年間休學ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 操行學業ノ優秀拔群ナルモノ若クハ善良ノ行爲アリテ他生徒ノ模範トナルヘキモノハ之ヲ褒賞ス

第十六條 操行學業優等ニシテ衆生ノ模範タルモノハ特待生トス

特待生ハ三學年以上ノ生徒ニ就キテ選拔シ其期限ハ一學年間トス
特待生ニシテ其ノ資格ニ缺クル所アリト認ムルトキハ其ノ特待ヲ解ク

第十七條 校則ヲ犯シタルモノ又ハ不良ノ行爲アルモノハ其ノ輕重ニ從ヒ左ノ懲戒ヲ加フ

戒飭 謹慎 停學 放校

第十八條 授業料ハ本科年額金貳拾圓トシ左ノ三期ニ分納セシム補習科ハ其ノ半額トス

第七章 授業料

第三節 普通教育 第三節 高等女學校

第一期 四月ヨリ八月マテ 金七圓 納入期 四月八日ヨリ同月二

第二期 九月ヨリ十二月マテ 金七圓 納入期 九月一日ヨリ同月二

第三期 一月ヨリ三月マテ 金六圓 納入期 一月八日ヨリ同月二

第十八條ノ二 生徒ノ退學又ハ轉學ノ場合ニ於テハ前條ノ納入期日ニ至ラサルモノ其ノ期ノ授業料ヲ徵收スヘシ

第十九條 定期内ニ授業料ヲ納付セサルモノハ未納中授業ヲ停止シ其ノ延滞三十日以上ニ及フトキハ學籍ヲ除ク

第二十條 依リ學籍ヲ除キタル場合ニハ授業料ヲ追徵セス

第二十一條 授業料測定期日後ニ於テ第十四條ニ依リ休學ヲ命シタル者ニ對シテハ其ノ期ノ授業料ヲ徵收シ次期ヨリ之ヲ徵收セス

第二十二條 相當ノ事故ニ依リ入學許可後一日モ出席セシテ二週間以内ニ退學スル者ニ對シテハ授業料ヲ徵收セス

第二十三條 中途入學又ハ他ノ學校ヨリ轉學セシモノハ其ノ入學セシ期ヨリ授業料ヲ徵收ス但岡山縣立學校ヨリ轉學セシモノニシテ既ニ其ノ以前在學校ニ於テ納付済ノモノハ其ノ期ノ授業料ヲ徵收セス

第二十四條 職地ニ於ケル勤務ニ起因シテ死亡シタルモノ、遺族若クハ戰時事變ニ際シ出征又ハ應召シタルモノ、家族ニシテ入學スルモノニ對シテハ其事由ニ依リ學校長ニ於テ授業料ヲ減免スルコトヲ得

第二十五條 (削除)

第八章 通學及寄宿
第二十四條 遠隔ニシテ自宅ヨリ通學スルヲ得サル生徒ハ校内ニ寄宿セシム
但家族親類代理保證人其他之ニ準スル適當ノ監督者アリテ教育上不都合ナシト認ムル家ニ寄宿シテ通學セント欲スルモノハ學校長ニ於テ協議ノ上之ヲ許スコトアルヘシ

第三章 普通教育 第三節 高等女學校

- 第二十五條 自宅遠隔ナラサルモ管理上必要ト認ムル者ハ寄宿舎ニ入ラシムルコトアルヘシ
- 第二十六條 寄宿者生徒ニハ食料並ニ薪炭油入浴等ニ關スル費用ヲ毎月實費ヲ以テ一定ノ期日ニ納入セシム
- 第二十七條 夏季及冬季休業中ハ寄宿舎生徒ヲ歸郷セシム
- 第九章 附則
- 第二十八條 本則施行ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十九條 本則ハ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス
- 第三十條 明治三十四年十一月岡山縣令第二百二十九號岡山縣立岡山高等女學校學則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 第一號書式 用紙鳥ノ子 縦七寸五分 横一尺二寸

校印
 族籍
 氏
 名
 生年月日

番 號
 右本校所定ノ本科(修業年限何箇年)ノ教科ヲ履修シ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス
 年 月 日
 岡山縣立岡山高等女學校長 位勳 氏 名 圖
 第一號書式其ノ二
 修業證書
 校印
 族籍
 氏
 名
 生年月日
 右本校所定ノ補習科ヲ修了セリ仍テ之ヲ證ス
 年 月 日
 岡山縣立岡山高等女學校長 位勳 氏 名 印

略 歴	卒業校名又ハ在學校名、年級	本籍、族別、某何女、姉妹等	現 住 地	生 年 月 日	姓 名
	何 學 校 卒 業	何府縣何郡市何町村大字何番地何香地何某何女、姉妹	何府縣何郡市何町村大字何、何香地	明治何年何月何日	何 某
	何 學 校 何 年 級			當何月何年	

右御校何年級へ入學致サセ度此段相願候也
 年 月 日

第三號書式 用紙美濃紙
 在學證書

岡山縣立岡山高等女學校長氏名殿
 何府縣何郡市何町村大字何番地
 華士族、平民、何某何女、姉妹又ハ戶主
 氏 名
 生年月日
 右ハ今般入學御差許相成候ニ付テハ御規則堅ク相守ラセ申スヘク尙本人
 在學中ノ事件ハ私一切引受申スヘク候也
 年 月 日

右保證人
 何府縣何郡市何町村大字何番地
 華士族、平民何職業
 親權者(後見人) 氏 名 印
 右代理保證人(保證人學校ヲ拒ル一里以內)
 岡山市大字何、何番地
 華士族平民、何職業
 氏 名 印
 生年月日

第三章 普通教育 第三節 高等女學校

本館何府縣何郡市何町村大字何番地
 現住地何府縣何郡市何町村大字何番地
 華士族平民何職業
 親權者(後見人) 氏 名 印

岡山縣立津山高等女學校學則

- 經令第二十二號(明治三十六年三月十五日)
- (沿革)明治三十七年經令第二一號、四一年同第二五號、四二年同第三四號、四三年同第一一號、四四年同第八號、四五年同第二六號、四六年同第二四號、同第三一號、三年同第一一號、同第一九號、同第六八號、四年同第四〇號改正
- 岡山縣立津山高等女學校學則左ノ通定ム
- 第一章 總則
- 第一條 本校ハ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令及明治三十四年文部省令第四號高等女學校令施行規則ニ依リ本科ヲ設ク
- 第二條 本校生徒ノ定員ヲ五百名トス
- 第二條ノ二 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス
- 第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日迄
- 第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日迄
- 第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄
- 第二章 休業日

第三章 普通教育 第三節 高等女學校

本校ノ休業日左ノ如シ

日曜日
大祭日
皇后陛下御誕辰
本校記念日
夏期休業 七月二十日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬期休業 十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル
學年末ヨリ次學年ノ始メニ涉リ成績調査卒業式執行生徒募集等ノ爲メ十日以内授業ヲ休止ス
第三章 學科課程及教授時數
第四條 學科課程及每週教授時數ハ左ノ如シ
但シ樂器使用及家事實習ハ無定時トシ一週三十四時ヲ超過セサル範圍ニ於テ左表ノ時間内若クハ時間外ニ之ヲ課ス

學科目	學年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二 生徒心得、教育勸語、道德ノ要領、作法	二 同上	二 戊申詔書、道德ノ要領、我國道德ノ特質、作法	二 同上
國語	六 講讀、作文、習字	六 講讀、作文及文法、習字	五 同上	五 講讀、作文、習字
英語	三 發音、綴字、讀方及書取、習字	三 讀方及譯解、話方及作文、書取習字	三 讀方及譯解、話方及作文、書取	三 同上
歴史地理	三 日本歴史	三 日本歴史、滿洲地理、世界地理	二 外國歴史、世界地理	三 外國歴史、日本歴史、地理概説
算術	二 算術	二 同上	二 同上	二 算術幾何初步
理科	二 植物、動物、生理及衛生	二 同上	二 礦物及化學物理	二 化學、物理
圖畫	一 寫生畫、臨畫、考案	一 同上	一 同上	一 寫生畫、考案畫
家事			三 家内ノ整理、家事衛生、飲食物ノ調理	三 育兒、養老及看病、家事簿記、實習

〔岡山〕

〔岡山〕

裁縫	音楽	體育	合計
六 運針、單衣、袴、四ツ身、四ツ身單衣	二 樂典、基本練習、歌	三 體操、遊戯	三〇
六 縮入、袴、縮入羽織、縮入羽織、前掛	二 同上	三 同上	三〇
六 女袴、單衣、袴、縮入羽織、縮入羽織、前掛、ズボン、下袴、前掛、ズボン	一 樂典、基本練習、歌	三 同上	三一

本表ノ英語ハ隨意科目トシ英語ヲ修メサルモノニハ其時間ニ於テ裁縫又ハ他ノ學科ヲ課ス
第四條 成績調査及證書
第五條 各學期末ニ於テ其ノ學期間ニ於ケル各生徒各學科ノ日課又ハ臨時試験ノ成績ヲ考査シ學年末ニ於テハ其ノ學年中各學期ノ成績ト出席日數トヲ參照シテ其ノ學年ノ課程ノ終了又ハ卒業ヲ判定ス
第六條 學校長ニ於テ本科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ第一號書式ノ卒業證書ヲ授與ス
第七條 入學、在學、退學
第七條 入學セント欲スルモノハ親權者又ハ後見人ニ於テ第二號書式ニヨリ學校長ニ願出ツヘシ但第二學年以上ニ編入セシメント欲スル者ハ本人ノ戸籍抄本ヲ添附スヘシ
第八條 入學ノ際試験ヲ受クヘキ者ハ試験ノ當日手數料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ但既納ノ手數料ハ如何ナル事故アルモ之ヲ返付セス
第九條 入學ヲ許サレタルモノ、親權者又ハ後見人ハ保證人トシテ第三號書式ノ在學證書ヲ學校長ニ差出スヘシ
保證人ニシテ本校所在地一里以外ニ住居スル者ハ代理保證人ヲ定メ在學證書ニ連署セシムヘシ
代理保證人ハ津山町内ニ住居シ一家計ヲ立ツル成年以上ノ者タルヘシ

第三章 普通教育 第三節 高等女學校

第十條 保證人又ハ代理保證人轉居シ又ハ改姓名改印等ヲナシタルトキハ其ノ都度學校長ニ届出ツヘシ
第十一條 保證人ニシテ其義務ヲ盡ササルトキ又ハ生徒ニシテ正當ノ理由ナク一ヶ月以上缺席シタル時ハ學籍ヲ削除スルコトアルヘシ
第十二條 生徒死亡シ又ハ改姓名ヲナシタルトキハ保證人又ハ代理保證人ヨリ學校長ニ届出ツヘシ
第十三條 生徒疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ依リ退學又ハ轉學セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シテ保證人ヨリ學校長ニ願出ツヘシ
第十四條 生徒疾病ニ罹リ三ヶ月以内ニ全癒スル見込ナシト認ムルトキハ學校長ニ於テ該學年間休學ヲ命スルコトアルヘシ
第十五條 學業優等ナル者又ハ善行アル者ハ之ヲ褒賞ス
第十六條 學業優等ニシテ衆生ノ模範タル者ハ特待生トス

第三章 普通教育 第三節 高等女學校

特待生ハ授業料ヲ徵收セズ

特待生ハ第三學年以上ノ生徒ニ就キテ選拔シ其ノ期限ハ一學年間トス

第十七條 教訓ニ適ハス又ハ不良ノ行爲アリタル者ハ其ノ輕重ニ從ヒ之ヲ懲戒ス

第十八條 懲戒ハ之ヲ分チテ戒備謹慎停學放校ノ四トス

第七章 授業料

第十九條 授業料ハ一學年金拾八圓トシ左ノ三期ニ分納セシム

但シ既納ノ授業料ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ返付セズ

第一期 四月ヨリ 納入期 四月八日ヨリ

第二期 八月マテ 納入期 同二十五日マテ

第三期 九月ヨリ 納入期 九月一日ヨリ

第十九條ノ二 生徒ノ退學又ハ轉學ノ場合ニ於テハ前條ノ納入期日ニ至ラサルモ其ノ期ノ授業料ヲ徵收スヘシ

第二十條 定期日內ニ授業料ヲ納付セサル者ハ未納中授業ヲ停止シ其滞納三十日以上ニ及フトキハ學籍ヲ除ク

前項學籍ヲ除キタル場合ニハ授業料ヲ追徵セズ
中途入學又ハ他ノ學校ヨリ轉學セシ者ハ其入學セシ期ヨリ授業料ヲ徵收ス但岡山縣立學校ヨリ轉學セシ者ニシテ既ニ其ノ以前在學學校ニ於テ納付済ノ者ハ其期ノ授業料ヲ徵收セズ
第二十一條 授業料調定期日後ニ於テ第十四條ニ依リ休學ヲ命シタル者ニ對シテハ其ノ期ノ授業料ヲ徵收シ次期ヨリ徵收セズ

本籍別(家長ノ職業、家長氏名及家長トノ關係)	現住地	生年月日	氏名
------------------------	-----	------	----

略歴

右御校何科第 學年ニ入學致サセ度此段相願候也

年月日 親權者又ハ後見人 氏名印

岡山縣立津山高等女學校校長氏名殿

第三號書式 用紙美濃紙 在學證書

何府縣何郡市何町村大字何々番地

何某何女姉妹又ハ戸主

參入印紙

生年月日 某

右ハ今般入學御差許相成候ニ付テハ御規則堅ク相守ラセ尙ホ本人在學中ノ事件ハ私一切引受可申候也

右保證人

何府縣何郡市何町村大字何々番地職業

年月日 親權者又ハ後見人 何

右代理保證人

津山町大字何々番地華士族平民職業

生年月日 何 某印

岡山縣立津山高等女學校校長氏名殿

● 高等女學校ニ在學スル女子ノ年

第四章 師範教育

相當ノ事故ニ依リ入學許可後一日モ出席セズシテ二週間以內ニ退學スル者ニ對シテハ授業料ヲ徵收セズ

第八章 通學及寄宿

第二十二條 遠隔ニシテ自宅ヨリ通學スルヲ得サル者又ハ管理上必要アリト認ムル者ハ校內ニ寄宿セシム但保證人ノ出願ニ依リ近親ノ家ヨリ通學セントスルモノハ學校長ニ於テ差支無シト認メタルモノニ限り許可スルコトアルヘシ

第二十三條 寄宿舍生徒ニハ食料並ニ薪炭油入浴等ニ關スル費用ヲ毎月實費ヲ以テ一定ノ期日ニ納入セシム

但生徒ヲシテ自炊セシムルナ例トス

第二十四條 夏期冬期休業中ハ寄宿舍生徒ニ歸郷ヲ命ス

第二十五條 此ノ學則ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第九章 附則

第一號書式 用紙鳥ノ子 豎七寸五分橫一尺二寸

卒業證書

印校 姓名

右本校所定ノ本科修業年限ノ教科ヲ履修シ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證明ス

割印 年月日 岡山縣立津山高等女學校校長位勳爵姓名圖

第二號書式 用紙美濃紙 入學願

紀ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル件

訓令第二十五號(明治三十三年四月八日)

郡市役所 町村役場 縣立高等女學校

高等女學校ニ在學スル女子ノ年記ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル時期ナリ故ニ其ノ生徒學業ノ成績ハ平素ニ於テ便宜之ヲ調査セシムルコトトシ時期ヲ定メテ一時ニ全學科目ノ試験ヲ行フコト勿カラシムヘシ又月經ノ間ハ其ノ生徒ニ限り體操科ヲ課セシメサルヲ要ス

第四章 師範教育

● 岡山縣師範學校規則

縣令第六號(大正二年二月二十一日)

(沿革)大正二年縣令第六號、三年同第五七號、四年同第一四號改正

岡山縣師範學校規則左記ノ通改正ス

岡山縣師範學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ師範教育令ニ基キ本縣小學校男教員タルヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條 本校ニハ本科第一部同第二部及小學校教員講習科ヲ置ク

第三條 本校生徒ノ定員ハ本科第一部三百二十人同第二部八十人小學校教員講習科百二十人トシ本科第一部ヲ八學級ニ同第二部ヲ二學級ニ小學校教員講習科ヲ三學級ニ編制ス

第二章 本科

第一節 學年學期及休業日

第四章 師範教育

第四條 學年ノ終始ヲ定ムルコト左ノ如シ

本科第一部

四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

本科第二部

九月一日ニ始マリ翌年八月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ分テテ左ノ三學期トス

本科第一部

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日迄

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄

本科第二部

第一學期 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

第二學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄

第三學期 同四月一日ヨリ八月三十一日迄

甲 號 表

學科目	學年及 時數		本科第一部			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	時數	時數
修身	二 教育ニ關スル勸語、道德ノ要領作法 師範學校生徒心得	一 教育ニ關スル勸語或申詔 道德ノ要領作法	一 教育ニ關スル勸語 倫理學ノ一班教授法	一 教師ノ心得 國民道德ノ特質 教授法	二	二
教育		二 心理 論理	四 教育ノ理論 教授法及保育法	三 近世教育史 教育制度學校衛生(三)教育 實習(九)	二	二
國語及漢文	六 國語(四)講讀作文文法 漢文(二)講讀	四 國語(二)講讀作文文法 漢文(二)講讀	三 國語(二)講讀作文教授法 漢文(一)講讀	二 國語(一)講讀作文教授法 漢文(一)講讀	三	二

教育實習上必要アルトキハ其ノ學級ニ限リ學校長ニ於テ前項ニ依ラス便
宜學期ノ區分ヲナスコトヲ得
第六條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ
一、日曜日
二、祝日大祭日
三、學校記念日 六月十七日
四、夏季休業 自七月二十日至八月三十一日
五、冬季休業 自十二月二十五日至一月七日
學年末ヨリ次學年ノ始ニ涉リ成績調査卒業式生徒募集等ノ爲メ十日以内
授業ヲ休止ス
第二節 學科課程及每週教授時數
第七條 本科第一部生徒ニ課スヘキ學科目ニ農業及商業ヲ加フ
第八條 學科課程及每週教授時數ハ本科第一部ニ就キテハ甲號表同第二部
ニ就キテハ乙號表ニ依ル

學科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	時數	時數
英語	三 發音綴字讀方及綴方 書方	三 讀方話方及綴方書方	三 讀方話方及綴方書方 文法	二 讀方話方及綴方書方 教授法	三	二
歷史	二 日本歷史	二 外國歷史	二 日本歷史 教授法	二 外國歷史 教授法	二	二
地理	二 日本地理	二 外國地理 自然地理	一 人文地理 教授法		二	二
數學	四 算術代數	三 代數及幾何附算術	三 代數及幾何附算術教授法	二 幾何附算術簿記珠算教授 法	二	二
博物	三 植物動物	二 動物生理通論生理礦物	一 礦物教授法		二	二
物理及化學		二 化學 實驗	三 化學物理 實驗教授法	四 化學物理 實驗教授法	二	二
法制及經濟				二 法制 經濟	二	二
習字	二 楷書 行書	一 行書平假名 黑板上ノ練習	一 草書平假名 黑板上ノ練習教授法		二	二
圖畫	三 圖畫(一)寫生畫 臨畫考案 畫幾何畫黑板上ノ練習	三 圖畫(一)寫生畫 考案畫幾 何畫黑板上ノ練習	三 圖畫(二)寫生畫 考案畫幾 何畫黑板上ノ練習教授法	三 圖畫(二)寫生畫 考案畫幾 何畫黑板上ノ練習教授法	三	三
手工	三 手工(一)竹細木工	三 手工(二) 木工	三 手工(一)木工 粘土石膏細 工教授法	三 手工(二)粘土 石膏細工金 工各種細工教授法	三	三
音樂	二 樂典 基本練習 單音唱歌	二 樂典基本練習 單音唱歌 樂器使用法	二 樂典基本練習 單音唱歌 樂器使用法	一 樂典單音唱歌 輪唱唱歌重音 唱歌樂器使用法 教授法	一	一
體操	五 體操教授遊戯擊劍柔術	五 同上	五 體操教授遊戯教授法擊劍 柔術	三 體操教授法擊劍柔術	五	三

第四章 師範教育

第四章 師範教育

六四

農	業	(一)栽培森林實習	(二)養蠶養畜土壤實習及實驗	(三)肥料農業經濟實習及實驗
商	業	(一)商事要項	(二)商業簿記	(三)商業簿記
計		三四	三四	三四

體操科中擊劍柔術ハ生徒ノ選擇ニ依リ執レカ一ナ課ス

乙 號 表

學科	學年及 時數	時數週	第 壹 學 年
修身	二	二	教育ニ關スル勸語及成申詔書、師範學校生徒心得、教師ノ心得國民道德ノ特質作法、教授法
教 育	一五	一五	心理、論理、教育ノ理論、教授法及保育法、歷史地理教授法、近世教育史、教育制度、學校管理法、學校衛生(七)教育實習(八)
國語及漢文	二	二	國語講習、作文、文法、教授法(書方ヲ含ム)漢文講讀
數 學	二	二	算術、簿記、教授法
博物物理及化學	三	三	博物ノ實驗及實習、教授法、物理化學ノ補習、實驗、教授法
法制及經濟	二	二	法制、經濟
圖 畫 手 工	三	三	寫生畫、考案畫、黑板練習、教授法(一)竹細工、粘土、石膏細工、木工、金工、各種細工、教授法(二)
音 樂	二	二	樂典、單音唱歌、樂器使用法、教授法
體 操	三	三	遊戲、體操教練、教授法
計	三四	三四	

第三節 學業成績調査

第九條 各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學力操行及試験ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム成績調査ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第十條 本科ヲ卒業シタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

校印 族 籍 氏 名 生年月日

右ハ本校ニ於テ師範學校本科第一部(第二部)ノ課程ヲ卒業セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス

岡山縣師範學校校長 位勳爵 氏 名 印

第十一條 學校長ニ於テ前條ノ卒業者ニ對シ小學校教員免許狀ノ授與ヲ知事ニ申請スル際ニハ其ノ人物材幹ニ關スル意見書ヲ添付スヘシ

第四節 入學休學退學及賞罰

第十二條 生徒募集ノ期日及員數等ハ其ノ都度學校長之ヲ廣告スヘシ

第十三條 入學志願者ハ本縣内ニ居住スル男子ニシテ其ノ年齡本科第一部ニアリテハ二十年以下同第二部ニアリテハ三十年以下タルヘシ

第十四條 入學志願者ハ左記入學願(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)及戶籍謄本ヲ添ヘ郡市役所ヲ經由シテ學校長ニ願出ツヘシ

本科第二部志願者ニシテ中學校ヲ卒業シタル者ハ前項書類ノ外在學中學業操行ニ關スル當該學校長ノ證明書ヲ添付スヘシ

入學志願者中師範學校規程第五十四條ノ二ニ該當スル者ハ前項書類ノ外更ニ其父又ハ母ノ履歷書ヲ添付スヘシ

第四章 師範教育

六五

第一號書式(用紙美濃紙)

入學願

某(志願者名)儀小學校教員志願ニ付御校本科第一部(第二部)(公)私(費)生トシテ入學致度別紙履歷書及戶籍謄本相添ヘ此段相願候也(本科第二部志願者ノ願書ニハ公)私(費)生トシテノ七字ヲ省キ履歷書ノ下ニ(中學校長推薦書)ノ七字ヲ加フ)

年 月 日 本籍道廳府縣郡市町村大字番地 現住所縣郡市町村大字番地 華士族平民職業 本人 氏 名 印 生年月日

本籍道廳府縣郡市町村大字番地 現住所縣郡市町村大字番地 華士族平民職業

親權者(後見人) 氏 名 印

親權者又ハ後見人ナキトキハ連署ニ及ハス)

年 月 日 市町村長 氏 名 印

道廳府縣華士族平民戶主又ハ戶主トノ續柄

氏 名 印 (假名ヲ附スヘシ) 生年月日

一、本 籍 道廳府縣郡市町村大字番地

第四章 師範教育

- 二、現住所 同上又ハ何々
 - 三、出生地 同上又ハ何々
 - 四、家庭ノ職業(他人ノ家ニ寄寓スルトキハ其ノ戸主又ハ家庭ノ職業ヲモ併セ記スヘシ)
 - 五、學業
 - 一、何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校ニ於テ又ハ何某ニ就キ何學科卒業又ハ修業(卒業證書ヲ添フヘシ)
 - 一、何年何月試験又ハ無試験檢定ニ依リ何免許狀ヲ受ク(免許狀寫ヲ添フヘシ)
 - 六、職業
 - 一、何年何月ヨリ何年何月迄何職ニ從事シ又ハ何學校、何教員勤務月俸何圓
 - 七、賞罰
 - 一、何年何月何々ノ廉ニ依リ何賞又ハ何罰ヲ受ク
 - 右ノ通相違無之候也
- 年 月 日 右
- 第十五條 學校長ハ入學志願者ニ就キ左ノ各號ニ依リ檢定選抜スルモノトス
- 一、身體検査
 - 二、人物考査
 - 三、學業試験
- 第十六條 身體検査ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體検査規程
- 第十七條 人物考査ハ本人ノ履歷家庭ノ調査及口頭試問等ノ方法ニ依リ之ヲ行フ

其儀今般御校へ入學許可相成候ニ就テハ在學中御規則等堅ク遵守シ卒業後ハ成規ノ通服務ノ義務ヲ全ウスヘク萬一半途退學ノ場合又ハ服務ノ義務ヲ全ウスルコト能ハサル場合ニ於テ學資金及授業費(私費生ニ關シテハ「學資金及」ノ四字ヲ省ク)ノ償還ヲ命セラレタルトキハ本人及保證人連帶ノ責ニ任シ即時辨償致スヘク且在學中本人身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切引受申スヘク候仍テ保證人連帶ヲ以テ誓約書差出シ候也

現住所 現住所 現住所

岡山縣師範學校長 氏 名殿

前記ノ保證人ハ一戸ヲ構ヘ身元確實ニシテ相當ノ資産ヲ有シ保證ノ責ニ任シ得ヘキ者ト認ム

年 月 日 市町村長 氏 名 印

第二十三條 保證人ハ本縣内ニ居住スル成年以上ノ男子ニシテ一戸ヲ構ヘ身元確實ニシテ相當ノ資産ヲ有シ保證ノ責ニ任シ得ヘキ者タルヘシ

第二十四條 保證人ノ住所學校ヲ距ルコト一里以外ニアルトキハ別ニ一里以内ニ居住スル者ヲ以テ代理保證人ニ定メ學校長ニ届出ツヘシ

代理保證人ハ前條ノ保證人ト同資格ヲ具フル者タルヘシ

第二十五條 學校長ニ於テ保證人又ハ代理保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第二十六條 保證人又ハ代理保證人轉居シ又ハ改氏名改印等ヲナシタルト

第四章 師範教育

- 第十八條 學業試験ヲ分チテ豫備試験本試験ノ二種トシ豫備試験ハ入學願書ヲ經由シタル各郡役所(岡山市ハ本校)ニ於テ之ヲ行ヒ本試験ハ本校ニ於テ之ヲ行フ但シ志願者ノ便宜ニ依リ其ノ所屬以外ノ箇所ニ於テ豫備試験ヲ受ケシムルコトヲ得
- 本科第一部入學志願者ニ關シテハ豫備試験ヲ行ハス
- 第十九條 豫備試験學科目ハ國語及算術トシ其ノ程度ハ修業年限三ケ年ノ高等小學校卒業ノ程度ニ依ル
- 第二十條 本試験ノ學科目ハ本科第一部ニアリテハ國語、算術、歴史、地理、理科、國畫トシ其程度ハ第十九條ニ同シク同部ニアリテハ修身、國語及漢文、英語、歴史、地理、數學、博物、物理及化學、習字、圖畫トシ中學校卒業程度ニ依ル但中學校ヲ卒業シタル者ニシテ左ノ資格ヲ有シ當該學校長ノ推薦シタル者ハ試験ヲ用ヒス本科第二部ニ入學セシムルコトアルヘシ
- 一 品行方正ニシテ體格強健ナルコト
 - 二 卒業試験ニ於ケル學業成績卒業者總數ノ五分ノ一以内ニ相當スル順位ニアリタルモノ
- 第二十一條 本科第二部志願者中中學校ヲ卒業シタル者ノ數募集人員ニ超過シタルトキハ學校長ノ見込ニ依リ其ノ他ノ志願者ヲ採用セサルコトアルヘシ
- 入學志願者中師範學校規程第五十四條ノ二ニ該當スル者ハ他ノ入學志願者ニ先チ入學ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第二十二條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ左式ノ誓約書ヲ學校長ニ差出スヘシ
- 參錢 誓約書 (用紙美濃紙)
- 印紙 (本人消印)
- キハ其ノ都度學校長ニ届出ツヘシ
- 保證人又ハ代理保證人死亡シ又ハ代理保證人一里以外ニ轉居シタルトキハ更ニ之ヲ定メ學校長ニ届出ツヘシ
- 第二十七條 生徒在學中兵役ニ服シ又ハ疾病ニ罹リ三箇月以内ニ全癒ノ見込ナシト認ムルトキハ學校長ニ於テ休學ヲ命スルコトヲ得休學期間ハ前段ニ對シテハ其ノ期間中後段ニ對シテハ一箇年以内トス
- 第二十八條 (削除)
- 第二十九條 生徒中操行學業ノ優良拔群ナルモノ若クハ特ニ善良ノ行爲アリテ他生徒ノ模範トスルニ足ル者アルトキハ之ヲ褒賞ス
- 第三十條 賞罰ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム
- 第五節 學資及授業費
- 第三十一條 本科第一部生徒ハ公費及私費トシ同第二部生徒ハ公費トス
- 本科第一部生徒中師範學校規程第五十四條ノ二ニ該當スル者ハ本人ノ希望ニ依リ公費トス
- 第三十二條 公費生ニハ學資トシテ毎月所定ノ金額ヲ給與シ食料被服等ノ費用ヲ支辨セシム但シ八月分ハ之ヲ給與セス
- 第三十三條 公費生疾病ニ罹リ外泊治療ヲ命シタル者ノ外ハ歸省ノ日數其ノ月内引續キ十五日以上ニ及フトキハ學資ノ半額ヲ減給シ全月ニ及フトキハ全額ヲ給與セス但シ外泊治療引續キ二箇月間全月ニ涉ルトキハ其ノ翌月ヨリ學資ヲ給與セス
- 休學又ハ停學ヲ命シタル者ハ其ノ間學資ヲ給與セス
- 第三十四條 授業費ノ金額ハ年額參拾圓トス
- 第三十五條 懲戒ニ依リ放校ニ處セラレタル者及師範學校規程第五十七條但書ニ依リ退學シタル者ニ對シテ償還セシムヘキ學資及授業費ノ金額ニ就テハ學校長ハ其ノ意見ヲ知事ニ具申スヘシ
- 第三十六條 學資ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第四章 師範教育

第六節 寄宿舎及生徒取締

第三十七條 生徒ハ總テ寄宿舎ニ入ルヘキモノトス但シ疾病其ノ他ノ事由アル者ハ學校長之ニ外泊ヲ命シ又ハ許可スルコトアルヘシ

第三十八條 夏冬季休業中ハ生徒ヲ歸郷セシム

第三十九條 寄宿舎ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第四十條 學校長ハ生徒取締ニ關スル規定ヲ設ケ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三章 講習科

第四十一條 小學校教員講習科ハ之ヲ甲乙二種トシ甲種講習科ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲナスモノトシ乙種講習科ハ尋常小

學校本科正教員ヲラントスル者ニ必要ナル講習ヲナスモノトス

第四十二條 甲種講習科ノ學科目期間時間入學資格各郡市選抜人員等ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

學校長ニ於テ前項ノ事項ヲ定メタルトキハ必要ナル事項ヲ記載シテ之ヲ郡市長ニ通知スヘシ

郡市長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ適當ノ者ヲ選定シ本人履歷書ヲ添ヘ學校長ニ通知スヘシ

第四十三條 乙種講習科ノ講習期間ハ二箇年トス其ノ學科目程度及每週教授時數ハ左表ノ如シ

科目	學年及 時數		第一學年	第二學年
	時數	每週		
修身	二	道徳ノ要旨作法	同上	同上
教育	三	教育ノ理論	六	教授法及學校管理法ノ大要(三) 教育實習(三)
國語	七	普通文及小學校教科用讀本ノ講讀並文法、作文、習字	六	同上
算術	四	整數、分數、小數、諸等數	四	歩合算、比例、求積珠算(加減 乘除)
歷史	二	日本歷史ノ大要	一	同上
地理	二	日本地理ノ大要	二	外國地理ノ大要
理科	五	博物、物理、化學ノ大要	五	同上
圖畫	二	自在畫	二	同上
手工	一	手工ノ大要	二	同上
音樂	二	唱歌、樂器使用法	二	同上
體操	四	遊戲、體操教練	三	同上
計	三四		三四	

(岡山學會)

第四十四條 乙種講習科入學志願者ノ年齡ハ十五年以上三十年以下ニシテ

在學中徵兵ニ關係ナキ者タルヘシ

第四十五條 乙種講習科入學志願者ノ豫備試驗ノ學科目ハ國語、算術トシ

本試驗ノ學科目ハ國語、算術、歷史、地理、理科、圖畫トシ其ノ程度ハ尋常小學校准教員試驗檢定ノ程度ニ依ル

第四十六條 講習科ヲ終了シタル者ニハ甲種ニアリテハ第一號書式乙種ニアリテハ第二號書式ノ講習證書ヲ授與ス

第一號書式

講習證書

岡山縣何郡(市)何小學校調導(准調導) 氏 名

校印

何科

何科

右ハ本校甲種講習科規程ニ依リ何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何日間

前記ノ科目ニ就キ講習セシコトヲ證ス

年 月 日

岡山縣師範學校長位勳爵 氏 名 印

番 號

第二號書式

講習證書

校印

族 籍

氏 名

第四章 師範教育

右ハ本校乙種講習科規程ニ依リ其ノ課程ヲ修了セシコトヲ證ス

年 月 日

岡山縣師範學校長位勳爵 氏 名 印

番 號

第四十七條 乙種講習科ノ講習證書ヲ得タル者ニハ學校長ノ具申ニヨリ檢

定ノ上尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ授與ス但シ檢定ノ場合ニ於テハ小學校令施行規則第百十三條ノ規定ヲ適用ス

第四十八條 前條ノ檢定ニ合格シタル者ハ二箇年間本縣内ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スル義務アルモノトス

第四十九條 乙種講習科生徒ニハ學資トシテ所定ノ金額ヲ給與シ總テ寄宿舎ニ入ラシム

第五十條 乙種講習科ノ學年終始學期ハ本科第一部ノ規定ヲ休業日學業成績調査人學休學退學賞罰學費授業費及其ノ償還等ニ關シテハ本章ニ規定スルモノ、外本科ノ規定ヲ準用ス

第四章 附屬小學校

第五十一條 附屬小學校ハ小學校教育ノ方法ヲ研究シ本校生徒ヲシテ教育ヲ實習セシムル所トス

第五十二條 高等小學校ノ修業年限ハ三箇年トス

第五十三條 尋常小學校ノ教科ニ手工ヲ高等小學校ノ教科ニ手工農業及商業ヲ加フ

第五十四條 尋常小學校若ハ高等小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタル者ニ

第四章 師範教育

ハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書

校印

族籍

氏名

生年月日

本校附屬小學校ニ於テ尋常(高等)小學校(修業年限何箇年)ノ教科ヲ卒業セシコトヲ證ス

年月日

岡山縣師範學校長位勳爵 氏名印

香號

各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ左式ノ修業證書ヲ授與ス

修業證書

族籍

氏名

生年月日

本校附屬小學校ニ於テ尋常高等小學校第何學年ノ課程ヲ修了セシコトヲ證ス

年月日

入學願 (用紙半紙)

岡山縣師範學校印

番號

數學年ノ兒童チ一學級ニ編制シタルトキ其ノ學級ニ於テ一學年間學習セシ者ニハ左式ノ學習證書ヲ授與ス

學習證書

族籍

氏名

生年月日

本校附屬小學校ニ於テ尋常(高等)小學校第何々學年ヲ以テ編制シタル學級ニ於テ何學年間學習セシコトヲ證ス

年月日

岡山縣師範學校印

香號

第五十五條 學年ノ終始學期及休業日ハ本校本科第一部ノ例ニ準ス

第五十六條 兒童ノ定員ハ凡ソ七百五十人トシ之ヲ十五學級ニ編制ス

第五十七條 教科用圖書ハ本縣小學校教科用圖書ニ依ル

第五十八條 入學ノ時期ハ學年ノ始トス但シ缺員アルトキハ臨時入學ヲ許スルコトアルヘシ

第五十九條 兒童ハ入學セシメントスルトキハ保護者ニ於テ左式ノ願書ヲ認メ現住地市町村長ノ證明ヲ得テ學校長ニ願出ツヘシ

兒	
氏名	
生年月日	
族籍及戶主又ハ戶主トノ續柄	
本籍	

保	
氏名	
住所	
職業	
兒童トノ關係	

童	
住所	
入學前經歷	

者	
戶主氏名	

右御校附屬小學校尋常(高等)科第何學年へ入學致サセ度御許可ノ上ハ御規則堅ク守ラセ申スヘク此段相願候也

右保護者

氏

名印

岡山縣師範學校長 氏名

第六十條 兒童ヲ退學セシメントスルトキハ保護者ヨリ理由ヲ詳記シテ學校長ニ願出ツヘシ

第六十一條 高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ニシテ無届缺席一月以上ニ及フ者ハ學籍ヲ削除ス

第六十二條 高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ノ保護者ハ毎月始業日ヨリ五日以内ニ授業料金貳拾五錢ヲ納付スヘシ

第六十三條 學校ノ休業出席停止又ハ缺席全月ニ涉ルトキハ其月ノ授業料ヲ徴收セス

第六十四條 附屬小學校ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第五章 附則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ施行ス

岡山縣女子師範學校規則

縣令第一號(大正二年一月十三日)

(沿革)大正二年縣令第六七號、三年同第五八號、四年同第九號改正

岡山縣女子師範學校規則左記ノ通改正ス

岡山縣女子師範學校規則

第一章 總則

第四章 師範教育

第一條 本校ハ師範教育令ニ基キ本縣小學校女教員タルヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條 本校ニハ本科第一部同第二部及小學校教員講習科ヲ置ク

第三條 本校生徒ノ定員ハ本科第一部百六十人同第二部四十人小學校教員講習科百二十人トシ本科第一部ヲ四學級ニ同第二部チ一學級ニ小學校教員講習科ヲ三學級ニ編制ス

第二章 本科

第一節 學年學期及休業日

第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日迄トシ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日迄トシ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄トス

第六條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、日曜日

二、祝日、大祭日

三、皇后陛下御誕辰

四、學校紀念日 五月二十八日

五、夏季休業 自七月二十日至八月三十一日

第四章 師範教育

六、冬季休業 自十二月二十五日至一月七日
 學年末ヨリ次學年ノ始メニ涉リ成績調査卒業式生徒募集等ノ爲メ十日
 以內授業ヲ休止ス

第二節 修業年限學科課程及每週教授時數

甲號表

學科目	學年及時數		第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
	每週	時數	每週	時數	每週	時數	每週	時數	每週	時數
修身	二	二	一	一	一	一	二	二	二	二
教育	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	六	六	四	四	三	三	二	二	二	二
歷史	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
地理	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一
數學	三	三	三	三	二	二	二	二	二	二
博物	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一
物理及化學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
家事	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

第七條 本科第一部生徒ニ課スヘキ學科目ニ隨意科目トシテ英語ヲ加フ
 第八條 本科第二部ノ修業年限ハ一箇年トス
 第九條 學科課程及每週教授時數ハ本科第一部ニ就キテハ甲號表同第二部
 ニ就キテハ乙號表ニ依ル

學科目	學年及時數		第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
	每週	時數	每週	時數	每週	時數	每週	時數	每週	時數
裁縫	四	四	四	四	四	四	三	三	三	三
習字	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
圖畫	三	三	三	三	三	三	二	二	二	二
手工	三	三	三	三	三	三	二	二	二	二
音樂	二	二	二	二	二	二	一	一	一	一
體操	三	三	三	三	三	三	二	二	二	二
英語	三	三	三	三	三	三	二	二	二	二
計	三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一

乙號表

學科目	學年及時數		第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
	每週	時數	每週	時數	每週	時數	每週	時數	每週	時數
修身	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
教育	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	三	三	三	三	三	三	二	二	二	二

第四章 師範教育

數	三	算術、代數及幾何、教授法
博物學	三	小學校理科教材、博物實驗及實習、教授法、物理化學ノ補習實驗、教授法
物理及化學	一	縫方、裁方、繕方等教授法
裁縫	一	縫方、裁方、繕方等教授法
圖畫	三	圖畫(一)寫生畫、考案畫、黑板練習、教授法、手工(二)竹細工、粘土石膏細工、編物造花、各種細工、教授法
手工	三	圖畫(一)寫生畫、考案畫、黑板練習、教授法、手工(二)竹細工、粘土石膏細工、編物造花、各種細工、教授法
音樂	二	樂典、唱歌、樂器使用法、教授法
體操	三	遊戲、普通體操、教授法
計	三四	

第三節 學業成績調査

第十條 各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績及操行ヲ考査シテ之ヲ定ム但シ學科目ノ種類ニヨリ試驗ヲ行フコトヲ得

第十一條 本科ヲ卒業シタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書

校印

族籍

氏名

生年月日

右ハ本校ニ於テ女子師範學校本科第一部(第二部)ノ課程ヲ卒業セリ仍テ技ニ之ヲ證ス

ハ二十五年以下タルヘシ

第十五條 第一種志願者ハ薦舉願(第四號書式)ニ履歷書(第二號書式(身體検査書)(第三號書式)及戶籍謄本ヲ添ヘ其ノ薦舉ヲ受ケントスル郡市長ニ願出ツヘシ

第二種志願者ハ入學願(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)身體検査書(第三號書式)及戶籍謄本ヲ添ヘ郡市役所ナ經由シ學校長ニ願出ツヘシ
本科第二部志願者ニシテ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ高等女學校ニ類スル各種學校ヲ卒業シタル者ハ前項書類ノ外在學中ノ學業操行ニ關スル當該學校長ノ證明書ヲ添付スヘシ
入學志願者中師範學校規程第五十四條ノ二ニ該當スル者ハ前項書類ノ外更ニ其ノ父又ハ母ノ履歷書ヲ添付スヘシ
第一號書式(用紙美濃紙)

入學願

某(志願者名)儀小學校教員志願ニツキ御校本科第一部(第二部)(公(私)費生トシテ入學致度別紙履歷書身體検査書及戶籍謄本相添ヘ此段相願候也

(本科第二部志願者ノ願書ニハ「公(私)費生トシテ」ノ七字ヲ省ク)

本籍 道廳府縣郡市町村大字 番地

現住所 縣郡市町村大字 番地

華土族平民戶主又ハ戶主トノ續柄

本人 氏名 印

本籍 道廳府縣郡市町村大字 番地

現住所 縣郡市町村大字 番地

華土族平民職業

親權者(後見人) 氏名 印

岡山縣女子師範學校校長位勳爵 氏名 印

第十二條 學校長ニ於テ前條ノ卒業者ニ對シ小學校教員免許狀ノ授與ヲ知事ニ申請スル際ニハ其ノ人物材幹ニ關スル意見書ヲ添付スヘシ

第十三條 生徒ノ募集ハ左ノ二種トシ期日種別人員等ハ其都度學校長ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定ム

第一種 郡市町ノ薦舉ニ依ル者

第二種 一般志願ニ依ル者

第十四條 入學志願者ハ本縣居住者ニシテ夫ヲ有セス在學中家事ニ係累ナキ者ニシテ其ノ年齡本科第一部ニ在リテハ二十年以下同第二部ニ在リテ

(親權者又ハ後見人ナキトキハ連署ニ及ハス)

岡山縣女子師範學校校長 氏名 印

本人ハ品行上不和合ノ虞無之且夫ヲ有セス在學中家事ニ係累ナキモノト認ム

年 月 日 市町村長 氏名 印

第二號書式(用紙美濃紙)

道廳府縣華土族平民戶主又ハ戶主トノ續柄

漢字ニハ假名ヲ付スヘシ

一、本籍 道廳府縣 郡市 町村大字 番地

二、現住所 同上又ハ何々

三、出生地 同上又ハ何々

四、家庭ノ職業(他人ノ家ニ寄寓スルトキハ其ノ戶主又ハ家庭ノ職業ヲモ併セ記スヘシ)

五、學業

一何年何月ヨリ何年何月迄何所何學校ニ於テ又ハ何某ニ就キ何學科卒業又ハ修業(卒業證書寫ヲ添フヘシ)

一何年何月試驗又ハ無試驗檢定ニヨリ何免許狀ヲ受ク(免許狀寫ヲ添フヘシ)

六、職業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何職ニ從事シ又ハ何學校何教員勤務月俸何圓

七、賞罰

一何年何月何々ノ廉ニヨリ何賞又ハ何罰ヲ受ク

第四章 師範教育

右之通相違無之候也

第三號書式 身體検査書 氏名印 生年月日

- 一、身長 二、體重 三、胸圍 四、脊柱 五、體格 六、視力 七、聽力 八、眼疾 九、耳鼻疾 十、齒牙 十一、疾病 十二、痘十三、四肢障害ノ有無 年月日 検査 右之通相違無之候也

第四號書式(用紙美濃紙)

薦舉願

某(志願者名)儀小學校教員志願ニ付岡山縣女子師範學校本科第一部(第二部)(公(私)費生トシテ入學致度候條御薦舉相成度關係書類相添此段相願候也

年 月 日 本籍 道廳府縣郡市町村大字番地 現住所 縣郡市町村大字番地 華士族平民戸主又ハ戸主トノ續柄 本人 氏 名 印

位ニアリタルコト

第二十一條 本科第二部志願者中高等女學校ヲ卒業シタル者ノ數募集人員ニ超過シタル時ハ學校長ノ見込ニ依リ其ノ他ノ志願者ヲ採用セサルコトアルヘシ

入學志願者中師範學校規程第五十四條ノ二ニ該當スル者ハ他ノ入學志願者ニ先テ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

三 錢 本人 誓約書(用紙美濃紙) 印紙 消印

某儀今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ在學中御規則等堅ク遵守シ卒業後ハ成規ノ通服務ノ義務ヲ全ウスヘク萬一半途退學ノ場合又ハ服務ノ義務ヲ全ウスルコト能ハサル場合ニ於テ學資金及授業費(私費生ニ關シテハ「學資金及」ノ四字ヲ省ク)償還ヲ命セラレタルトキハ本人及保證人連帶ノ責ニ任シ即時辨償致スヘク且在學中本人身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切引受ケ申スヘク候仍テ保證人連署ヲ以テ誓約書差出候也

年 月 日 現住所 縣 郡市 町村大字 番地 本人 氏 名 印 道廳府縣華士族平民職業 現住所 縣 郡市 町村大字 番地 保證人 氏 名 印

岡山縣女子師範學校校長 氏 名 殿 前記ノ保證人ハ成規ノ資格ヲ具ヘ保證ノ責ニ任シ得ヘキモノト認ム 年 月 日 市町村長 氏 名 印

第四章 師範教育

本籍 道廳府縣郡市町村大字番地 現住所 縣郡市町村大字番地 華士族平民職業

(親權者又ハ後見人ナキトキハ連署ニ及ハス) 氏 名 印

第十六條 郡市長ハ學校長ノ通知ニ依リ第一種入學志願者ニ對シ其ノ身體人物學業ニ就キ適當ト認ムル者ヲ選定シ人物考定書身元調査書ヲ添ヘ學校長ニ薦舉スヘシ

第十七條 學校長ハ第一種郡市長ノ薦舉者及第二種一般志願者ニ就キ左ノ各號ニ依リ檢定選拔スルモノトス

- 一、身體検査 二、人物考査

三、學業試験

第十八條 身體検査ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體検査規程第四條第五條ニ準據シテ之ヲ行フ

第十九條 人物考査ハ本人ノ履歷家庭ノ調査及口頭試問等ノ方法ニヨリ之ヲ行フ

第二十條 學業試験ノ學科目及程度ハ本科第一部ニ在リテハ國語、算術、歴史、地理、理科、圖畫トシ修業年限三箇年ノ高等小學校卒業ノ程度ニ據リ同第二部ニアリテハ修身、國語、歴史、地理、理科、數學、圖畫、家事、音樂トシ修業年限四箇年ノ高等女學校卒業ノ程度ニ據ル但修業年限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者ニシテ左ノ資格ヲ有シ當該學校長ノ推薦シタル者ハ試験ヲ用ヒス本科第二部ニ入學セシムルコトアルヘシ

- 一、品行方正ニシテ體格強健ナルコト 二、卒業試験ニ於ケル學業成績卒業者總數ノ五分ノ一以內ニ相當スル順

第二十三條 保證人ハ本縣内ニ居住スル成年以上ノ男子ニシテ一戸ヲ構ヘ身元確實ニシテ相當ノ資産ヲ有シ保證ノ責ニ任シ得ヘキ者タルヘシ

第二十四條 保證人ノ住所學校ヲ距ルコト一里以外ニアルトキハ別ニ一里以內ニ居住スル者ヲ以テ代理保證人ニ定メ學校長ニ届出ツヘシ

代理保證人ハ前條ノ保證人ト同資格ヲ具フル者タルヘシ

第二十五條 學校長ニ於テ保證人又ハ代理保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第二十六條 保證人又ハ代理保證人轉居シ又ハ改氏名改印等ヲナシタルトキハ其都度學校長ニ届出ツヘシ

保證人又ハ代理保證人死亡シ又ハ代理保證人一里以外ニ轉居シタルトキハ更ニ之ヲ定メ學校長ニ届出ツヘシ

第二十七條 生徒在學中疾病ニ罹リタルトキハ其ノ症狀ニヨリ學校長ハ休學ヲ命スルコトヲ得休學ノ期間ハ一箇年以內トス

第二十八條 (削除)

第二十九條 生徒中操行學業ノ優良拔群ナル者若ハ特ニ善良ノ行爲アリテ他生徒ノ模範トスルニ足ル者アルトキハ之ヲ褒賞ス

第三十條 賞罰ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第五節 學資及授業費

第三十一條 本科第一部生徒ハ公費及私費トシ同第二部生徒ハ公費トス本科第一部生徒中師範學校規程第五十四條ノ二ニ該當スル者ハ本人ノ希望ニ依リ公費トス

第三十二條 公費ニハ學資トシテ毎月所定ノ金額ヲ給與シ食料被服等ノ費用ヲ支辨セシム但シ八月分ハ之ヲ給與セス

第三十三條 公費生疾病ニ罹リ外泊治療ヲ命シタル者ノ外ハ歸省ノ日數其ノ月内引續キ十五日以上ニ及フトキハ學資ノ半額ヲ減給ス全月ニ及フトキハ全額ヲ給與セス但シ外泊治療引續キ二箇月間全月ニ涉ルトキハ其ノ

第四章 師範教育

翌月ヨリ學費ヲ給與セス

休學又ハ停學ヲ命シタル者ニハ其ノ期間學費ヲ給與セス

第三十四條 授業費ノ金額ハ年額參拾圓トス

第三十五條 懲戒ニヨリ放校ニ處セラレタル者及自己ノ便宜ニヨリ退學シタル者ニ對シテ償還セシムヘキ學費及授業費ノ金額ニ就テハ學校長ハ其ノ意見ヲ知事ニ具申スヘシ

第三十六條 學費ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第六節 寄宿舎及生徒取締

第三十七條 生徒ハ總テ寄宿舎ニ入ルヘキモノトス但疾病其ノ他ノ事由アル者ハ學校長之ニ外泊ヲ命シ又ハ許可スルコトアルヘシ

第三十八條 夏冬季休業中ハ生徒ヲ歸郷セシム

第三十九條 寄宿舎ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第四十條 學校長ハ生徒取締ニ關スル規定ヲ設ケ知事ノ認可ヲ取クヘシ

第三章 講習科

第四十一條 小學校教員講習科ハ之ヲ甲種乙種及裁縫ノ三種ニ分ツ甲種講習科ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲナスモノトシ乙種

講習科ハ尋常小學校本科正教員タラントスル者ニ裁縫講習科ハ小學校裁縫科正教員タラントスル者ニ必要ナル講習ヲナスモノトス

第四十二條 甲種講習科ノ學科目期間時期入學資格各郡市選抜人員等ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

學校長ニ於テ前項ノ事項ヲ定メタルトキハ必要ナル事項ヲ記載シテ之ヲ郡市長ニ通知スヘシ

郡市長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ適當ノ者ヲ選定シ本人履歷書ヲ添ヘ學校長ニ通知スヘシ

裁縫講習科ノ學年終始及學期ハ本科ノ規定ヲ準用ス

第四十二條ノ二 乙種講習科ノ學年ハ九月一日ニ始マリ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ分テテ三學期トシ第一學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日迄トシ

第二學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄トシ

第三學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日迄トス

第四十三條 乙種講習科ノ講習期間ハ二箇年トス其ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ノ如シ

學科	學年及時數	
	第一學年	第二學年
修身	二 道德ノ要旨作法	一 同上
教育	三 教育ノ理論	六 教授法及學校管理法ノ大要(三)教育實習(三)
國語	七 普通文、及小學校教科用讀本ノ講讀、並文法、作文、習字	五 同上
算術	三 整数、分數、小數諸等數	四 歩合算、比例、求積、珠算(加減)(乘除)
歷史	二 日本歷史ノ大要	一 同上

學科目	學年及時數	
	第一學年	第二學年
地理	二 日本地理ノ大要	二 外國地理ノ大要
理科	四 博物、物理、化學ノ大要	四 同上
圖畫、手工	三 自在畫(一)手工ノ大要(一)	三 同上
音樂	二 唱歌、樂器使用法	一 同上
裁縫	三 通常衣服ノ裁方、縫方、繕方等	三 同上
體操	三 體操教練、遊戲	三 同上
計	三四	三四

裁縫講習科ノ講習期間ハ一箇年トス其ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ノ如シ

學科目	學年及時數	
	第一學年	第二學年
修身	二 道德ノ要旨作法	二 同上
教育	二 教育ノ大要	二 同上
裁縫	二五 普通衣服ノ裁縫教授法	二 同上
手藝	一 手藝ノ一斑	一 同上
圖畫	一 寫生、圖案、幾何畫	一 同上
體操	三 體操教練	三 同上
計	三四	三四

學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ國語算術ノ二科目ヲフルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ教授時數ハ教育以下ノ學科目ヨリ適宜配當スヘシ

第四章 師範教育

第四章 師範教育

但シ裁縫手藝ノ時數ハ二十二時ヲ減スルコトヲ得ス

第四十四條 乙種講習科入學志願者ノ年齡ハ十五年以上二十五年以下ニシテ夫ヲ有セス在學中家事ニ係累ナキ者タルヘシ

裁縫講習科入學志願者ノ年齡ハ十六年以上二十五年以下ニシテ夫ヲ有セス在學中家事ニ係累ナキ者タルヘシ

第四十五條 乙種講習科及裁縫講習科ノ入學ニ關シテハ本科ノ規定ヲ準用シ學業試驗ノ學科目及其ノ程度ハ乙種講習科ニ在リテハ尋常小學校准教員試驗檢定ノ程度ニ依リ裁縫講習科ニ在リテハ修業年限四箇年ノ實科高等女學校卒業ノ程度ニ依ル

修業年限四箇年ノ實科高等女學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認ムル者ニハ裁縫科ノ外學科試驗ヲ缺クコトアルヘシ

第四十六條 講習科ヲ終了シタル者ニハ甲種ニアリテハ第一號書式乙種及裁縫講習科ニアリテハ第二號書式ノ講習證書ヲ授與ス

講習證書

校印

岡山縣何郡(市)何學校訓導(准訓導) 族籍 氏 名

何科

右ハ本校甲種講習科規程ニ依リ何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何日間前記ノ科目ニ就キ講習セシコトヲ證ス

年 月 日

岡山縣女子師範學校長位勳爵 氏 名 印

第二號書式

第五十三條 尋常小學校及高等小學校ノ教科ニ手工ヲ加フ

第五十四條 尋常小學校若ハ高等小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書

校印

族籍 氏 名

本校附屬小學校ニ於テ尋常(高等)小學校(修業年限二箇年)ノ教科ヲ卒業セシコトヲ證ス

年 月 日

岡山縣女子師範學校長位勳爵 氏 名 印

各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ左式ノ修業證書ヲ授與ス

修業證書

族籍 氏 名

本校附屬尋常小學校ニ於テ尋常(高等)小學校第何學年ノ課程ヲ修了セシコトヲ證ス

年 月 日

入學願 (用紙半紙)

兒	
氏 名	生 年 月 日
族籍及戸主ノ姓名	戸主トシテノ姓名

第四章 師範教育

講習證書

校印

族籍 氏 名

右ハ本校乙種(裁縫)講習科規程ニヨリ其ノ課程ヲ修了セシコトヲ證ス

年 月 日

岡山縣女子師範學校長位勳爵 氏 名 印

第四十七條 乙種講習科ノ講習證書ヲ得タル者ニハ學校長ノ具申ニ依リ檢定ノ上尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ授與ス

裁縫講習科ノ講習證書ヲ得タルモノニハ學校長ノ具申ニ依リ檢定ノ上小學校裁縫科正教員ノ免許狀ヲ授與ス

前二項ノ檢定ノ場合ニハ小學校令施行規則第一百三條ノ規定ヲ適用ス

第四十八條 乙種講習科修了者ニシテ前條ノ檢定ニ合格シ尋常小學校本科正教員免許狀ヲ受ケタル者ハ二箇年間本縣内ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スル義務アルモノトス

第四十九條 乙種講習科生徒ニハ學資トシテ所定ノ金額ヲ給與シ總テ寄宿舎ニ入ラシム

第五十條 乙種講習科及裁縫講習科ノ休業日學業成績調査入學休學退學賞罰學費授業及其ノ償還等ニ關シテハ本章ニ規定スルモノ、外本科ノ規定ヲ準用ス

第四章 附屬小學校

第五十一條 附屬小學校ハ小學校教育ノ方法ヲ研究シ本校生徒ヲシテ教育ヲ實習セシムル所トス

第五十二條 高等小學校ノ修業年限ハ二箇年トス

岡山縣女子師範學校印

番 號

數學年ノ兒童チ一學級ニ編制シタルトキ其ノ學級ニ於テ一學年間學習セシ者ニハ左式ノ學習證書ヲ授與ス

學習證書

族籍 氏 名

本校附屬小學校ニ於テ尋常(高等)小學校第何々學年ヲ以テ編制シタル學級ニ於テ何學年間學習セシコトヲ證ス

年 月 日

岡山縣女子師範學校印

第五十五條 學年ノ終始學期及休業日ハ本校本科ノ例ニ準ス

第五十六條 兒童ノ定員ハ凡ソ五百人トシ之ヲ十學級ニ編制ス

第五十七條 教科用圖書ハ本縣小學校教科用圖書ニ依ル

第五十八條 入學ノ時期ハ學年ノ始トス

但缺員アルトキハ臨時入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第五十九條 兒童ヲ入學セシメントスルトキハ保護者ニ於テ左式ノ願書ヲ認メ現住地市町村長ノ證明ヲ得テ學校長ニ願出ツヘシ

保	
氏 名	住 所
職 業	

童	本籍	住所	入學前經歷

右御校附屬小學校尋常(高等)第何學年へ入學致サセ度御許可ノ上ハ御規則堅ク守ラセ申スヘク此段相願候也

右保護者

氏名印

岡山縣女子師範學校校長氏名殿

第六十條 兒童ヲ退學セシメストキハ保護者ヨリ理由ヲ詳記シテ學校長ニ願出ツヘシ

第六十一條 高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ニシテ無届缺席一箇月以上ニ及フ者ハ學籍ヲ削除ス

第六十二條 高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ノ保護者ハ毎月始業日ヨリ五日以内ニ授業料金貳拾五錢ヲ納付スヘシ

第六十三條 學校ノ休業出席停止又ハ缺席全月ニ渉ルトキハ其月ノ授業料ヲ徴收セス

入園願 (用紙半紙)

幼	氏名	生年月日	族籍、戸主又ハ戸主トノ關係	本籍住所
兒				

保	氏名	住所	職業	幼兒トノ關係
護				

同居ノ家族

戸主氏名

年 月 日

右保護者

氏

名印

右御校附屬幼稚園へ入園致サセ度御許可ノ上ハ御規則堅ク守ラセ申ヘク此段相願候也

岡山縣女子師範學校校長氏名殿

第七十三條 幼兒ヲ退園セシメントストキハ保護者ヨリ理由ヲ詳記シテ學校長ニ願出ツヘシ

第七十四條 六箇月以上保育ヲ受ケタル幼兒ニシテ退園ストキハ左式ノ保育證書ヲ與フ

保育證書

氏名

生年月日

本校附屬幼稚園ニ於テ何年何月ヨリ何年何月迄何年何月間保育シタルコトヲ證ス

年 月 日

岡山縣女子師範學校印

番 號

第七十五條 保育料ハ幼兒一人ニ付一ヶ月金貳拾五錢トシ毎月始業日ヨリ五日以内ニ保護者ヨリ之ヲ納付スヘシ

第七十六條 本園ノ休業又ハ幼兒ノ缺席全月ニ互ルトキハ其ノ月ノ保育料ヲ徴收セス

第六條 附則
本令第三條中ノ本科第一部學級編制ノ改正ハ大正三年四月一日ヨリ施行ス

●師範學校卒業生服務規則ノ細則

第五章 專門教育

者	兒童トノ關係	戸主氏名

第六十四條 附屬小學校ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第五節 附屬幼稚園

第六十五條 附屬幼稚園ハ幼兒ヲ保育シ兼テ幼兒保育ノ方法ヲ研究スル所トス

第六十六條 保育ノ項目ハ遊戲、唱歌、談話及手技トス

第六十七條 幼兒ノ年齡ハ滿三年ヨリ尋常小學校ニ就學スル迄トス

第六十八條 幼兒ノ定員ハ凡ソ七十五名トス

第六十九條 保育ノ時數ハ季節ニヨリ一日三時間以上五時間以下トス

第七十條 休業日ハ本校ノ例ニ依ル

第七十一條 幼兒入園ノ期ハ毎年四月トス但シ缺員アルトキハ臨時入園ヲ許可スルコトアルヘシ

第七十二條 幼兒ヲ入園セシメントストキハ保護者ニ於テ左式ノ願書ヲ認メ學校長ニ願出ツヘシ

縣令第十一號(明治三十八年二月二十五日)

師範學校卒業生服務規則ノ細則左ノ通定ム

師範學校卒業生服務規則ノ細則

第一條 卒業生ニシテ師範學校卒業生服務規則第二條ノ義務ヲ辛リ特別ノ事情ニヨリ他ノ道府縣内ニ就職スル爲メ縣知事ノ許可ヲ受ケンストスルモノハ詳細ニ其事情ヲ具陳スヘシ

第二條 卒業生ニシテ師範學校生徒服務規則第四條ニヨリ縣知事ノ指揮ヲ請フモノハ詳細ニ其事情ヲ具陳スヘシ其疾病ニ保ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付スルヲ要ス

第三條 前二條ノ場合ニ於テハ郡市長ハ本人ノ申出ニ就キ其事由ヲ精査シ意見書ヲ添付スヘシ

附 則

明治三十七年岡山縣令第十四號岡山縣師範學校規則中第七章第三十七條乃至第三十九條ヲ削除ス

第五節 專門教育

●專門學校入學者檢定手續

告示第百六十七號(明治三十七年四月十二日)

(沿革)明治四〇年告示第四六號改正

八三

第六章 實業教育 第一節 工業學校

專門學校入學者檢定手續左ノ通之レテ定ム

專門學校入學者檢定手續

第一 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校ヲ卒業セサル者ノ試験檢定ハ明治三十六年三月文部省令第十四號ノ規程ニ依リ毎年五月十日ヨリ岡山縣立岡山中學校ニ於テ之レヲ施行ス
但休日ニ當ルトキハ其翌日ヨリ之レヲ行フ

第二 專門學校入學者試験檢定ヲ受ケントスルモノハ毎年四月三十日迄ニ願書ニ左記ノ書類及受験手数料金貳圓ヲ添ヘ岡山縣立岡山中學校校長ニ出願スヘシ但既納ノ受験手数料ノ受驗者ノ都合ニ依リ試験ヲ受ケサルコトアルモ返付セス

一 履歷書

二 戶籍謄本

三 品行及現ニ中學校ニ在學セサルコトノ市町村長證明書

四 最近ノ撮影寫眞

第三 試験檢定合格者ニハ左式ノ證書ヲ交付スヘシ

試験檢定合格證書

府縣族籍

何

何年何月生

右ノ當校試験ノ成績ニ依リ中學校卒業ト同等ノ學力アルコトヲ證明ス

年月日

岡山縣立岡山中學校長

氏名印

第六章 實業教育

十日以内授業ヲ休止ス

第三章 學科課程並ニ授業時數

機械科學科課程表

學年	科目	每週授時數	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	一人倫道德ノ要旨	一	同上	同上	同上	同上
讀文	三 簡易ナル國語及漢文 漢字交リ文日用文	三	同上	同上	同上	同上
算術	六 代數	六	同上	同上	同上	同上
物理學	一 物理學大意	一	五 物理學			
化學	二 化學大意	二				
英語	三 綴字、讀方、譯解、習字	三	三 綴字、譯解、作文及文法大意	三	三	三
圖畫	六 自在畫、用器畫	六				
應用力學						
工具及製作法						
製造機械						
原動機						
工業經濟						
製圖						
體操	二 體操、教練	二	同上	同上	同上	同上
消防演習						

第六章 實業教育 第一節 工業學校

第一節 工業學校

岡山縣立工業學校學則

縣令第五號(明治四十四年一月二十八日)

(沿革)大正二年縣令第二〇號、同第四九號、三年同第一四號、同第六五號、四年同第一五號改正

明治三十四年十月岡山縣令第九十九號岡山縣立工業學校學則左ノ通改正シ

第八章ヲ除ク外明治四十四年四月一日ヨリ施行ス

岡山縣立工業學校學則

第一章 總則

第一條 本校ハ工業學校規程ニ依リ機械土木ノ二科ヲ置キ之ニ關スル須要ナル智識技能ヲ授ケ射ヲ卒業ニ從事スヘキ適良ナル實業者ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條 修業年限ハ各科四ケ年トス

第三條 本校生徒定員ヲ參百名トス

第二章 學年學期及休業日

第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ分テテ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日迄トシ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日迄トシ第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日迄トス

第六條 本校ノ休業日左ノ如シ

日曜日 祝日 大祭日 本校紀念日十月十日

夏期休業 自七月二十日 至八月三十一日

冬期休業 自十二月二十五日 至一月七日

學年末ヨリ次學年始メニ涉リ成績調査卒業式執行並ニ生徒募集等ノ爲メ

第七條 學科課程及每週授業時數ハ左ノ如シ

第六章 實業教育 第一節 工業學校

實	習	一六、五	一六、五	一六、五	二一、五
計		四一、五	四一、五	四一、五	四一、五

土木科學科課程表

科目	學年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	一人倫道德ノ要旨	一同上	一同上	一同上
讀文	三簡易ナル國語及漢文、漢字交リ文、日用文	三同上	二同上	一同上
算術	六代算術	六代幾何	四三角術	
物理	一物理學大意	五物理學		
化學	二化學大意			
英語	三綴字、讀方、譯解、習字	三讀方、譯解、作文及文法大意	三同上	三同上
圖畫	六自在畫、用器畫			
測量	一	二	二	二
應用力學		二	二	二
河海工		一	二	二
原動機			二	三
施行法		一	二	三
道路、鐵道、橋梁			三	三

衛生工學					三
工業經濟					一
製圖	二	二	二	二	二
體操	二體操、教練	二同上	二同上	二	二
實習	一四、五	一四、五	一五、五	一六、五	二消防演習上
計	四一、五	四一、五	四一、五	四一、五	四一、五

第四章 試驗

第八條 學期試驗ハ教員ノ見込ニヨリ學期內ニ於テ臨時ニ之ヲ施行ス
 學年試驗ハ學年末一定ノ時期ニ於テ之ヲ施行ス
 第九條 病氣又ハ止ムテ得サル事由ニ依リ學年試驗ヲ受クルコト能ハサルモノハ學校長ニ於テ平素ノ學業成績ヲ考査シ追試驗ヲ施行スルコトアルヘシ
 第十條 學校長ハ左ノ各號ノ一ツニ該當スルモノニハ學年試驗ヲ停止ス
 一、平素學業ノ成績不良ニシテ進級ノ見込ナシト認ムル者
 二、削除
 三、一學年內ニ於テ缺席日數七十日以上ニ渉ル者
 第十一條 教員ハ學期末並學年末ニ於テ受持學科ニ就キ各生徒ノ日課並試驗ノ成績ヲ考査シ其ノ成績表ヲ學校長ニ提出スヘシ
 第十二條 學校長ニ於テ本科ヲ卒業セリト認メタルモノニハ第一號書式ノ卒業證書ヲ授與ス
 第五章 入學 在學 退學
 第十三條 生徒ノ入學ハ每學年ノ始メニ於テ之ヲ許ス
 但缺員アルトキハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第六章 實業教育 第一節 工業學校

第十四條 子弟ヲ入學セシメントスル者ハ親權者又ハ後見人ヨリ第二號書式ニ本人ノ戶籍抄本ヲ添付シ學校長ニ提出スヘシ
 第十五條 本校ニ入學ヲ許スヘキモノハ品行方正身體健全家事ニ係累ナク年齢十四年以上ニシテ左記資格ノ一ツヲ有スル者若クハ之ト同一程度ノ國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫、以上諸學科ノ入學試驗ニ合格シタルモノタルヘシ
 一、明治三十三年八月勅令第三百四十四號小學校令ニ依ル修業年限四年ノ年ノ高等小學校卒業ノ者
 一、明治四十年三月勅令第五十二號改正小學校令ニ依ル高等小學校卒業又ハ第二學年修了以上ノ者
 第十五條ノ二 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ該學年相當ノ試驗ニ合格シタル者タルヘシ
 第十六條 入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行フ
 第十七條ノ二 第十五條本文後段ノ者ニ對スル評點ハ毎科十分五以上各科平均十分六以上ヲ得タルモノヲ以テ合格トス
 第十七條 入學ノ際試驗ヲ受クル者ハ試驗當日迄ニ手数料トシテ金貳拾錢

- 但既納ノ手数料ハ如何ナル事故アルモ之ヲ返付セズ
- 第十八條 入學ヲ許サレタル者ハ父兄又ハ後見人ハ保證人トシテ第三號書式ノ在學證書ヲ學校長ニ差出スヘシ
- 保證人ニシテ本校所在地一里以外ニ住居スルモノハ代理人ヲ定メ在學證書ニ連署セシムヘシ
- 代理人ハ本校所在地一里以内ニ住居シ一家計ヲ立ツル成年以上ノ者タルヘシ
- 第十九條 生徒ハ常ニ本校所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ
- 第二十條 生徒ヲシテ自宅以外ヨリ通學セシメントスルトキハ保證人又ハ代理人ニ於テ其居所ヲ定メ學校長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十一條 保證人又ハ代理人轉居シ又ハ改姓名若クハ改印等ヲナシタルトキハ其都度學校長ニ届出ツヘシ
- 保證人又ハ代理人死亡シ又ハ代理人遠隔ノ地ニ轉居シタルトキハ更ニ後任者ヲ定メ學校長ニ届出ツヘシ
- 第二十二條 生徒死亡又ハ改姓名ヲナシタルトキハ保證人又ハ代理人ヨリ學校長ニ届出ツヘシ
- 第二十三條 生徒疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ退學又ハ轉學セントスルトキハ其事由ヲ詳記シテ保證人ヨリ學校長ニ届出ツヘシ
- 第二十四條 生徒在學中兵役ニ服シ又ハ疾病ニ罹リ三ヶ月以内ニ全癒ノ見込ナシト認ムルトキハ學校長ニ於テ休學ヲ命スルコトヲ得休學期間ハ前段ニ對シテハ其ノ期間中後段ニ對シテハ一箇年間トス
- 第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ學校長ニ於テ退學ヲ命ス
 - 一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
 - 二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
 - 三、引續キ一箇年以上缺席シタル者

料ヲ追徴セズ

中途入學又ハ他ノ學校ヨリ轉學セシ者ハ其入學セシ期ヨリ授業料ヲ徴收ス但岡山縣立學校ヨリ轉學セシ者ニシテ既ニ其以前在學學校ニ於テ納付済ノ者ハ其ノ期ノ授業料ヲ徴收セズ

授業料調定期日後ニ於テ第二十四條ニ依リ休學ヲ命シタル者ニ對シテハ其ノ期ノ授業料ヲ徴收シ次期ヨリ之ヲ徴收セズ

相當ノ事故ニ依リ入學許可後一日モ出席セズシテ二週間以内ニ退學スル者ニ對シテハ授業料ヲ徴收セズ

第八章 寄宿舎

- 第三十二條 本校ニ寄宿舎ヲ設ケ志望ノ生徒ニ入舎ヲ許ス
- 第三十三條 入舎ヲ望ム者ハ保證人連署ノ上願書ヲ差出スヘシ
- 第三十四條 入舎ノ許可ヲ得タル者ハ毎月食費其他所定ノ費用ヲ毎月五日迄ニ納ムヘシ
- 第三十五條 生徒在舎中ハ寄宿舎規則ハ勿論總テ合監ノ指揮命令ニ從フヘシ
- 第三十六條 退舎セント欲スルモノハ其事由ヲ記シ保證人連署ノ上願書ヲ差出スヘシ

卒業證書

校印

右本校何々ノ學科ヲ履修シ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年 月 日 岡山縣立工業學校長 姓 名 印

香 號

(第二號書式)用紙美濃紙

第六章 實業教育 第二節 農業學校

- 四、正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
- 五、出席當ナラサル者
- 第六章 褒賞、特待、懲戒
- 第二十六條 學業優等ナル者又ハ善行アル者ハ之ヲ褒賞ス
- 第二十七條 學業優等ニシテ衆生ノ模範タル者ハ特待生トス
- 特待生ハ授業料ヲ徴收セズ
- 第二十八條 特待生ハ第二學年以上ノ生徒ニ就キテ選拔シ其期間ハ一ヶ年間トス特待生ニシテ其資格ニ不適當ナル廉アリト認ムルトキハ其特待ヲ解ク
- 第二十九條 校規ニ悖リ訓誨ニ服セズ其他生徒タルノ本分ヲ失スル者アルトキハ左ノ諸號ニヨリテ之ヲ懲戒ス
 - 一、戒 飭
 - 二、謹 慎
 - 三、停 學
 - 四、放 校
- 第七章 授業料
- 第三十條 授業料ハ一學年金拾五圓トシ左ノ三期ニ分納セシム
 - 第一期 四月ヨリ八月マテ 金五圓 納入期四月八日ヨリ同二十五日マテ
 - 第二期 九月ヨリ十二月マテ 金五圓 納入期九月一日ヨリ同二十五日マテ
 - 第三期 一月ヨリ三月マテ 金五圓 納入期一月八日ヨリ同二十五日マテ
- 既納ノ授業料ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ返付セズ
- 第三十條ノ二 生徒ノ退學又ハ轉學ノ場合ニ於テハ前條ノ納入期日ニ至ラサル其ノ期ノ授業料ヲ徴收スヘシ
- 第三十一條 定期日以内ニ授業料ヲ納付セサル者ハ未納中授業ヲ停止シ其滞納三十日以上ニ及フトキハ學籍ヲ除ク前項學籍ヲ除キタル場合ニハ授業

入學願

卒業又ハ在學セ ル學校名及年齢	本籍及某 男 弟	姓名
出生年月日	寄 留 地 名	當三月 年 月 日
生 年 月 日	略 歷	

右御校何年級へ入學爲致度此段相願候也

年 月 日

本籍 寄留 職業

志望學科第一何科 族 籍 職 業

第二何科受験場(地名記入)

岡山縣立工業學校長姓名殿 姓 名 印

(第三號書式)用紙美濃紙 在學證書

貼收入印紙

何縣何郡市何町村大字何々番地

華士族平民何某長次男又戸主 何

右今般入學御許相成候ニ付テハ御規則堅ク相守ラセ可申尙ホ本人在學中ノ事件ハ私一切引受可申候也

何縣何郡市何町村大字何々番地

父兄又ハ後見人 何

年 月 日 岡山縣立工業學校長姓名殿

第二節 農業學校

第六章 實業教育 第二節 農業學校

岡山縣立農學校學則

縣令第三十三號(大正二年四月十六日)

(沿革)大正三年縣令第一三號、同第六四號、四年同第二九號改正
岡山縣立農學校學則左記ノ通改正ス

岡山縣立農學校學則

第一章 總則

第一條 本校ハ農業學校規程甲種ノ程度ニ從ヒ農及獸醫ノ二科ヲ置キ之ニ
關スル實務學藝ヲ教授シ躬ヲ斯業ニ從事スヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的
トス

第二條 修業年限ハ各科四ヶ年トス

第三條 本校生徒定員ヲ三百七十名トス

第二章 學年學期及休業

九〇

第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ分チテ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十日迄ト
シ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日迄トシ第三學期ハ翌年一月一
日ヨリ三月三十一日迄トス

第六條 休業日ハ左ノ如シ

日曜日 祝日 大祭日 本校紀念日(四月二十五日)

夏期休業 自七月二十日此期間ニ於テ生徒ヲ數組ニ分チ交互ニ實習セ
シム

冬期休業 自十二月二十五日

學年末ヨリ次學年ノ始ニ涉リ成績調査卒業式執行生徒募集等ノ爲メ十
日以内授業ヲ休止ス

第三章 學科目程度及每週授業時數

第七條 學科目程度及每週授業時數ハ左ノ如シ

學科	學年	時數	第一學年	時數	第二學年	時數	第三學年	時數	第四學年
修身			一人倫道德ノ要旨	一同上	一同上	一同上	一同上		
讀書作文			五讀讀、作文、習字	三讀讀、作文	二同上	二同上	二同上		
外國語			三英語	三同上	二同上	二同上	二同上		
算術			四代數術	三幾何數	三幾何	一測量			
地理			二日本地理	二外國地理					
歷史			二重要ナル現象	二同上					
物理				二同上	一氣象				
化學			三無機化學	二有機化學			二分析		
博物			五動物、植物、礦物	二植物生理					
農具					二農具				
土壤肥料				二土壤	二肥料				
作物			二普通作物	四普通作物 四特用作物	四園藝作物	一作物汎論			
作物病蟲害					二作物害蟲	二作物病理			
養蠶				三栽桑、養蠶、解剖、 三生理	二採種、病理、製絲、 二検査	一蠶業汎論			
農産製造						二重要農産物製造			
畜産					二家畜飼養管理	三家禽、養蜂、			
農業土木					二畜舎、養蜂、 二土木業	二土木業			
經濟法規					二法制、經濟大意	四農業經濟、農業法規			
林學					二林學大意	二同上			
獸醫學						二獸醫學大意			
教育						二同上			
體操			二體操教練	二同上	二同上	二同上			
合計			二九	二九	二九	三一			
實驗及實習			無定時	無定時	無定時	無定時			

本表中教育科ハ隨意科目トス

第六章 實業教育 第二節 農業學校

學科	學年	時數	第一學年	時數	第二學年	時數	第三學年	時數	第四學年
修身		一人倫道德ノ要旨	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
讀書、作文		三講讀、作文、習字	二講讀、作文	二同上	二同上	二同上	二同上	二同上	二同上
外國語		三英語	二同上	二同上	二同上	二同上	二同上	二同上	二同上
數學		四算術、代數	三代數、幾何	一幾何					
地理歴史		二日本地理 二日本歴史	二外國地理 二外國歴史						
物理		二重要ナル現象	二同上						
化學		三無機化學	二有機化學						
博物		四動物、植物							
解剖學		二骨、韌帶、筋肉 二消化	二內臟、神經、脈管、 五官	一組織					
生理		二總論、血液、呼吸、 消化	二吸氣、分泌、排泄、 營養	二神經、五官、生殖					
藥物學			三總論、各論	二各論					
蹄鐵及蹄病		一總論、體形、姿勢 蹄病	二蹄生理、裝蹄法 蹄病						
外科			一總論	三總論、各論					
寄生動物				二外寄生、內寄生					
病理通論			二病理	一同上					
內科			一消化器	三呼吸器、循環器、泌 尿管、神經系、皮膚病					
					三血液病及體質病動物 疫、疫、疫				

外科手術				一總論					
衛生					二各論				
乳肉検査法					一汎論				
産科及眼科					二眼科				
細菌					一眼科				
畜産					二汎論				
馬學					二各論				
剖檢					一各論				
法規					一各論				
農學					一畜産法規				
體操		二體操、教練			二農學大意				
合計	二九		二同上		二同上				
實驗及實習	無定時		無定時		無定時				

但シ各學科ノ授業時間ハ實習ノ繁閑ニ依リ毎週授業時數農科第四學年ハ三十一時同科第一學年乃至第三學年及獸醫科各學年ハ二十九時ヲ超ヘサル範圍内ニ於テ特ニ之ヲ伸縮スルコトアルモ學年中ノ總時間數ハ減セサルモノトス

第四章 入學 退學

第八條 生徒ノ入學ハ每學年ノ始ニ於テ之ヲ許ス但シ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第九條 本校ニ入學ヲ許スヘキモノハ品行方正身體健全家事係累ナク年齢

第六章 實業教育 第二節 農業學校

十四年以上ニシテ左記資格ノ一ヲ有スル者若ハ之ト同一程度ノ國語、算術、日本歴史、地理、理科ノ入學試験ニ合格シタル者タルヘシ
一、明治三十三年八月勅令第三百四十四號小學校令ニ依ル修業年限四箇年ノ高等小學校卒業者

二、明治四十年三月勅令第五十二號改正小學校令ニ依ル高等小學校卒業又ハ第二學年修了以上ノ者

第九條ノ二 第九條本文後段ニ對スル評點ハ每科十分五以上各科平均十分六以上ヲ得タルモノヲ以テ合格トス

第十條 入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ試驗ノ上選拔スヘシ

第十一條 第二學年以上ニ入學ヲ許ス者ハ相當年齡ニ達シ前各學年ノ程度ニ於テ其各學科目ニ就キ試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタル者トス

第十二條 子弟ヲ入學セシメントスル者ハ親權者又ハ後見人ヨリ第二號書式ニ本人ノ戶籍抄本ヲ添付シ學校長ニ願出ツヘシ

第十三條 入學試驗手数料金五拾錢試驗ノ初日納付スヘシ但シ既納ノ手数料ハ如何ナル事由アルモ之ヲ返付セズ

第十四條 入學ヲ許サレタル者ノ親權者又ハ後見人ハ保證人トシテ(第三號書式)在學保證書ヲ學校長ニ差出スヘシ

第十五條 保證人ニシテ本校所在地以外ニ居住スル者ハ代理保證人ヲ定メ在學保證書ニ連署セシムヘシ

代理保證人ハ本校所在地一里以内ニ住居シ一家計ヲ立ツル成年以上ノ者タルヘシ

第十六條 保證人又ハ代理保證人轉居シ又ハ改氏名若クハ改印等ヲナシタルトキハ其都度學校長ニ願出ツヘシ

保證人又ハ代理保證人死亡シ又ハ代理保證人一里以外ノ地ニ轉居シタルトキハ更ニ後任者ヲ定メ學校長ニ願出ツヘシ

第十七條 生徒ハ常ニ本校所定ノ制服及制帽ヲ着用スヘシ

第十八條 生徒死亡又ハ改氏名ヲナシタルトキハ保證人又ハ代理保證人ヨリ學校長ニ願出ツヘシ

第十九條 生徒疾病又ハ止ムヲ得サル事由ニ依リ退學又ハ轉學セントスルトキハ其事由ヲ詳記シ保證人ヨリ學校長ニ願出ツヘシ

間トス

特待生ニシテ其資格ニ不適當ナル廉アリト認メタルトキハ其特待ヲ解ク

第二十九條 校規ニ悖リ訓誡ニ服セス其他生徒タル本分ヲ失スル者ハ左ノ各號ニ據リ之ヲ懲戒ス

- 一、戒飭
二、謹慎
三、停學
四、放校

第七章 授業料

第三十條 授業料ハ一學年金拾五圓トシ左ノ三期ニ分納セシム

Table with 3 columns: 第一期 (April), 第二期 (September), 第三期 (January). Rows show payment amounts and dates.

第三十一條 定期日內ニ授業料ヲ納付セサル者ハ滞納中授業ヲ停止シ其滞納三十日以上ニ及フトキハ學籍ヲ除ク

第三十二條 中途入學又ハ他ノ學校ヨリ轉學セシ者ハ其入學セシ期ヨリ授業料ヲ徵收ス但シ岡山縣立學校ヨリ轉學セシ者ニシテ既ニ其以前在學々校ニ於テ納付済ノ者ハ其期ノ授業料ヲ徵收セズ

授業料調定期日後ニ於テ第二十條ニ依リ休學ヲ命シタル者ニ對シテハ其ノ期ノ授業料ヲ徵收シ次期ヨリ之ヲ徵收セズ
相當ノ事故ニ依リ入學許可後一日モ出席セズシテ二週間以内ニ退學スル者ニ對シテハ授業料ヲ徵收セズ

第二十條 生徒在學中兵役ニ服シ又ハ疾病ニ罹リ三箇月以内ニ全癒ノ見込ナシト認ムルトキハ學校長ニ於テ休學ヲ命スルコトヲ得休學期間ハ前段ニ對シテハ其ノ期間中後段ニ對シテハ壹箇年以内トス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ學校長ニ於テ退學ヲ命ス

- 一、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
二、引續キ一ケ年以上缺席シタル者
三、正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者
四、出席常ナラサル者
五、品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

第二十二條 試驗ヲ分テ學期試驗及學年試驗トス學期試驗ハ教員ノ見込ニ依リ學期內ニ於テ隨時ニ學年試驗ハ學年末一定ノ時期ニ於テ之ヲ行フ

第二十三條 疾病又ハ止ムヲ得サル事由ニ依リ學年試驗ヲ受クルコト能ハサル者ハ學校長ニ於テ平素ノ成績ヲ考查シ追試驗ヲ行フコトアルヘシ

第二十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ學年試驗ヲ停止ス

- 一、平素學業ノ成績不良ニシテ進級ノ見込ナシト認ムルモノ
二、一學年內ニ於テ缺席日數七十日以上ニ涉ルモノ

第二十四條ノ二 教員ハ學期末並學年末ニ於テ受持學科ニ就キ各生徒ノ日課並試驗ノ成績ヲ考查シ其ノ成績表ヲ學校長ニ提出スヘシ

第二十五條 學校長ニ於テ本校ノ課程ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書(第一號書式)ヲ授與ス

第二十六條 學業優等ナル者又ハ善行アル者ハ之ヲ褒賞ス

第二十七條 學業操行優等ニシテ衆生ノ模範タル者ハ特待生トス

特待生ハ授業料ヲ徵收セズ

第二十八條 特待生ハ第二學年以上ノ生徒ニ就キテ選拔シ其期間ハ一學年

第八章 寄宿舎

第三十三條 自宅ヨリ通學スル能ハサル者並管理上必要ト認ムル者ハ寄宿舎ニ入ラシム但シ自宅又ハ寄宿舎外ヨリ通學セシメントスル者ハ保證人及代理保證人連署ノ上學校長ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三十四條 寄宿舎生徒ハ食料其他寄宿ニ關スル費用ヲ毎月所定ノ期日ニ納入スヘシ

第三十五條 本學期ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

本令ハ大正二年四月一日ヨリ施行ス但シ第七條中ノ學科課程ニ關シテハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ限り從來ノ學期ニ依ルコトヲ得

(第一號書式)用紙鳥ノ子 竪七寸五分 横一尺二寸

卒業證書 (Form with fields for school name, student name, and date)

Table with 4 columns: 略歴 (History), 出生年月日 (Date of Birth), 寄留地名 (Residence Name), 氏名 (Name)

右御校何科何年級へ入學致サセ度此段相願候也

年月日 寄留 本籍 親權者又ハ後見人 氏 名 〇
岡山縣立農學校校長何某殿
(第三號書式)用紙美濃紙
在學保證書

本籍 寄留 族籍何某何男何弟又ハ戸主 何 某

右今般人學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守ラセ可申向本人在學中ノ事件ハ一切引受ケ可申候也

年月日 本籍 寄留地 右親權者又ハ後見人 氏 名 〇 年月日生
現住所 右代理保證人 氏 名 〇 年月日生
岡山縣立農學校校長何某殿
前書代理保證人ハ本市町村内ニ住居シ成年以上ニシテ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也
年月日 市町村長 氏 名 〇

第一號書式

願書

市町縣 郡大字

香地

某

一種類(千馬等ノ別) 右(診察、治療、裝鐵、創跡、鬍毛等ノ別)願上度就キテハ御施行中死傷又ハ狂奔等ノ事故有之候共決シテ異議申問敷條御許可成被下度此段相願候也

年月日 岡山縣立農學校校長宛

右 何

某(調印)

願書

科 目	種 別	金 額
畜 術 科 各 種 物	一 同ニ付金拾錢以上金壹圓以内	
養 價 牛 馬	内 一 處 方ニ付金拾錢	
同 上 羊 犬	同 上 金五錢	
同 上 上	外用洗劑一瓶(磅入)金八錢	
同 上 上	外用擦劑一瓶(二百瓦入)金拾五錢	
同 上 上	外用軟膏大貝壹圓金五錢	
同 上 上	外用點眼水一瓶(十五瓦入)金四錢	
皮 下 注 射 牛 馬	一 同ニ付金貳拾錢	
同 上 羊 犬	一 同ニ付金拾五錢	

岡山縣立農學校病畜診斷治療及裝鐵創跡鬍毛ニ關スル規定

縣令第四十六號(明治四十年七月二十七日)

岡山縣立農學校病畜診斷治療及裝鐵創跡鬍毛ニ關スル規定左ノ通り相定ム

岡山縣立農學校病畜診斷治療及裝鐵創跡鬍毛ニ關スル規定

第一條 岡山縣立農學校ニ於テ課業ニ妨ケナキ場合ニ限リ病畜ノ診斷治療及裝鐵創跡鬍毛ヲ行フコトヲ得

第二條 病畜ノ診斷治療又ハ裝鐵創跡、鬍毛ヲ希望スルモノハ第一號書式ニ依リ學校長ノ許可ヲ受ケテ行フコトヲ得

第三條 病畜ノ治療又ハ裝鐵、創跡、鬍毛ヲ學校ニ於テ施行中避ケヘカラサル災害若ハ施術中死傷又ハ狂奔等ノ事故アルモ該畜主ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 病畜ニシテ學校ニ入院セシメタルトキハ之レカ飼料ハ委託者ニ於テ現品ヲ供給スルモノトス

第五條 入院中ノ患畜ニシテ全治又ハ斃死シタルトキハ學校長ヨリ其旨畜主ニ通知スヘシ

第六條 畜主ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ家畜ヲ引取ルヘシ

第七條 斃死ノ通知ヲ受ケタル畜主ニシテ限定ノ時間内ニ引取ラサルトキハ學校長ニ於テ相當ノ處分ヲナスコトヲ得此場合ニ於テ畜主ハ其處分ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八條 病畜往診ニ要スル費用ハ總テ畜主ニ於テ支辨スヘシ

第九條 施術料及藥價並ニ裝鐵、創跡、鬍毛ニ就キテハ別表ノ料金ヲ徴收ス

但シ學術實驗上特ニ必要ノ患畜ニ限リ學校長ニ於テ治療費ノ全部若ハ幾部ヲ免除スルコトアルヘシ

同 上 犬	一頭ニ付金拾錢
同 上 猫	一頭ニ付金拾錢
裝 鐵 料 牛 馬	一頭ニ付金貳拾錢
削 蹄 料 同 上	一頭ニ付金拾錢
剃 毛 料 馬	一頭ニ付 全身金五拾錢 半身金壹拾錢

第三節 商業學校

岡山縣商業學校規則

縣令第五十五號(明治三十二年六月二十九日)

(沿革)明治三十五年縣令第二〇號、同第四六號、三六年同第二六號、三七年同第二三號、三八年同第六號、四〇年同第二六號、同第六八號、四一年同第二七號、同第四一號、大正二年同第二一號、同第四九號、三年同第一二號、同第六號、四年同第二〇號改正

明治三十一年(六月)岡山縣令第三十一號岡山縣商業學校規則左ノ通改正ス

岡山縣商業學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ商業學校規程甲種ノ程度ニ從ヒ商業ニ關スル必要教育ヲ施ス

第二條 修業年限ヲ三ヶ年トス

第三條 本校生徒定員ヲ四百四十名トス

第二章 授業及休業日數

第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日迄

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄

第六條 休業日ハ左ノ如シ

祝日 大祭日 日曜日

夏季休業(自七月二十日 至八月三十一日)

冬季休業(自十二月二十五日 至一月七日)

學年末ヨリ次學年ノ始メニ涉リ成績調査卒業式執行設ニ生徒募集等ノ爲メ十日以内授業ヲ休止ス

第三章 學科目程度及每週教授時數

第七條 各學科目程度及每週授業時數左ノ如シ

修 身 道徳ノ要旨	第一 學 年	第二 學 年	第三 學 年	時 每 週 數
同上	同上	同上	同上	同上

國 語	讀 書、作文、習字	七 同 上	四 讀 書 作 文	二
圖 畫	自在畫、用器畫	一	三 商業算術、珠算、暗算	四
數 學	普通算術、商業算術、珠算、暗算	四 商業算術、珠算、暗算、代數	幾何	二
地 理、歷 史	内外國	二 内外國	三	八
英 語	讀方、譯解、書取、習字	八 同上 文法會話	八 讀方、譯解、書取、文法、作文	一
理 科、商 品	博物理化大要	二 同上 内外物産	三 同上	二
經 濟		原 論	二 各 論	四
法 律			通論、民法大要、商法大要	六
商業要項實踐	内 國	二 同 上	三 内外國	二
簿 記	商 業	三 同 上 銀行	三 各種英文	三
體 操	普通、兵式	三 同 上	三 同 上	三
計		三三	三三	三三

別ニ支那語ヲ第二外國語トシ第二學年以上ノ生徒ニ隨意科トシテ課ス

第二外國語ハ第一外國語ノ成績優等ナル者若ハ特別ノ事情アル者ニシテ學校長ノ認可ヲ得タル者ニ限り之ヲ學修スルコトヲ得

第四章 入學退學

第八條 生徒ノ入學ハ每學年ノ始ニ於テ之ヲ許ス

但シ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第九條 本校ニ入學ヲ許スヘキモノハ品行方正身體健全年齡十四年以上ニ

シテ左記資格ノ一ヲ有スル者若ハ之ト同一程度ノ國語、算術、日本歴史、

地理、理科ノ入學試験ニ合格シタルモノタルヘシ

一、明治三十三年八月勅令第三百四十四號小學校令ニ依ル修業年限四ヶ

年ノ高等小學校卒業ノ者

二、明治四十年三月勅令第五十二號改正小學校令ニ依ル高等小學校卒業

又ハ第二學年修了以上ノ者

第六章 實業教育 第三節 商業學校

第六章 實業教育 第三節 商業學校

- 第十條 子弟ヲ入學セシメントスルモノハ戶主若クハ後見人ヨリ願書ニ學業履歷書及本人戶籍抄本ヲ添付差出スヘシ
- 第十一條 入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ試験ノ上選抜スヘシ
- 第十二條 第九條本文後段ノ者ニ對スル評點ハ每科十分五以上各科平均十分六以上ヲ得タルモノヲ以テ合格トス
- 第十三條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齡ニ達シ該學年相當ノ試験ニ合格シタル者タルヘシ
- 第十四條 入學ノ際試験ヲ受タル者ハ試験ノ初日手数料トシテ金五拾錢ヲ收ムヘシ
- 第十五條 既納ノ手数料ハ如何ナル事故アルモ之ヲ返付セス
- 第十六條 入學ヲ許サレタル者ノ父兄又ハ後見人ハ保證人トシテ(第一號書式)在學保證書ヲ學校長ニ差出スヘシ
- 第十七條 保證人ニシテ本校所在地一里以外ニ住居スルモノハ代理保證人ヲ定メ在學保證書ニ連署セシムヘシ
- 第十八條 代理保證人ハ本校所在地一里以内ニ住居シ一家計ヲ立ツル成年以上ノ者タルヘシ
- 第十九條 保證人又ハ代理保證人轉居シ又ハ改氏名若クハ改印等ヲナシタルトキハ其ノ都度學校長ニ届出ツヘシ
- 第二十條 保證人又ハ代理保證人死亡シ又ハ代理保證人一里以外ノ地ニ轉居シタルトキハ更ニ後任者ヲ定メ學校長ニ届出ツヘシ
- 第二十一條 生徒死亡又ハ改氏名ヲナシタルトキハ保證人又ハ代理保證人ヨリ届出ツヘシ
- 第二十二條 生徒疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ退學又ハ轉學セントスル時ハ事由ヲ詳記シテ保證人ヨリ學校長ニ届出ツヘシ
- 第二十三條 生徒ハ常ニ本校所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ
- 第二十四條 生徒中左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ退學ヲ命ス

- 一 品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一ケ年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者
- 五 出席常ナラサル者
- 第二十二條 生徒在學中兵役ニ服シ又ハ疾病ニ罹リ三箇月以内ニ全癒ノ見込ナシト認ムルトキハ學校長ニ於テ休學ヲ命スルコトヲ得、休學期間ハ前段ニ對シテハ其ノ期間中後段ニ對シテハ壹箇年以内トス
- 第二十三條 試驗ハ學期試驗學年試驗ノ二トス
- 第二十四條 學期試驗ハ教員ノ見込ニヨリ學期間ニ於テ隨時ニ學年試驗ハ學年末一定ノ時期ニ於テ之ヲ行フ
- 第二十五條 疾病又ハ止ムヲ得サル事由ニ依リ學年試驗ヲ受クルコト能ハサル者ハ學校長ニ於テ平業ノ成績ヲ考查シ追試驗ヲ行フコトアルヘシ
- 第二十六條 學校長ハ左ノ一ニ該當スル者ニハ學年試驗ヲ停止ス
 - 一 平業學業ノ成績不良ニシテ進級ノ見込ナシト認ムルモノ
 - 二 一學年内ニ於テ缺席日數七十日以上ニ涉ルモノ
- 第二十七條 教員ハ學期末並學年末ニ於テ受持學科ニ就キ各生徒ノ日課並試験ノ成績ヲ考查シ其ノ成績表ヲ學校長ニ提出スヘシ
- 第二十八條 (削除)
- 第二十九條 學校長ニ於テ本校教科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書

印校	卒業證書
族籍	
姓名	

右ハ本校ノ教科ヲ履修シ其業ヲ卒ヘタリ因テ茲ニ之ヲ證書

生年月

年月日

岡山縣立商業學校長 姓 名 印

番 號

第六章 授業料

- 第三十條 授業料ハ一學年金二十一圓トシ左ノ三期ニ分納セシム
 - 第一期 四月ヨリ八月マテ 金七圓 納入期 四月八日ヨリ同二十五日マテ
 - 第二期 九月ヨリ十二月マテ 金七圓 納入期 九月一日ヨリ同二十五日マテ
 - 第三期 一月ヨリ三月マテ 金七圓 納入期 一月八日ヨリ同二十五日マテ
- 第三十一條 既納ノ授業料ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ返付セス
- 第三十二條 生徒ノ退學又ハ轉學ノ場合ニ於テハ前條ノ納入期日ニ至ラサルモ其ノ期ノ授業料ヲ徵收スヘシ
- 第三十三條 定期日內ニ授業料ヲ納付セサル者ハ未納中授業ヲ停止シ其滞納三十日以上ニ及フトキハ學籍ヲ除ク
- 第三十四條 前項學籍ヲ除キタル場合ニハ授業料ヲ追徵セス
- 第三十五條 中途入學又ハ他ノ學校ヨリ轉學セシ者ハ其入學セシ期ヨリ授業料ヲ徵收ス但岡山縣立學校ヨリ轉學セシ者ニシテ既ニ其以前在學學校ニ於テ納付済ノ者ハ其ノ期ノ授業料ヲ徵收セス
- 第三十六條 授業料調定期日後ニ於テ第二十二條ニ依リ休學ヲ命シタル者ニ對シテハ其ノ期ノ授業料ヲ徵收シ次期ヨリ徵收セス
- 第三十七條 相當ノ事故ニ依リ入學許可後一日モ出席セスシテ二週間以内ニ退學スル者ニ對シテハ授業料ヲ徵收セス

第六章 實業教育 第三節 商業學校

- 第三十三條 褒賞、特待、懲戒
 - 學業優等ニシテ衆生ノ模範タル者ハ特待生トス
 - 特待生ハ授業料ヲ徵收セス
 - 特待生ハ第二學年以上ノ生徒ニ就キテ選抜シ其ノ期限ハ一學年間トス
 - 特待生ニシテ其資格ニ不適當ナル廉アリト認ムルトキハ其ノ特待ヲ解ク
 - 第三十四條 本校規則及命令論達ニ違背シタル生徒ハ之ヲ懲戒ス
 - 第三十五條 懲戒ハ戒飭謹慎停學放校ノ四種トス
 - 第三十六條 學校ノ建物器具等ヲ汚損亡失スルモノアルトキハ現品若クハ代價ヲ以テ賠償セシム
 - 第三十七條 第八章 寄宿舎
 - 第三十七條 自宅ヨリ通學スル能ハサル者並管理上必要ト認ムル者ハ寄宿舎ニ入ラシム但止ムヲ得サル事項ニ依リ自宅又ハ寄宿舎以外ヨリ通學セシメント欲スル者ハ保證人及代理保證人連署ノ上學校長ニ願出許可ヲ受クヘシ
 - 第三十八條 寄宿舎生徒ハ食料其他寄宿ニ關スル費用ヲ毎月所定ノ期日ニ納入スヘシ
 - 第九章 附則
 - 第三十九條 本學則ニ關スル細則ハ學校長ニ於テ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

本籍

寄留

族籍何某何男何弟又ハ戶主

何 某

第六章 實業教育 第四節 商船學校

右今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守ラセ可申尙本人在學中ノ事件ハ一切引受ケ可申候也

年 月 日 年 月 日 年 月 日

本籍 寄留地 右親權者又ハ後見人 氏 名 年 月 日 生

現住所 氏 名 年 月 日 生

右代理保證人 氏 名 年 月 日 生

岡山縣立商業學校長何某殿

前書代理保證人ハ本市町村內ニ住居シ成年以上ニシテ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

年 月 日 市町村長 氏 名 印

第四節 商船學校

●兒島郡立商船學校ヲ岡山縣立兒島商船學校ト改稱ノ件

縣令第九號(大正二年二月十九日)

兒島郡立兒島商船學校ヲ大正二年四月一日ヨリ縣立ニ變更シ岡山縣立兒島商船學校ト改稱ス

●岡山縣立兒島商船學校規則

縣令第十號(大正二年二月十九日)

(沿革)大正二年縣令第一五號、三年同第六六號改正

岡山縣立兒島商船學校規則左ノ通定ム

岡山縣立兒島商船學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ甲種商船學校程度ニ依リ高等ノ船舶職員タルヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條 本校ニ航海科及機關科ヲ置キ學科修業期間ヲ三箇年トシ實習期間ヲ定ムルコト左ノ如シ

航海科三箇年(帆船ニ於テ一箇年、汽船ニ於テ二箇年)

機關科三年六箇月(工場ニ於テ二箇月)

第三條 生徒定員ハ學科修業生及實習生ヲ通シテ二百四十名トス

第二章 學年學期及休業日

第四條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日迄

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄

第六條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、日曜日

二、祝日 大祭日

三、學校紀念日 一月十五日

四、夏季休業 自七月二十日 至八月三十一日

五、冬季休業 自十二月二十五日 至一月七日

學年末ヨリ次學年ノ始メニ涉リ成績調査卒業式生徒募集等ノタメ十日以内授業ヲ休止ス

第三章 學科目程度及每週授業時數

第七條 學科目程度及每週授業時數ハ左表ニ依ル

學科	一、航海科		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	人倫道德ノ要旨	同上	同上
國語	漢字交リ文ノ講義、作文	同上	同上
數學	代數、幾何、三角初步	八代數、幾何、三角術	六三角術
物理	物理	二物理	二
地理	内外國沿海地理	二	同上
英語	讀方、譯解、書取、作文、文法、會話	六同上	六同上
圖畫			用器畫
法規			海事ニ關スル法令
體操	海軍柔軟(徒手)	同上(執銃、積根)	海軍器械(水平杆)
運 用 術	船舶ノ種類、船體及用材各部ノ名稱、諸帆及付屬ノ名稱、靜索及動索ノ名稱、諸索種類、塔力比例、滑車ノ種類、種類及倍力算法、靜索取付、動索ノ通シ法	三 救上法、助手廻下、及鑰鎖取拔、信號法	四 出港付諸法、入港投錨法、應急規則、應急法、塗色法、運轉士及船長職務
			六

實用學	計	技業	武科	實習
船舶衛生及救急療法大要		鑄造、鑄、鑿等ノ使用法、水泳、編艇操漕、手旗信號	海軍銃隊操式各訓教練(徒手及銃銃)海軍無銃隊教練(艦載武器彈丸ノ種類、海軍ニ關スル諸例規及勤務ノ一般)	工場實習 汽船實習
靜力動力水力及應用學	二七	同上	海軍銃隊操式各訓教練(銃銃、射擊、散兵)海軍銃隊操式(小隊教練)海軍射擊教練、空放發火演習、彈丸火藥ノ種類及取法、銃ノ分解及結合、海軍ニ關スル諸例規及勤務等ノ一般	
同上	二七	同上	海軍銃隊操式(小隊教練)射擊散開隊次、中隊教練、野外演習、小銃實彈射擊(春秋二回)火具類砲、大砲機關砲使用心得、海軍銃隊操式第二部機關砲ノ要領、水電術大要(攻撃防禦線、火藥、電氣)海軍ニ關スル諸例規及勤務等ノ一般	
	二			

第四章 入退學

- 第八條 生徒ノ入學ハ每學年ノ始ニ於テ之ヲ許ス但シ缺員アルトキハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
- 第九條 本校ニ入學ヲ許スヘキモノハ品行方正身體健全家事ニ係累ナク年齡十四年以上ニシテ左記資格ノ一ヲ有スルモノ若クハ之ト同一程度ノ國語、算術、日本歴史、地理、理科ノ入學試驗ニ合格シタルモノタルヘシ
- 一、明治三十三年八月勅令第三百四十四號小學校令ニ依ル修業年限四箇年ノ高等小學校卒業者
- 二、明治四十年三月勅令第五十二號改正小學校令ニ依ル高等小學校卒業又ハ第二學年修了以上ノ者
- 三、中學校第二學年修了者

- 第十條 入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ試驗ノ上選拔スヘシ
- 第十一條 第九條本文後段ニ對スル評點ハ每科十分五以上各科平均十分六以上ヲ得タルモノヲ以テ合格トス
- 第十二條 他ノ甲種商船學校生徒ニシテ本校ニ轉學ヲ願出ツル者アルトキハ缺員アル場合ニ限り試驗ノ上入學ヲ許スコトアルヘシ
- 第十三條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齡ニ達シ該學年相當ノ試驗ニ合格シタル者タルヘシ
- 第十四條 子弟ヲ入學セシメントスル者ハ入學願(甲號書式)ニ戶籍抄本ヲ添ヘ親權者又ハ後見人ヨリ學校長ニ願出ツヘシ
- 第十五條 入學志願者ハ入學試驗ノ當日手數料金五拾錢ヲ納付スヘシ但シ既納ノ手數料ハ如何ナル事由アルモ之ヲ返付セス

第十四條 入學ヲ許サレタル者ノ親權者又ハ後見人ハ保證人トシテ在學保證書(乙號書式)ヲ學校長ニ差出スヘシ

- 第十五條 保證人ニシテ本縣所在地一里以外ニ居住スル者ハ代理保證人ヲ定メ在學保證書ニ連署セシムヘシ
- 代理保證人ハ本校所在地一里以内ニ居住シ一家計ヲ立ツル成年以上ノ者タルヘシ
- 第十六條 保證人又ハ代理保證人轉居シ又ハ改氏名改印等ヲナシタルトキハ其ノ都度學校長ニ届出ツヘシ
- 保證人又ハ代理保證人死亡シ又ハ代理保證人他府縣ニ轉居シタルトキハ更ニ後任者ヲ定メ學校長ニ届出ツヘシ
- 第十七條 生徒ハ常ニ本校所定ノ制服及制帽ヲ着用スヘシ
- 第十八條 生徒死亡又ハ改氏名ヲナシタルトキハ保證人又ハ代理保證人ヨリ學校長ニ届出ツヘシ
- 第十九條 生徒疾病又ハ止ムナ得タル事由ニ依リ退學又ハ轉學セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ヨリ學校長ニ願出ツヘシ
- 第二十條 生徒在學中兵役ニ服シ又ハ疾病ニ罹リ三箇月以内ニ全癒ノ見込ナシト認ムルトキハ學校長ニ於テ休學ヲ命スルコト得休學期間ハ前段ニ對シテハ其ノ期間中後段ニ對シテハ該學年間トス
- 第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ學校長ニ於テ退學ヲ命ス
- 一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
 - 二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
 - 三、引續キ一箇年以上缺席シタル者
 - 四、正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者若ハ出席當ナラサル者
- 第五節 試驗
- 第二十二條 試驗ヲ分テテ學期試驗學年試驗及卒業試驗トシ學期試驗ハ教

- 員ノ見込ニ依リ學期內ニ於テ隨時ニ、學年試驗ハ學年末、卒業試驗ハ實習終了後該課程中必要ト認ムルモノニ就キ一定ノ時期ニ於テ之ヲ行フ
- 第二十三條 疾病又ハ止ムナ得タル事由ニ依リ學年試驗及卒業試驗ヲ受クルコト能ハサル者ハ學校長ニ於テ平素ノ成績ヲ考查シ追試驗ヲ行フコトアルヘシ
- 第二十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ學年試驗卒業試驗ヲ停止ス
- 一、平素學業ノ成績不良ニシテ進級ノ見込ナシト認ムル者
 - 二、一學年內ニ於テ缺席日數七十日以上ニ渉ル者
- 第二十五條 教員ハ學期末並學年末及實習終了後受持學科ニ就キ各生徒ノ日課並試驗ノ成績ヲ考查シ其成績表ヲ學校長ニ提出スヘシ
- 第二十六條 學校長ニ於テ本校ノ課程ヲ終了セリト認メタル者ニハ修業證書(丙號書式)ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書(丁號書式)ヲ授與ス
- 第六章 褒賞、特待、懲戒
- 第二十七條 學業優等ナル者又ハ善行アル者ハ之ヲ褒賞ス
- 第二十八條 學業操行優等ニシテ衆生ノ模範タル者ハ特待生トス
- 特待生ハ授業料ヲ徵集セス
- 第二十九條 特待生ハ第二學年以上ノ生徒ニ就キテ選拔シ其期間ハ壹學年間トス特待生ニシテ其資格ニ不適當ナル際アリト認メタル時ハ其特待ヲ解ク
- 第三十條 本校ノ規則命令訓戒等ニ違背スル者ハ之ヲ懲戒ス懲戒ハ誹責、謹慎、停學、放校ノ四種トシ行爲ノ情狀ニ依リ之ヲ處分ス
- 第七章 授業料
- 第三十一條 授業料ハ一學年金拾圓トシ左ノ三期ニ分納セシム但シ實習生ハ之ヲ徵收セス
- 第一期自七月金四圓
- 第二期自四月十五日迄
- 第三期自七月金四圓

第六章 實業教育 第四節 商船學校

第二節 自八月金四圓 納入期九月十五日迄
 第三節 自十一月金參圓 納入期一月十五日迄
 第三十一條ノ二 生徒ノ退學又ハ轉學ノ場合ニ於テハ前條ノ納入期日ニ至ラサルモ其ノ期ノ授業料ヲ徵收スヘシ
 第三十二條 定期日內ニ授業料ヲ納付セサル者ハ滞納中授業ヲ停止シ其ノ滞納三十日以上ニ及フトキハ學籍ヲ除ク
 第三十三條 相當ノ事故ニ依リ入學許可後一日モ出席セズシテ二週間以內ニ退學スル者ニ對シテハ授業料ヲ徵收セス
 授業料調定期日後ニ於テ第二十條ニ依リ休學ヲ命シタル者ニ對シテハ其ノ期ノ授業料ヲ徵收シ次期ヨリ之ヲ徵收セス
 中途入學又ハ他ノ學校ヨリ轉學セシ者ハ其ノ入學セシ期ヨリ授業料ヲ納

付セシム
 第八章 寄宿舎
 第三十四條 生徒在學中ハ校內ニ寄宿セシム但シ第二學年以下ニシテ父兄又ハ後見人若クハ確實ナル親族等ヨリ通學セントスルモノハ特ニ之レヲ許スコトアルヘシ通學セントスルモノハ親權者又ハ後見人及保證人連署ノ上學校長ニ顯出許可ヲ受クヘシ
 第三十五條 寄宿舎生徒ハ食料其ノ他寄宿ニ關スル費用ヲ毎月所定ノ期日ニ納入スヘシ
 第三十六條 寄宿舎ニ關スル規則ハ學校長之ヲ定ム
 附則
 本令ハ大正二年四月一日ヨリ施行ス

乙號 (用紙美濃紙)

入 學 願	
卒業又ハ在學セル學校名及學年	本 籍 氏 名
族籍戸主若クハ戸主トノ續柄	現 住 所
略 歴	生 年 月 日
右今般御校何科ニ入學致サセ度別紙戸籍謄本相添ヘ此段相願候也	現住所
年月日	親權者又ハ後見人 氏 名 印
岡山縣立兒島商船學校長氏 七 殿	

在學保證書

參 錢 印 紙	
右今般御校ニ入學許可相成候ニ付テハ在學中御規則等堅ク相守ラセ可申尙本人在學中ノ事件ハ一切引受可申候也	本 籍 氏 名
年月日	現住所
	族籍職業
	親權者又ハ後見人 氏 名 年 月 日 生
	代理人保證人 氏 名 年 月 日 生
	市町村長 氏 名
岡山縣立兒島商船學校長氏 名 殿	
前書代理保證人ハ本市町村內ニ住居シ成年以上ニシテ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也	
年月日	市町村長 氏 名

丙號

第六章 實業教育 第四節 商船學校

修業證書

校印	何
本校 科第三學年ノ課程ヲ修了セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス	年月日生 某
年 月 日	
番 號	岡山縣立兒島商船學校長
	位勳爵 氏
	名 園

卒業證書

校印	氏
本校何科ノ教科ヲ履修シ實習ヲ結了セリ依テ茲ニ之ヲ證ス	年月日生 名
年 月 日	
番 號	岡山縣立兒島商船學校長
	位勳爵 氏
	名 園

第五節 實業補習學校

實業補習學校設置廢止等ニ關ス

縣令第九十六號(明治三十五年九月十一日)
實業學校令並實業學校設置廢止規則ニ依リ實業補習學校設置廢止等ニ關スル規程左ノ通り定ム

ル規程

シ地方ノ情況ニ適應スル施設ヲ爲サシムルノ件

訓令第十一號(明治三十五年三月六日)

郡市役所 町村役場

- 實業補習學校設置廢止等ニ關スル規程
- 第一條 實業學校令第五條又ハ第六條ニ依リ實業補習學校ヲ設置セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ
- 一名稱
 - 位置
 - 學則
 - 生徒定員
 - 敷地建物ノ圖面(坪數地質附近ノ情況ヲ記載シタルモノ)並其ノ所有ノ區別
 - 收入支出豫算
 - 職員數及俸給額ノ豫定
 - 設立者ノ履歷(私立ニ限ル)
- 前項第一號乃至第五號ノ事項ハ正本ノ外更ニ美濃紙ニ認メタルモノ一通ヲ添付スヘシ
- 第二條 實業補習學校ヲ廢止セントスルトキハ其ノ事由並生徒處分方法ヲ具シ知事ニ申請スヘシ
- 第三條 第一條第一項第一號乃至第五號ヲ變更セントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ但國庫ノ補助ヲ受クル學校ニ關シテハ此ノ限ニアラス
- 前項ノ書類ニハ第一條第二項ニ準シ同様ノ書類ヲ添付スルヲ要ス
- 第四條 實業學校令第九條ニ依リ學校長ニ於テ教科書ヲ採定セントスルトキハ教科目、圖書名、冊數發行月日定價著作者、發行者ヲ記シ知事ニ申請スヘシ其ノ變更ノ場合亦同シ
- 第五條 實業補習學校ニ關スル文書ヲ知事ニ提出スルニハ郡市長ヲ經由スヘシ其ノ設置廢止ニ係ルモノニハ郡市長ハ意見ヲ具スヘシ

實業補習學校ノ性質ノ大要ヲ示

實業補習學校ハ各種ノ實業ニ從事シ又ハ從事セントスル者ニ簡易ナル方法ニ依リ其ノ職業ニ要スル智識技能ヲ授クルト同時ニ普通教育ノ補習ヲ爲スヲ以テ目的トス即チ實業ノ教科ヲ主トシ併セテ普通教育ノ補習ヲ爲シ兩者共ニ其ノ目的ヲ達スルヲ以テ實業補習學校ノ本旨トナスヘキコト專ラ普通教育又ハ實業教育ヲ施スカ爲ニ設ケラル、モノト覺ニ其ノ趣旨ヲ異ニスル所以ナリ

教授時間及季節ノ選定ハ實業補習學校ニ於テ深ク意ヲ用フヘキ所ニシテ或ハ夜間或ハ日曜日或ハ職業上ノ休業日或ハ冬期農隙等土地ノ情況、生徒職ノ種類、繁閑等ニ依リ其ノ修學ニ最モ便宜ナル時期ヲ擇ヒ簡易切實ニ教授セシムコトヲ要ス

實業補習學校ニ於テハ其ノ性質上多數ノ時間ヲ一定シテ教授ヲ爲サムコト固ヨリ望ムヘキモノニアラス然ルニ徒ニ教授時數ノ多キヲ食ルハ今日ノ通

弊ニシテ彼ノ從來小學校ニ附設スルモノ、如キハ概テ同時ニ教授スルヲ以テ設備及教授共ニ不完全ニ陥リ兩者孰レモ其ノ本旨ヲ達スルヲ得サルハ宜シク戒ムヘキコトナリトス...

教科目ヲモ斟酌シ適宜之ヲ加フルノ自由ヲ與ヘラレタリ然レトモ之カ爲ニ限リアル教授時間ニ於テ徒ニ教科目ヲ繁多ナラシムルハ宜シク避クヘキコトナリトス...

〔岡山學令〕

今ヤ實業補習學校規程ヲ改正セラレタルニ依リ克ク上述ノ主旨ヲ體シ彼ノ名ハ實業補習學校ト稱スト雖モ其ノ實小學校ノ變形ニ過キサルカ如キモノニ對シテハ努メテ之ヲ實業補習學校ノ本旨ニ適セシメ以テ名實相副ハシムルノ途ヲ講シ又將來設置セントスル所ノ學校ニ對シテハ能ク之カ本旨ヲ誤ルコトナク地方ノ情況ニ適應スルノ施設ヲ爲シ以テ十分ノ效果ヲ收メシムヘシ

第七章 私學教育

●私立學校設置及其他取扱方ニ關スル規則

縣令第六十三號(明治三十四年五月三日)

私立學校設置及其他取扱方ニ關スル規則

- 第一條 私立學校令第二條ニ基キ知事ニ於テ認可ヲ與フヘキ學校ハ左ノ各號ニ該當スルモノニ限ル
一、永續且公ノ目的ヲ以テ一定ノ場所ヲ設ケ一定ノ學科課程ニ依リ教授スルモノ
二、凡ソ四十人以上ノ生徒ヲ收容シ得ヘキ設備ヲ具ヘ授業、管理及衛生上支障ナキモノト認ムルモノ
三、經費及維持ノ目途確實ニシテ生徒ノ員數ニ應シ相當ノ出費ニ堪ヘ得ヘシト認ムルモノ
第二條 既ニ認可ヲ受ケタル學校ニシテ尚條ニ抵觸セルモノアリト認ムルトキハ知事ハ其ノ與ヘタル認可ヲ取消スヘシ
第三條 新ニ私立學校設置ノ認可ヲ得テ授業ヲ開始シタルトキハ設立者ニ

第七章 私學教育 第八節 職員 第一節 任免、待遇

第八章 職員

第一節 任免、待遇

●神職又ハ寺院住職等ヲシテ小學校訓導ヲ兼務セシメントスルトキノ推薦手續

- 於テ選擧ナク其ノ期日ヲ知事ニ開申スヘシ
第四條 私立學校ニ於テ相當學校ノ教員免許狀ナ有スル者又ハ私立學校令第五條ニ依リ私立學校教員ノ認可ヲ受ケタル者ヲ教員ニ採用シタルトキハ校長又ハ代表者ニ於テ其ノ氏名、受持學科及俸給又ハ報酬額等ヲ具シ選擧ナク知事ニ開申スヘシ
附則
第五條 本令ハ明治三十四年五月三日ヨリ之ヲ施行ス
郡市役所 町村役場 市町村立小學校
土地ノ情況ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テ神職又ハ寺院住職等ト小學校訓導ト交互兼務スルノ必要アルトキハ左ノ通心得ヘシ
一 郡市長ニ於テ神職又ハ寺院住職等ヲシテ小學校訓導ヲ兼務セシメントシ之ヲ推薦スルトキハ其事由ヲ詳具スヘシ
一 小學校訓導ニ於テ寺院住職等ヲ兼務セントスルトキハ豫メ其事由ヲ詳具シ知事ノ指擧ヲ受クヘシ
一 氏子惣代又ハ信徒ニ於テ小學校訓導ヲシテ神職ヲ兼務セシメント候補者トシテ之ヲ推薦スルトキハ其事由ヲ詳具セシムヘシ

市町村立學校又ハ私立學校ノ教師ニ外國人ヲ傭入若クハ傭繼カントスルトキハ其ノ期限ヲ定メ市町村立學校ニ就キテハ市町村長ニ於テ私立學校ニ就キテハ其ノ設立者ニ於テ縣知事ニ具申シ許可ヲ受ケシムルノ件

縣令第三十二號(明治二十七年四月二十九日)
市町村立學校又ハ私立學校ノ教師ニ外國人ヲ傭入若クハ傭繼カントスルトキハ其ノ期限ヲ定メ市町村立學校ニ就キテハ市町村長ニ於テ私立學校ニ就キテハ其ノ設立者ニ於テ縣知事ニ具申シ許可ヲ受ケシムルノ件

小學校長及教員待遇ノ件

訓令第三十五號(明治四十四年十一月八日)

今般勅令第二百七十三號ヲ以テ小學校長及教員名稱及待遇中ニ改正ヲ加ヘラレ市町村立小學校長ニシテ功勞顯著ナル者ニハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ賜フコト、ナレリ是レ小學校教員ノ任務極メテ重大ナルニ顯ミ特ニ優遇ノ意ヲ明ニセラレタルニ外ナラス郡市長ハ宜シク小學校長及教員チシテ勅令改正ノ趣旨ヲ體シ一層奮勵シテ其ノ本分ヲ盡シ以テ小學校教育ノ實績ヲ舉ケンコトヲ期セシメラルヘシ

第二節 檢定

ヲ受クルコトヲ許サ、ルコトアルヘシ
第十一條 試驗室ニ入ルニハ各學科共筆、鉛筆、消ゴム、筆、小刀、硯、墨ヲ携帶スヘシ右ノ外尙學科ノ種類ニ依リ携帶スヘキ用品左ノ如シ

- 一 算術 算盤
- 一 幾何 定木、コンパス
- 一 簿記 黑色インキ、赤色インキ、ペン、パン軸、丸定木、吸取紙
- 一 習字 三寸角乃至一寸角大ノ文字ヲ書クヘキ筆、文鏡ヲ携帶スルモ妨ケナシ)
- 一 用器畫 定木、圓引器械、ヒン、曲尺、畫板
- 一 自在畫 畫筆、繪具、羽筆、筆洗、小皿、曲尺、畫板

小學校本科正教員

小學校教員檢定受験者心得

告示第九百四十一號(明治四十一年十月十四日)

- 第一條 試驗當日ハ特ニ指示シタル場合ノ外ハ試驗ノ時刻ヨリ十分前ニ試驗ヲ受クヘキ場所ニ出頭スヘシ
- 第二條 試驗場ニ出席スルニハ現ニ小學校教員タル者ハ制服ヲ其他ノ者ハ成ルヘク洋服ヲ着用シ若シ巴ムヲ得ス和服ヲ着用スルトキハ袴ヲ著クヘシ
- 第三條 但シ女子ノ服裝ハ適宜トス
- 第三條 試驗場ニアリテハ靜肅ヲ旨トシ總テ監督者ノ指揮ニ從フヘシ
- 第四條 特ニ指示シタルモノノ外書籍書類ハ勿論白紙タリトモ一切物品ヲ携帶シテ試驗室ニ入ルコトヲ許サス
- 第五條 試驗問題ニ關シテハ一切質問スルコトヲ許サス
- 第六條 試驗答書ハ監督者ノ附與シタル一定ノ用紙ニ文字ヲ明瞭ニ記載シ必ス試験ノ種類受驗番號及受驗學科ヲ記入スヘシ試験答書二葉以上ニ互ルコトキハ每葉順序ノ符號ヲ付シ且ツ前項ノ事項ヲ記入スヘシ
- 第七條 一旦答書ヲ出シタル上ハ縱令誤謬アルコトヲ發見スルモ訂正スルコトヲ許サス又一且退席シタルトキハ其試驗時間中再ヒ試驗室ニ入ルコトヲ許サス
- 第八條 試驗室ニ於テハ受験者ハ所定ノ位置ニ著席スヘシ
- 第九條 試驗室ニ於テハ受験者互ニ言語ヲ交ヘ物品ノ貸借ヲ爲シ又ハ監督者ノ承認ヲ得スシテ席ヲ離ルルコトヲ許サス
- 第十條 此心得ニ違背シ若シクハ不都合ノ行爲アリト認メタルモノハ一時退場ヲ命シ其情狀ニ依リ既ニ差出シタル答書ヲ無効トシ且ツ當期ノ試験

(岡山學令)

小學校教員試驗檢定用圖書

告示第九百二十三號(大正二年五月二十三日)

岡山縣小學校教員試驗檢定參考用圖書左記ノ通改正ス

- 一 英語 ペン、パン軸、インキ、吸取紙
- 一 家事 定木
- 一 裁縫 針、鉄、拵、鏡、線尺、指輪
- 一 手工 圓引器械、曲尺、三角定木、鉄、切出小刀(裁板、裁定木ヲ携帶スルモ妨ケナシ)

學科	書	名	卷册	著者	姓名
修身	實踐倫理講義	全一	吉田善次郎	致	致
	師範修身教科書	全四	藤田善次郎	致	致
	師範學校作法教授要項	全一	田部	省	省
	中學校作法教授要項	全一	文部	省	省
	現行尋常小學校用修身書	全一	同		
	現行高等小學校用修身書	全一	同		
	〇備女子作法書	全一	同		
	訂改教育學	全一	實習ノ部	同	
	訂改教育學	全一	後作	同	
	訂改教育學	全一	同		
教育	訂改教育學	全一	同		
	訂改教育學	全一	同		

國語及漢文	論理學 改近世教育史 訂小學校管理法 訂小學校教授法 訂各教科教授法 師範國文教科書本科用 等日文典 訂日本口語法 現行尋常小學校讀本 現行高等小學校用讀本
歷史	師範漢文讀本 師範歷史教科書 日本 中等西洋歷史地圖 改中等西洋歷史 新定東洋史教科書 訂用東洋歷史地圖 現尋常小學校用日本歷史 現尋常小學校用日本歷史 行高等小學校用日本歷史 普通日本地理教科書 普通世界地理教科書
地理	

數學	普通地理學通論 現行尋常小學校用地理 現行高等小學校用地理 師範算術教科書 師範代數學教科書 教育代數學教科書 ○女子師範學校、代數教科書 △幾何學小教科書 ○女子師範學校幾何教科書 △師範學校簿記教科書 現行尋常小學校用算術書 現行高等小學校用算術書 師範植物教科書 師範動物學教科書 師範生理衛生教科書 最新礦物學教科書 現行尋常小學校用理科書 現行高等小學校用理科書 新定教科中物理學 新撰化學教科書
博物學	
物理學	

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
一	一	部	部	一	一	一	一	二	二	二	二	部	部	一	二	六	一	一	一
同	山	同	文	桑	桑	同	村	峰	簡	同	文	吉	藤	吉	同	同	同	同	同
崎			部	原	原		川	岸	野		部	岡	岡	田					
直				陽	陽		堅	米	道		部	鄉	勝	彌					
方	省	藏	藏	固	造	明	省	市	二	平									

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
一	一	部	部	一	一	一	一	二	二	二	二	部	部	一	一	一	一	一	一
小	野	同	文	佐	同	丘	安	同	文	安	森	菊	森	同	國	同	文	同	同
川	田		部	藤		淺	伊		部	田	岩	地	岩		枝		部		
正				傳		次	三			太	太	大	太		元				
孝	貞	省	藏	郎	郎	郎	郎	省	郎	郎	郎	郎	郎	清	省				

第八章 職員 第二節 檢定

學科	書名	卷冊	著者名
法制及經濟	△師範學校法制經濟要義	全一	私立日本大學
習字	師範新習字一—三	全三	香川熊藏
圖畫	現行尋常小學校用書キ方手本	全四	文部省
圖畫	現行高等小學校用書キ方手本	全四	同
圖畫	圖學教科書	全四	同
圖畫	現行尋常小學校用新定畫帖	全一	同
圖畫	現行高等小學校用新定畫帖	全一	同
音樂	新編オルガン教科書	全一	同
音樂	普通樂典教本	全一	同
音樂	現行小學校用讀本唱歌	全一	同
音樂	小學體操教科書	全一	同
音樂	各例演習教程	全一	同
音樂	步兵操典	全一	同
音樂	○裁縫新教科書	全一	同
音樂	○三裁縫教授法	全一	同
音樂	○訂正最新家事教科書	全一	同

尋常小學校本科正教員

學科	書名	卷冊	著者名
修身	師範修身教科書豫備科用	全一	吉田靜致
修身	師範修身教科書	全一	同
修身	師範學校作法教授要項	全一	同
修身	現行尋常小學校用修身書	全一	同
教育	改訂教育學	全一	同
教育	改訂教育的心理學	全一	同
教育	改訂小學校管理法	全一	同
教育	改訂小學校教授法	全一	同
教育	訂各教科教授法	全一	同
國語	師範國文教科書本科用	全一	同
國語	中等日本文典	全一	同
國語	現行尋常小學校用讀本	全一	同
國語	師範新習字	全一	同
國語	現行尋常小學校用書キ方手本	全一	同
算術	師範算術教科書	全一	同
算術	現行尋常小學校用算術書	全一	同
算術	師範歷史教科書日本歷史	全一	同
算術	現行尋常小學校用日本歷史	全一	同
算術	最近統合帝國地理師範學	全一	同
算術	最近統合外國地理師範學	全一	同

第八章 職員 第二節 檢定

圖	體	裁	歷
畫	操	縫	史
普通動物教科書	普通生理衛生教科書	普通生理衛生教科書	普通生理衛生教科書
修改物理學教科書	初等物理學教科書	普通教育化學小教科書	現行尋常小學校用理科書
現行尋常小學校用理科書	現行高等小學校用理科書	圖學教科書	現行尋常小學校用新定畫帖
現行尋常小學校用新定畫帖	現行高等小學校用新定畫帖	小學校體操教科書	小學校體操教科書
各個演習教程	步兵操典	○裁縫新教科書	○訂裁縫教授法
新編日本略史	現行尋常小學校用日本歷史	現行高等小學校用日本歷史	現行尋常小學校用日本歷史

尋常小學校准教員

學	科	書	名	卷	冊	著	者	名
修	身	師修身教科書備科用	師修身教科書備科用	全	一	吉	田	靜
教	育	師範學校作法教授要項	師範學校作法教授要項	全	一	文	部	致
國	語	現行尋常小學校用修身書	現行尋常小學校用修身書	全	一	立	柄	教
算	術	小學校實用教授法	小學校實用教授法	全	一	文	部	省
地	理	現行尋常小學校用讀本	現行尋常小學校用讀本	全	一	同	同	省
歷	史	現行尋常小學校用書キ方手本	現行尋常小學校用書キ方手本	全	一	同	同	省
地	理	現行尋常小學校用算術書	現行尋常小學校用算術書	全	二	國	枝	治
地	理	師範算術教科書	師範算術教科書	全	二	同	同	省
地	理	現行尋常小學校用日本歷史	現行尋常小學校用日本歷史	全	一	同	同	省
地	理	現行尋常小學校用日本歷史	現行尋常小學校用日本歷史	全	一	同	同	省
地	理	現行尋常小學校用地理	現行尋常小學校用地理	全	一	同	同	省
地	理	現行高等小學校用地理	現行高等小學校用地理	全	一	同	同	省
地	理	最理科教科書理化篇	最理科教科書理化篇	全	一	同	同	省
地	理	最理科教科書博化篇	最理科教科書博化篇	全	一	同	同	省
地	理	現行尋常小學校用理科書	現行尋常小學校用理科書	全	一	同	同	省
地	理	現行尋常小學校用新定畫帖	現行尋常小學校用新定畫帖	全	一	同	同	省

第八章職員 第二節檢定

體操	現高等小學校用新定畫帖 小學校體操教科書 各個演習教程 步兵操典	全 全 全 全	一 一 一 一	部 部 部 部	同 坪 可 井 陸	同 井 口 あ 軍	支 支 く く 省	道 道 り り 省
----	---	------------------	------------------	------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

小學校專科正教員

學科	書	名	卷	冊	著	者	名
歌育	國民教實用教育學 育原理教科書 圖學教科書	全 全 全	一 四 部	一 部 部	立 柄 畫 教 育	柄 教 育	會 會
圖畫	現尋常小學校用新定畫帖 現高等小學校用新定畫帖 新編オルガン教科書 聲樂階梯	全 全 全 全	一 一 一 一	部 部 部 部	天 同 文 文 山 山 開 山	谷 部 部 部 成 本 本	秀 省 夫 館 夫 館
音樂	普通樂典教本 唱歌教授法通論 現尋常小學校用讀本唱歌 小學校體操教科書 各個演習教程	全 全 全 全	一 一 一 一	部 部 部 部	坪 文 文 文 山 山 開 山	部 部 部 部 成 本 本	正 省 夫 館 夫 館
體操	步兵操典	全	一	部	陸	軍	省

手工	小學ニ於ケル手工教授ノ理論及實際 農業原論 普通農業實驗法 小學校農業教科書 最新商業要項教科書 同書式 最新商業簿記教科書 商業地理 高等小學商業書 パーン氏 ナショナルリーダー 神田氏英文典	全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	部 部 部 部 部 部 部 部 部 部 部	大 佐 横 井 山 山 開 山	部 部 部 部 成 本 本	部 部 部 部 成 本 本	吉 耶 太 時 太 館 館 館 館
農業	農業原論 普通農業實驗法 小學校農業教科書 最新商業要項教科書 同書式 最新商業簿記教科書 商業地理 高等小學商業書 パーン氏 ナショナルリーダー 神田氏英文典	全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	部 部 部 部 部 部 部 部 部 部 部	大 佐 横 井 山 山 開 山	部 部 部 部 成 本 本	部 部 部 部 成 本 本	吉 耶 太 時 太 館 館 館 館
商業	最新商業簿記教科書 商業地理 高等小學商業書 パーン氏 ナショナルリーダー 神田氏英文典	全 全 全 全 全	一 一 一 一 一	部 部 部 部 部	大 佐 横 井 山 山 開 山	部 部 部 部 成 本 本	部 部 部 部 成 本 本	吉 耶 太 時 太 館 館 館 館
英語	神田氏英文典	全	一	部	大	部	部	吉
裁縫	○裁縫新教科書 ○渡邊先生遺稿裁縫教科書 ○三裁縫教授法	全 全 全	一 一 一	部 部 部	大 佐 横 井 山 山 開 山	部 部 部 部 成 本 本	部 部 部 部 成 本 本	吉 耶 太 時 太 館 館 館 館

第三節 養成、講習
●小學校教員養成所規程

縣令第七號(明治四十一年一月二十三日)
(沿革)明治四十二年縣令第三一號、同第七七號、大正四年同第一九號改正
小學校教員養成所規程左ノ通相定ム

第八章職員 第三節 養成、講習

小學校教員養成所規程
第一條 小學校教員養成所ヲ設立セントスルモノハ本令ノ規程ニ依リ知事ノ認可ヲ受クヘシ
第二條 前條ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル調書ヲ添付スルヲ要ス
一、名稱

- 二、位置
- 三、開所年月日
- 四、學則
- 五、經費ノ收支豫算及維持方法
- 六、敷地建物ノ圖面
- 第七條 學則中ニ定ムヘキ事項凡ソ左ノ如シ
 - 一、養成セントスル教員ノ種別及定員
 - 一、修業年限學年學期休業日ニ關スル事項
 - 一、學科課程教授時間等ニ關スル事項
 - 一、授業料入學料ニ關スル事項
 - 一、寄宿舎ニ關スル事項
 - 一、生徒ノ入退學及懲戒ニ關スル事項
 - 一、職員ノ服務ニ關スル事項
 - 一、其他必要ナル事項
- 第八條 小學校教員養成所設立ノ認可ヲ得タルトキハ設立者ハ開始前教科用圖書並ニ其ノ著者氏名及發行所名ヲ知事ニ届出ツヘシ爾後變更アリタルトキ亦同シ
- 第九條 小學校教員養成所ハ同一ノ養成所ニ於テ二種以上ノ生徒ヲ募集スルコトヲ得但シ同時ニ男女ノ生徒ヲ養成スルコトヲ得ス
- 第十條 小學校教員養成所ニ於テハ一學級ノ人員正教員ニアリテハ四十名准教員ニアリテハ五十名ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十一條 小學校教員養成所ニ於テハ各學級毎ニ教師トシテ師範學校中學校高等女學校教員免許狀又ハ小學校本科正教員免許狀ヲ有スルモノ一名以上ヲ配置スヘシ但シ小學校本科正教員ノ養成ヲ目的トスル養成所ニアリ

- 第十二條 小學校教員養成所ニ於テ教師ヲ採用若ハ解職セントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ但シ採用ノ場合ニハ本人ノ履歷書ヲ添付スヘシ
- 第十三條 小學校教員養成所ニ入學ヲ許可スヘキモノハ身體健全品行方正ニシテ第十條乃至第十三條ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ
- 第十四條 小學校本科正教員養成所ニ入學ヲ許可スヘキモノハ左ノ資格ノ一ヲ有スルモノタルヘシ
 - 一、中學校及明治三十二年文部省令第三十四號ニヨリ中學校ト同等以上ト認メラレタル學校ノ卒業生
 - 二、明治三十六年文部省令第十四號專門學校入學者檢定規程ニヨリ專門學校ノ本科ニ入學スルヲ得ヘキ資格アルモノ
 - 三、高等女學校卒業生
 - 四、小學校准教員ノ資格アルモノ
 - 五、尋常小學校正教員ノ資格アルモノ
- 第十五條 尋常小學校本科正教員養成所ニ入學ヲ許可スヘキモノハ左ノ資格ノ一ヲ有スルモノタルヘシ
 - 一、小學校准教員ノ資格アルモノ
 - 二、尋常小學校准教員ノ資格アルモノ
 - 三、小學校令施行規則第一百二十二條ノ學科目及程度ニ依リテ施行シタル入學試験ニ合格シタル者
- 第十六條 尋常小學校准教員養成所ニ入學ヲ許可スヘキモノハ高等小學校(修業年限舊令四箇年)ヲ卒業シタルモノ又ハ之ト同等以上ノ程度ニ依リテ施行シタル入學試験ニ合格シタルモノタルヘシ

- 第十七條 小學校裁縫專科正教員養成所ニ入學ヲ許可スヘキモノハ左ノ資格ノ一ヲ有スルモノタルヘシ
 - 一、尋常小學校准教員ノ資格アルモノ
 - 二、高等小學校卒業(修業年限舊令四箇年)若ハ高等女學校第二學年修了以上ノモノ
 - 三、小學校令施行規則第一百二十二條ノ學科目及程度ニ依リテ施行シタル入學試験ニ合格シタルモノ
- 第十八條 小學校教員養成所ノ修業期間ハ各其ノ目的ニ隨ヒ次ニ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 一、小學校本科正教員
 - 第十條第一號乃至第三號ノ入學者 一箇年同條第四號第五號ノ入學者 二箇年
 - 二、尋常小學校本科正教員
 - 第十一條第一號ノ入學者 一箇年
 - 第十二號第三號ノ入學者 二箇年
 - 同 條第二號第三號ノ入學者 一箇年
 - 三、尋常小學校准教員 一箇年
 - 四、裁縫專科正教員 二箇年
 - 第十九條 小學校本科正教員養成所ノ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、手工、音樂、體操トス
 - 第二十條 法制及經濟ハ中學校ニ於テ學習シタル生徒ニハ之ヲ缺クコトヲ得
 - 第二十一條 女子ノ爲ニハ法制及經濟ヲ除キ裁縫ヲ加フ修業期間二箇年ナルトキハ歷史地理ヲ加フ又隨意科目トシテ英語ヲ加フルコトヲ得
 - 第二十二條 小學校本科正教員養成所ノ各學科教授ノ程度ハ明治四十年文部省令第十二號師範學校規程第三十條乃至第三十九條ノ規定ニ依ルヘシ
 - 第二十三條 尋常小學校本科正教員養成所ノ學科目及其ノ程度ハ小學校令施行規則第一百十一條ノ規定ニ依ルヘシ

第二號表 小學校本科正教員、修業期間二箇年

學科目	每週	教授時數
修身	女	二
國語	女	三
漢文	男	三
數學	男	三
博物	男	四
物理及化學	男	二
法制及經濟	男	四
圖畫	男	三
手工	男	二
音樂	男	三
體操	男	三
計		三四

第三號表 尋常小學校本科正教員、修業期間一箇年

學科	科目	第一學年		第二學年	
		每週教授時數	男女	每週教授時數	男女
計	英	三	女	三	女
	體	二	女	二	女
	音	二	女	二	女
	手	三	女	三	女
	圖	三	女	三	女
	裁	三	女	三	女
	法	三	女	三	女
	物	四	女	四	女
	博	四	女	四	女
	數	五	女	五	女
地	二	女	二	女	
歷	三	女	三	女	
國	三	女	三	女	
語	三	女	三	女	
及	三	女	三	女	
漢	三	女	三	女	
文	三	女	三	女	
育	三	女	三	女	
身	三	女	三	女	
計		三三三三三三三三三三		三三三三三三三三三三	

第六號表 裁縫專科正教員、修業期間二箇年

學科	科目	第一學年		第二學年	
		每週教授時數	男女	每週教授時數	男女
計	裁	三	女	三	女
	縫	三	女	三	女
	操	三	女	三	女
	歌	三	女	三	女
	畫	三	女	三	女
	科	三	女	三	女
	理	三	女	三	女
	史	三	女	三	女
	術	三	女	三	女
	語	三	女	三	女
育	三	女	三	女	
身	三	女	三	女	
計		三三三三三三三三三三		三三三三三三三三三三	

第八章職員 第三節養成講習

學科	科目	第一學年		第二學年	
		每週教授時數	男女	每週教授時數	男女
計	裁	三	女	三	女
	縫	三	女	三	女
	操	三	女	三	女
	歌	三	女	三	女
	畫	三	女	三	女
	科	三	女	三	女
	理	三	女	三	女
	史	三	女	三	女
	術	三	女	三	女
	語	三	女	三	女
育	三	女	三	女	
身	三	女	三	女	
計		三三三三三三三三三三		三三三三三三三三三三	

第四號表 尋常小學校本科正教員、修業期間二箇年

學科	科目	第一學年		第二學年	
		每週教授時數	男女	每週教授時數	男女
計	裁	三	女	三	女
	縫	三	女	三	女
	操	三	女	三	女
	樂	三	女	三	女
	畫	三	女	三	女
	科	三	女	三	女
	理	三	女	三	女
	史	三	女	三	女
	術	三	女	三	女
	語	三	女	三	女
育	三	女	三	女	
身	三	女	三	女	
計		三三三三三三三三三三		三三三三三三三三三三	

第二十一條 小學校教員養成所規程ノ學科ヲ修了シタルトキハ各本人ノ出願及所長若ハ設立者ノ申請ニヨリ第十條第一號及第三號ニ該當セルモノ及第十二條ノ修了者ニ對シテハ無試験檢定ヲ行ヒ其他ノ者ニ對シテハ試験檢定ヲ行ヒ相當ノ免許狀ヲ授與ス

前項ノ試験檢定所長若ハ設立者ノ申請ニ依リ臨時當該養成所内ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

第二十二條 本令ノ規程ニ依ラサルモノハ小學校教員養成所ト稱スルコトヲ得ス

第二十三條 從前ノ規程ニヨリテ設立セル小學校教員養成所ハ更ニ本令ニ依リテ設立ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス明治三十四年岡山縣訓令第八十五號郡市立准教員養成所ニ關スル規程及明治三十七年岡山縣令第二十七號小學校教員養成所規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

● 小學校教員養成所ニ於テ第一學年編入試験届出方

訓令第二十號(明治四十一年三月八日)

(沿革)明治三十四年縣令第四四號、三十九年同第三七號改正

小學校教員養成所ニ於テ第二學年ニ編入試験ヲ行ハントスルトキハ試験期日五日前ニ知事ニ届出ツヘシ

小學校教員養成所長

● 小學校教員講習科講習生ノ學資ハ市町村費ヲ以テ之ヲ補助スルコトヲ得ルノ件

第八章 職員 第四節 職務、服務及服制

訓令乙第四號(明治二十九年二月二十七日)

- 一 小學校教員講習科講習生ノ學資ハ市町村費ヲ以テ之ヲ補助スルコトヲ得
- 一 前項ノ學資補助ヲ受ケタル講習生ハ小學校講習科規程第十一條ノ義務年限間其市町村立小學校ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スヘシ
- 一 明治二十九年三月以前講習ヲ修了シタル講習生ニシテ講習中市町村ヨリ俸給又ハ手当ヲ受ケタルモノハ講習證書受得ノ日ヨリ二ケ年半其市町村立小學校ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スル義務アルモノトス
- 一 前項ノ義務ヲ盡ス能ハサルノ事故アル者ハ其事由ヲ具シ市町村長ニ義務ノ免除ヲ申立ツヘシ此場合ニ於テハ市町村長ハ監督官廳ノ指揮ヲ受クヘシ

第四節 職務、服務及服制

●岡山縣視學視察規程

訓令第二十五號(明治四十年四月三十日)

岡山縣視學視察規程左ノ通相定ム 第一部 第二部 郡市役所 町村役場 各學校

- 第一條 視學ノ學事視察ハ縣立學校及市ニ對シテハ毎年二回以上郡ニ對シテハ毎年一回以上之ヲ行フヲ常例トス
- 一、郡、市、町、村立、私立ノ中等學校及乙種實業學校、徒弟學校ノ視察ハ縣立學校ニ準ス
- 第二條 視學ノ視察スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

郡視學巡視規程左ノ通相定ム

郡視學巡視規程

- 第一條 郡視學學事視察ノ要項左ノ如シ
- 一 御彰竝ニ 勅語謄本奉置ニ關スル事項
- 二 教育ニ關スル勅語ノ主旨ノ實際ニ行ハル、情況
- 三 學事法令施行ノ情況
- 四 教授管理及訓練ノ方法
- 五 學級ノ編制、教員ノ配置及學科課程實施ノ情況
- 六 設備ノ整否
- 七 學事ニ關スル表簿ノ整否
- 八 學齡兒童就學ノ情況
- 九 兒童成績進步ノ情況
- 十 學校ノ風紀ニ關スル事項
- 十一 學校衛生ノ情況
- 十二 學校長教員其他學事關係職員職務ノ情況
- 十三 學事ニ關スル會計及經濟ノ情況
- 十四 學校林及學校基本財産ノ情況
- 十五 學校數及位置ノ適否
- 十六 學事集會ノ情況
- 十七 學事ニ對スル町村一般ノ感情
- 十八 其他郡長ニ於テ特ニ必要ト認ムル事項
- 第二條 郡視學ハ左ニ列記スル事項ニ關シ當事者ニ指示スルコトヲ得
- 一 學事ニ關スル法令ニ抵觸セル事項
- 二 教授管理及訓練ノ方法ニ關スル事項
- 三 其他特ニ郡長ノ指令ヲ受ケタル事項
- 第三條 郡視學ハ學校及町村役場ノ帳簿ヲ査閱スルコトヲ得

第八章 職員 第四節 職務、服務及服制

- 二、學校教育ノ狀況
- 三、學校衛生ノ狀況
- 四、學校經濟ノ狀況
- 五、學事關係職員職務ノ狀況
- 六、教育學藝ニ關スル諸施設ノ狀況
- 七、其他特ニ指令ヲ受ケタル事項
- 第三條 前條ニ列記シタル事項ノ細目ハ別ニ之ヲ定ム
- 第四條 視學ハ視察シタル事項中急ニ處理ヲ要スト認メタルモノアルトキハ巡視先ニ於テ直ニ其要領ヲ具シ之ヲ知事ニ申報スヘシ
- 第五條 視學ハ左ノ事項ニ就キ關係者ニ指示スルコトヲ得
- 一、法令ニ抵觸シタル事項
- 二、協議ニ於テ決定シタル事項
- 三、其他特ニ指令ヲ受ケタル事項
- 第六條 視學ハ學校ノ管理及教授調育ノ方法ニ關シ關係者ニ意見ヲ陳述スルコトヲ得
- 第七條 視學ハ郡、市役所、町村、役場及學校ノ帳簿ヲ査閱スルコトヲ得
- 第八條 視學ハ生徒兒童ノ學業ヲ試驗スルコトヲ得
- 前項ノ試驗ヲ行フ爲メ必要アルトキハ授業ヲ休止セシメ又ハ授業時間ヲ變更セシムルコトヲ得
- 第九條 視學ハ視察ニ際シ必要アルトキハ關係者ノ參席又ハ説明ヲ求ムルコトヲ得

●郡視學巡視規程

訓令第十號(明治三十三年三月二十七日)

(沿革)明治四〇年訓令第二四號改正

郡役所 町村役場 町村立學校

- 第四條 消除
- 第五條 郡視學ハ視察ノ際當事者ノ參席又ハ説明ヲ求ムルコトヲ得
- 第六條 郡視學ハ授業ノ模範ヲ示シ又ハ兒童ノ學業ヲ試驗スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ授業時間ヲ變更セシメ又ハ授業ヲ休止セシムルコトヲ得
- 第七條 郡視學ハ視察ノ情況ヲ具シ意見ヲ附シテ郡長ニ復命スヘシ
- 郡區書記中學務擔任ノモノ進退變更ノ毎度届出シムルノ件
- 丁第十六號(明治十四年二月二十六日)
- (沿革)明治一六年丁第八六號改正
- 郡區書記中學務擔任ノ者事務ノ義ハ本年(一月)文部省第八號達ノ要項ニ據リ可取扱其當該吏員ノ姓名官等俸給及專務兼務ノ區別ヲ具シ進退變更ノ都度届出可致且現任ニ係ル分ハ來ル三月限届出致ヘシ此旨相達候事
- 市町村ノ廢置分合等ニ因リ消滅スヘキ學校幼稚園及兒童教育事務委託ノ存續期間及管理者ノ職務ニ關スル件
- 縣令第二十九號(明治三十五年三月二十一日)
- (沿革)明治三五年縣令第九七號改正
- 明治三十四年(十月)勅令第九十七號ニ依リ市町村ノ廢置分合等ニ因リ消滅スヘキ學校幼稚園及兒童教育事務委託ノ存續期間及管理者ノ職務ニ關スル件左ノ通定ム

第八章 職員 第四節 職務、服務及服制

第一條 市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因リ消滅スヘキ尋常小學校及兒童教育事務ノ委託ハ仍一ケ年以内之ヲ存續セシム
第二條 市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因リ消滅スヘキ高等小學校及其ノ他ノ學校幼稚園ハ仍一ケ年以内之ヲ存續スルコトヲ得
第三條 存續シタル學校及幼稚園ノ管理者ハ教育事務ニ關シ市町村長又ハ町村學校組合長ノ職ニ屬スル事務ヲ行フモノトス
第四條 第一條乃至第二條ノ存續期間内ニ於テ其期間ヲ決定シタルトキハ第一條ニ就キテハ郡長第二條ニ就キテハ管理者ヨリ其ノ期間ヲ知事ニ開申スヘシ

第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 學校教員タルモノハ他ノ事柄ニ關係セス其任ヲ完フシ又生徒タルモノハ學校長教員ノ指導訓誨ニ背キタル者アラハ相當處分セシムルノ件

訓令第二百二十七號(明治三十一年九月十三日)
郡市役所 町村役所 縣立學校 市町村立學校
學校長教員タルモノハ高尚ナル職務ニ服シ生徒ノ模範タルヘキモノナレハ心身ヲ舉ケテ之ニ委テ銳意熱心唯其及ハサル處アラントテ恐レヘキナリ故ニ濫ニ教育ノ目的ニアラサル他ノ事柄ニ關係スルカ如キハ其重任ヲ完ウスル所以ニアラサルヘシ又生徒タルモノハ學校長教員ノ指導訓誨ニ從ヒ專心智徳ノ研磨ニ勵精スヘキモノナレハ若シ之ニ背キ學校ノ目的ニ沿ハサル

受クルニ至リ且教授ノ準備ヲ妨グルコト渺カラサルヘシ又教員小使等ニ於テ生徒若ハ父兄ノ贈遺ヲ受クルカ如キハ是亦生徒間ノ感情ヲ害シ一般就學ノ妨ケトナル等教育上弊害渺カラス候條特ニ公立小學校ニ在テハ注意ヲ加ヘ嚴重ノ取締ヲナスヘシ

● 小學校長及教員現任學校所在地一里以外ノ地ニ住居シ通勤ノモノハ郡市長ノ許可ヲ受クヘシ且教員疾病又ハ傷痍ニ依リ休職ノ者ハ休職滿期三十日前病況届出サシムルノ件

訓令乙第四十五號(明治三十年十二月十八日)
郡市役所 町村役場 市町村立小學校
市町村立小學校長及教員ニシテ現任學校所在地ヲ距ル一里以外ノ地ニ住居シ通勤セントスルモノ郡市長ノ許可ヲ受クヘシ
市町村立小學校教員疾病又ハ傷痍ニ依リ休職中ノモノハ休職滿期三十日前醫師ノ診斷書ヲ添ヘ其ノ病況ヲ届出ツヘシ

● 師範學校卒業生服務年限中ノモ、高等師範學校其他官立學校生徒募集ニ應シ出願ノトキハ縣知事ノ許可ヲ受ケシムルノ件

第八章 職員 第四節 職務、服務及服制

モノアラハ相當處分スヘシ

● 市町村立學校校長教員教授時間外ニ於テ私立學校等ノ委託ヲ受ケ其代表者又ハ職員タラントスル者ハ知事ノ許可ヲ受ケシムルノ件

訓令第五百三十七號(明治三十二年十二月七日)
(沿革)明治三十四年訓令第九一號改正
郡市役所 町村役場 郡市町村立學校
市町村立學校校長教員ニシテ學校教授時間外ニ於テ私立ノ學校幼稚園圖書館等ノ委託ヲ受ケ其代表者又ハ職員タラントスル者ハ其擔任ノ職務並報酬額及其事由ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

● 小學校教員私宅ニ於テ教授時間外ニ生徒ヲ教授スルトキハ生徒心身ノ發達ヲ害スルニ付特ニ公立小學校ニ在テハ注意ヲ加ヘ嚴重取締ヲナサシムルノ件

訓令乙第十九號(明治二十八年五月八日)
郡市役所 町村役場
小學校教員私宅ニ於テ教授時間外ニ其ノ生徒ヲ教授スルトキハ生徒心身ノ發達ヲ害スルノミナラス徒ラニ教授ノ標準ヲ高メ生徒管理上偏愛ノ嫌疑ヲ

告示第五十六號(明治二十八年三月三十一日)
岡山縣尋常師範學校卒業生服務年限中ノモノニシテ高等師範學校其他官立學校ノ生徒募集ニ應シ出願セントスルトキハ豫メ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

● 小學校教員市町村立學校ニ金穀其他寄附ヲ爲スモノニ關スル件

訓令乙第十二號(明治二十九年五月十三日)
郡市役所 町村役場 市町村立學校
市町村立學校教員ニシテ市町村經濟ニ屬スル事業ニ對シ金穀物件ヲ寄附セントスルトキハ豫メ其事由ヲ詳其シ市立學校教員ハ縣知事市町村立學校教員ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ但學校建築ニ對シ寄附スル場合ニ限り認可ヲ受クルニ及ハス

● 小學校長並訓導職務上使用ノ印章雛形

訓令第三十九號(明治二十一年九月二十四日)
郡區長 戶長
小學校長並訓導ニシテ職務上相用フヘキ印判左ノ雛形之通相定候條各小學校ヘ傳達スヘシ

岡山縣何郡區
高等何小學校
校長
訓導之印

● 小學校教員及幼稚園職員服制

第八章 職員 第五節 俸給、旅費及諸給

訓令第四十二號(明治四十二年十二月八日)

(沿革) 明治三十四年縣令第二號、三十七年訓令第三八號改正

郡市役所 町村役場 小學校 幼稚園

明治三十三年五月岡山縣訓令第四十號小學校教員服制左ノ通り改正ス

小學校教員及幼稚園職員服制

小學校教員幼稚園職員ハ左ノ服制ニ依ルヘシ但シ式日ニ於テハ男子ハ「フ
ロツクコート」女子ハ筒袖ノ衣服ニ代ヘ白襟紋付ノ通常服ヲ用フルコトヲ
得

一、男子

服	形	地質	色	形	章
背廣立襟	毛織又ハ小倉ノ類	黒又ハ紺但シ夏季ハ白色又ハ淡色ノ上衣又ハ淡色ノ上フルコトヲ得	黒又ハ紺但シ夏季ハ白色又ハ淡色ノ上衣又ハ淡色ノ上フルコトヲ得	海軍形但シ夏季ハ麥藁帽又ハ之ニ類シタルモノヲ用フルコトヲ得	金色文字

二、女子

筒袖ノ衣服ニ袴ヲ著ク

●師範學校並公立中等諸學校職員服制

訓令第三十四號(明治四十三年十月九日)

郡長 師範學校長 公立中學校長 公立高等女學校長

公立甲種實業學校長 市町村長

師範學校並公立中等諸學校職員服制左ノ通り定ム

師範學校並公立中等諸學校職員服制

師範學校並公立中等諸學校職員ハ左ノ服制ニ依ルヘシ

一、男子

服	形	地質	色	形	章
背廣立襟	毛織又ハ小倉ノ類	黒又ハ紺但シ夏季ハ白色又ハ淡色ノ上衣又ハ淡色ノ上フルコトヲ得	黒又ハ紺但シ夏季ハ白色又ハ淡色ノ上衣又ハ淡色ノ上フルコトヲ得	海軍形但シ夏季ハ麥藁帽又ハ之ニ類シタルモノヲ用フルコトヲ得	各學校ニ於テ定メ知事ノ認メ可ク受ケタルモノヲ用フルコトヲ得

二、女子

筒袖ノ衣服ニ袴ヲ著ク

式日等ニ於テハ男子ノ服色ハ黒(夏季ハ白色トス)帽ハ海軍形トシ女子ハ白襟紋付ニ袴ヲ著クルモノトス但シ男子ハ「フロツクコート」ヲ用ユルヲ得

●公立乙種實業學校職員服制

訓令第三十五號(明治四十三年十月九日)

郡長 市町村長 公立乙種實業學校長

公立乙種實業學校職員ハ明治四十二年(十二月)岡山縣訓令第四十二號小學校教員及幼稚園職員服制ニ依ルヘシ但シ帽章ハ知事ノ認可ヲ受ケテ其學校所定ノモノヲ用フルコトヲ得

第五節 俸給、旅費及諸給

●市町村立小學校教員加俸給與細則

縣令第三十二號(明治四十四年五月二十四日)

(沿革) 明治四十四年縣令第四〇號、大正二年同第六一號、四年同第一〇號改正

第一條 小學校教員ニシテ市町村立小學校教員加俸令第三條ニ該當スルハ左表ニ依リ年功加俸ヲ給ス

職名	加給年額		
	甲	乙	丙
本科正教員	六〇	四二	二四
專科正教員	二四	一八	一二
准教員	二四	一八	一二

第二條 小學校教員ニシテ市町村立小學校教員加俸令第七條ニ該當スル者ハ左表ニ依リ特別加俸ヲ給ス

勤務種別	加給年額	
	本科正教員	專科正教員及准教員
單級學校ニ勤務スル者	六〇	四二
一學年ヨリ四學年五學年六學年ヲ以テ編制シタル學級ヲ擔任スル者	四八	三〇
僻地ニ勤務スル者	三六	一八
同上	二四	一二

第三條 加俸ハ其金額ヲ二分シ毎年四月十月ニ於テ其前六ヶ月分ヲ支給ス但シ退職職若ハ其他ノ理由ニ依リ加俸ノ支給ヲ止メタルトキハ其際之ヲ支給ス

第四條 加俸ノ支給増額減額停止等ハ凡テ發令若ハ事故發生ノ當月ヨリ計算ス但シ第七條ノ二該當者ニ限リ著任ノ月ヨリ計算ス

第五條 出征應召ノ休職調尋ニシテ俸給ヲ受クル者ニハ其休職中功加俸及特別加俸ノ三分ノ一ヲ給ス

第八章 職員 第五節 俸給、旅費及諸給

第五條 特別加俸ヲ受クル者ニシテ他ノ學校ニ轉任シ又ハ特別加俸ヲ受クル學級ノ編制若ハ擔任ヲ變更シタルトキハ別ニ辭令ヲ用ヒスシテ其加俸ヲ失フモノトス

第六條 加俸ハ病氣又ハ其他ノ事故ニ依リ缺勤シタルカ爲本俸ヲ減給シ又ハ全ク給セサル場合ニ於テモ之ヲ支給ス

第七條 郡市長ハ市町村立小學校教員加俸令第三條並第七條第二項及第四項ニ該當スル者アリト認メタルトキハ成績ノ狀況其等位又ハ該當ニ及

第八章 職員 第五節 俸給、旅費及諸給

職氏名ヲ具シ知事ニ具申スヘシ但シ成績同一等位ノモノ二名以上アルトキハ其順位ヲ付スヘシ

第七條ノ二 市町村立小學校教員加俸令第七條第一項及第三項ニ該當スル者ニハ別ニ辭令ヲ用ヒスシテ加俸ヲ給ス

第八條 加俸ニ關スル辭令書式ヲ定ムルコト左ノ如シ
(第一號)

市町村立小學校教員加俸令第三條(第七條第二項)ニ依リ年功加俸(特別加俸)年額 圓ヲ支給ス
年 月 日 岡 山 縣

(第二號)

市町村立小學校教員加俸令第三條(第七條第二項)ニ依リ年功加俸(特別加俸)年額 圓ヲ支給ス
年 月 日 岡 山 縣

(第三號)

市町村立小學校教員加俸令第六條第一項ニ依リ年功加俸(全部又ハ年額何圓)ノ支給ヲ停止ス
年 月 日 岡 山 縣

(第四號)

市町村立小學校教員加俸令第六條第二項ニ依リ年功加俸ノ支給ヲ止ム
年 月 日 岡 山 縣

市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ該當スルモノ、金額支給

ハ加除訂正ヲ加ヘ常ニ現況ヲ明瞭ナラシムヘシ

第五條 郡市長ハ毎年三月及九月ニ於テ請求書ヲ受理シタルトキハ臺帳ニ照ラシ其氏名加俸額勤績年數等對查ノ上相違ナキトキハ其旨證明ヲ爲シ其月二十五日限リ縣廳ニ進達スヘシ但總代理人請求ノ場合ニ於テハ代理人指定屆書ニ對查スヘシ

第六條 總代理人指定屆書ハ郡市役所ニ於テ整理保存シ置キ對查ノ便ニ供スヘシ爾後異動アルトキモ亦同シ

第七條 郡市長ニ於テ市町村立小學校教員ノ轉用、休職、退職及復職ノ具申ヲ爲ス際年功加俸並特別加俸ノ支給ヲ受クル者ニ對シテハ氏名ノ上部ニ年功(特別)加俸受給ノ六字若クハ年功加俸受給ノ八字ヲ朱記スヘシ

第八條 單級及僻障地ノ小學校ニ新任、轉任シ又ハ特別加俸並年功加俸ノ支給ヲ受クル者ニシテ左ノ事項ニ該當スルモノアルトキハ郡市長ニ於テ其ノ事故ノ發生年月日並其事由ヲ記シ五日以内ニ知事ニ開申スヘシ

一、單級學校ノ多級學校ニ變更シタルトキ
二、組合學校ノ編制ニ依リ特別加俸ヲ受クル學校ニ於テ學級ノ編制及擔任ヲ變更シタルトキ
三、僻障地ノ學校ニ於テ尋常科ト高等科トノ勤務ヲ變更シタルトキ
四、死亡シタルトキ

五、加俸給與細則第四條但書該當者ノ著任年月日

第一號書式(用紙半紙)
明治何年何月(年功加俸)ヨリ何月マテ(特別加俸) (法律第六條(勅令第三百三十三)金請求書
支給(號第十一條加給)

年額金何程
一金 何 程
右御渡相成渡此段請求候也

第八節 職員 第五節 俸給、旅費及諸給

方法ハ本則ヲ適用ス

本則施行ノ際現ニ加俸ヲ受クル者ニシテ別ニ辭令ヲ受ケサルトキハ從前ト同額ノ加俸ヲ受クルモノトス明治三十三年(六月)岡山縣令第四十四號市町村立小學校教員加俸給與規則ハ之ヲ廢止ス

市町村立小學校教員加俸金請求方及取扱手續

訓令第四十九號(明治三十三年六月二十二日)
(沿革)明治三十四年訓令第七五號、三十八年同第九號、四三年同第一〇號、四四年同第二〇號、大正二年同第三七號、四年同第一號改正
郡市役場 町村役場 市町村立小學校

市町村立小學校教員加俸金請求方及取扱手續
第一條 年功加俸、特別加俸及教育費國庫補助法第六條第一項並明治三十三年三月勅令第三百三十三號第十一條ニヨリ金額ノ支給ヲ受クルモノハ第一號書式ノ請求書ヲ作り毎年三月及九月十日マテニ郡市長ニ差出スヘシ但第二條ノ場合ニ於テハ第一號書式ニ準シタル通知書ヲ總代理人ニ送付スヘシ

第二條 年功加俸、特別加俸及教育費國庫補助法第六條第一項並明治三十三年三月勅令第三百三十三號第十一條ニヨリ金額ノ支給ヲ受クルモノハ一市又ハ一郡ヲ通シテ各別ニ便宜總代理人一人ヲ指定スルコトヲ得此場合ニ於テハ其旨直ニ郡市長ニ届出ツヘシ

第三條 總代理人ハ各自ノ通知書ニ依リ第二號書式ノ請求書ヲ作り速ニ郡市長ニ差出スヘシ

第四條 年功加俸又ハ特別加俸ヲ受クル權利ヲ生シタルモノアルトキハ郡市長ハ第三號書式ノ臺帳ヲ設ケ之ニ登錄スヘシ但爾後異動ヲ生シタル節

何郡(市)何町(村)大字何々所在
校名職名
何 某 印

年 月 日
仕拂命令官
岡山縣知事何某殿
前書相違ナキヲ證明ス
郡(市)長 何 某 印

年 月 日
第二號書式(用紙半紙)
明治何年何月(年功加俸)ヨリ何月マテ(特別加俸) (法律第六條(勅令第三百三十三)金請求書
支給(號第十一條加給)
正(准)教員ノ分トハ各別紙トス
内課左ノ如シ

年 月 日
右請求候也
正(准)教員何某外何人總代理人
何郡(市)何町(村)大字何々
何 某 印

年 月 日
仕拂命令官
岡山縣知事何某殿
前書相違ナキヲ證明ス
郡(市)長 何 某 印

年 月 日
第三號書式(用紙美濃紙)

加 俸 年 額
何年何月ヨリ何年何月マテ何ヶ月分
職 名 姓 名

正(准)教員何某外何人總代理人
何郡(市)何町(村)大字何々
何 某 印

年 月 日
仕拂命令官
岡山縣知事何某殿
前書相違ナキヲ證明ス
郡(市)長 何 某 印

年 月 日
第三號書式(用紙美濃紙)

年 月 日
仕拂命令官
岡山縣知事何某殿
前書相違ナキヲ證明ス
郡(市)長 何 某 印

第八章 職員 第五節 俸給、旅費及諸給

年功加俸年額特別加 俸年額法律第六十三 號第六條支給額	辭令書若クハ 事故發生月日 俸支給停止年 月日事由等	姓名及加 氏 名
-----------------------------------	-------------------------------------	----------------

備考

- 一、加俸支給停止年月日及其事由ハ朱書スヘシ
- 二、特別加俸ヲ受クルモノ加俸令第十一條ニ依リ差額ノ支給ヲ受クルモノ及法律第六十三號教育費國庫補助法第六條第一項ニヨリ金額ノ支給ヲ受クルモノニ對シテハ各別ニ稟報ヲ調製スヘシ但差額ノ支給ヲ受クルモノニ對シテハ年功加俸年額ノ欄ニ其年額ト差額トナ併記シ國庫補助法第六條第一項ニ依リ金額ノ支給ヲ受クルモノニ對シテハ校名職名及加俸支給停止年月日事由等ノ欄ニ明治三十三年三月三十一日現在俸給額ヲ併セ記スヘシ

●公立學校職員俸給支給細則

縣令第四十三號(明治三十六年五月八日)

明治三十六年(三月)勅令第六十六號公立學校職員俸給令第十八條ニ依リ俸給支給細則左ノ通定ム

但明治三十二年(四月)縣令第三十二號ヲ廢止ス

公立學校職員俸給支給細則

- 第一條 年俸月俸ハ毎月二十一日支給ス但休日ニ當ルトキハ順延トス
- 第二條 休職、退職及死亡ノ時ハ當月分ノ俸給全額ヲ其ノ際支給ス但シ減給ニ係ルモノハ其ノ現ニ受クル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス

費支給ニ關スル規程左ノ通定ム

公立中學校公立實業學校及公立高等女學校職員旅費支給ニ關スル規程

- 第一條 學校長教諭助教諭訓導書記令監准訓導ノ旅費ハ本規定ニ依リ支給ス
- 第二條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル校長及教諭ニハ一等旅費ヲ支給ス
- 第三條 左ニ掲クル者ニハ二等旅費ヲ支給ス
 - 一 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル校長教諭助教諭訓導書記及令監
 - 二 教諭若クハ助教諭ノ代勤ナ命シタル履教員

旅費額

管外之部

等級	鐵道賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付	食卓料一夜ニ付	移轉料
一等	四錢	五錢	參拾錢	貳圓	壹圓五拾錢	壹圓貳拾錢	五拾圓以内
二等	參錢	四錢	貳拾錢	壹圓	壹圓拾錢	壹圓拾錢	貳拾圓以内
三等	貳錢	參錢	拾錢	四角	六角	五角	拾五圓以内

管内之部

等級	鐵道賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付	食卓料一夜ニ付	移轉料
一等	參錢	四錢	貳拾錢	壹圓貳拾錢	壹圓	壹圓	參拾圓以内
二等	參錢	四錢	拾五錢	八角	拾錢	拾錢	拾五圓以内
三等	貳錢	參錢	拾五錢	八角	拾錢	拾錢	拾貳圓以内

第八章 職員 第五節 俸給、旅費及諸給

●公立中學校公立實業學校及公立高等女學校職員旅費支給ニ關スル規程

縣令第三十三號(明治三十二年四月八日)

(沿革)明治三十四年縣令第四一號、四三年同第五三號改正
中學校令第十四條實業學校令第十一條高等女學校令第十五條ニ依リ職員旅

- 第四條 准訓導及履員ニハ三等旅費ヲ支給ス
- 第五條 生徒修學又ハ行軍旅行ヲ爲ストキ監督ノタメ出張スル職員及履員ノ旅費ハ普通ノ額ニ依ラス日額トシテ一日壹圓ノミナ支給ス但シ出張ノ當日歸著シタルトキハ其半額ヲ支給ス
- 第六條 前項ノ旅行ニシテ鐵道賃船賃ヲ要スルトキハ鐵道賃一哩貳錢船賃一海里參錢ヲ支給ス
- 第七條 前各條ニ定ムルモノ、外旅費支給方法ハ内國旅費規則ニ依ル

- 休職、退職ノモノニシテ殘務調理ヲ命セラレタル者其ノ調理翌月以降ニ涉ルトキハ調理終了ノ日迄日割ヲ以テ從前ノ俸給ヲ其ノ際支給ス
- 第三條 轉任者ノ俸給ハ第一條ノ支給日ニ拘ラス日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其ノ際支給ス
- 俸給支給定日後新任増俸又ハ他ヨリ轉任シ來リタルモノハ俸給ハ日割計算ヲ以テ其ノ際支給ス
- 第四條 病氣ノ爲メ執務セサルモノ判任官待遇以上ノ者ニシテ九十日ヲ踰ユルトキハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限リニアラス
- 第五條 前條ノ外私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルトキハ俸給ノ半額ヲ減ス但服忌ヲ受クルモノハ此限ニアラス
- 第六條 忌引ノ場合ト第四條若ハ第五條ノ場合ト連續スルトキハ其ノ忌引ノ日數ヲ控除ス又病氣ト私事ノ故障ト連續スル場合ニ於テモ之ヲ通算セ
- 第七條 轉任減俸其ノ他ノ事故ニ依リ俸給過渡アルトキハ其際追徴ス
- 第八條 日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル
- 第九條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨トス

●市町村立小學校教員住宅費補助規程

縣令第一號（明治四十二年一月九日）
明治四十年文部省令第三十號第二條ニ依リ市町村立小學校教員住宅費補助規程左ノ通定ム

第一條 市町村立小學校教員住宅費補助規程

市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ於テ教員住宅ヲ設置シタルトキハ審査ノ上等級ヲ定メ左表ニ依リ補助ス但シ敷地ニ對スル補助ハ購入シタル場合ニ限ル

甲	乙	丙	丁	戊	坪ニ付		敷地一坪ニ付
					建坪	一坪ニ付	
貳拾五圓	貳拾五圓	拾貳圓	拾貳圓	五圓	拾五圓	拾五圓	五拾錢

第二條 市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ於テ教員住宅ヲ賃借シテ供給シ又ハ教員ニ住宅料ヲ給與スルトキハ審査ノ上賃借料及住宅料ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

第三條 教員住宅ヲ設置セントスルトキハ住宅ノ平面圖、側面圖、設計書、建築費豫算書及住宅ノ位置學校トノ距離並其ノ附近ノ情況ヲ知ルニ足ルヘキ地圖ヲ添付シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
前項ニ於テ在來ノ建物ヲ以テ教員住宅ニ充ツル場合ニハ該建物ノ建築後

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ施行ス（明治四十三年縣令第五十一號 附則）

第六節 退隱料、扶助料

●退隱料又ハ遺族扶助料等ノ請求書ヲ受ケタル市町村長ハ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ差出サシ

退隱料年額計算書

明治何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日
同	同	同	同	同	同	同	同	同
何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何

元何學校訓導 位勳爵 氏 名

何年何月生 明治何年何月 何年何ヶ月

除算 計何年何ヶ月

●經過年數ヲ記スヘシ
教員住宅ヲ賃借シテ供給セントスルトキハ住宅ノ平面圖賃借契約書寫及住宅ノ位置學校トノ距離並其ノ附近ノ情況ヲ知ルニ足ルヘキ地圖ヲ添付シ知事ノ認可ヲ受クヘシ教員住宅料ヲ給與セントスルトキハ其ノ支給スヘキ金額人員ヲ具シ豫メ知事ニ開申スヘシ
認可ヲ受ケテ設置シタル教員住宅ヲ廢止又ハ處分シ若ハ模様換ヲ爲サントスルトキハ其事情ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ住宅ノ賃借ヲ廢止セントスルトキハ賃借契約ノ要件ヲ變更シタルトキ若ハ住宅料ノ給與額ヲ變更シ又ハ給與ヲ廢止シタルトキハ其都度知事ニ開申スヘシ
第四條 教員住宅ハ一教員ニ對シ建坪凡十坪以上二十坪以下トシ成ルヘク十坪乃至三十坪ノ間地ヲ附屬セシムルヲ要ス
第五條 教員住宅ナク教員ニ供給スルニ當リ土地ノ情況ニ依リテハ修繕料ノ幾分ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ豫メ其額ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ
第六條 第一條ノ補助金ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ申請ニ依リ其都度之ヲ交付ス但シ補助スヘキ金額其ノ年度豫算ノ定額ヲ超過スルトキハ順次年度ヘ繰延フルモノトス
第七條 第二條ノ補助金ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ申請ニ依リ毎年四月其ノ前年度ノ精算額ニ對シテ之ヲ交付ス
前項ノ補助金交付申請スルトキハ賃借料及住宅料ノ支出精算書ヲ添付スヘシ
第八條 本令ニ教員トアルハ正教員准教員ヲ謂フ

ムルノ件

訓令乙第四十六號（明治二十八年十二月十三日）

郡市役所 町村役場

明治二十五年（二月）文部省令第一號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則ニ依リ退隱料又ハ遺族扶助料等ノ請求書ヲ受ケタル市町村長ハ查覽ノ上別紙書式ノ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ差出スヘシ

第八章 職員 第六節 退職料、扶助料

通計何年退職現時ノ俸給年額金何圓ノ貳百四拾分ノ若干
 退職料年額金何圓
 支給規則第十五條第何項ニ依リ退職料最下金額何圓ノ拾分ノ若干
 増加退職料年額金何圓

(退職料年額又ハ退職料年額ト増加退職料年額ト合セタル金額ノ四分ノ一
 每期給額 金何圓何拾何錢
 明治何年何月ノ給額 金何圓何拾何錢(初期給額)

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

取調主任 市町村吏員氏名 印

扶助料年額計算書へ添付スルトキハ年數計算ノ末行(何々ニ依リ退職)及通計何年ノ下(退職)ナ(死亡)ト記シ増加退職料及每期給與額等ハ記載スルニ及ハス勤務年數ニ拘ラス退職料ヲ給與スヘキ者例セハ准教員ノ退職料年額計算書ノ類ハ此書式中在職年數計算ニ關スル事項ヲ省キ適宜調製スヘシ
 郡役所主査書記ハ此ノ計算書ヲ査察ノ上適宜氏名ヲ記シ調印スヘシ以下之ニ做フ

給與金計算書

元何學校訓導

位勳爵

氏

何年何月生 明治何年何月
 何年何月生 何年何ヶ月

在職年數

年月日任免ノ書式ハ退職料年額計算書々式ニ依ル

計何年何ヶ月

通計何年退職現時ノ俸給金何圓ノ何ヶ月分

給與金 何圓

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

取調主任 市町村吏員氏名 印

給與金不受ノ申立ナナスモノノアルトキモ此計算書ニ準シ調製添付スヘシ

扶助料年額計算書

元何學校訓導

故位勳爵氏名寡婦(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)

氏

何年何月生 明治何年何月
 何年何月生 何年何ヶ月

退職料年額金何圓ノ三分ノ一(11)

扶助料年額金何圓

每期給額 金何圓何拾何錢
 明治何年何月ノ給額 金何圓何拾何錢(初期給額)

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

取調主任 市町村吏員氏名 印

退職料ヲ受クヘキ資格ヲ有シテ死去シタル者ノ遺族ヨリ扶助料ヲ請求シタルトキハ此ノ計算書ノ外退職料年額計算書ニ添付スヘシ
 扶助料ノ轉給ヲ請求シタル者ニハ退職料年額ノ一行ヲ記載スルニ及ハス
 官吏遺族扶助料法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ計算書ハ此書式ニ準シ適宜調製スヘシ

扶助金計算書

故何學校訓導

位勳爵氏名寡婦(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)

氏

名

故氏名在職年數

年月日任免ノ書式ハ退職料年額計算書々式ニ依ル

何年何ヶ月

計何年何ヶ月

明治何年何月何日 死

右職最終俸給年額金何圓ノ百分ノ二金何圓 錢ヲ三ヶ年以後在職年數ニ乗シタル額及俸給金何圓一ヶ月ヲ加ヘタル額

扶助金何圓何拾何錢

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

第八章 職員 第六節 退職料、扶助料

年 月 日

●小學校教員退隱料ノ請求書ニ添付スル履歷書ノ件

告示第七十九號(明治四十一年三月七日)
小學校教員退隱料ノ請求書ニ添付スヘキ履歷書ハ明治四十一年岡山縣令第三十六號小學校令及小學校令施行規則實施細則第六十三條ノ例ニ依ルヘシ但シ明治十四年五月以前ニ係ル履歷ハ記載スルヲ要セス
明治三十五年本縣告示第四百七十五號ハ之ヲ廢止ス

●小學校教員退隱料請求ノトキ醫 師診斷書添付セシムルノ件

告示第四百四十八號(明治三十一年六月三十一日)
明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第二條第二及第三條第一第二ニ依リ退隱料ヲ請求スルモノハ其願書ト共ニ左ノ書式ニ據ル醫師診斷書ヲ添付スヘシ
診 斷 書

一 血 族

父方祖父母存否年齢及疾病
母方祖父母存否年齢及疾病
實父母存否年齢及疾病
兄弟姉妹有無年齢及疾病

郡市町村大字番邸

職業

何 某

生年月日

若ハ居住地市町村長(之ニ準スヘキ者ヲ含ム以下之ニ做フ)ニ就キ當該證書ノ檢閲ヲ受ケ其證明ヲ得テ當廳ニ差出スヘシ

第二條 市町村長ハ前條ニ依リ證明ヲ請フ者アルトキハ其證書ヲ檢閲シ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第五條第三號官吏遺族扶助法第八條及第十六條ニ抵觸セサルモノト認ムルトキハ當該請求書ニ書式ノ如ク證明スヘシ

第三條 給與金若クハ扶助金ノ辭合ヲ受ケタル者ハ第三號書式ノ請求書ヲ作リ最終勤務セシ學校所在ノ市町村長若ハ町村學校組合長ニ就キ其ノ證明ヲ得テ當廳ニ差出スヘシ

第三條ノ二 市町村長若ハ町村學校組合長ハ前條ノ證明ヲ請フ者アルトキハ書式ノ如ク證明スヘシ

第四條 第一條第三條ノ請求金額拾圓以上ニシテ送金ヲ要スルモノハ印鑑ヲ添付スヘシ

第五條 退隱料又ハ遺族扶助料若ハ給與金扶助金ヲ受クル者請求未済ニシテ死亡シタルトキハ其ノ遺族ヨリ前各條ニ準據シ戶籍簿本ヲ添付シ請求スヘシ但シ遺族無能力者ナルトキハ法定代理人ニ於テ記名調印スヘシ

附 則

本令ハ明治四十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年岡山縣令第七十六號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
第一號書式(用紙半紙)

市町村立小學校教員退隱料請求書

請求金額	所屬期間	證書番號	年	額	備	考
金何圓何拾錢	自何年何月	第 何 號	金 何 圓			
至何年何月	第 何 號	金 何 圓				

右請求候也

第八章 職員 第六節 退隱料、扶助料

取調主任 市町村吏員氏名 印

一 既往症

配偶有無年齢及疾病
子女有無年齢及疾病
稟賦健否既往ノ職業初婚年齡(月經閉塞異常經産度難易)既往症狀發病治療等其也

一 現 症

全身ノ構造營養ノ狀態現今自覺症狀熱ノ有無狀態胸部及肺臟心臟部ノ視診觸診打診脈ノ性狀及數腹部諸器四肢關節視器聽器皮膚粘膜筋骨神經血管淋巴諸系便通排泄物其他現今主ナル症狀

一 診 斷

一 豫 後

右之通診斷候也

郡市町村大字番邸

醫師 姓名 名 印

●市町村立小學校教員退隱料遺族扶助料及給與金扶助金請求規程

縣令第五號(明治四十五年二月七日)

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料並給與金、扶助金請求手續左ノ通り相定ム

第一條 市町村立小學校教員退隱料遺族扶助料及給與金扶助金請求規程ニ至リ其月十五日迄ニ第一號書式又ハ第二號書式ノ請求書ヲ作り本籍地

年 月 日

本籍地府縣郡市町村大字番地

居住地同前

元岡山縣何郡市何學校何職

氏 名 〇

支拂命令官岡山縣知事宛

右證書ヲ檢閲シ且ツ受領權アルコトヲ證明ス

年 月 日

道廳府縣郡市町村長

何 某 〇

備 考

一、新ニ支給ヲ受クル者ハ「新ニ支給ニ依リ明治何年自何月至何月ノ分ト」又支給停止若ハ死亡其他ノ事故ニヨリ權利消滅等ノ者ハ其ノ理由年月日等備考欄ニ詳記スヘシ
二、有給ノ公務ニ就キタル爲メ退隱料ノ一部若ハ全部ノ支給ヲ停止セラレヘキ者ハ其ノ職名、給料額及給料ヲ受ケタル最初ノ日、退職當時ノ給料額(年功加俸特別加俸業務給ヲモ含ム)ヲ備考欄ニ記載スヘシ其ノ支給ヲ停止セラレタル者支給ヲ復スル場合亦之ニ準ス
三、退隱料ノ支給ヲ停止セラレサル者ト雖モ有給ノ公務ニ就職中ノ者ハ其ノ職名及給料額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第二號書式(用紙半紙)

市町村立小學校教員遺族扶助料請求書

請求金額	所屬期間	證書番號	年	額	備	考
金何圓何拾錢	自何年何月	第 何 號	金 何 圓			
至何年何月	第 何 號	金 何 圓				

第八章 職員 第六節 退職料、扶助料

右請求候也

年月日

本籍地府縣郡市町村大字番地
現住所同前

故岡山縣何郡市何學校何職何某

(寡婦孤兒、父母、祖父母等)

氏名印

支拂命令官岡山縣知事宛

右證書ヲ檢閲シ且ツ受領據アルコトヲ證明ス

年月日

道廳府縣郡市町村長

氏名印

備考

一、新ニ支給ヲ受クル者ハ「新ニ支給ニ依リ何年自何月至何月ノ分ト」又
離籍、成年又ハ其他ノ事故ニ依リ權利消滅シ若ハ支給ヲ停止セラレ
ル場合ハ其ノ理由及年月日ヲ備考欄ニ記載スヘシ其ノ支給ヲ停止セ
ラレタル者支給ヲ復スル場合亦之ニ準ス

第三號書式(用紙半紙)

市町村立小學校教員給與金(扶助金)請求書

一金 何程

是ハ明治何年何月何日付辭令市町村立小學校教員退職給與金(一時給與
金)扶助金

右支拂相成度候也

第一號書式

調定 臺 帳

年月日	摘要	番 號	納付期限	調 定 額	收 入 日 日	減 額	收 入 濟 額	下 戻 額	收 入 未 濟 額
				圓		圓	圓	圓	圓

何 郡 (市) 町 (村)

備考

- 一 郡市町村並ニ學校ノ種類毎ニ口座ヲ設ケヘシ
- 二 調定額及減額ノ金員ニハ主任認印シ其上部欄外ニ解長決裁ノ認印ヲ爲スヘシ
- 三 帳末ニ郡計ヲ付シ月計及累計ヲ掲ケヘシ

第二號書式 縦四寸五分横三寸三分ノモノ三枚續

納 入		命 令	
第 號	部	第 號	部
明 治 年 度	納 入 部	明 治 年 度	命 令 部
一 金	款	右明治何年何月何日限り縣本(何縣支)金庫へ納付スヘシ	款
	項 者	明治 年 月 日	
		何廳(廳)長官(職)氏名印	

金庫 割印

領 收 濟		納 付	
第 號	部	第 號	部
明 治 年 度	領 收 部	明 治 年 度	納 付 部
何廳(廳)所屬	款	何廳(廳)所屬	款
	項 者		項 者

第八章 職員 第六節 退職料、扶助料

年月日

現住所府縣郡市町村大字番地
元何郡市校名職名

氏 名 印

仕拂命令官岡山縣知事宛

● 學校教員、幼稚園保母恩給基金收入手續

訓令第三十九號(明治三十九年九月二十九日)

郡市役所 町村役場 縣金庫

明治三十四年十一月岡山縣訓令第八十七號公立實業補習學校市町村立學校
教員恩給基金收入手續左ノ通改正シ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス

學校教員、幼稚園保母恩給基金收入手續

- 第一條 市町村立小學校、公立實業補習學校教員及小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル公立幼稚園保母恩給基金ノ收入ハ郡市長ニ於テ第一號書式ノ調定臺帳ヲ設ケ毎翌月三日(休日ナルトキハ繰下ケ)ヲ納期トシ
- 第二號書式ニ依リ納入命令ヲ郡市町村(組合ニ係ルモノハ管理者)ニ發スヘシ
- 第二條 納入命令ヲ受ケタル者ハ指定ノ縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ受ケヘシ
- 第三條 前條ニ掲ケタルモノノ外ハ縣經濟ニ屬スル會計規則及會計細則ニ依ルヘシ

右領收済ニ付及通知候也
明治年月日

○金庫取扱者印

縣本(何縣支)金庫印

金庫
割印

領收證書	第 明治 何處(解)所屬	納 部	付 者	項
一金 右領收候也 明治年月日				

○金庫取扱者印

縣本(何縣支)金庫印

第九章 生徒

●學校生徒禮式要項

訓令第三十五號(明治二十一年八月十三日)

禮節ハ大ニ風教ノ興廢ニ關シ教育上殊ニ緊要ノ義ニ付凡學校生徒タルモノ
禮節要項自今左ノ通相心得一層行屆候様取計フヘシ

郡區長 戸長

學校生徒禮式要項

- 一 尊長ニ對スルトキハ直立シテ姿勢ナ正クシ兩足ヲ盡ヘ兩手ヲ前ニ垂レ眼ヲ敬禮スヘキ人ニ注キ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ク(敬禮スヘキ人ニ後方ノ襟ヲ見セシメサルナ度トス)ヘシ
- 帽ヲ冠スルトキハ右手ニテ帽ヲ脱シ其裏面ヲ外ニ見ハサル様ニシテ左手ト共ニ前ニ垂ルヘシ其他前ニ同シ但女子ハ帽ヲ脱スルナ要セス
- 行進中ニ在リテハ其敬禮スヘキ人トノ距離凡五步前ニ於テ先歩ヲ止メ

●學校生徒取締ニ關スル規程

訓令第十一號(明治四十一年二月二十五日)

縣立岡山中學校長 同岡山高等女學校長 同商業學校長
同工業學校長 私立關西中學校長 同金川中學校長
岡山高等女學校長 同玫瑰高等女學校長 同岡山實科
女學校長 同岡山教員養成所長 同關西教員養成所長

學校生徒宿舍取締ニ關スル規程左ノ通定メ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

●行幸啓ノ節生徒兒童敬禮方

訓令第三十三號(明治四十三年九月一日)

郡市長 公立學校長

行幸啓ノ節生徒兒童敬禮方

一、武裝携銃ノ場合

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ豫メ銃ヲ銃ニ裝セシメ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ中隊ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「捧銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ヲサシメ御車カ中隊ノ左翼約十歩ヲ過キタルトキ元ノ姿勢ニ復セシム御車カ中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

二、武裝セサル場合(女生徒兒童ヲ含ム)

學校長及職員ハ全列ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ組ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「禮」ノ號令ニテ敬禮セシメ(體ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈セシム)徐ニ元ノ姿勢ニ復セシム御車カ組ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

包含ス

● 學校生徒喫煙禁止ニ關シ注意ノ件

訓令第十八號(明治三十三年三月三十日)

郡市役所 町村役場 縣立學校 市町村立小學校

學校生徒ノ喫煙ニ關シテハ小學校ニ在リテハ明治二十七年岡山縣訓令乙第四十八號ヲ以テ生徒ノ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨訓令シ中學校等ニ在リテモ實際喫煙ヲ禁止セルモノ多シ蓋シ學校生徒ノ喫煙ハ衛生上有害ナルノミナラス風紀ニ關スルコト少ナカラス殊ニ此際未成年者喫煙禁止法ノ發布アリタルニ就キテハ小學校中學校師範學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ取締上其ノ生徒ノ成年以下ナルト以上ナルト學校ノ内外トナリテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシムコトヲ期スヘシ

第十章 學校衛生

● 學校清潔方法

告示第九號(明治三十年一月二十一日)

學校ノ清潔ハ衛生上忽ニスヘカラサルヲ認メ清潔方法ノ標準左ノ通相定ム

學校清潔方法

清潔方法ヲ分チテ日常清潔方法定期清潔方法及浸水後清潔方法トス

甲 日常清潔方法

- 一 教室及寄宿舎ハ毎日人ナキ時ニ於テ先ツ窓戸ヲ開キ如露ヲ以テ少シク牀板及階段ヲ潤ホシ掃出シタル後濕布ヲ以テ建具校具等ヲ拭フヘシ但掃除ノ爲メニ室内ヲ潤ホスハ生徒ノ再ヒ之ニ入ルマテニ充分乾燥シ了ルチ度トスヘシ

乙 定期清潔方法

- 十二 先ツ教室、寄宿舎内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚等ヲ室外ニ出シ戸、障子、窓懸等ヲ外シ敷物ヲ剥キタル後如露ヲ以テ牀板及廊下ヲ潤ホシ天井、四壁、牀板廊下等處ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ拭スヘシ但汚染殊ニ甚シキ部分及器具等ハ熱湯汁若クハ石鹼水ヲ以テ拭スヘシ
- 十三 簷下、牀下等モ手ノ届ク限り之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及簷廻リハ龍吐水等ヲ以テ洗滌スヘシ
- 十四 寢具、窓懸、敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ其洗濯シ得ヘカラサルモノハ先ツ其塵ヲ掃ヒ書籍文具等ト共ニ數日之ヲ日光ニ曝シ刷掃スヘシ
- 十五 器具、寢具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラサレハ室内ニ持込ムヘカラス室ハ掃除後五日間以上窓戸ヲ開キテ空氣及日光ヲ通セシムヘシ
- 十六 牀板壁面等ニ虧隙アルモノハ此際之ヲ填塞シ風抜穴、煙突等ノ塵煤ハ之ヲ除去スヘシ
- 十七 浴室、洗面所、食堂、炊事場、生徒控所、雨中體操場、便所下水、芥窠場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ且大掃除ヲ行フヘシ
- 丙 浸水後清潔方法
- 十八 洪水ノタメ水害ヲ被リタル學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スヘシ
- 十九 水ニ浸サレタル校舍殊ニ寄宿舎ノ建具牀板等ハ取外シテ空氣ヲ通シ且牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ場合ニ依テハ焚火、火鉢等ヲ用キテ充分ニ乾燥セシムヘシ
- 十九 建具、牀板校具、腰懸等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後可成之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムヘシ
- 二十 浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ浚渫シテ汚物ヲ除キ井戸

- 二 教室及寄宿舎ニハ其人員ニ應シ紙屑籠ト少量ノ水ヲ盛レル唾壺トヲ備ヘ紙片其他棄却物ハ必ス紙屑籠ニ投入シ痰唾ハ必ス唾壺ニ於テシ決シテ室内廊下等ニ放下セシムヘカラス
- 三 紙屑籠及唾壺ハ毎日之ヲ掃除スヘシ
- 四 寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ於テ用キル履物ヲ禁スヘシ但止ムヲ得サル事情アリテ特ニ之ヲ許ストキハ適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陥ラサルコトヲ務ムヘシ
- 五 靴ノ儘昇降スル校舍ノ出入口ニハ人員ニ應シ靴拭キ備フヘシ
- 六 寢具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被服衣等ハ務メテ洗濯セシムヘシ
- 七 便所ノ尿溝及注壁等ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ圓房ハ濕布ヲ以テ拭フヘシ桶箱ニハ成ルヘク蓋ヲ設ケヘシ
- 八 糞壺内ニハ防臭藥トシテ粗製過滿飽加里、粗製倍魯兒滿飽 以上百倍乃至三百倍) 硫酸鐵、泥炭末、木炭末、乾燥土粉、灰等ヲ撒布シ期チ愈ラス汲取ラシムヘシ
- 九 食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ臭氣、煙氣又ハ湯氣ノ鬱滞ナキヲ務メ且掃除ノ意ルヘカラス殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ食後ニハ濕布ヲ以テ其食卓等ヲ拭フヘシ
- 十 芥菜場ノ不潔物ハ期チ愈ラス搬送セシムヘシ
- 十一 下水ハ常ニ疏通セシメ炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フヘシ
- 乙 定期清潔方法
- 十一 庭園、體操場、遊藝場、簷下、椽下等モ亦常ニ清潔ヲ保タシムヘシ
- 定期清潔方法ハ毎年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シ之ヲ行フモノトス

側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スヘシ但開校後一ヶ月間ハ必ス其水ヲ煮沸シテ飲用スヘシ

二十一 右ノ外定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜應用スヘシ

第十一章 圖書館

● 岡山縣立戰捷紀念圖書館規則

縣令第三號(明治四十一年一月十五日)

(沿革)明治四〇年縣令第三八號、大正四年同第四二號改正

明治三十九年四月岡山縣令第三十一號岡山縣立戰捷紀念圖書館規則左ノ通改正ス

岡山縣立戰捷紀念圖書館規則

- 第一條 本館ノ内外古今ノ圖書記録及新聞雜誌等ヲ蒐集保存シテ洽ク公衆ノ閱覽ニ供ス
- 第二條 本館ノ閉館日ハ左ノ如シ但臨時閉館ハ其都度之ヲ揭示ス
- 一 歲首 一月一日ヨリ同五日ニ至ル
- 二 紀元節
- 三 曝書期九月十月ノ内凡十日間
- 四 天長節及天長節祝日
- 五 歲末 十二月二十八日ヨリ同三十一日ニ至ル
- 六 館内掃除 毎月一日
- 第三條 本館ノ閉館時限ハ時々之ヲ揭示ス
- 第四條 年齡十二歳以上ノ者ハ本館ノ圖書ノ閱覽スルコトヲ得但風癩白痴者亂醉者感染ノ虞アル疾病者其他不都合ト認ムル者ハ入館ヲ許サス
- 第五條 本館ニ功勞アリト認ムル者ニハ優待券ヲ贈與シ開館中隨時ニ圖書ノ閱覽ヲ得セシム
- 第六條 本館ノ圖書ヲ閱覽セントスル者ハ閱覽券ニ書名部門冊數兩號番號

- 及住處氏名ヲ記入シ掛員ニ差出シテ圖書ヲ借り受テヘシ
- 退館セントスル時ハ借受ケタル圖書ヲ返納スヘシ
- 第七條 閱覽者ニ貸付スル圖書ノ員數ハ同時ニ二種以內トシ和裝ハ六册洋裝ハ三册和洋裝ハ通シテ四册ヲ以テ定限トス但特別ノ事情アルモノハ定限外貸付ヲ許可スルコトアルヘシ
- 新聞雜誌圖書地圖等ハ新聞雜誌閱覽室ニ備ヘ置キ隨意ニ閱覽セシム
- 第八條 閱覽者ハ館内ニ於テハ音讀談話喫煙其餘喧嘩ノ行爲アルヘカラス
- 第九條 閱覽者ニシテ本館ノ規則ニ違背シ又ハ本館ノ指示ニ從ハス或ハ不法ノ行爲アリト認ムル者ハ直ニ退館ヲ命ジ或ハ登館ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十條 借覽ノ圖書ヲ亡失汚點又ハ毀損シタル時ハ本館指定ノ現品若クハ相當ノ代金ヲ以テ之ヲ辨償セシム
- 前項辨償ノ義務ヲ了セサル間ハ更ニ本館ノ圖書ヲ借覽スルコトヲ許サス
- 第十一條 本館ニ圖書ヲ寄贈セントスル者ハ寄贈申込書ニ書名員數價格ヲ詳記シ現品ト共ニ本館ニ送致スヘシ
- 第十二條 寄贈ノ圖書ニハ寄贈者ノ氏名寄贈年月日ヲ標記シテ永ク其ノ好意ヲ表ス
- 第十三條 圖書ノ寄贈ニ要スル運送料等ハ寄贈者ノ負擔トス
- 第十四條 公衆ノ閱覽ニ供スル目的ヲ以テ本館ニ圖書ノ保管ヲ委託セントスルモノハ其目錄員數價格ヲ詳記シテ本館ニ差出シ本館ノ許諾ヲ得タル後現品ヲ送致スヘシ委託圖書ニ對シテハ本館ヨリ受託證書ヲ交付ス
- 第十五條 委託圖書ハ本館所藏ノ圖書ト同一ノ取扱ヲナスヘシ但委託者ノ承諾ナキモノハ館外ニ携出セシムルモノトス
- 第十六條 委託圖書ハ委託者ノ請求ニヨリ隨時之ヲ返付スヘシ
- 第十七條 圖書ノ委託及返付ニ要スル運送料等ハ委託者ノ負擔トス
- 第十八條 委託圖書ニシテ不可抗力ニヨリ亡失又ハ毀損シタル者ハ本館ニ於テハ辨償ノ責ニ任セズ
- 第十九條 本縣下ニ居住シ左記各條ノ一ニ該當スルモノニシテ著作研究等

- 四 經費中目以上ニ渉ル流用ニ關スルコト
- 五 職員ノ管外出張ニ關スルコト
- 第四條 左ノ各項ハ館長之ヲ專行スルコトヲ得
 - 但第一項第七項第八項ハ其時々知事ニ開申スヘシ
 - 一 雜則內規ノ制定又改正ニ關スルコト
 - 二 職員ノ分掌ヲ定ムルコト
 - 三 職員ノ除服出仕ニ關スルコト
 - 四 職員ノ歸省及療養願ニ關スルコト
 - 五 職員ノ管內出張ニ關スルコト
 - 六 經費豫算內ニ於ケル物品購入ニ關スルコト
 - 七 臨時職員監視用納手裝釘員小使等ノ任免進退賞罰ニ關スルコト
 - 八 寄贈圖書其他物件ノ收受ニ關スルコト
 - 九 圖書ノ委託ニ關スルコト
 - 十 館內各部課各附及各地官公立學校圖書館等ト文書ノ往復ヲナスコト
 - 第五條 館長事故アルトキハ首席ノ職員ヲシテ其事務ヲ處理セシムヘシ
 - 第六條 司書ハ館長ノ命ヲ承ケテ圖書ノ整理保存及出納ニ從事ス
 - 第七條 書記ハ館長ノ命ヲ承ケテ庶務會計ニ從事ス
 - 第八條 館長ハ圖書館ノ土地建物等保管ノ責ニ任スヘシ
 - 第九條 第一條乃至第三條ニ明文ナキ事項ハ其事件ノ重要ト認ムルモノ、外適宜各條ニ準據シテ處理スヘシ但特別ノ規定アルモノハ各其定ムル處ニ依ルモノトス

第十二章 教育費

●教育資金使用ニ關スル規則

第十二章 教育費

- ヲナサントスルトキハ別ニ定ムル所ノ圖書携出手續ニヨリ特許證ヲ得テ
 - 本館ノ圖書ヲ携出借覽スルコトヲ得
 - 一、丁年以上ニシテ直接國稅金發圓以上ヲ納ムル者
 - 二、滿十七年以上ニシテ前項ノ資格ヲ有スル保證人ヲ設ケル者
 - 三、官公吏官公立學校職員
 - 第二十條 貴重ノ圖書、辭書、墨帖、目錄及各學科ニ渉ル參考書等ハ携出スルコトヲ許サス
 - 通常ノ圖書ト雖トモ本館ノ都合ニヨリ携出ヲ許ササルコトアルヘシ
 - 第二十一條 本館ニ巡回文庫ヲ設ケ別ニ定ムル巡回文庫取扱手續ニヨリ本縣下各都市教育會、縣立學校、公立圖書館ニ回付シ閱覽ノ便ニ供スルコトアルヘシ但シ私立圖書館、私立學校ニシテ其ノ管理確實ト認メタルモノハ回付閱覽セシムルコトアルヘシ
- 岡山縣立戰捷紀念圖書館職務章程
- 訓令第三號(明治四十一年一月二十四日)
- 岡山縣立戰捷紀念圖書館
- 岡山縣立戰捷紀念圖書館職務章程左ノ通相定ム
- 第一條 岡山縣立圖書館職務章程
 - 第二條 館長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケテ館務ヲ掌理シ附屬職員ヲ統督ス
 - 一 職員ノ任免進退賞罰ニ關スルコト
 - 二 圖書館諸規則ノ制定又ハ改正ニ關スルコト
 - 三 職員ノ退職料及遺族扶助料等ニ關スルコト
 - 四 經費豫算ノ調整ニ關スルコト
 - 第三條 館長ハ左ノ各項ニ關シ知事ノ認可ヲ承ケテ後施行スヘシ
 - 一 職員ノ處務規程及細則ノ制定又ハ改正ニ關スルコト
 - 二 閉館ノ時限ヲ定ムルコト
 - 三 三日以上ニ渉ル臨時閉館ノコト

- 縣令第四十五號(明治四十三年七月十三日)
- (沿革)明治四十四年縣令第五三號改正
- 明治三十三年岡山縣令第五十三號教育資金使用ニ關スル規則左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ施行ス
- 教育資金使用ニ關スル規則
- 第一條 教育資金ハ左ノ各號ノ費用ニ使用ス
 - 一、小學校設備費ノ貸付
 - 二、市町村若ハ其他ノ團體、市町村立小學校、市町村立小學校教員、市町村吏員、市町村立小學校醫及篤志者ノ賞與
 - 三、小學校教員ノ講習
 - 四、通俗教育ノ施設獎勵
 - 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニシテ必要ト認ムルトキハ教育基金
 - 一、校地校舍ノ設備最モ不完全ニシテ新築改築増築等ヲ急要トスルモ其費額市町村ノ負擔ニ耐ヘスト認ムルモノ
 - 二、非常ノ災害ニ依リ復舊ヲ要スルモ其ノ費額市町村ノ負擔ニ耐ヘスト認ムルモノ
 - 三、其他特ニ校地校舍ノ改修ヲ要スルモ其ノ費額市町村ノ負擔ニ耐ヘスト認ムルモノ
 - 第三條 尋常高等小學校ノ設備費ヲ貸付スル場合ハ其ノ總費額ノ五分ノ四ヲ以テ尋常小學校ノ設備費ト見做シ之ニ對シ貸付金額ヲ定ム
 - 第四條 市町村町村組合町村學校組合ニ於テ小學校設備費ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ市町村會又ハ組合會ノ議決ヲ經テ左ノ事項ヲ具シ毎年五月末日限リ知事ニ申請スヘシ
 - 但第二條第二號ニ該當スルモノハ隨時申請スルコトヲ得
 - 一、借入金額

- 二、償還期限
- 三、元利償還ノ目途
- 四、新ニ設備スヘキ校地若ハ校舍ノ平面
- 五、當該年度ニ屬スル收支豫算表
- 第五條 貸付金額ハ百圓ヲ以テ最下額トス
- 第六條 貸付金ノ年賦償還額ハ毎年六月ニ於テ償還セシメ利子ハ毎年六月及十二月ノ二期ニ於テ徵收シ貸付ノ當月ヨリ徵收ノ前月マテ之ヲ附セシム但シ第四條ノ但書ニ係ル貸付金ノ利子及償還金ノ徵收ハ此期日ニ依ラサルコトヲ得
- 第七條 償還期限内ニ於テ貸付金ノ償還ヲ完了セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ償還ノ期日ヲ定メテ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第八條 小學校教育成績狀規程ニ依リ選奨セラレタル者ニハ賞金ヲ授與ス
- 第九條 左ノ各號ノ一若ハ二以上ニ該當スル者ニハ其成績ヲ審査シ賞金若ハ賞品ヲ授與ス
 - 一、小學校基本財産蓄積ノ實績顯著ナル市町村若ハ主トシテ其ノ實績ノ顯著ナラシメタル團體
 - 二、學齡兒童ノ就學出席獎勵ニ關シ特別ノ方法ヲ設ケ其ノ效果ノ顯著ナル市町村若ハ其他ノ團體
 - 三、成績優良ニシテ他ノ模範トナルヘキ市町村立小學校
 - 四、補習教育ノ成績優良ニシテ他ノ模範トナルヘキ市町村若ハ其他ノ團體
 - 五、普通教育ノ進歩發達上特ニ功績顯著ナル市町村立小學校教員市町村吏員及篤志者
 - 六、職務ニ勉勵シ特ニ功勞アル市町村立小學校
- 第十條 郡市長ニ於テ前條各號ニ該當スル者アリト認メタルトキハ詳細事情ヲ具シ知事ニ上申スヘシ

- 查シ經費三分ノ一以下ノ補助金ヲ交付ス
- 但特別ノ補助ヲ要スルトキハ其限りニ非ス
- 第三條 (削除)
- 第四條 學校又ハ私立縣教育會ニシテ本規程ニ違反シ若クハ其成績不充實管理不適當ト認ムル時ハ知事ハ補助期限內ト雖補助金ヲ減額又ハ廢止停止スルコトアルヘシ
- 第五條 補助ヲ受クル學校又ハ私立縣教育會ノ管理者(設立者若クハ代表者ヲ含ム以下之ニ倣フ)ハ補助ヲ受ケタルトキハ該年度內其學校又ハ私立縣教育會ノ經費ヲ支出スルノ義務アルモノトス
- 第六條 (削除)
- 第七條 補助ヲ受ケントスル時ハ第二條ノ要件ヲ詳記シ之ニ經費支出額收支豫算明細書ヲ添ヘ知事ニ申請スヘシ
- 第八條 補助ヲ受クル學校又ハ私立縣教育會ハ其管理者ヨリ左ノ各項ニ付知事ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 收支豫算(毎年三月二十日限)又ハ變更豫算
 - 二 校長教員ノ任免但シ公立學校ヲ除ク
 - 三 諸規則ノ制定又ハ改正
- 第九條 補助ヲ受クル學校又ハ私立縣教育會ノ管理者ハ左ノ各項ニ付知事ニ報告スヘシ
 - 一 合監書記ノ任免役員ノ異動並ニ職員ノ増減俸但シ公立學校ヲ除ク
 - 二 雜則內規ノ制定又ハ變更
 - 三 教科書ノ採用又ハ變更
 - 四 收支決算
 - 五 生徒ノ服制
 - 六 生徒ノ募集
 - 七 生徒ノ修學旅行

- 第十一條 本則ニ依リテ開設スル講習員ノ資格ハ尋常小學校本科正教員又ハ小學校本科正教員トシ講習ノ場所、期間學科目、講習員ノ資格及選拔方法等ハ開設ノ都度告示スルモノトス
- 第十二條 前條ノ講習員ニハ學費ヲ補助スルコトアルヘシ
- 第十三條 通俗教育ノ施設ニ對シ獎勵金ヲ交付スヘキモノハ縣郡市等教育會トス但シ特別ノ事情アルモノハ此限ニ在ラス
- 第十四條 前條教育會等ニ於テ左ノ各號ノ一若ハ二以上ノ事業ヲ施設シ成績優良ナルモノニハ獎勵金ヲ給與ス
 - 一、通俗圖書館及巡回文庫ノ設置
 - 二、通俗講演及講談ノ開催
 - 三、幻燈會及活動寫眞會等ノ開催
 - 四、其ノ他通俗教育上最モ適切ナル事業
- 第十五條 通俗教育ニ關シ獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ其施設事項及方法等ヲ詳具シ郡市長ヲ經テ知事ニ申請スヘシ

教育費縣費補助規程

- 縣令第四十一號(明治四十年七月十五日)
- (沿革)大正四年縣令第六號改正
- 岡山縣教育費補助規程左ノ通相定ム
- 但明治三十七年六月岡山縣令第四十七號ハ廢止ス
- 教育費縣費補助規程
- 第一條 教育ヲ獎勵スル爲メ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス
- 第二條 公立學校及私立縣教育會ニシテ補助ノ必要アリト認ムルトキハ知事ハ位置種類成績設備資金經費生徒數(本縣在籍ノ子弟)等ニヨリテ調

- 八 生徒ノ賞賜
- 九 學年末生徒ノ成績
- 十 三日以上ニ渉ル臨時休業
- 第十條 知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助ヲ受クル學校又ハ私立縣教育會ニ就キ其ノ書類帳簿並物品等ノ檢閲ヲ行フコトアルヘシ

學校基本財産ヲ設クル必要ノ件

訓令乙第三十八號(明治二十八年十月十五日)

郡市役所 町村役場 市町村立學校

方今縣下ノ教育事業稍々進歩ノ狀ヲ呈シ漸次就學兒童增加シ設備ノ擴張ヲ要スルヨリ年々教育費ノ增加ヲ來スノ勢アリ加之ナラス一般ニ市町村費ノ賦課重キニ傾クノ際ナレハ若シ一朝天災地變等ニ遭遇セハ忽チ教育上ニ影響ヲ及シ設備ノ擴張ヲ阻遏スルノミナラス或ハ其ノ經常費ニモ差支ヲ生シ中途挫折スルノ虞ナシトセス然レハ將來增加スヘキ教育費ニ堪ヘ天災地變ヲ免レ學校維持ノ基礎ヲ鞏固ニシ愈々教育ノ進歩ヲ企圖セント欲セハ學校基本財産ヲ設クル必要トス然ルニ縣下其ノ法ヲ設ケタル市町村甚々多カラス是レ詢ニ教育上遺憾トスル所ナリ抑基本財産増殖ノ方法タル一ニシテ足ラスト雖モ山林ヲ以テ之レニ充ツルハ頗ル適實ナルヲ見ル殖林ノ事大ナリ願フニ山林ハ資力ヲ費ス少ク利益ヲ收ル多キノミナラス年々其ノ繁茂セル景況ヲ親シク目撃スル父兄及生徒等ハ其ノ快樂ト其ノ利益トニ感シ益々其ノ愛護増殖ノ必要ヲ認知シ或ハ學校親愛ノ度ヲ増シ愈々其ノ隆盛ヲ希望シ或ハ愛郷心ノ增長ヨリ忠君愛國ノ心情ヲ煥發スル等國家經濟上及教育上鮮少ナラサル利益ヲ舉ケルコトヲ得ン依テ森林ナ有スル地方ニ在テハ將來成ルヘク山林ヲ以テ學校基本財産ニ充ツルノ方針ヲ採リ訓令乙第三十七號ト關連シテ盛ニ樹木ヲ栽植シ其ノ收益ヲ貯蓄シ以テ學校維持ノ基礎ヲ